

クボタミニバックホー 取扱説明書

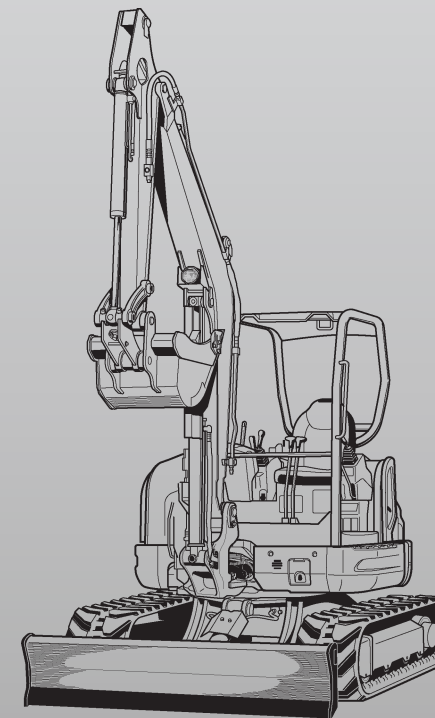
URBAN EXCAVATOR **Tough**

U-40-6E
U-55-6E

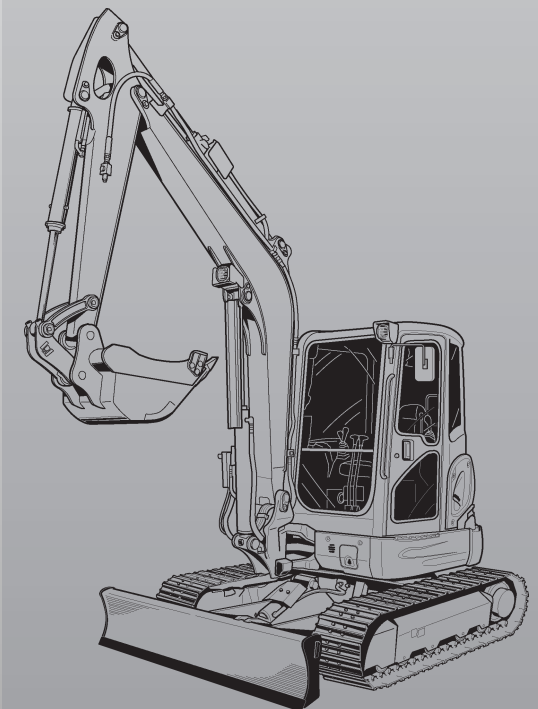


安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。



1DGWC00044A01



1DGWC00045A01

U-40-6E・U-55-6E

OPERATOR'S MANUAL

Kubota

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は **まず、購入先へ** ご相談ください

おぼえのため、該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（ ） -		型式名
		区分
		製品識別番号
		エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式
		機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
 なお、型式により該当しない記入項目もあります。

株式会社クボタ

建設機械営業部

〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号

株式会社クボタ建機ジャパン

本社	☎(06) 6648-2120	〒556-8601	大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号
北海道営業部	☎(011) 377-5511	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地3-1
東北営業部	☎(022) 384-2144	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-1
関東第一営業部	☎(03) 3245-3614	〒104-8307	東京都中央区京橋二丁目1番3号
関東第二営業部	☎(03) 3245-3614	〒104-8307	東京都中央区京橋二丁目1番3号
中部営業部	☎(0586) 73-1235	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1-1
関西営業部	☎(072) 781-7715	〒664-0025	兵庫県伊丹市奥畑5-10
中国営業部	☎(0823) 72-0233	〒737-0134	広島県呉市広多賀谷3-4-10
四国営業部	☎(0877) 98-0277	〒762-0083	香川県丸亀市飯山町下法軍寺90
九州営業部	☎(092) 503-3802	〒816-0912	福岡県大野城市御笠川2-3-1

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解していただき誤操作のないようご注意ください。



バケットダンプ



バケットかき込み



ブーム下げ



ブーム上げ



走行前進



走行後進



旋回左 - スイング左



旋回右 - スイング右



アームかき込み引き



アーム伸ばし押し



ブレード下げ



ブレード上げ



エンジン回転数低速



エンジン回転数高速



ロック



ロック解除



燃料（軽油）



作動油



バッテリー充電警告



エンジン油圧



ホーン



エンジン予熱



オートアイドル



作業灯



ワイパおよびウインドウォッシャ



水温計



アームかき込み制限



再生状態



再生禁止



エンジン回転上げ要求



エコモード

はじめに

このたびは、クボタ製品をお買上げいただきありがとうございます。
製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保存してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本機は、日本国内での使用を前提に設計、製造されております。日本国内以外での使用における故障や不具合にかかわる責任は負いかねます。また、法令、法規、そして安全等規制や規格の適合有無についても同様です。

▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では、形式及び仕様の異なる製品をあわせて表示していますので、お買上げの製品の形式及び仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

目次

安全に作業をするために	7
サービスと保証	29
ご相談窓口	29
盗難防止装置	29
クボタトラッキングシステム	30
1. DCU（通信機器）に関する注意事項	30
装置の説明	31
装置の名称	31
スイッチとメーター、ランプの取扱い	33
スイッチとメーター、ランプの名称	33
スイッチとメーターの機能と使い方	34
1. スタータスイッチ	34
2. 表示切替スイッチ	34
3. メーターパネル（液晶モニタ）通常時	35
3.1 燃料計	35
3.1.1 燃料補給（満タンお知らせブザー）	35
3.2 水温計	36
3.2.1 冷却水の水温上昇時の対処方法	36
3.2.2 オーバーヒート状態になった時の挙動	36
3.3 作動油温の上昇時の対処方法	37
3.4 作動油温がオーバーヒート状態になった時の挙動	37
3.5 作動油温の低温時の対処方法	37
3.6 アワメータ	37
3.7 エンジン回転計	38
3.8 グロー表示	38
3.9 ユーザーが設定できる項目	38
3.9.1 時計の設定	38
3.9.2 年月日の並び替えおよび AM/PM 表示を 24 時間表示に切り替える方法	39
3.9.3 言語設定	40
3.9.4 運行管理の確認	41
3.10 液晶モニタに表示される定期点検項目	42
3.10.1 点検項目が画面に表示しきれない場合の確認方法	42
3.10.2 点検実施後の操作	43
3.10.3 定期点検項目一覧	44
4. 警告ランプ	45
5. メーターパネル（液晶モニタ）警告異常時	45
5.1 燃料残量警告	45
5.2 バッテリー充電異常警告	45
5.3 エンジンオイル油圧低下警告	45
5.4 その他の異常警告	46
5.5 インフォメーション	46
6. ホーンスイッチ	46
7. 作業灯スイッチ	46
8. オートアイドルスイッチ	47
9. アクセルダイヤルの操作	47
10. 走行増速スイッチ	47
11. 再生禁止スイッチ	48
12. エコモード	48
13. アームかき込み制限スイッチ [アームかき込み制限仕様]	48
14. ルームランプ [ROPS キャブ仕様]	51
15. ワイパおよびウインドウォッシャースイッチ [ROPS キャブ仕様]	51
16. ヒータスイッチ [ROPS キャブ仕様]	52

ヒータとエアコンの取扱い.....	52
1. 空気の流れ [ヒータ仕様、エアコン仕様]	52
2. 風向き調節 [ヒータ仕様、エアコン仕様]	53
3. コントロールパネル [エアコン仕様]	53
4. エアコン操作	53
操作レバーの取扱い	55
操作レバーの名称	55
安全装置の取扱い	56
1. 作業機操作ロックレバー	56
各操作レバー	56
1. 走行レバー (右、左)	56
2. 作業機操作レバー (右、左)	57
2.1 ブーム操作	58
2.2 アーム操作	58
2.3 バケット操作	58
2.4 旋回操作	58
3. スイングペダル	59
4. ブレード操作レバー	59
5. AUX1 (サービスポート) ペダル [AUX1 (サービスポート) 仕様]	59
6. サードラインの取扱い [AUX1 (サービスポート) 仕様]	60
緊急時ブーム降下弁	60
1. 緊急時ブーム降下弁の使用法 [クレーン仕様以外]	60
2. 緊急時ブーム降下弁の使用法 [クレーン仕様]	60
操作パターンの変更方法	62
スーパーチェンジ仕様	62
1. スーパーチェンジの操作パターン変更方法	62
4パターンマルチ仕様	63
1. 4パターンマルチの操作パターン変更方法	64
エンジンの始動と停止	66
エンジンの始動	66
1. 寒冷時の始動	67
エンジン始動後の暖機運転と点検	67
エンジンの停止	68
1. オーバーヒート時の対処	68
バックホーの運転	69
ならし運転	69
発進と走行	69
1. 高速走行	70
方向転換	70
1. 走行時の方向転換 (ピボットターン)	70
2. 停止時の方向転換 (ピボットターン)	71
3. スピンターン	71
坂道の登り降り	71
傾斜地での駐停車	72
駐車	72
オートアイドル制御の取扱い	72
各部の開閉および着脱	74
座席	74
1. シートベルト	74
2. 座席の調整	74
ボンネット	74
1. 後ボンネットの開閉	74
2. 右ボンネットの開閉	75
工具箱	75

取扱説明書収納部	76
カップホルダ	76
グリースガン収納部	76
キャブドアの開閉 [ROPS キャブ仕様]	77
キャブフロントウインドウの開閉 [ROPS キャブ仕様]	77
キャブサイドウインドウの開閉 [ROPS キャブ仕様]	78
緊急脱出用ハンマ [ROPS キャブ仕様]	78
盗難防止装置	79
盗難防止装置のキーの取扱い	79
黒色キー（個別キー）の本機への登録のしかた（黒色キーを紛失したとき）	79
トラックによる輸送	82
トラックへの積み込み、輸送	82
トラックからの積降ろし	83
機体の吊上げ	84
機体のけん引	85
荷の吊上げ作業の注意事項	86
ミニバックホーの最大荷重	86
労働安全衛生規則第 164 条（主たる用途以外の使用の制限）	86
バケットまたはバケットリンクにフックを付けて作業する場合の注意事項	87
バケットリンクにフックを溶接した場合の吊り作業の注意事項	88
バケットリンクにフックを溶接した場合のバケット以外の作業機について	89
メンテナンス	90
油圧回路の残圧の抜き方	90
廃棄物の処理	90
洗車時の注意	90
プラスチック部品と合成皮革の洗浄	91
仕業点検	92
1. 仕業点検一覧表	92
2. 冷却水の点検と補給	93
3. 燃料の点検と補給	93
4. エンジンオイルの点検と補給	94
5. 作動油の点検と補給	95
6. ウォータセパレータの水および沈殿物の点検と洗浄	96
7. ラジエータ、オイルクーラ、および燃料クーラの点検と掃除	97
8. バキューエータバルブの掃除	98
9. エアクリーナのインジケータの点検 [U-40-6E のみ]	98
10. バッテリ、配線、およびエンジン周りの点検と掃除	98
11. DPF（ディーゼルパーティキュレートフィルタ）の点検と清掃	99
12. ウィンドウォッシュ液の点検 [ROPS キャブ仕様]	99
13. 2 ポスト TOPS キャノピ、4 ポスト ROPS キャノピ、および ROPS キャブの点検	99
14. 本機洗車の方法	99
15. 排気ガス漏れの点検	100
16. 角度検出装置の点検 [アームかき込み制限仕様]	100
17. ファンベルトの点検	100
18. エアコンベルトの点検 [ROPS キャブ、エアコン仕様]	100
19. 作業機部分の給脂	100
定期点検表	102
50 時間使用ごとの整備	104
1. 燃料タンクの水抜き	104
2. ウォータセパレータの水抜き	104
3. バッテリの点検	104
3.1 バッテリの取外し	105
4. 旋回ベアリング歯面の給脂	106

5. 走行モータのオイル交換	106
6. クローラの点検	107
200 時間使用ごとの整備	107
1. ファンベルトの張りの点検と調整	107
2. エアコンベルトの張りの点検と調整 [ROPS キャブ、エアコン仕様]	107
3. エアクリーナエレメントの清掃と点検	108
4. 旋回ベアリングボール部の給脂	109
5. 燃料ホースとバンドの点検	109
6. 吸気ホースとバンドの点検	109
7. ラジエータホースとバンドの点検	110
8. エアコンフィルタの清掃 [エアコン仕様]	110
9. エアコンコンデンサの清掃 [エアコン仕様]	111
250 時間使用ごとの整備	112
1. パイロットバルブの給脂	112
500 時間使用ごとの整備	112
1. 燃料フィルタカートリッジの交換	112
2. 走行モータのオイル交換	113
3. プレザフィルタの交換 [U-55-6E のみ]	113
4. エンジンオイルの交換	113
5. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	114
1000 時間使用ごとの整備	114
1. エンジンバルブクリアランスの点検	114
2. 作動油の交換	114
3. 作動油リターンフィルタの交換	115
4. サクションフィルタの交換	116
5. 油圧パイロットフィルタのエLEMENTの交換	116
6. 油圧パイロットのラインフィルタの洗浄	117
1000 時間使用ごとまたは 1 年使用ごとの整備	117
1. エアクリーナエレメントの交換	117
1500 時間使用ごとの整備	117
1. インジェクタ先端の点検	117
2. オイルセパレータELEMENTの交換	118
3. EGR クーラの点検	118
2000 時間使用ごとの整備	118
1. トラックローラとフロントアイドラの油脂交換	118
2. オルタネータとセルモータの点検	118
3000 時間使用ごとの整備	118
1. ターボチャージャの点検 [U-40-6E のみ]	118
2. EGR システムの点検	118
3. DPF (ディーゼルパーティキュレートフィルタ) の洗浄	119
1 年使用ごとの整備	119
1. 電気配線の点検	119
2. エアコンパイプとホースの点検	119
3. 排気マニホールドの点検 (亀裂、ガス漏れ、および取付ネジ)	119
4. 吸気ラインの空気漏れの点検	119
5. ブーストセンサおよび AFS (エアフローセンサ) の点検	119
6. DPF (ディーゼルパーティキュレートフィルタ) の点検	119
7. DPF (ディーゼルパーティキュレートフィルタ) の差圧センサおよび配管のガス漏れ点検	119
8. DPF (ディーゼルパーティキュレートフィルタ) の排気ガス温度センサの点検	119
9. EGR 配管のガス漏れ点検	119
2 年使用ごとの整備	119
1. 冷却水の交換 (ロングライフクーラント使用時)	119
1.1 不凍液の使い方 (ロングライフクーラント以外の場合)	120
2 年使用ごとまたは 4000 時間使用ごとの整備	120
1. ラジエータホースとバンドの交換	120
2. エアコンパイプとホースの交換 [エアコン仕様]	121
3. 燃料ホースとバンドの交換	121
4. 吸気ホースとバンドの交換	121

5. オイルセパレータのゴムホースの交換.....	121
6. DPF（ディーゼルパーティキュレートフィルタ）の差圧センサゴム配管（前後）の交換.....	121
7. AFS（エアフローセンサ）下流側の吸入管の交換.....	121
8. ブーストセンサ圧力ゴム配管の交換.....	121
9. EGR クーラホースの交換.....	121
10. 油圧ホースの交換.....	121
必要に応じた点検と整備.....	121
1. 冷媒の取扱いの注意.....	121
2. 冷媒（ガス）量の点検.....	121
3. 燃料系統の排水.....	122
3 か月ごとの点検と整備.....	123
1. エアコン機器の簡易点検.....	123
バッテリーの点検と取扱い.....	123
1. バッテリーの保守点検.....	123
2. バッテリー充電時の注意.....	123
3. バッテリーの点検.....	123
4. バッテリーを搭載したままで充電する場合の注意（やむを得ない場合のみ）.....	123
5. ブースタケーブルを使用してのエンジン始動方法.....	124
6. エンジン始動時およびバッテリー充電時の注意について.....	124
ヒューズの点検と交換.....	125
1. ヒューズの交換.....	125
2. ヒューズの容量と受け持っている回路.....	126
3. スローブローヒューズの交換.....	128
予備電源.....	128
燃料系統のエア抜き.....	129
クローラの調節.....	129
1. ゴムクローラの張り方.....	129
2. ゴムクローラのゆるめかた.....	130
3. ゴムクローラの上手な使い方.....	130
4. 鉄クローラのクローラシューの張り方.....	131
バケットの交換.....	131
1. バケットの取外し.....	131
2. バケットの取付け.....	132
バケット爪とサイドカッタの交換.....	132
1. バケット爪の交換.....	132
2. サイドカッタの交換.....	133
長期保管時の手入れ.....	133
1. 長期間休車するときの注意点.....	133
2. 長期間休車後に使用するときの処置.....	134
寒冷時の取扱い.....	134
1. 低温への備え.....	134
2. 作業終了後の注意.....	134
重要部品の定期交換.....	135
バックホーの不調と処置.....	136
バックホーの不調と処置一覧表.....	136
油圧ブレーカ.....	138
油圧ブレーカ装着時の注意.....	138
ブレーカ使用時の注意.....	138
推奨オイルとグリース.....	141
推奨オイルとグリース一覧表.....	141
付表.....	142
寸法図.....	142
主要諸元.....	143
アタッチメント一覧表.....	144
消耗部品一覧表.....	145

1. エンジン関係消耗部品一覧表	145
2. 電装関係消耗部品一覧表	146
3. 油圧関係消耗部品一覧表	147
4. パケット関係消耗部品一覧表	147
5. キャブ関係消耗部品一覧表	148
6. ブレード関係消耗部品一覧表	148
特定自主検査判定基準（メーカー指定項目のみ）	149
特定自主検査判定基準一覧表	149
画面一覧	150
通常画面一覧	150
ガイダンス画面一覧	151
DPF 再生についての警告ランプと画面表示	158
DPF 再生禁止設定	160
コモンレールシステムと DPF	162
コモンレールシステム	162
DPF（ディーゼルパーティキュレートフィルタ）	165
クボタトラッキングシステムデバイス仕様	166
ソフトウェア情報	167
免責事項	167
索引	168

安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、または補足としてそのつど取り上げています。

本機の運転に必要な資格

- 本機を運転するには次のいずれかに該当する運転の資格が必要です。また運転される際は、必ず資格を証明する書面の携帯が必要です。

労働安全衛生法による資格

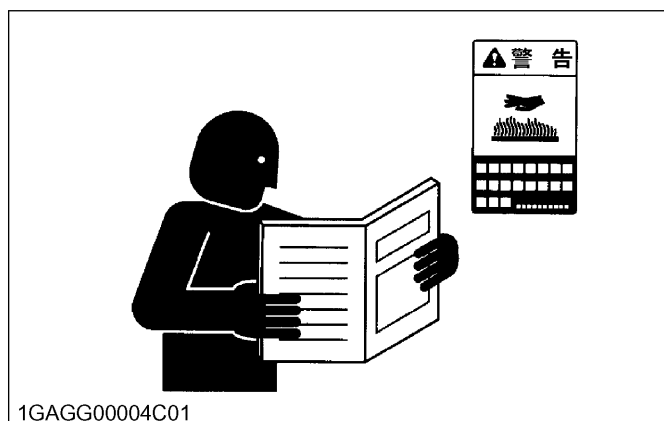
- 機体質量 3 t 未満の機械
小型車両系建設機械に関する安全衛生特別教育を修了された方。
- 機体質量 3 t 以上の機械
車両系建設機械技能講習を修了された方。

鉱山保安法による資格

- 鉱山で使用される場合
保安教育を修了され鉱山保安局長または部長に認定された方。
- 運転される方は安全作業のために特別な教育を事業者から受けることになっています。

安全上の基本的事項

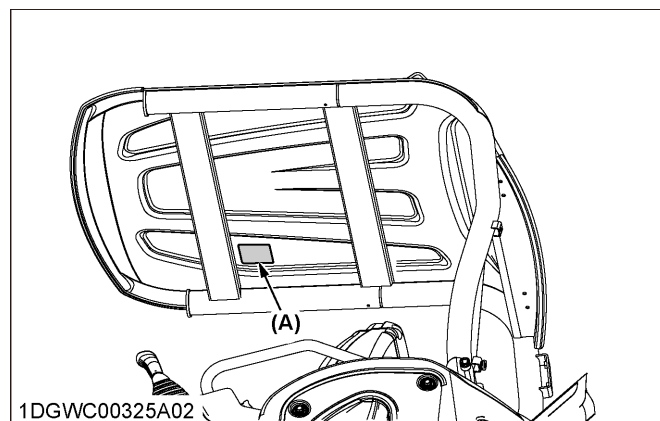
- 本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解した上で安全な運転をしてください。
- 本機を他人に貸したり、使わせる場合は、取扱方法をよく説明し、また、使用前に、本人自身でこの取扱説明書をよく読むようにご指導ください。



1. ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、または 2 ポスト TOPS キャノピ についての注意

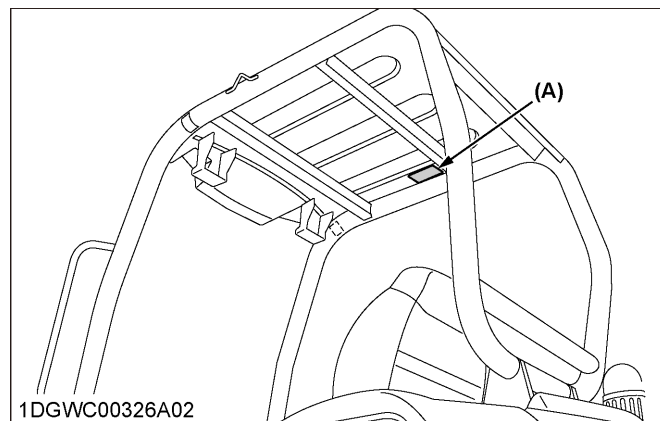
- ROPS、TOPS ラベルに記載されている最大機械質量を超える場合はその機能を保証する事が出来ず重大な事故につながりますので注意してください。

[2 ポスト TOPS キャノピ仕様 (U-40-6E のみ)]



(A) TOPS ラベル貼付け位置

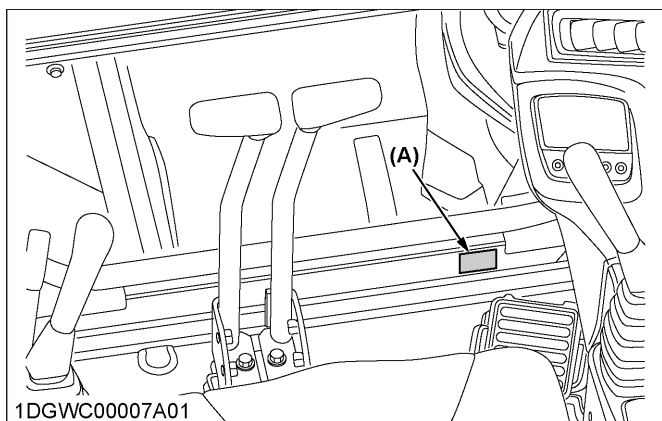
[4 ポスト ROPS キャノピ仕様]



(A) ROPS ラベル貼付け位置

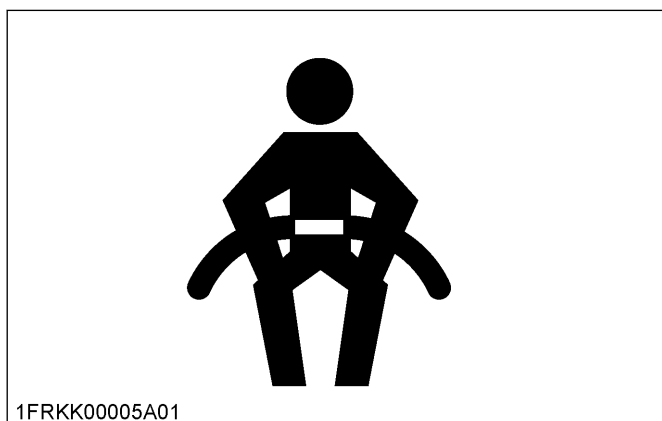
⚠ 安全に作業をするために

[ROPS キャブ仕様]

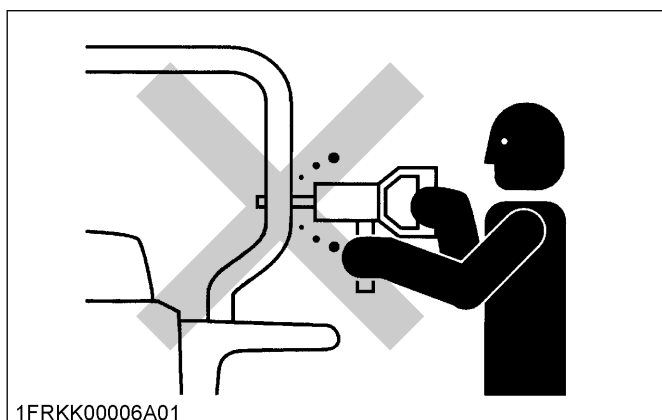


(A) ROPS ラベル貼付け位置

- ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、または 2 ポスト TOPS キャノピ仕様機では、運転時は常にシートベルトを着用してください。
ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、または 2 ポスト TOPS キャノピが装着されていない機械では、シートベルトを使用しないでください。



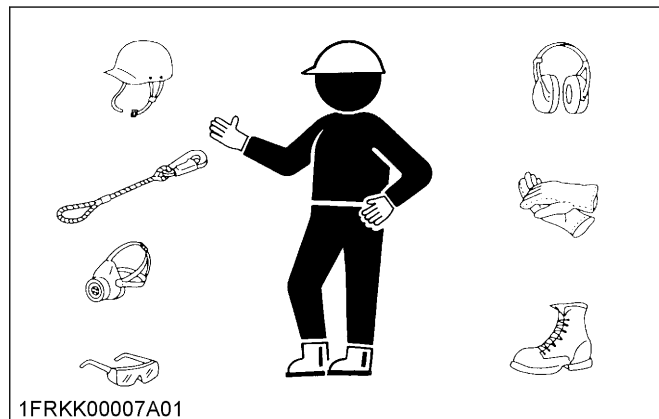
- ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、または 2 ポスト TOPS キャノピを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合は、修理せず交換してください。



- ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、または 2 ポスト TOPS キャノピを取り外して運転しないでください。

2. 作業に適した服装の着用

- 運転時および点検整備にはヘルメット、安全靴と安全な服装を着用してください。
作業内容によっては保護眼鏡、防塵マスク、防音具、保護手袋、安全帯などの保護具を着用してください。各保護具は使用前に機能を確認してください。
運転席まわりをきれいにしてください。靴底にも泥などが付いていないか点検してください。ステップや手すりにオイル、グリース、氷、雪、および泥が付いていると手や足が滑り危険です。



3. 保安用品の準備

万一の傷害や火災への備えをしておいてください。

- 救急箱および消火器を準備してください。
- 救急医、救急車、消防署など、救急連絡先を控えておいてください。

4. 仕業点検の実施

- 仕業点検を行ってください。
 - 前回使用時の異常箇所（油、水の漏れ、ボルト、ナットのゆるみ、電気配線の断線、およびターミナルのゆるみなど）がないか確認し、異常があれば処置をしてください。
 - 燃料や油脂は、指定のものを使ってください。



- 安全カバー、保護カバーは必ず取り付けて使用してください。

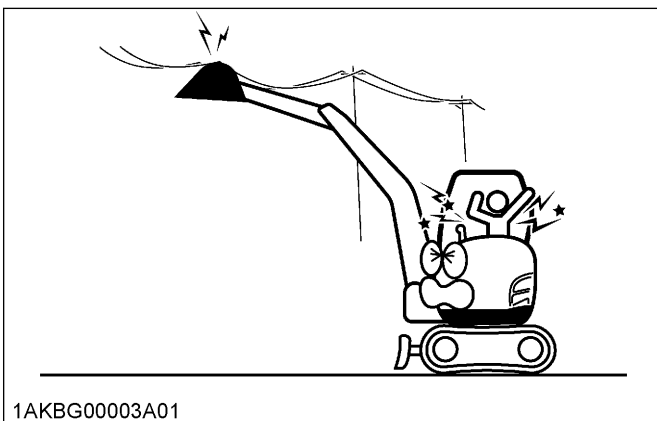
⚠ 安全に作業をするために

- 給油、グリースアップ、点検、および調整時は、エンジンを止めてください。
燃料を補給する際は火気厳禁です。
また燃料をこぼさないようじゅうぶん注意してください。



5. バケット操作時の注意

- バケットを持ち上げているとき、バケットの下部に人が入ってはいけません。
- バケット部を上を持ち上げるとき、頭上の電線や障害物に接触しないよう、避けてください。
特に電線に接触すると感電死するおそれがありますので注意してください。



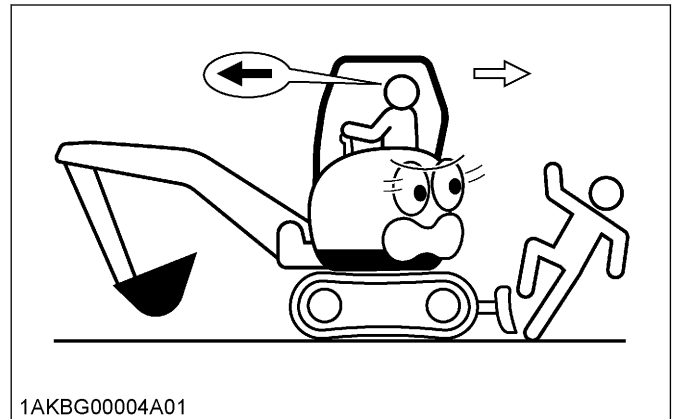
6. 体調不良時の運転禁止

- 飲酒時、薬物飲用時、および体調の悪いときは運転しないでください。事故の原因になります。

作業前の注意

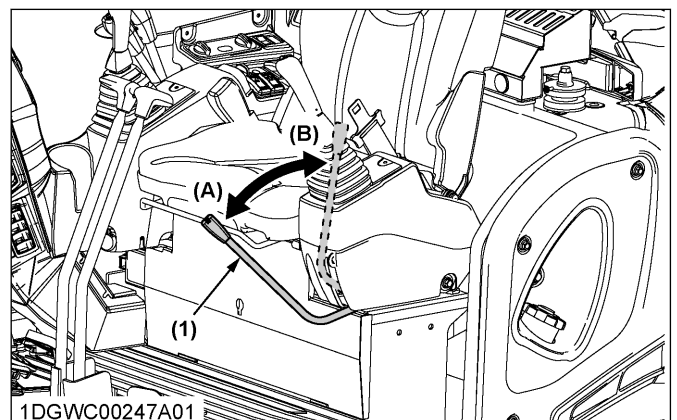
1. エンジン始動前の周囲の安全確認

- 機械の周囲に人がいないことを確認してください。



2. エンジン始動前の注意

- エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。
 - 始動時は、必ず座席に座ってください。
 - オートアイドルスイッチの ON（作動）と OFF（解除）を必ず確認してください。
 - 各操作レバーが中立の位置にあることを確認してください。
 - 作業機操作ロックレバーをロックした状態でエンジンを始動してください。



(1) 作業機操作ロックレバー (A) 解除 (B) ロック

- マフラパイプが後方に向いていますので機体後方に人がいないことを確認してください。また、作業を塀や植木の側で行う場合は、塀が排気で黒くなったり、植木が排気熱により枯れたりする場合がありますので、塀や植木を保護して作業してください。
- エンジン周囲に可燃物がないことを確認してください。
- バケットが地面に接地していることを確認してください。
- 屋内は排気ガス中毒の危険があります。ハウス内など屋内で作業を行う場合は、じゅうぶんに換気を行ってください。また、点検は屋外で行ってください。

⚠ 安全に作業をするために



1GAGG00009A01

- ディーゼルパーティキュレートフィルタ（以下本文中ではDPFと表記します）再生中は排気ガスやDPFが高温になります。やけどや周囲の異物の発火、溶解に注意してください。
- 高温の排気ガスがあたらないように、バックホーの周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
- 火災防止のため、DPFの周囲は可燃物を取り除き常にクリーンにしておいてください。
- DPF再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF再生中はバックホーから離れないでください。
- 運転席への乗り降りは、てすりをにぎり足が滑らないよう注意してください。
とび乗りやとび降りは、たいへん危険です。
運転席へ乗り降りするときは、絶対に操作レバーにつかまらないようにしてください。
- 運転席が調節できる機械では、運転席を適正な位置に調節してください。
- 発進する前に機体の向きを確認してください。（ブレードのある方向が前方です。）気づかずに走行レバーを操作すると、自分の意志とは反対の方向に動き危険です。
また、エンジン始動前に各操作レバー、走行レバー、ペダル類に固着や引っかかりなどがなければ確認してください。
固着などがある場合は、レバー戻り不良などが発生し危険です。
異常が認められたときは、すぐに修理してください。

3. エンジン始動後の点検

- エンジン始動後、オートアイドルスイッチの“ON”（作動）“OFF”（解除）を必ず確認してください。
また、バケット、アーム、ブーム、ブレード、走行、旋回などの作業状況を点検してください。点検は周囲に人がいない、障害物のない、広い場所で行ってください。
異常が認められたときは、すぐに修理してください。

4. アタッチメントの制限

- アタッチメントを装着する場合、構造上定められた質量を超えるアタッチメントは装着しないでください。（労働安全衛生規則第166条の3）
また装着できるアタッチメント質量は、労働安全衛生規則第166条の4に従い、本機の仕様ラベルに記載しています。
バケットには、バケットピン取付部のプレート上にバケット単体質量とバケット容量を打刻していますので、必ず確認してください。
バケット単体質量とバケット容量は、以下のように打刻していますので、読み替えて使用するようご注意ください。
バケット質量○○○(kg)は、○○○KG
バケット容量0.○○○(m³)は、○○○M3

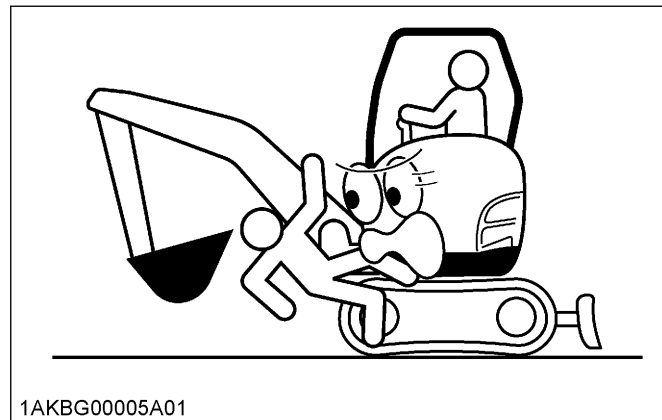
作業中の注意

1. 初心者への注意

- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

2. 同乗禁止

- 運転席に座って正しく運転（わき見、とび乗り、とび降りなどの厳禁）し、オペレータ以外の人を乗せないでください。
バケットの上にも人を乗せないでください。



1AKBG00005A01

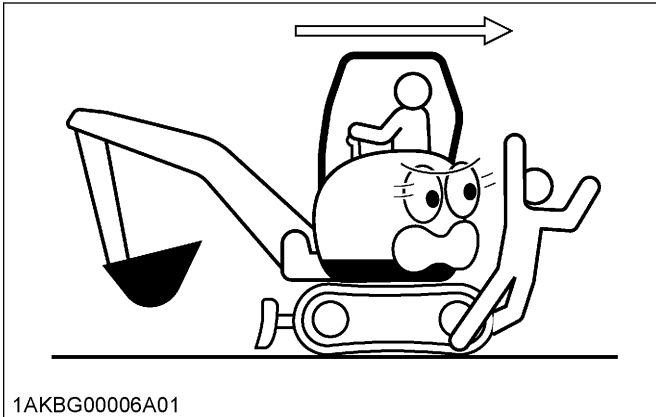
3. 目的以外での使用禁止

- 機体の本来の目的以外の使い方をしてはいけません。機体を故障させるだけでなく、思わぬ事故のもとになります。

4. 作業中の周囲の安全確認

- 機体を動かすときに周囲に人、障害物がないかじゅうぶん確認後操作してください。作業中、作業範囲内に人を絶対に立ち入らせないようにしてください。

⚠ 安全に作業をするために

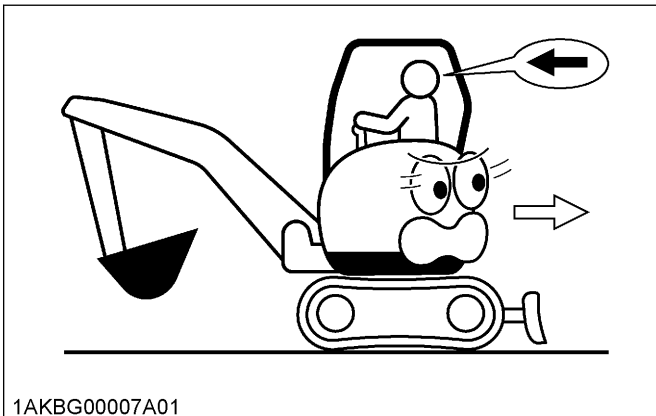


5. 作業しづらい場所での安全確保

- 見通しの悪い所や地形の悪い場所では、誘導者を置き、その合図にしたがって作業をしてください。

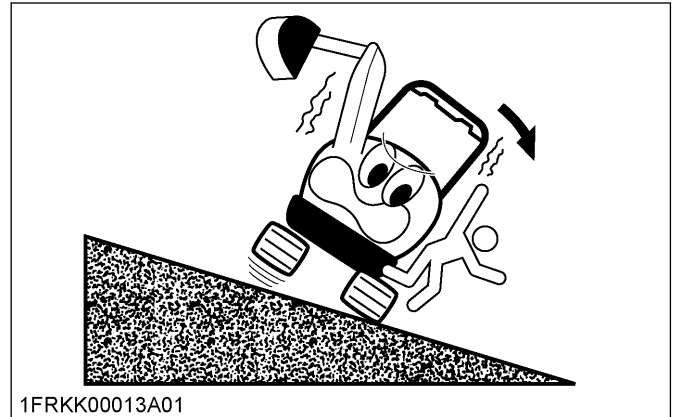
6. 走行レバーを操作する前の安全確認

- 走行レバーを入れる前に、機体の向きを確認してください。足回りが後向き（アイドラおよびブレードが後側）のときは、走行レバーを前に押しと後進し、後ろに引くと前進します。発進する前に、前後左右の安全を確認してから操作してください。（気づかずに操作すると自分の意志と逆方向に動くことがあり危険です）



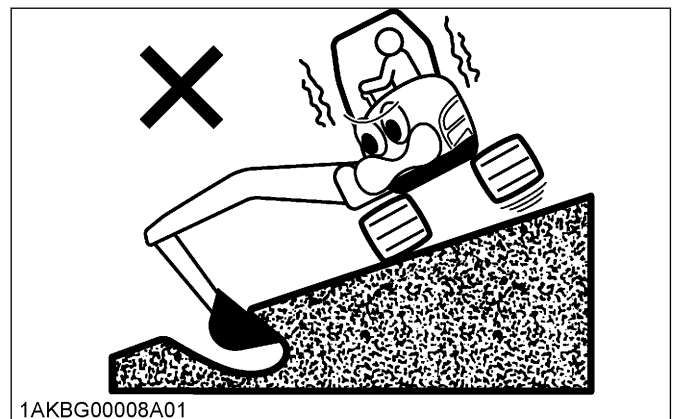
7. 傾斜地での方向転換禁止と横切り禁止

- 傾斜地での方向転換（Uターン）、横切りは転倒、横すべりすることがあり危険ですから絶対にしないでください。平たんな地面で方向転換してください。傾斜面の登り降りは最大傾斜線に沿って走行してください。



8. 傾斜地での作業の注意

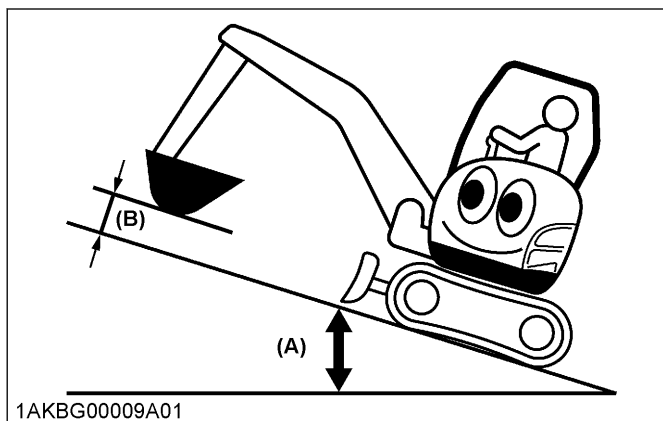
- 傾斜地でのスイングや旋回などの操作および掘削作業は、転倒の危険があるので避けてください。やむを得ず傾斜地で作業するときは、足場を水平にしてから行ってください。
- 石に乗り上げたりやわらかい盛土の上での作業は行わないでください。
- 傾斜地を登坂するときに石や突起部に乗り上げたり、凹凸部を走行すると転倒の危険がありますので、そのような場所を避けて登坂してください。



9. 走行時および登坂時の注意

- 走行時および登坂時は旋回フレームと作業機を前向きにし、バケット下面を地上 20 cm～40 cm にして、危険な時に直ちに降ろせる体勢でゆっくりと運転してください。スイングした姿勢での坂道の登り降りは、絶対にしないでください。また、15°以上での傾斜地では絶対に斜めに横切ったり、水平方向に走行したりしないでください。転倒するおそれがあり危険です。

⚠ 安全に作業をするために

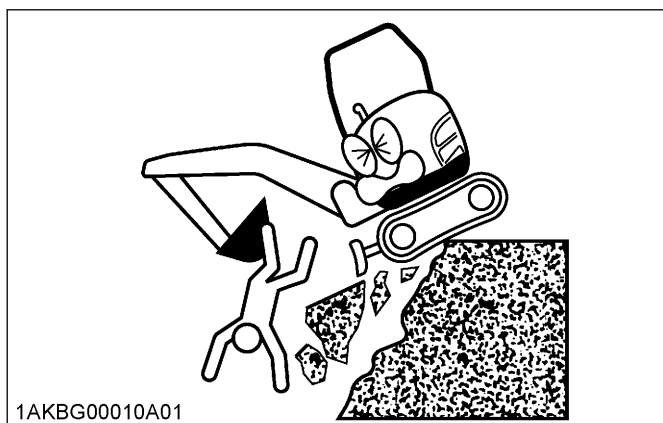


(A) 15°以内
(B) 20 cm～40 cm

- 傾斜地を登坂するときに、石や突起部に乗上げたり、凹凸部を走行すると、転倒の危険がありますので、そのような場所を避けて登坂してください。
- 軟弱地登降坂時において、機体がすべるような場合はすぐバケットを降ろしてブレーキとして使用してください。

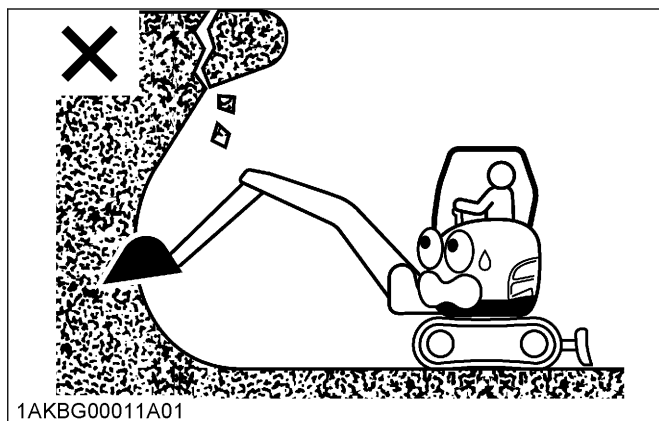
10. 崖や路肩付近での注意

- 崖や路肩付近を移動する場合は、地盤が崩壊しないようじゅうぶんな余裕をとるか、または補強などの適切な処置を行ってください。また落石のおそれのある現場には近づかないでください。特に雨上がり後は危険です。不用意に崖や路肩に近寄らないでください。
- 機体の下を掘削した場合、地面がくずれて転倒することがあるためじゅうぶん注意してください。



11. 崖下の穴掘り禁止

- 崖下の穴掘りは危険ですので行わないでください。崖や地盤の崩れ、落石の原因となります。



12. 悪路での走行および作業の注意

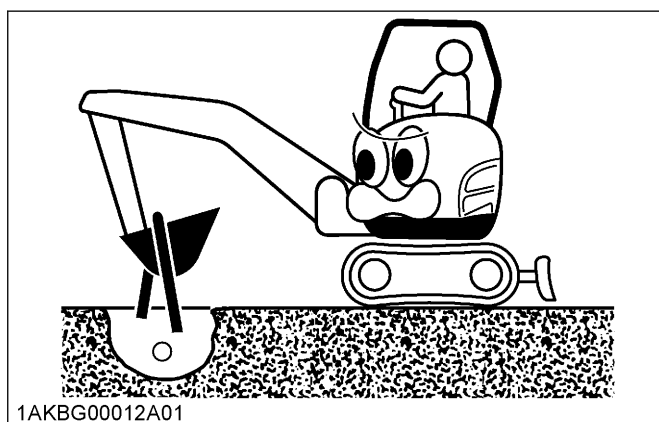
- 作業現場や走路が荒れていると、機械の安定が悪くなり、操作ミスによる事故や転倒のおそれがあります。作業現場は平たんにするとともに、走路は平たんにするか障害物を避けて走行するようにしてください。また、橋や構造物の上を走行するときは、許容荷重を調査し、強度不足の場合は補強してください。
- 雨や水などで、板や鉄板などはすべりやすくなります。このようにすべりやすい場所での作業はじゅうぶんに注意してください。

13. 重荷重をかけての横方向旋回禁止

- 一般に機体は、横方向のほうが前後方向より転倒しやすい構造になっています。作業機に重荷重をかけての横方向旋回はしないでください。

14. 掘削作業での注意

- 電気配線、ガスパイプ、上下水道などのある所では専門家の立ち合いの上で注意して作業してください。



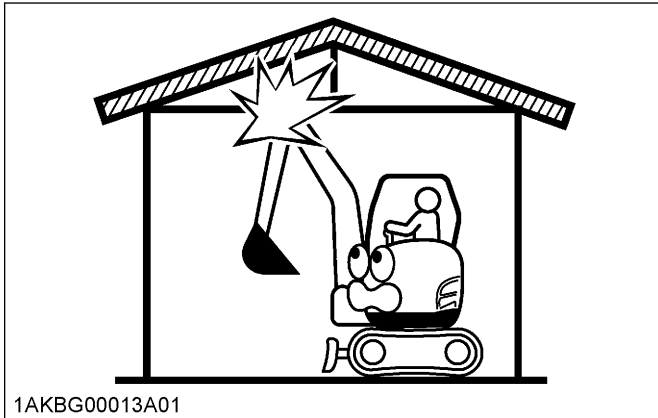
- 石などにバケット爪がひっかかっているとき、爪が石などから外れると反力で転倒するおそれがあるため、じゅうぶん注意して作業を行ってください。

⚠ 安全に作業をするために

また、バケットを地面に食い込ませたまま走行したり、機体を浮かせての掘削は、危険ですから絶対に避けてください。

15. 建物内での注意

- ・ 建物の中で作業する場合、頭上、出口、通路、および床面の強度などじゅうぶん注意して作業してください。



16. 運転姿勢の注意

- ・ スイング作業中にブームまたはブームシリンダに足をはさまれるおそれがあるため、絶対に機械前面より足を出さないでください。

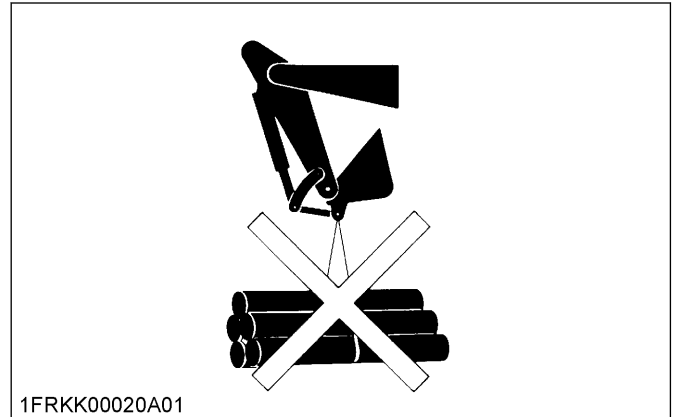
17. 労働安全衛生規則に従った使用条件

- ・ 荷の吊上げ作業について
労働安全衛生規則第 164 条と労働基準局通達基発第 542 号を満たさない荷の吊上げ作業は、荷の落下や転倒の危険が生じるおそれがあるため禁止されています。
 - － 規則に基づいた荷の吊上げ作業についての詳細は、取扱説明書の荷の吊上げ作業の注意事項をよく読んで、必ず所定の処置を講じた上で安全に作業をしてください。
(詳細は荷の吊上げ作業の注意事項 (86 ページ) を参照)
本機の吊上げ最大荷重は次の通りです。最大荷重を超えないようにし、安全に作業してください。

最大吊上げ荷重

本機型式	U-40-6E	U-55-6E
標準アーム	1745 N (178 kgf)	1925 N (196 kgf)

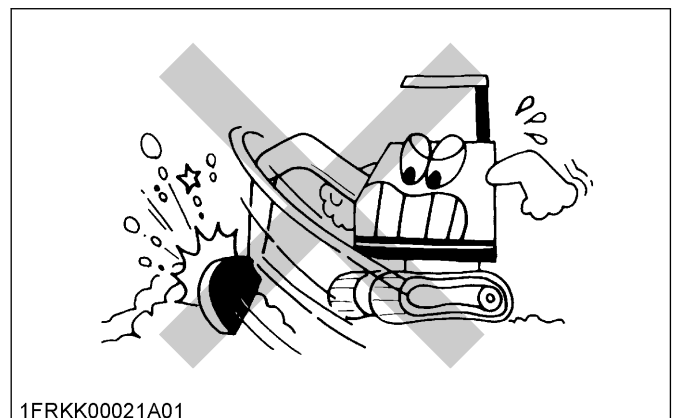
- － 本機でクレーン代わりの作業をすることは、法律で禁止されていますので、絶対に行わないでください。



- ・ 労働安全衛生規則により、事業者は、岩石の落下などにより労働者に危険が生じるおそれのある場所で機械を使用する場合にはヘッドガードの装着が義務づけられています。(労働安全衛生規則第 153 条)
- ・ 路肩や傾斜地などで転倒または転落により労働者に危険が生じるおそれのある場所で作業するときには、ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ、TOPS キャブ、TOPS キャノピが装着され、かつシートベルトを備えたものの以外の機械を使用しないように努めてください。(労働安全衛生規則第 157 条の 2)
- ・ ブレーカ作業などで物体の飛来などにより運転者に危険が生じるおそれのあるときは、運転室を有しない機械の使用は避けてください。ただし、物体の飛来などによる危険の防止処置 (物体の飛来の強さに準じて防護設備の取付けや保護帽の使用) を講じた場合は除きます。(労働安全衛生規則第 171 条の 5)

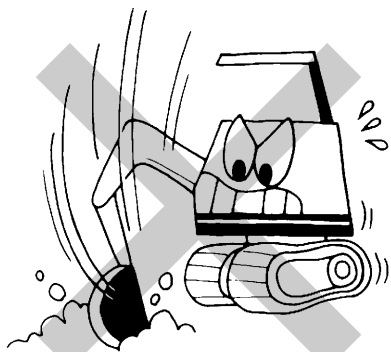
バックホーの禁止作業

- ・ 旋回力による作業禁止。(バケットによる横当作業など)



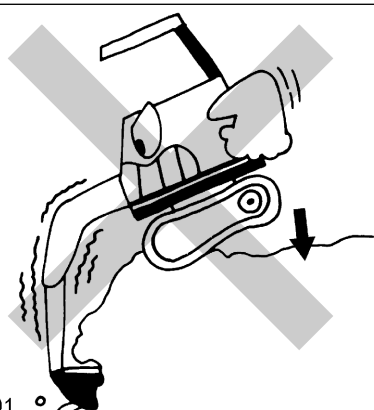
- ・ バケットの落下力による作業禁止。(バケットによるくい打ち作業など)

⚠ 安全に作業をするために

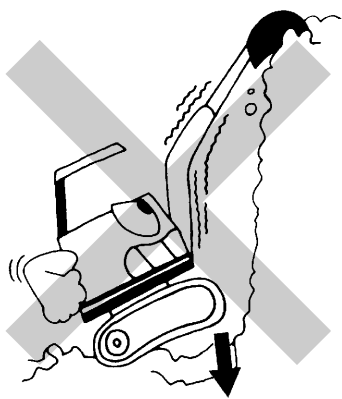


1FRKK00022A01

- 本体の落下力による作業禁止。(車体の落下力を使
っての掘削作業など)



1FRKK00023A01



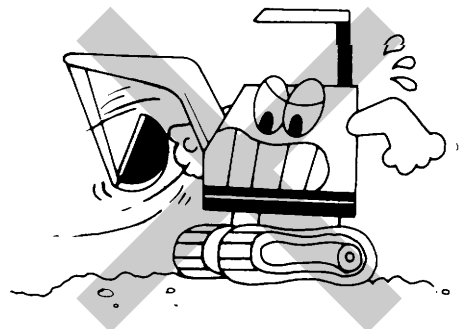
1FRKK00024A01

- 走行力による作業禁止。(バケットを地面に食い込
ませたままの走行など)



1FRKK00025A01

- バケットの土落とし。(バケットかき込みエンド部
の衝撃による土落としの禁止)



1FRKK00026A01

バックホーの運転上の注意

- ブレードに注意
ブレード前方での深堀掘削時、ブレードにブームお
よびブームシリンダが当たらないように、注意して
ください。



1FRKK00027A01

- 作業機の折りたたみに注意
走行や輸送姿勢での作業機折りたたみのとき、バケ
ットとブレードが当たらないように注意してくだ
さい。

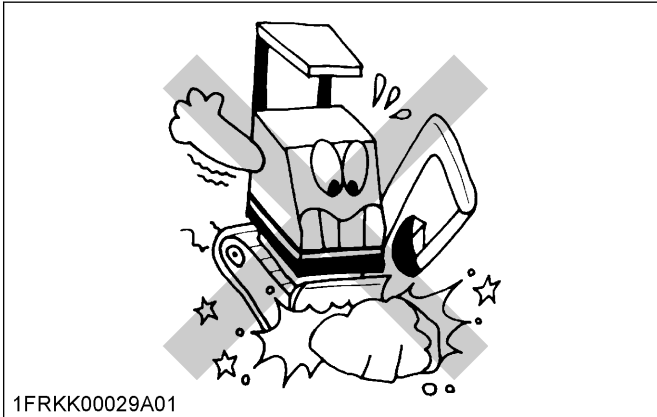


1FRKK00028A01

⚠ 安全に作業をするために

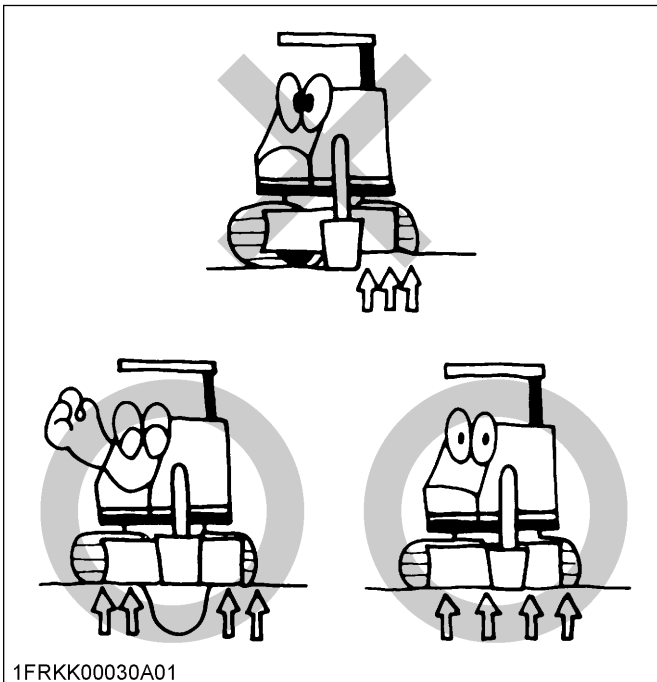
• ブレードの衝突注意

ブレードを岩塊などに衝突させないようにしてください。ブレードやシリンダの早期損傷となります。



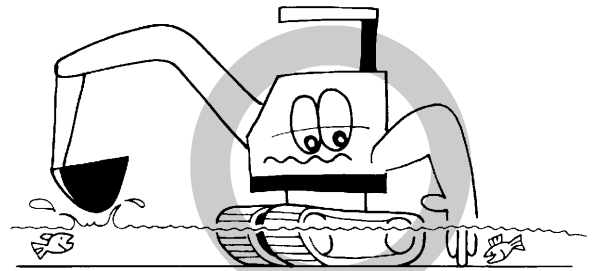
• ブレードは両側で支える

ブレードをアウトリガとして使用するときは、ブレードの片側のみで支えてはいけません。



• 許容水深に注意

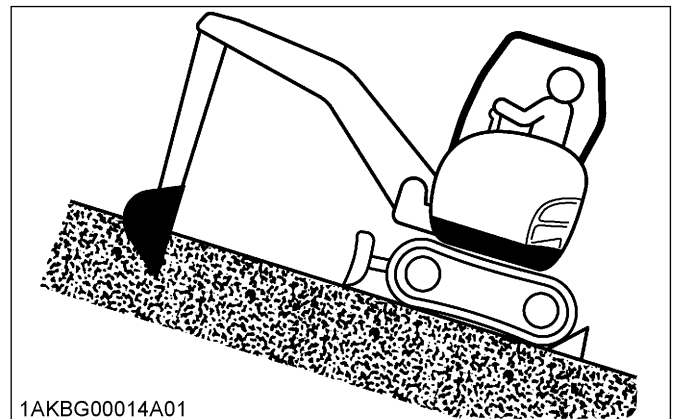
水の中で作業する場合には、各プラグ、コックなどの締まりを確認した上で、アイドル部のシュー上面までの深さの範囲内で使用してください。



- 作業終了後は、必ず泥落しをして洗浄後、支点部などに給油脂してください。
- 海浜作業を行った後は、特に入念に洗車し塩分を落としてください。電装品関係は手入れをよくし、腐食を防止してください。

作業後の注意

- 駐停車は必ず平坦地で行ってください。やむを得ず傾斜面で駐停車するときは、バケット爪を地面に食い込ませ、ブレードを接地し、クローラに歯止めをしてください。



- 運転席を離れるときは、次の手順で駐停車してください。
 1. ブレードを含む作業機を地面に降ろします。
 2. 作業機操作ロックレバーをロックします。
 3. エンジンを停止し、キーを抜きます。
- 機体格納時に使用するカバー（おい）などは、DPF など高温部が冷えてから行ってください。（火災を生じることがあり危険です。）

点検整備時の注意

1. 点検または調整を行うときの注意

- 機体および作業機の点検清掃、各部の点検、調整やそのために運転席を離れるときは、必ずエンジンを止めて行ってください。エンジンをかけながらの点検は危険です。

⚠ 安全に作業をするために

点検は危険のないかたい地盤の平たんな場所を選んで行ってください。

- 機械を点検や整備する場合、当事者以外の人が無意に機械にさわらないよう**[点検・整備中]**の警告札を機械の見やすい位置に掛けてください。また、機械の周辺にも警告札を表示してください。



- 屋内や換気条件が悪い場所での整備は、じゅうぶんな換気を行ってください。特に、エンジンの排気ガスや燃料、洗浄油、および塗料類を扱う場合には、じゅうぶんな換気が必要です。
- 整備時には、用途に合った正規の工具を使用してください。
正規の工具を使用しないで整備すると、作業効率の低下だけでなく、けがの原因となります。
- エンジンの周りの整備、点検はカバー類の支え固定を確実にして行ってください。

2. 火災の発生防止

- 整備時、燃料補給時は燃料、バッテリーなど引火する危険のあるものを取り扱います。

火災発生防止として

- 部品などの洗浄用には不燃性の油を使ってください。
- 引火の危険のある火気は消してください。
- 消火器などの消火用具を用意してください。
- 燃料、油、バッテリー液などを点検する場合は、防爆仕様の照明器具を使用してください。
- グラインダ作業や溶接作業は特に引火物を遠ざけてください。

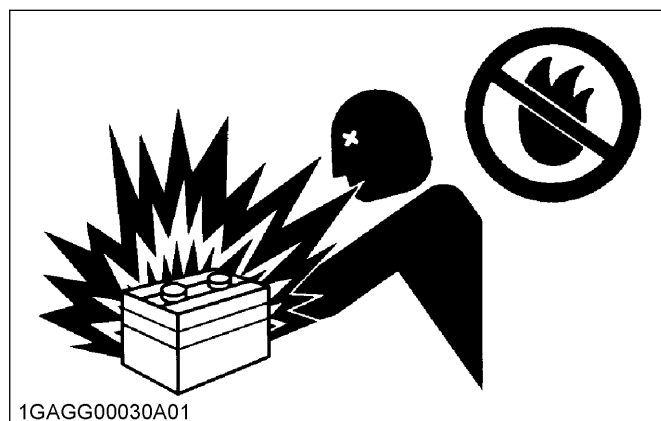
3. バッテリー取扱いの注意

- バッテリーのガスは引火爆発するおそれがあります。
 - バッテリーの近くでスパークさせたり、火気を近づけたりしないでください。
 - 両極を金属片でショートさせてのバッテリー点検はしないでください。危険です。
必ず電圧計または比重計を使ってください。
 - 凍ったバッテリーは充電しないでください。
爆発のおそれがあります。
凍った場合、バッテリーを 15℃ 以上に温めてください。

- バッテリー液（希硫酸）で失明や火傷をすることがありますので、バッテリー液が皮膚や衣服に着いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗い後、医師の治療を受けてください。
- バッテリーは液面が**[LOWER]**（最低液面線）以下になったまま使用や充電をしないでください。

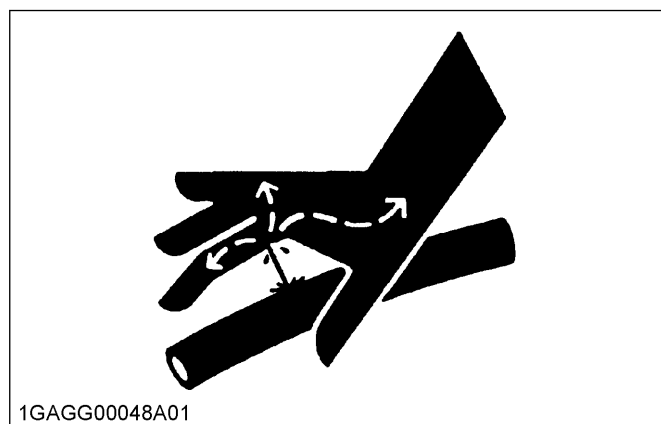
[LOWER]以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。

すぐに**[UPPER]**（上限）と**[LOWER]**（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリー）



4. 油圧部品の取外し時の注意

- 作業を中断して油圧系統部分を取り外す必要が生じたときは、バケットとブレードを地面に降ろしてから、エンジンを止めてください。稼働直後は、各機器および作動油や潤滑油が高温、高圧になっています。作動油が高温になっている場合、油でヤケドするおそれがあります。
圧力がかかり噴出した油は皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。



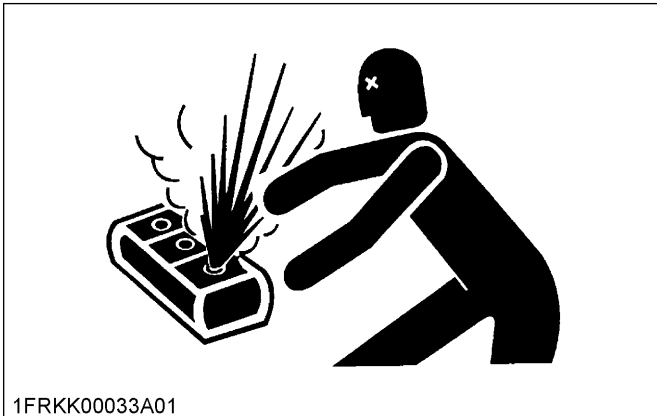
また、プラグやねじの飛び出しによるけがのおそれもあるため、油圧系統部品の取り外し作業は、じゅうぶんに各部の温度が下がってから、必ず残圧を抜いて行ってください。プラグやねじをゆるめると

⚠ 安全に作業をするために

きは全身を正面からさけた状態で徐々にゆるめてください。
(詳細は油圧回路の残圧の抜き方 (90 ページ) を参照)

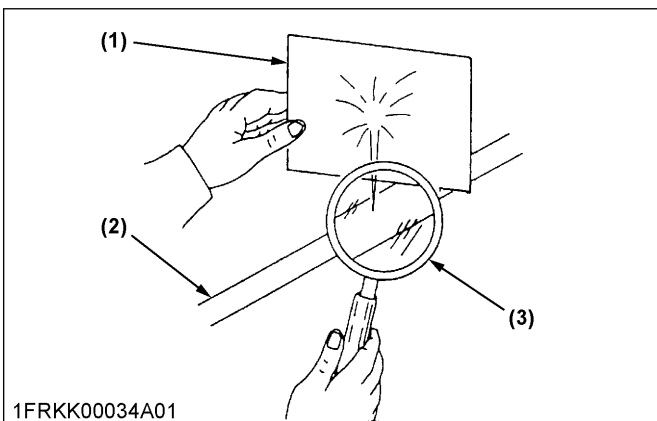
【U-40-6E のみ】

作動油の給油を行うときは、油が噴出するおそれがあるため、給油キャップをゆっくり開けて、タンクの内圧を抜いてください。
また、燃料や油が高压で漏れている場合、手や顔を絶対に近づけないように注意してください。当たるとたいへん危険です。



5. 油漏れ点検時の注意

- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



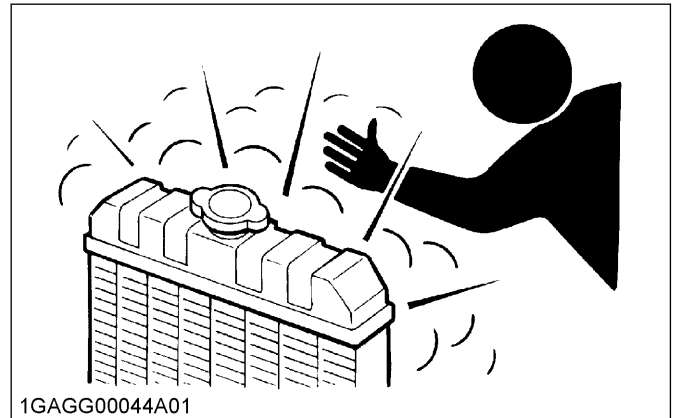
- (1) ボール紙
- (2) 高压ホース
- (3) 虫めがね

6. ラジエータ点検時の注意

- ラジエータ冷却水の点検、補給、および交換時は、エンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- 作業直後は、キャップをゆるめると蒸気や熱湯が噴出してヤケドすることがあります。また、抜き取り

コックまたはプラグをゆるめると熱湯でヤケドすることがあります。

- エンジン停止直後のラジエータは高温のため、触れるとヤケドすることがありますので注意してください。

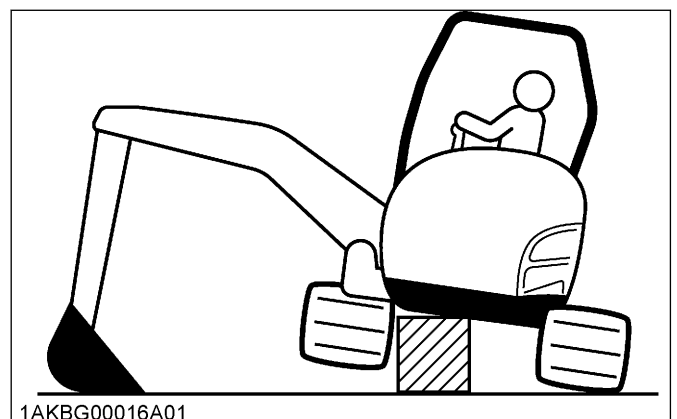


7. 機体溶接時の注意

- 直接機体に溶接を行う場合、スタータキーを[STOP]にしてください。また溶接時には、発熱スパークの発生などが起こるため、溶接部とアース部の間にシリンダやシルベアリングなど通電すると不具合を生じるおそれのある部品が入らないようにしてください。

8. 機体を持ち上げての点検や整備禁止

- 整備、点検をするために、作業機で機体を持ち上げて下に入らないようにしてください。どうしても入らなければならない場合は、安全ブロックや安全支柱を下に置いて万一の落下を防止してください。また、作業機操作ロックレバーをロック状態にしておいてください。

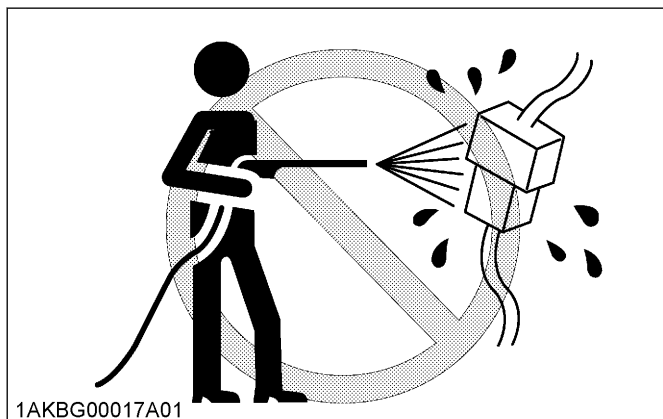


9. 洗車時の注意

- 電気系統に水が浸入すると、ショートや作動不良を起こすことがあります。バッテリー、センサ、および

⚠ 安全に作業をするために

コネクタ類などの電装品に直接水をかけないようにしてください。

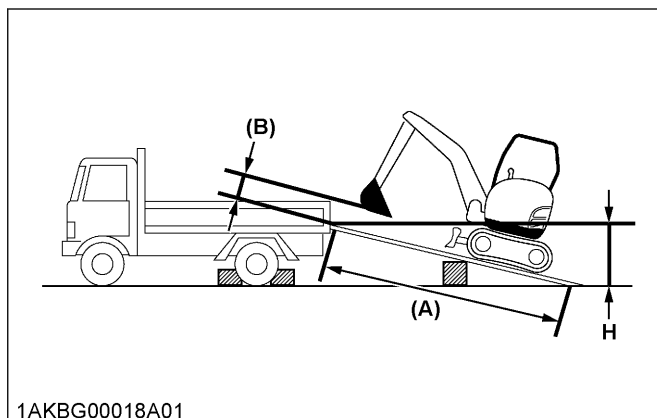


10. 労働安全衛生規則に従ったアタッチメントの着脱

- アタッチメントの装着または取外しの作業を行うときは、アタッチメントが倒壊することなどによる労働者の危険を防止するため、当該作業に従事する労働者に架台を使用させてください。(労働安全衛生規則第 166 条の 2)

運送上の注意

- 本機は道路運送車両法により自動車として認められませんので、公道での自走はできません。ご注意ください。移動の際は、必ずトラックで運搬してください。
 - 輸送に関する関係法規に違反しないようにしてください。
 - トラックへの積み、降ろしは、平たんな場所でトラックの駐車ブレーキを掛け、タイヤの前後に歯止めをして動かないようにした上でじゅうぶんな強度と幅をもったプラットホームを設けて行ってください。
 - やむを得ず、アユミ板を使用するときは、必ず油やすべりやすい物を取り除いた丈夫なアユミ板を使い、ゆっくり行ってください。
 - 作業機を進行方向に向け、アームをアユミ板に垂直か少しかきこんだ姿勢で、作業機はアユミ板から 20 cm～40 cm の高さにしてください。アユミ板の長さはトラック荷台の高さ (H) の 4 倍以上の長さのものを使用してください。



- (A) 4 × H 以上
(B) 20 cm～40 cm

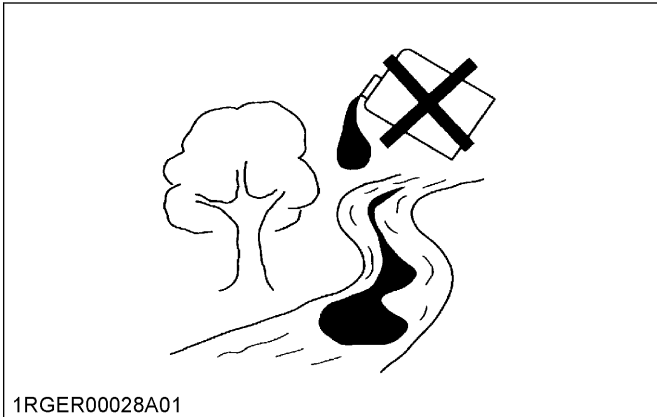
- アユミ板のたわみが大きい場合、うま（支え台）を使用し、アユミ板のたわみを防止してください。
- 雨天時の積み降ろしはアユミ板がすべりやすく危険ですので避けてください。
- プラットホームやアユミ板を使用せず、ブームとアームを使用し機体をジャッキアップしての積み降ろし作業は落下や転倒の危険がありますので絶対に行わないでください。また、アユミ板上での方向修正は厳禁です。
- トラック上では、フロント作業機、ブレードを荷台に接地、固定し、クローラに歯止めをして機体をワイヤーなどで荷台に固定してください。なお、トラックの車種により、フロント作業機をトラックのあおり内におさめ、フロント作業機が移動しないようワイヤなどで固定してください。
- 運送中の急発進、急停車、急カーブは荷動きやバランスを崩すなど危険ですので絶対しないでください。(詳細はトラックによる輸送 (82 ページ) を参照)

廃棄物の処理についての注意

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却したりすると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。廃棄物を処理するときは、次の注意事項を守ってください。

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、および海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、およびその他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

⚠ 安全に作業をするために



火災と爆発の防止

火災または爆発によりケガをするおそれがあります。これらの事故を防止するため、次の注意事項を守ってください。

- 燃料、オイル、およびその他の可燃性の物は、機械に付着したらすぐに取り除いてください。可燃性の物を機械に堆積させないでください。



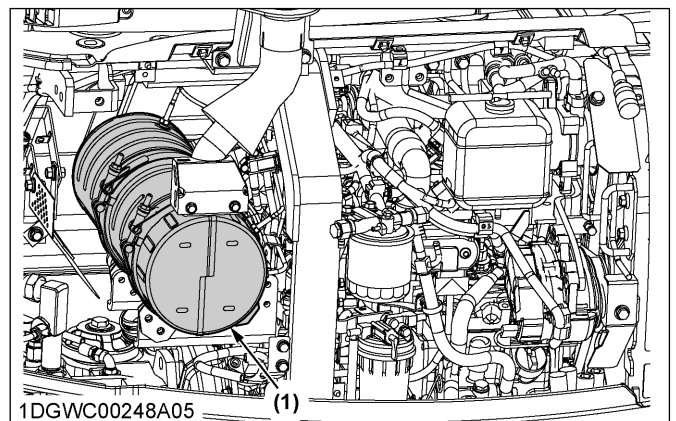
- 可燃性の液体が漏れたり、高温の部品または電装品の上にこぼれると火災が起きるおそれがあります。火災により、重傷事故または部品の損傷が生じるおそれがあります。
- ディーゼル燃料、オイルは可燃性です。冷却システムに使用する不凍液も可燃性です。
- 燃料、オイル、その他可燃物（紙くず、ウエス、軍手、落ち葉、木くずなど）が過熱した部品（エンジン、ターボ、DPF など）や電気系部品（バッテリーなど）周辺に付着、堆積しないように点検、清掃をしてください。
- 機体内に落ち葉や油脂分を含んだホコリが堆積すると車両火災を誘発するおそれがあり、たいへん危険です。定期的に点検清掃を実施してください。
- 電気配線を毎日点検してください。ゆるんでいたり損傷している配線は修復してから、機械を運転してください。すべての電気配線の結合部は清掃し、しっかりと固定してください。
- 配管およびホースに摩耗や損傷がないか点検してください。配管およびホースは適正なサポートや、クランプで固定され正しく配置する必要があります。すべての接続部は適正なトルクで締め付けてください。漏れによって火災が生じるおそれがあります。
- エンジン排気関連部品（DPF、テールパイプなど）が、錆などで損傷していないか点検してください。排気ガスが漏れ、火災が生じるおそれがあります。損傷している場合は、新品と交換してください。
- 樹脂部品の修理の際に生じるホコリは可燃性や爆発性の物体です。そのような部品の修理を行う場

合は、火気から離れた換気の良い場所で行ってください。

- 可燃性の液体を含む配管またはタンクに溶接をしないでください。可燃性の液体を含む配管またはタンクをガス切断しないでください。溶接または切断を行う場合は、配管またはタンクを不燃性の溶剤できれいに清掃してください。
- 燃料やオイルは正しく表示された容器に入れ関係者以外の人が持ち出さないようにしてください。オイルの付いた破片や可燃性の物は安全な容器に入れてください。可燃性の物質を保管している場所は火気厳禁としてください。
- 機械を火気のある場所に近づけないでください。
- 乾いた草やワラなど、可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。

ディーゼルパーティキュレートフィルタ（DPF）について

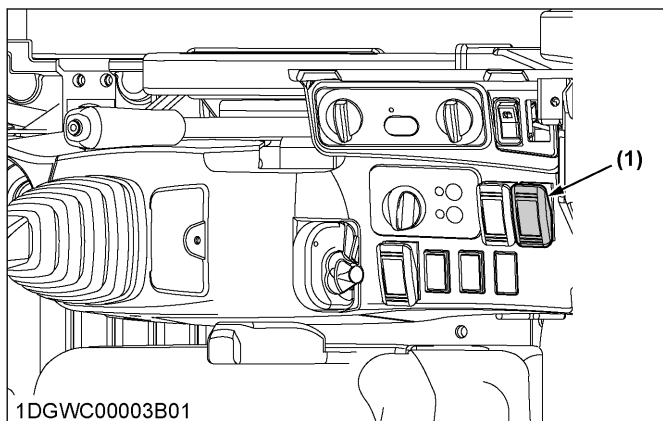
- ディーゼルパーティキュレートフィルタ（以下本文中では DPF と表記します）再生中は排気ガスや DPF が高温になります。やけどや周囲の異物などの発火、溶解に注意してください。



(1) DPF

- 高温の排気ガスがあたらないように、機械の周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
- 火災防止のため、DPF の周囲は可燃物を取り除き常にクリーンにしておいてください。
- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF 再生中は機械から離れないでください。
- この機械は DPF 再生の条件が整えば、自動で再生が開始されます。安全に再生できない所で作業する場合は、再生禁止スイッチを押して、周囲温度が過度に上がらないようにしてください。

⚠ 安全に作業をするために



(1) 再生禁止スイッチ

重要：

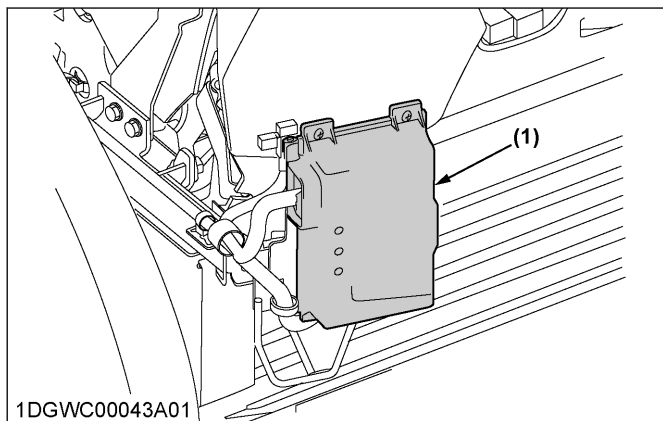
- 再生禁止をしたまま長時間使用しないでください。DPF にススがたまり、DPF の目詰まりにつながります。

補足：

- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますが、故障ではありません。
- DPF 再生中はオートアイドルのアイドリング回転数が上昇しますが、故障ではありません。

クボタトラッキングシステムについて

- DCU (通信機器)を身体から 5 cm 以上離れて使用してください。
特に心臓ペースメーカーの装着位置からは 15 cm 以上離れて使用してください。電波により、ペースメーカーの作動に影響を与えるおそれがあります。



(1) DCU (通信機器)

- 感電や火災のおそれがありますので、分解、改造または修理をしないでください。
- 故障の原因となるおそれがあるので、塗装しないでください。
- デバイスに貼付の認証ラベルをはがさないでください。

- ハロゲン系燻蒸剤などの有毒ガスが充満する環境での使用は禁止です。

定期点検の実施

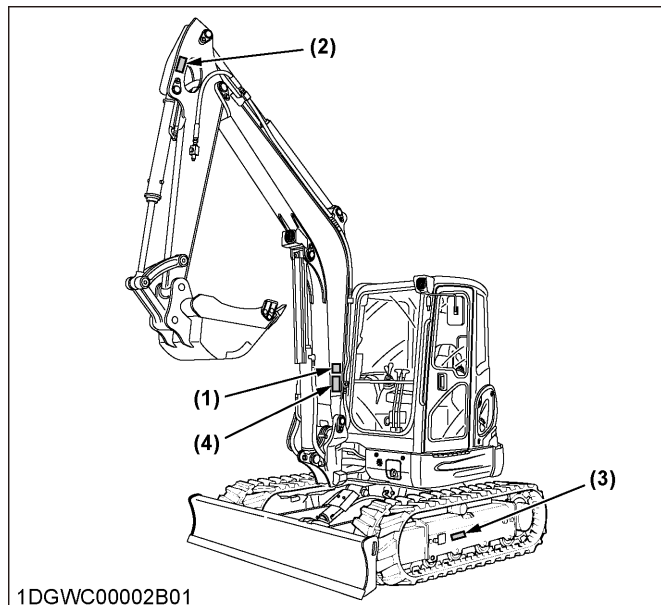
- 機械を安全に使用するため、また故障を未然に防ぐために必ず定期点検を行ってください。本文中の記載時間はアワメータが示す時間ですが、実際には、この時間を基準にして、日、週、月を単位に日にちを決めて整備してください。
- 労働安全衛生法で車両系建設機械は、定期自主検査（日常、月例、年次）を行うよう義務付けられています。
- 定期自主検査の実施については、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
なお、年次検査については、特定自主検査として、国の資格を有する者が実施しなければなりません。
- エアコン仕様機では、フロン排出抑制法により 3 か月に 1 回以上、エアコン機器の簡易点検が義務付けられています。所定の点検表で必ず実施記録し、エアコン機器を廃棄後 3 年間は、点検表を保存してください。

⚠ 安全に作業をするために

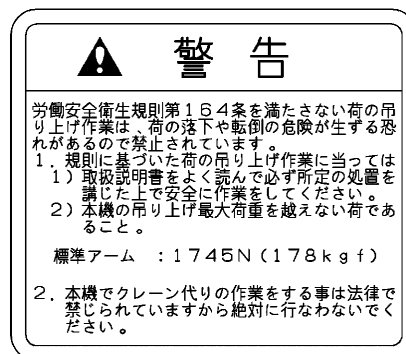
安全ラベル

1. 安全ラベルの内容と貼付位置

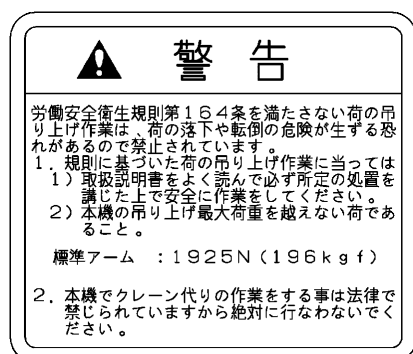
本機には安全についてのラベルが貼ってあります。よく読み理解した上で運転してください。次にその内容を記載してありますので、よく読んでください。



(1) 品番 RD461-5763-1 (U-40-6E)



(1) 品番 RD561-5763-1 (U-55-6E)



(2) 品番 RC411-5789-3 (左右共)



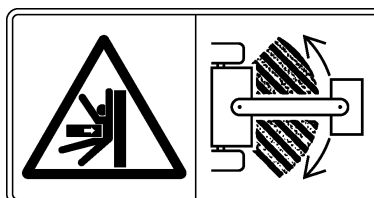
機械の作業機にはね飛ばされ、けがをするおそれがあります。機械に近づかないでください。

(3) 品番 RC411-5795-1 (左右共)
グリースニップルが飛び出し、けがをするおそれがあります。クローラをゆるめる時は、取扱説明書を読み、正しく処置してください。

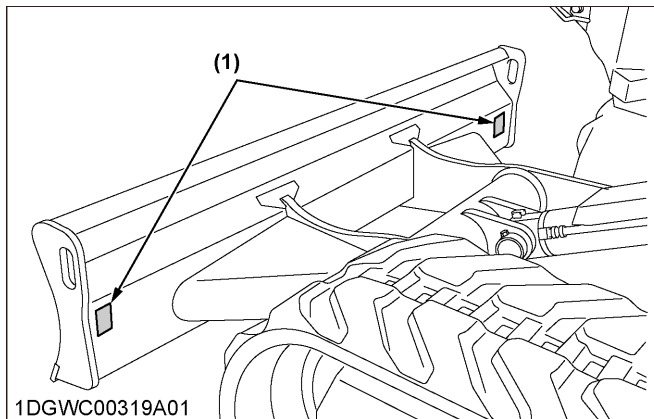
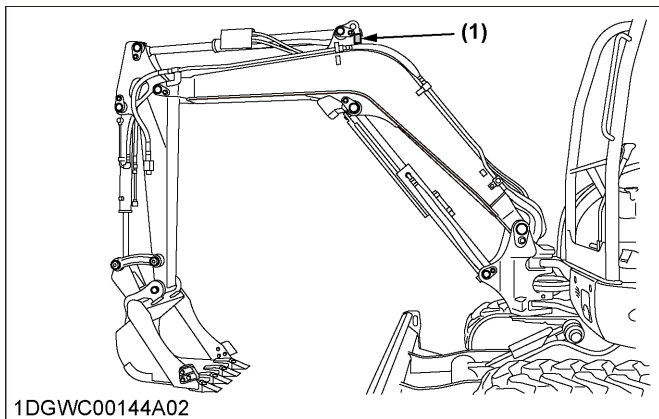


(4) 品番 RB456-5722-1 (左右共)

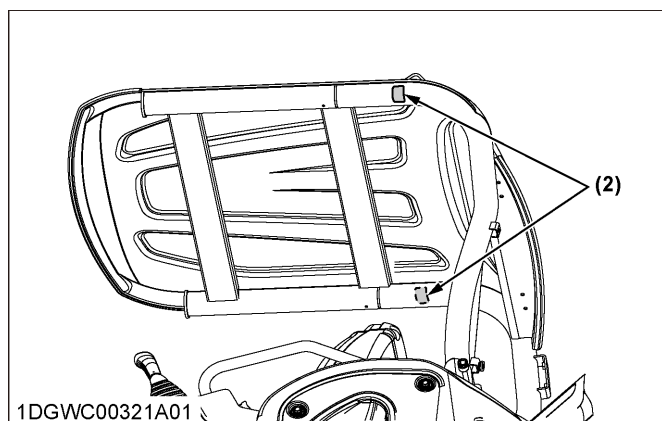
機械がスイングする時、作業機に身体をはさまれるおそれがあります。スイング範囲内に立ち入らないでください。



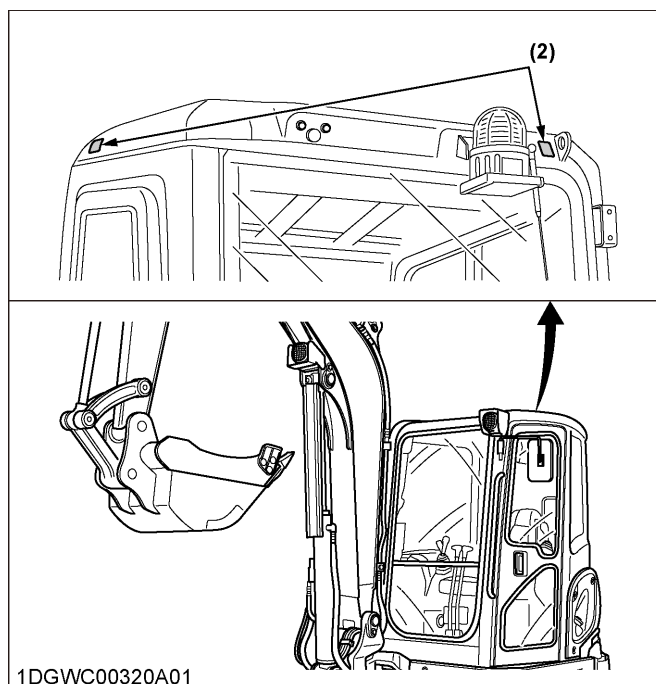
⚠ 安全に作業をするために



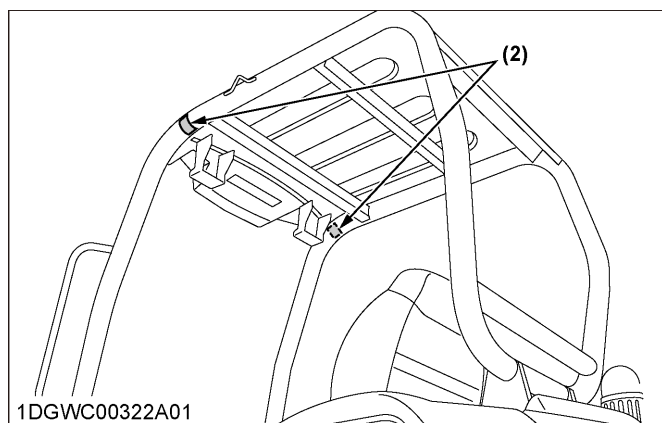
[2 ポスト TOPS キャノピ仕様 (U-40-6E のみ)]



[ROPS キャブ仕様]

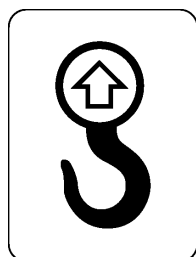


[4 ポスト ROPS キャノピ仕様]



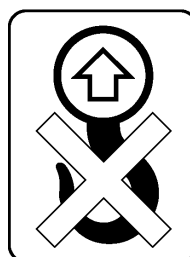
(1) 品番 RC108-5796-1 (左右共)

機体吊り上げ位置



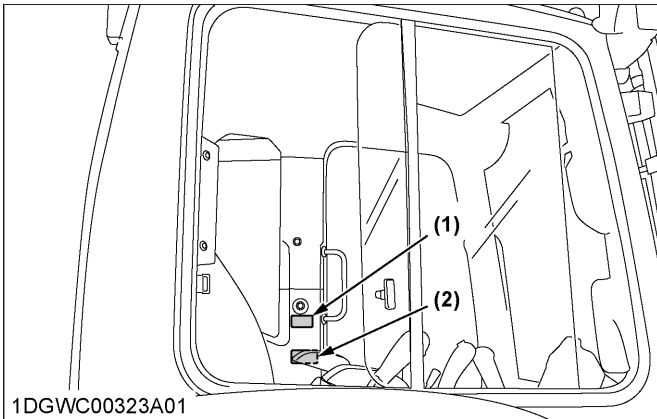
(2) 品番 RB419-5796-2 (左右共)

機体吊り上げに使用禁止

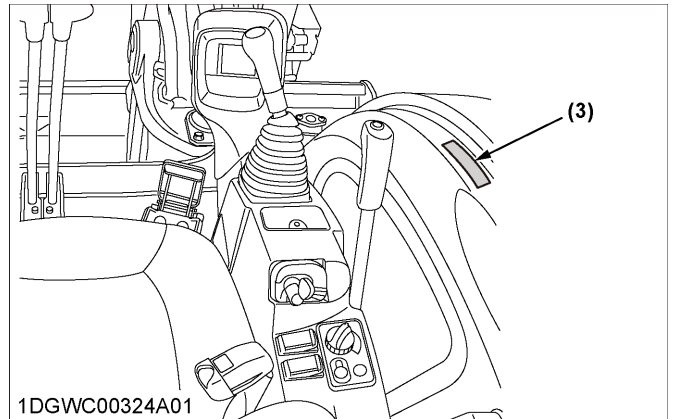


⚠ 安全に作業をするために

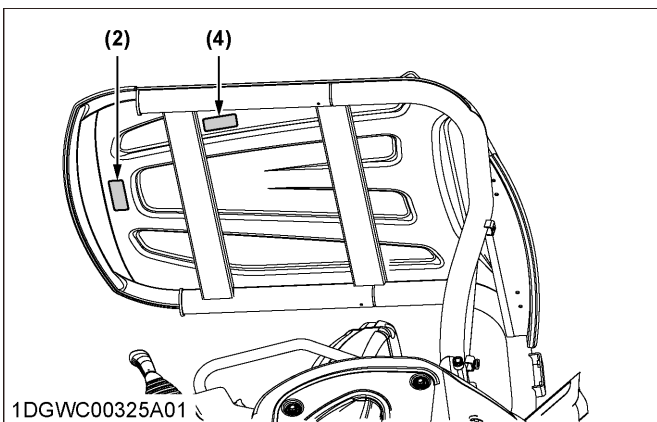
【キャブ仕様】



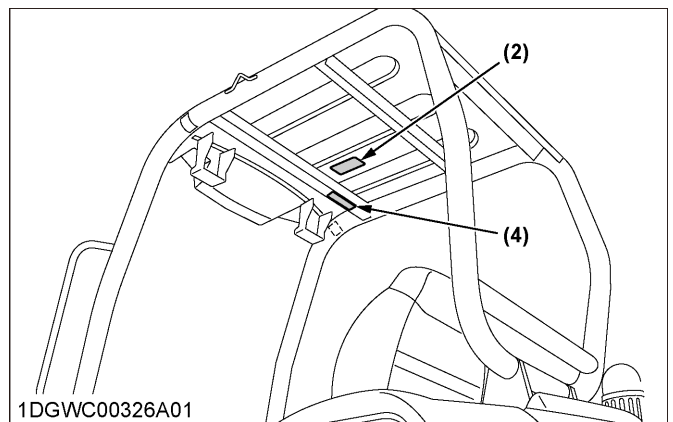
【キャノピ仕様】



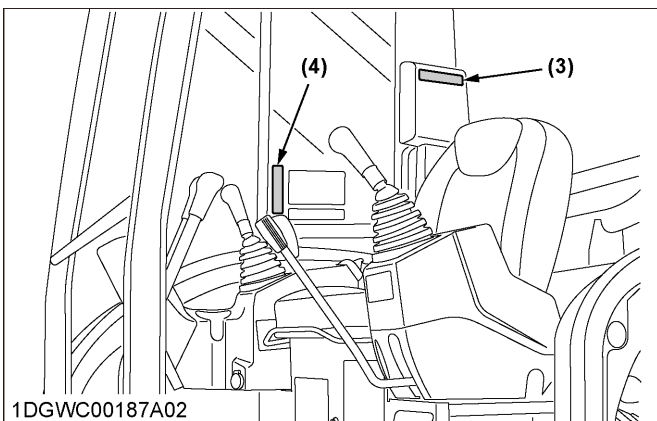
【2 ポスト TOPS キャノピ仕様 (U-40-6E のみ)】



【4 ポスト ROPS キャノピ仕様】



【キャブ仕様】



(1) 品番 RC101-5793-1

(4) 品番 3Y200-9868-3

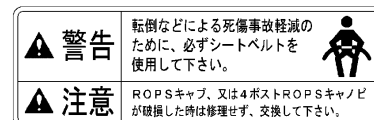
【キャブ仕様】

格納した前窓が滑り落ちてけがをするおそれがあります。格納位置でロックを確実にかけてください。



(2) 品番 RC441-5729-3

【キャブ、4 ポスト ROPS キャノピ仕様】



⚠ 警告

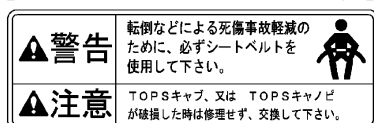
本製品にはDPF(ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ)が搭載されています。DPFの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。DPFの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。

1. 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
2. 再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。
3. 再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

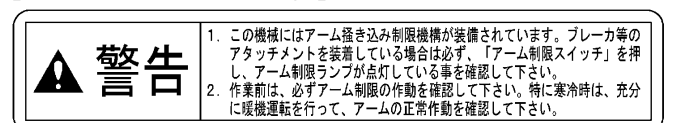
(2) 品番 RP471-5729-1

【2 ポスト TOPS キャノピ仕様】

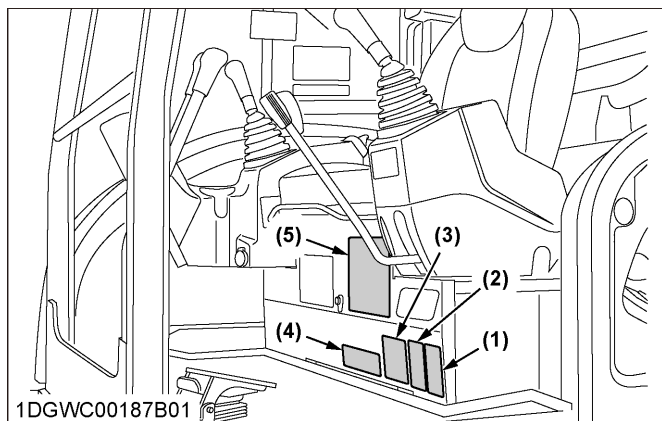


(3) 品番 RD431-5732-2

【アームかき込み制限仕様】

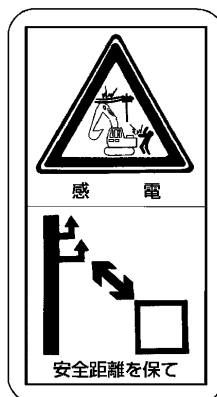


⚠ 安全に作業をするために



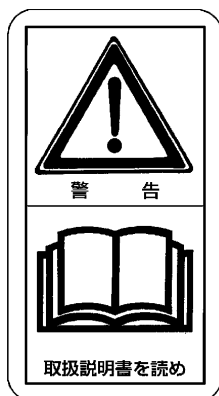
(1) 品番 RD411-5788-2

機械が電線に近づきすぎると感電する危険があります。
電線から安全な距離を保ってください。

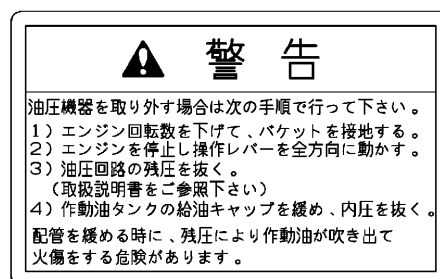


(2) 品番 RD411-5781-2

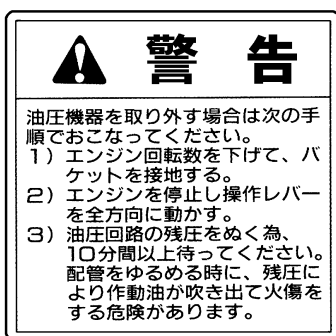
警告！機械の運転、整備、分解、組立、輸送などの前に取扱説明書を必ず読んでください。



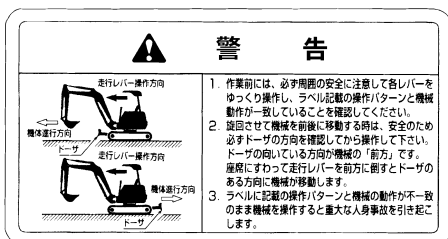
(3) 品番 RD461-5757-1 (U-40-6E)



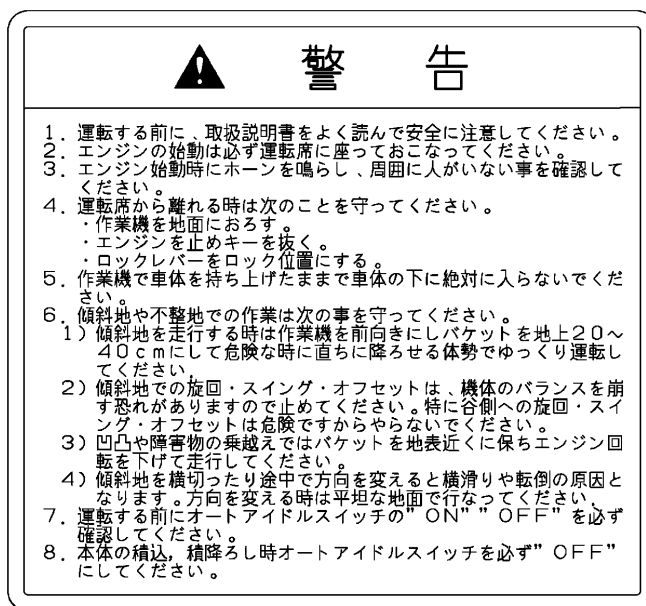
(3) 品番 RC681-5757-1 (U-55-6E)



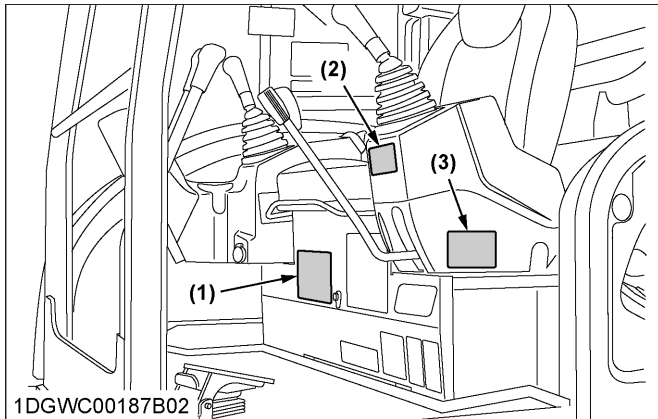
(4) 品番 RD411-5739-1



(5) 品番 RC681-5772-1



⚠ 安全に作業をするために

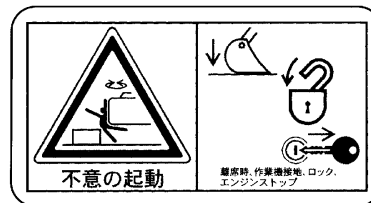


(1) 品番 RC431-5773-2

⚠ 警 告	
	トラックへの積み降ろしの際は、プラットフォームを使用してください。アユミ板を使用される場合は、下記事項を厳守してください。 - 必ず左図に示す姿勢でおこない、アユミ板は荷台の高さ(H)の4倍以上の長さのものにしてください(転倒する恐れがあります)。 - フロント操作をおこなう場合は、一旦走行を停止してください。 - アユミ板上での方向修正は、おこなわないでください。 - オートアイドル仕様の場合は、スイッチを“切”にしてください。 万一、機械が転倒した時に機械の下敷にならないように、周囲に人を近づけないでください。

(2) 品番 RA211-5783-1

止めておいた機械が不意に動き、はさまれたり、ひかれたりしてけがをするおそれがあります。機械から離れるとき、作業機を地面に下ろし、操作レバーをロックし、エンジンキーを抜いてください。

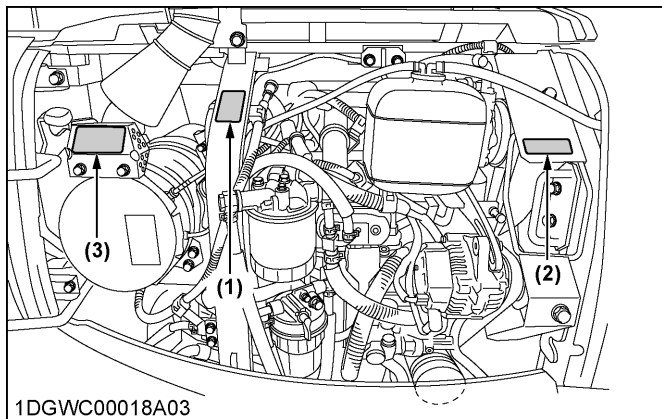


(3) 品番 RC681-5763-1

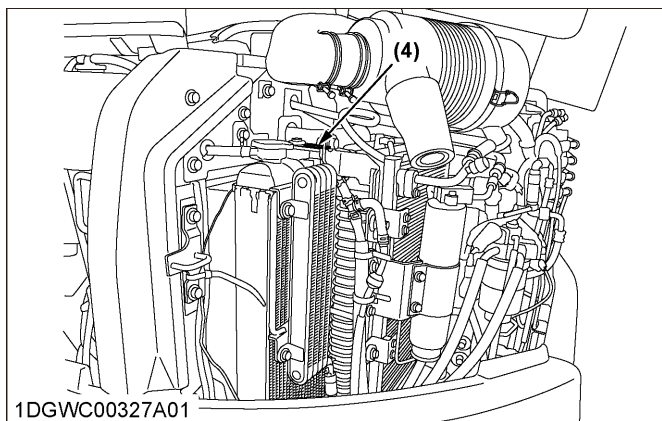
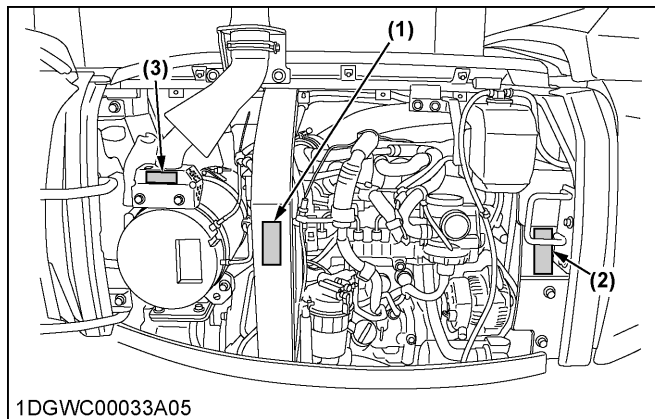
⚠ 警 告	
	運転席への乗り降りの際は、安全を確保するため、下記の注意事項を必ず守ってください。 - 手すり(2カ所)をつかみ、ステップに足を掛けて体をこの3点で支えて下さい。 - 機械に対して必ず正面を向いて下さい。 - 機械への飛び乗り・飛び降りは絶対にしないで下さい。 - 動いている機械への乗り降りは絶対にしないで下さい。 - 操縦レバー類を手すりや把手として使うことは絶対にしないで下さい。

⚠ 安全に作業をするために

U-40-6E



U-55-6E



(1) 品番 RB441-5791-2



運転中や停止直後にマフラーなどの高温部に触るとやけどをするおそれがあります。高温部に触らないでください。

(2) 品番 RA021-5784-2 (U-40-6E)

ファンやベルトなどの回転部分に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。点検や整備などを行う時には、完全に回転を止めてください。



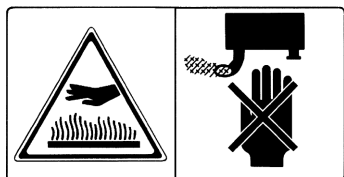
(2) 品番 RC418-5737-5 (U-55-6E)



ファンやベルトなどの回転部分に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。点検や整備などを行う時には、完全に回転を止めてください。

(3) 品番 RD158-5745-1

運転中や停止直後にマフラーなどの高温部に触るとやけどをするおそれがあります。高温部に触らないでください。



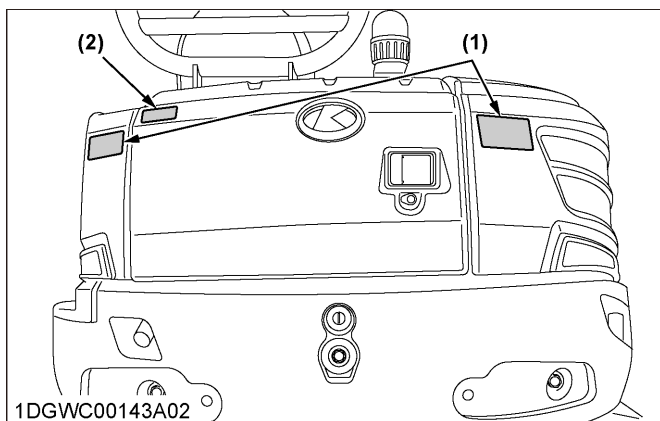
(4) 品番 RA021-5785-2

高温の状態でキャップを開けると高温の水または油が噴き出し、やけどをするおそれがあります。高温時にはキャップを開けないでください。



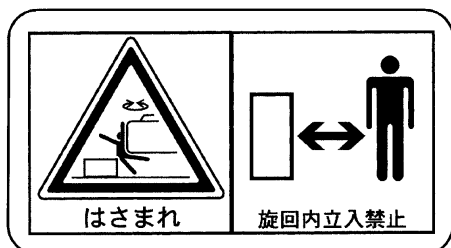
⚠ 安全に作業をするために

U-40-6E

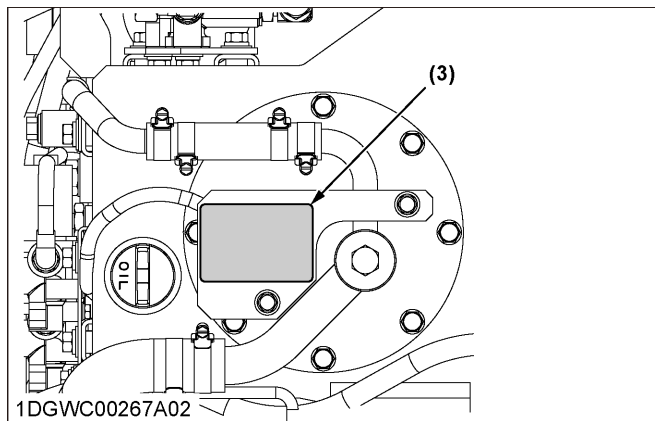
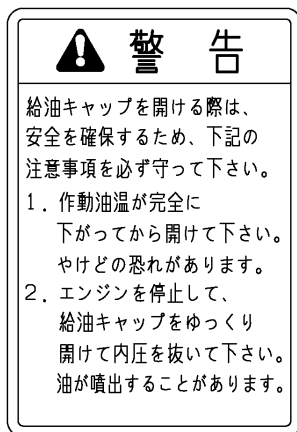


(1) 品番 RD461-5782-1

機械が旋回する時、上部旋回体に身体をはさまれるおそれがあります。旋回範囲内に立ち入らないでください。



(3) 品番 RD461-5747-1 (U-40-6E のみ)



(2) 品番 5H911-4323-3

⚠ 警告

本製品にはDPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）が搭載されています。DPFの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。DPFの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。

1. 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
2. 再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。
3. 再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

安全に作業をするために

2. 安全ラベルの手入れ

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もし安全ラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルに掛けないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、サービスブックが添付されています。詳しくはサービスブックをご覧ください。

ご相談窓口

警告

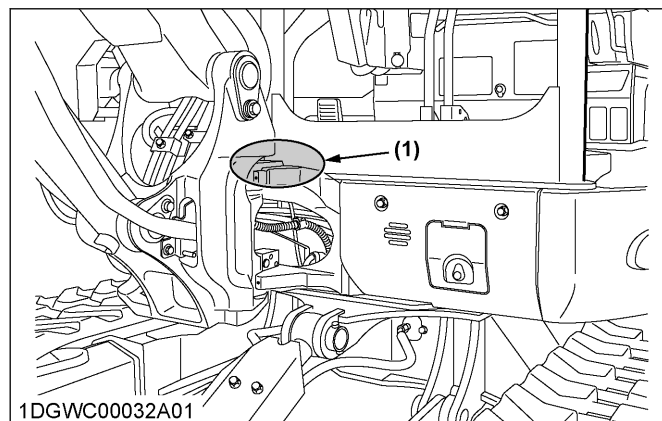
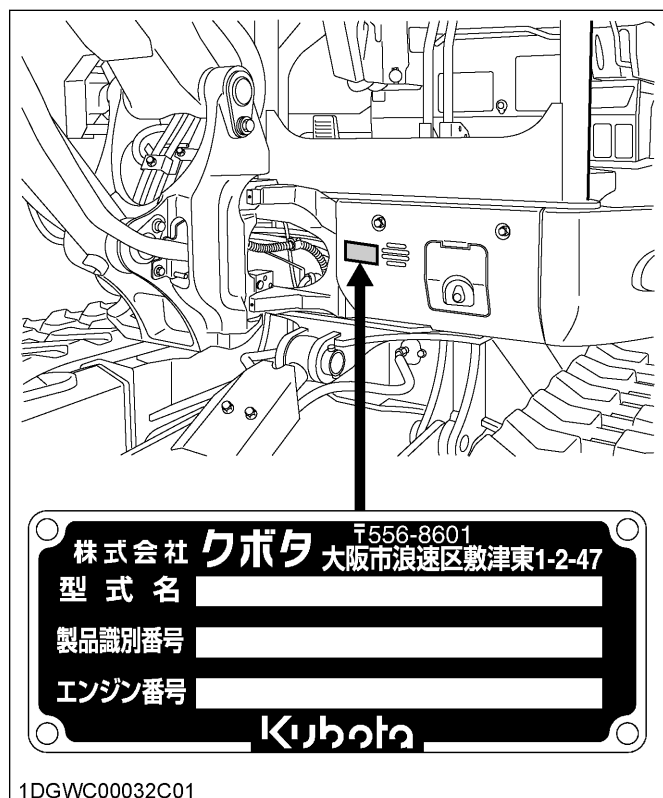
- 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

ご使用中に生じた故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただきましたクボタ建設機械販売会社または認定工場にお申し出ください。

その際、次の事項も併せてご連絡ください。

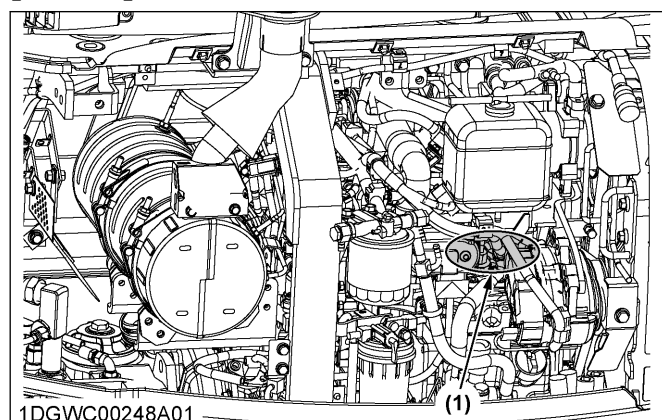
- 型式名と製品識別番号
- エンジン名称とエンジン番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



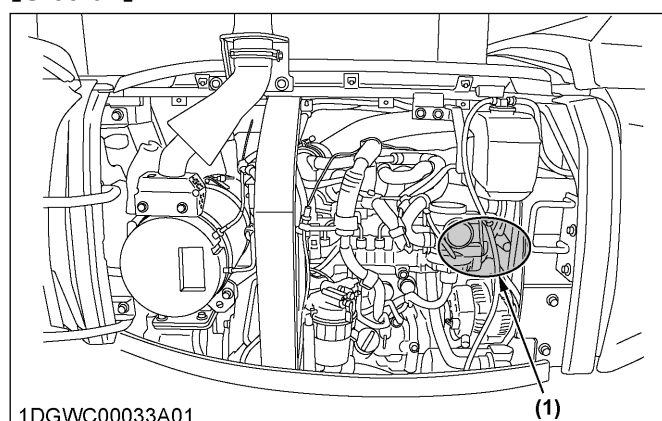
(1) 製品識別番号

[U-40-6E]



(1) エンジン番号

[U-55-6E]



(1) エンジン番号

盗難防止装置

この製品は盗難防止対応として電子キー（以下、盗難防止装置と記載）を装備しております。しかしこの装置は

盗難を抑止する装置で、盗難されないことを保証するものではありません。

クボタトラッキングシステム



警告

- DCU（通信機器）を分解したり、改造したりしないでください。アンテナの改造も禁止されています。本体のねじを外し改造を行った場合、関連法令に抵触しますので絶対に行わないでください。

重要：

- この車両には位置情報含む車両の情報を取得する機器が含まれています。搭乗前に所有者から必要な説明を受けてください。

補足：

- 製品の出荷された国または地域以外では、ご使用いただけない場合があります。
- 車両を輸出または転売する場合は、必ず購入先にご相談ください。
- 万が一異常が見つかった場合は、購入先にご相談ください。

クボタトラッキングシステムでは、DCU（通信機器）を介してサーバに送信された稼働情報や位置情報を、パソコンまたはスマートフォンで閲覧できます。

クボタトラッキングシステムの機能

- 車両の稼働情報と位置情報の確認
 - 登録エリアの管理や入出庫表示
 - アラート（故障情報）とお知らせ（設定時間内で車両の不正な動き等）の確認
 - アラートとお知らせのメール通知設定（任意設定）
- 上記の設定および使用方法については『クボタトラッキングシステム操作マニュアル』を参照してください。

クボタトラッキングシステムのデータ管理

サーバにアップロードされた機械のデータは、下記アドレスの Web アプリケーション（クボタトラッキングシステム）で閲覧できます。操作方法については、マニュアルを参照してください。

<https://trackingsystem1.kubota.com>

補足：

- 本製品は ISO15134-3 : 2020 および AEMP2.0 に適合していますので、カスタマイズが可能です。

1. DCU（通信機器）に関する注意事項

本製品の DCU（通信機器）は、電波法に基づく各国の規則を遵守しており、その証が DCU（通信機器）の銘板シールに表示されています。認証された国以外での使用は、法規違反になりますのでご注意ください。

GNSS^{*1} 機能の利用について

- 本製品が取得した位置情報は、当社が提供するサービスにのみ使用できます。
- 当社が提供するサービスについては、本製品の故障や誤作動による不完全なサービスに起因する損害、外部要因による損害等の経済的損失について、当社は一切の責任を負わないことをあらかじめご了承ください。
- GNSS は人工衛星からの電波を利用しているため、次の環境では電波を受信できなかったり、または受信が途切れたり、位置精度が悪くなったりすることがあります。
 - 建物の中や近く
 - 密集した樹木の中や近く
 - 大雨や雪などの天候である場合
 - 周囲に人や物などの遮蔽物がある場合
 - トンネル内、水中、および地下
 - 高圧線の周囲
 - 位置精度が悪い時、「入出庫表示」や「設定時間内で車両の不正な動きを検知」する機能が正常に働かない可能性があります。

^{*1} GNSS：全地球航法衛星システム

通信機能の利用について

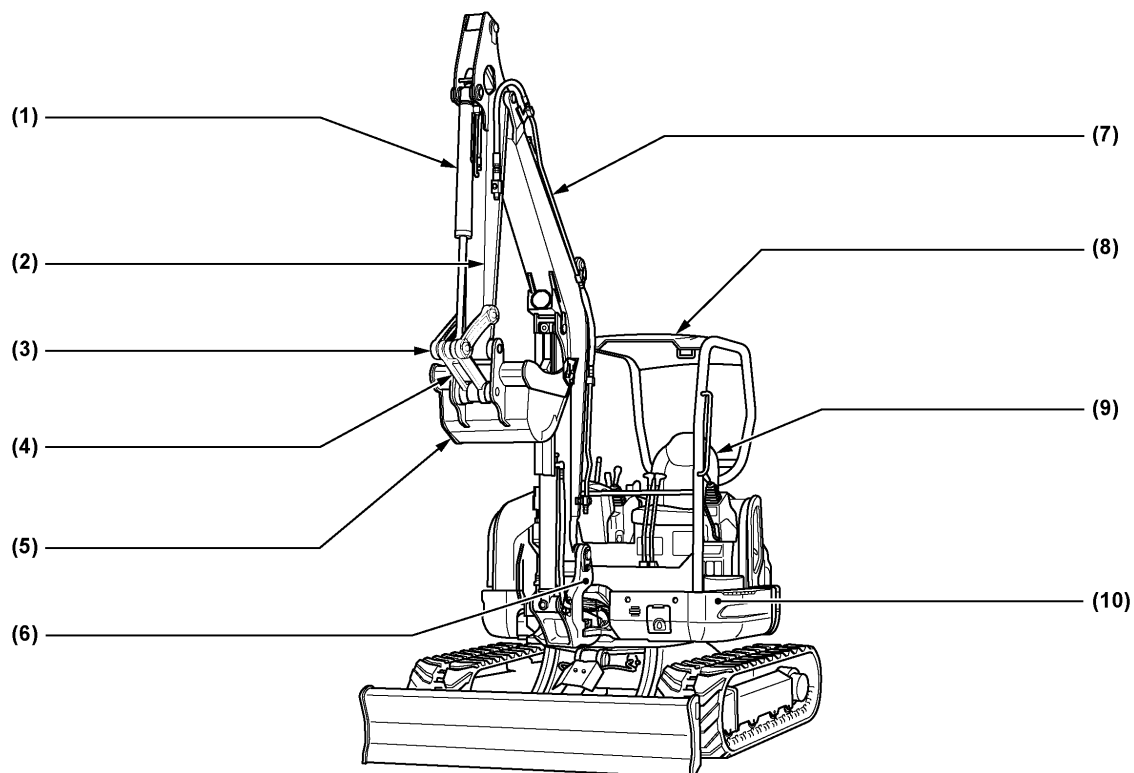
本製品の DCU（通信機器）は、2G、3G、および 4G にて無線通信を行っています。そのため環境により通信できない場合や、周囲の無線機器に影響を与える場合があります。

DCU（通信機器）の利用期限

- 契約期間内でも次のような期限により通信機能が使えなくなることがあります。あらかじめご了承ください。
 - 通信電波の停波、法律の改正、およびセキュリティ規格の変更などにより通信ユニットの通信機能が使えなくなることがあります。その場合、サーバ通信機能は利用できなくなります。

装置の説明

装置の名称



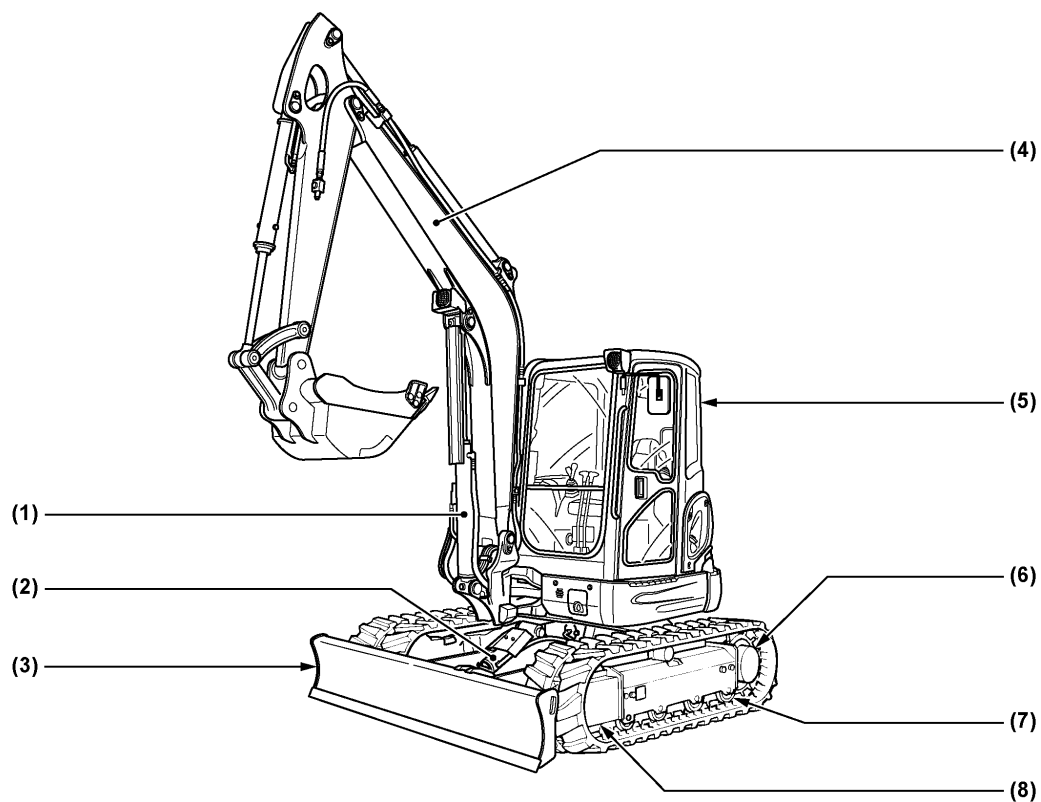
1DGWC00001A01

(1) バケットシリンダ
 (2) アーム
 (3) バケットリンク 2、3

(4) バケットリンク 1
 (5) バケット
 (6) スイングブラケット

(7) アームシリンダ
 (8) 4 ポスト ROPS キャノピ
 (9) 運転席

(10) 旋回フレーム



1DGWC00002A01

(1) ブームシリンダ
(2) ブレードシリンダ

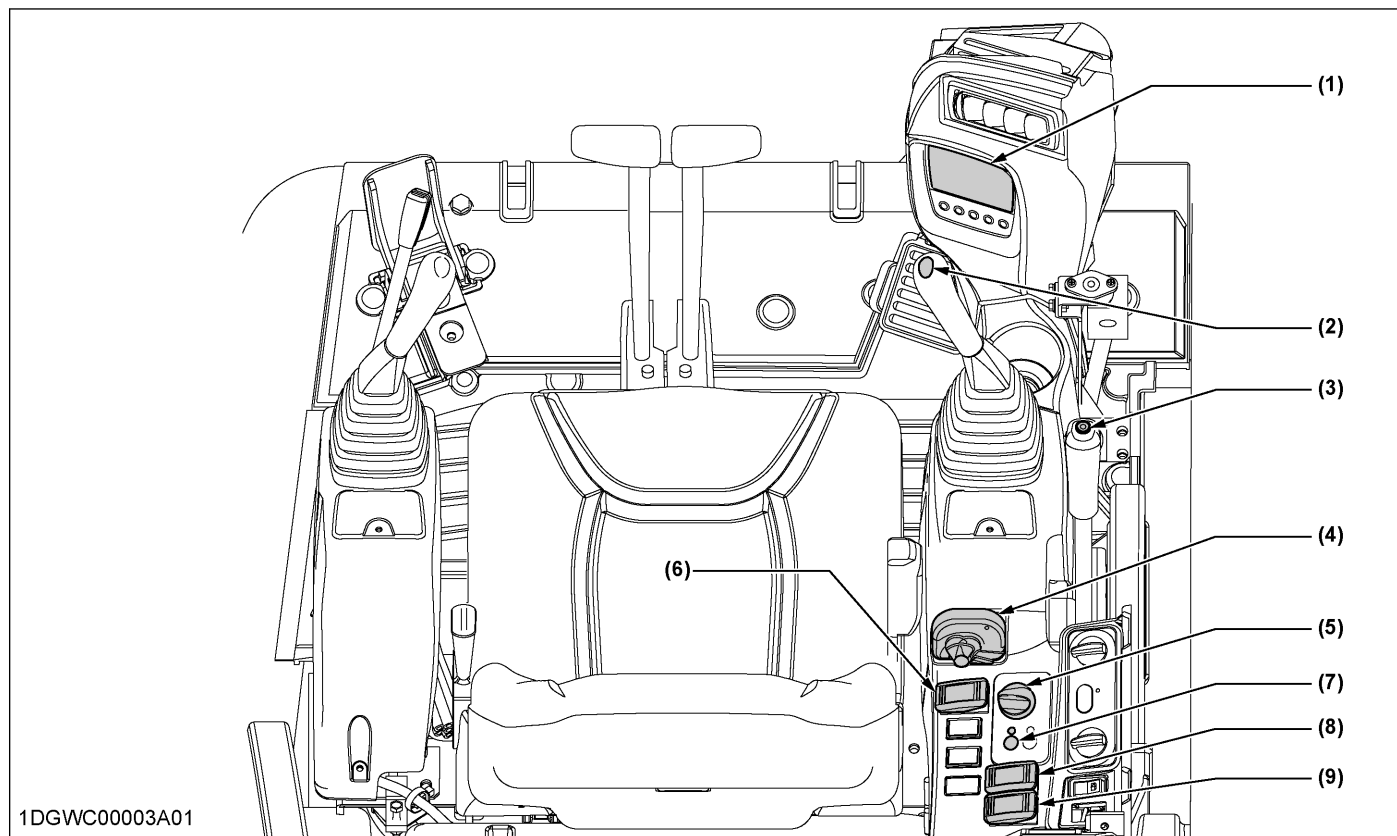
(3) ブレード
(4) ブーム

(5) ROPS キャブ
(6) スプロケット

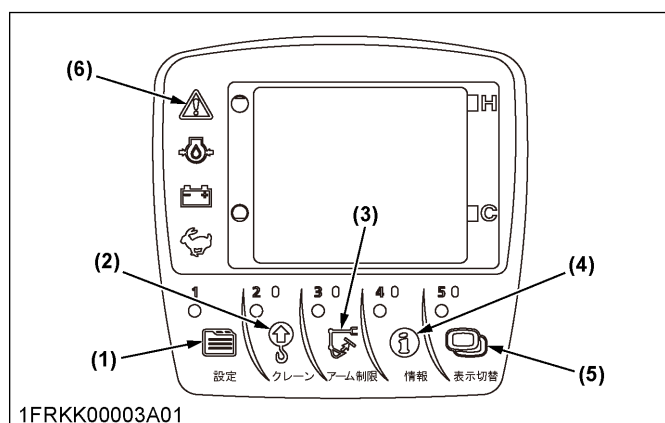
(7) トラックローラ
(8) フロントアイドラ

スイッチとメーター、ランプの取扱い

スイッチとメーター、ランプの名称



(1) 液晶モニタ	35	(6) 作業灯スイッチ	46
(2) ホーンスイッチ	46	(7) オートアイドルスイッチ	47
(3) 走行増速スイッチ	47	(8) エコモードスイッチ	48
(4) スタータスイッチ	34	(9) 再生禁止スイッチ	48
(5) アクセルダイヤル	47		



(1) ユーザー設定スイッチ (スイッチ 1)	
(2) クレーンスイッチ (スイッチ 2)	
(3) アームかき込み制限スイッチ (スイッチ 3)	
(4) インフォメーションスイッチ (スイッチ 4)	34
(5) 表示切替スイッチ (スイッチ 5)	45
(6) 警告ランプ	

スイッチとメーターの機能と使い方

1. スタータスイッチ

[STOP]

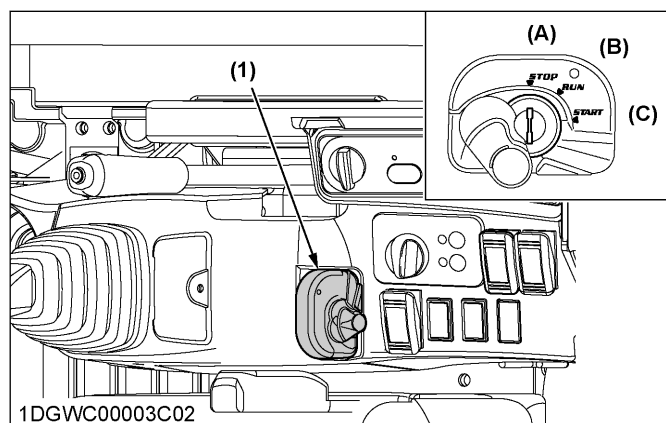
- [STOP]の位置でキーの差込みができます。

[RUN]

- [STOP]の位置からキーを1段回して[RUN]の位置にするとすべての回路に電気が流れ、予熱を行いグローの表示を行います。
この時ランプ切れチェックのためランプが約1秒間点灯します。

[START]

- 作業機操作ロックレバーをロックの位置にし、[RUN]の位置からキーをさらに1段回して[START]の位置にすると、セルモータが回りエンジンが始動します。
キーから手を離すと自動的にキーは[RUN]の位置に戻ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。



(1) スタータスイッチ

- (A) [STOP]
(B) [RUN]
(C) [START]

補足：

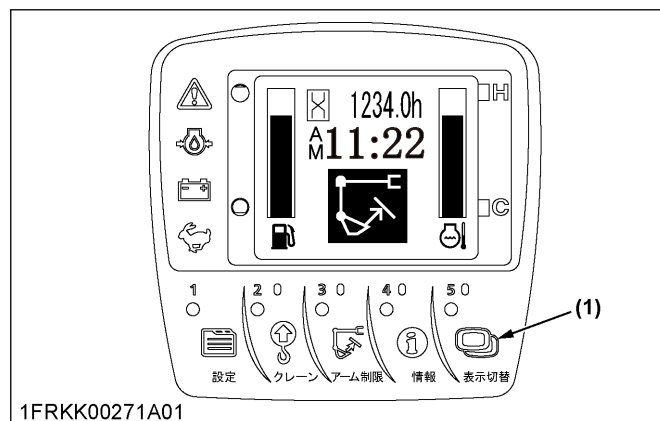
- [RUN]→[STOP]の位置にしてキーを抜かないでしばらくすると“キー抜き忘れ”が表示されます。



2. 表示切替スイッチ

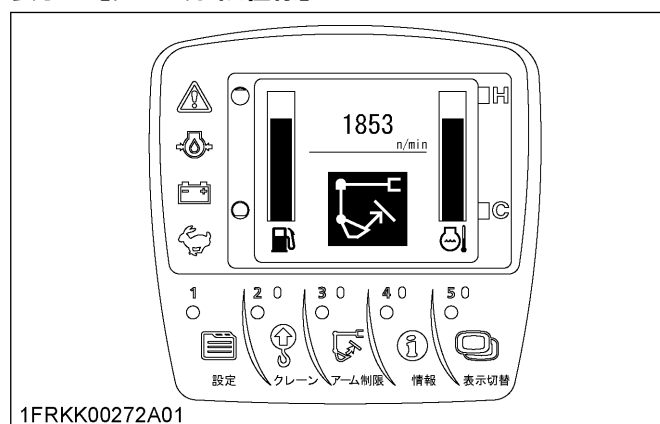
エンジン始動後、電子メーターの表示部は、表示切替スイッチを押すごとに2種類の表示に切り替わります。作業に応じて切り替えてください。

表示 1 [アーム制限仕様]

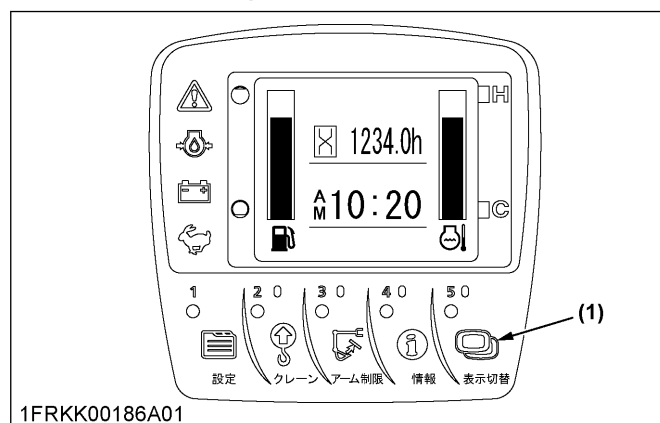


(1) 表示切替スイッチ

表示 2 [アーム制限仕様]

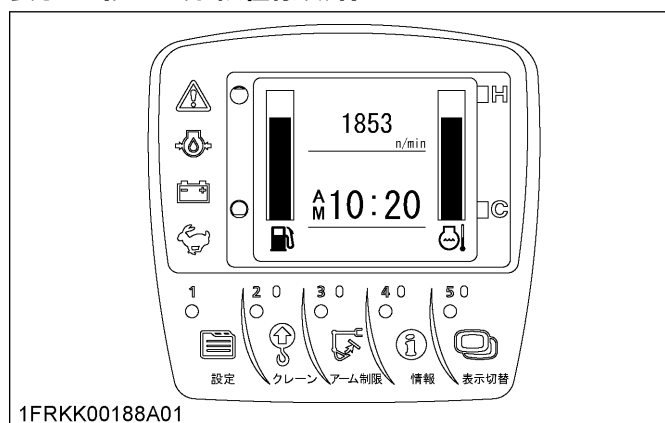


表示 1 (アーム制限仕様以外)



(1) 表示切替スイッチ

表示 2 (アーム制限仕様以外)



補足：

- スタータキーを挿入しない状態でもメーターパネルのユーザー設定スイッチまたは、表示切替スイッチのいずれかのボタンを押すと 10 秒間液晶表示部にアワメータと燃料、水温、時計が表示されます。

3. メーターパネル (液晶モニタ) 通常時

重要：

- 画面を清掃するときは、めがね拭きなどのやわらかい布で拭いてください。かたい布などを使用したり、強く擦ったりすると、表面に傷がつくことがあります。アルコールやベンジンなどの有機溶剤や、アルカリ性や酸性の溶剤などが付着すると、画面が損傷するおそれがあります。

3.1 燃料計



警告

- 燃料を補給する際は必ずエンジンを停止してください。
- 火気を絶対に近づけないでください。もし怠ると、火災を起こすおそれがあります。

重要：

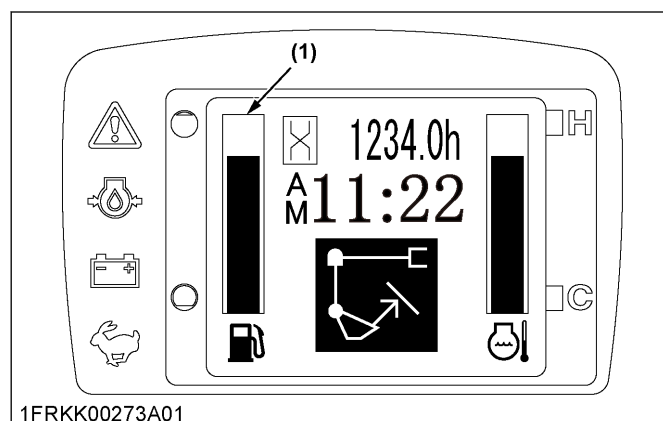
- に近づくか、または「燃料を補給してください」と表示されたら早めに燃料を補給してください。燃料計の表示が ○ に近いと機体の傾斜角によっては、燃料切れ状態でエンジンストップする場合があります。



燃料を
補給してください

1FRKK00185A01

スタータキーが[**RUN**]の位置で、燃料タンク内の残量を液晶モニタに表示します。

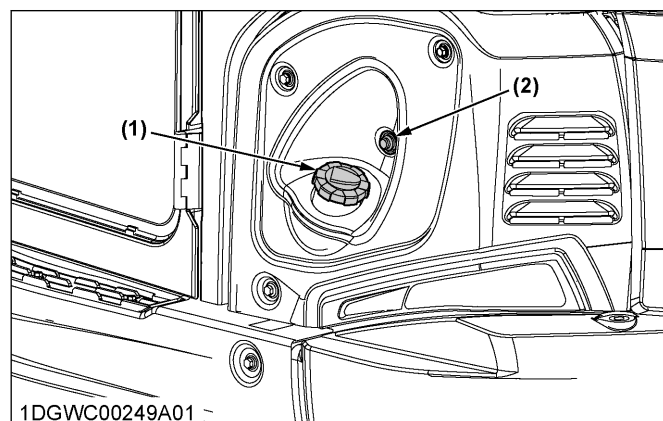


(1) 燃料計

燃料が少ない場合は、キャップを開けて補給してください。

補足：

- 燃料キャップはキーを付けたままでないと開きません。

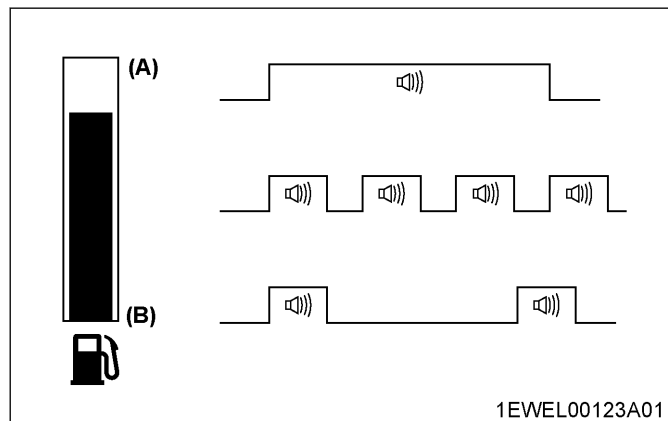


(1) キャップ
(2) 満タンお知らせブザースイッチ

3.1.1 燃料補給 (満タンお知らせブザー)

- スタータキーを[**STOP**]位置にしたまま満タンお知らせブザースイッチを押します。補給状況をブザー音で確認することができます。

2. 燃料を補給します。
ブザーが鳴る間隔はタンク内の燃料の量により変わります。満タンに近づくと連続音に近くなります。

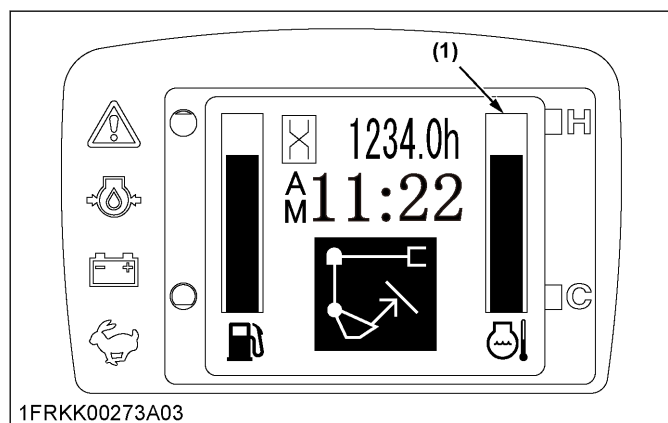


(A) 満タン
(B) 空

3. 補給時はブザー音を聞きながら、燃料タンクが満タンになっていくのを確認します。
燃料をゆっくり注ぎ込むと、補給時に鳴るブザー音が途切れますが、再度注ぎ込むと鳴り始めます。
4. 補給を満タンになる前に途中で止めたい時は、満タンお知らせブザースイッチを押すか、しばらく放置すると鳴り止みます。

3.2 水温計

スタータキーが[**RUN**]の位置にあるとき、冷却水温を液晶モニタに表示します。



(1) 水温計

3.2.1 冷却水の水温上昇時の対処方法

警告

- 運転中や運転停止直後にラジエータキャップを開けると蒸気や熱湯が噴出しやケドすることがあります。ラジエータが冷えてからラジエータキャップを開けてください。

水温計の水温ゲージが[H]に近づいたら作業を中止し、次の手順で操作をしてください。

また水温に応じて“水温が上昇しています”、“オーバーヒートアイドリングで冷却中”の警告表示が出ます。この場合も同様の手順で操作してください。

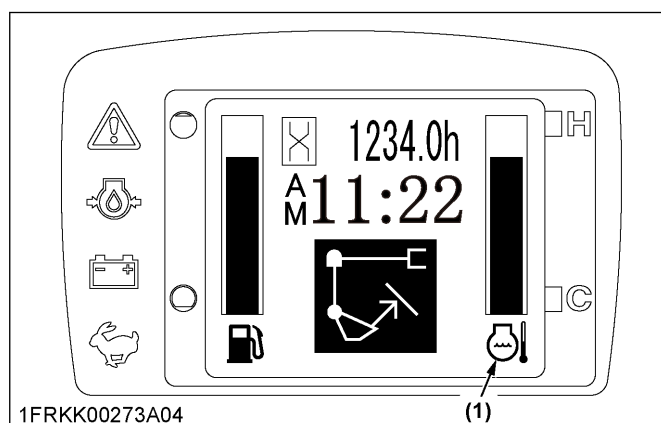
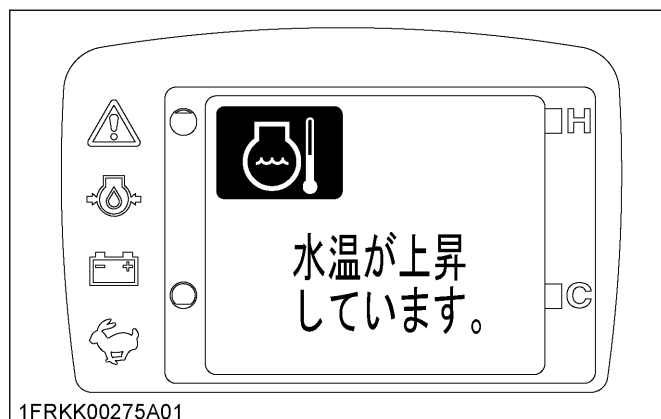
1. エンジン回転をいったん約 5 分間アイドリングにします。
2. エンジンを停止して、次項の点検を行います。
 - 冷却水の有無、漏れ
 - ファンベルトのゆるみ
 - ラジエータに、泥やゴミが付着していないか
 - 作動油の油漏れがないか
3. 異常が発見された場合は購入先の販売店に修理を依頼してください。

3.2.2 オーバーヒート状態になった時の挙動

次の表示が現れたらオーバーヒート時の対処に従って対処してください。

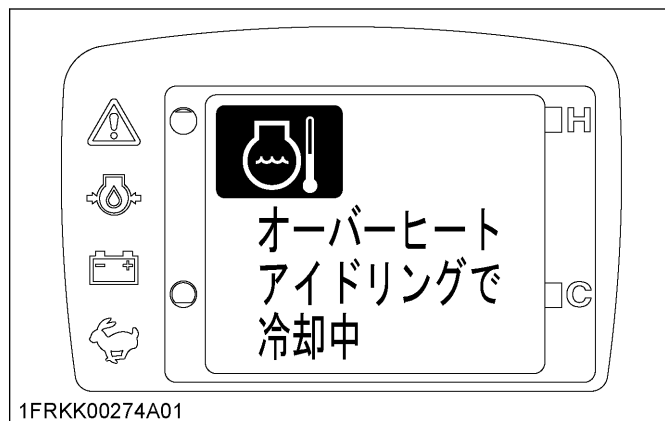
(詳細はオーバーヒート時の対処 (68 ページ) を参照)

- 水温が高い状態になった場合は、液晶モニタに“水温が上昇しています”と一定時間表示されます。その後、通常表示に戻り、水温計マーク (1) が 1 秒ごとに点灯、消灯を繰り返します。



(1) 水温計マーク

- オーバーヒート警告表示がされると同時に、液晶画面に“オーバーヒートアイドリングで冷却中”と表示され、自動的にアイドリングになります。(アクセル操作はできなくなります。)

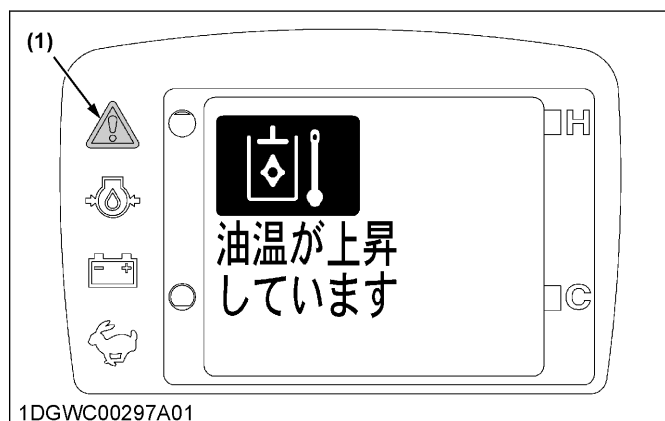


補足：

- 水温が下がれば自動的にアクセル操作できるようになります。

3.3 作動油温の上昇時の対処方法

作動油温が高くなると、次のメッセージが表示され、警告ランプが1秒ごとに黄色の点灯と消灯を繰り返します。



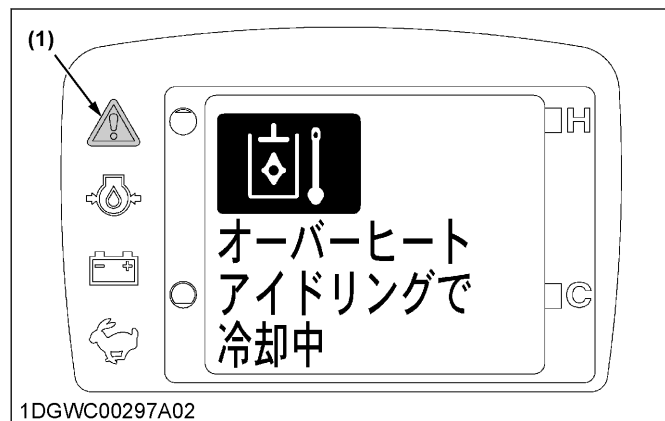
(1) 警告ランプ

表示されたら、次の手順で操作してください。

1. エンジン回転をいったん約5分間アイドルにします。
2. エンジンを停止して、次項の点検をします。
 - 作動油の有無と漏れ。
 - ファンベルトのゆるみ。
 - オイルクーラに泥やゴミが付着していないか。
 - 冷却水の漏れなどがないか。
3. 異常が発見された場合は、クボタ建設機械販売会社または認定工場に修理を依頼します。

3.4 作動油温がオーバーヒート状態になった時の挙動

作動油温があまりに高くなると、次のメッセージが表示され、警告ランプが1秒ごとに赤色の点灯と消灯を繰り返します。



(1) 警告ランプ

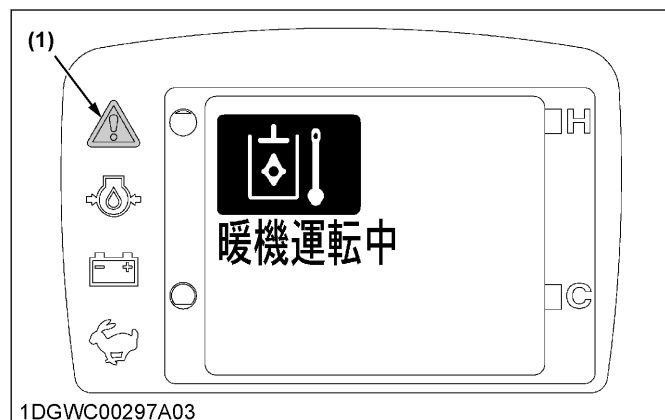
表示されると自動的にアイドルになります。(アクセル操作ができなくなります。)

補足：

- 作動油温が下がれば自動的にアクセル操作ができるようになります。

3.5 作動油温の低温時の対処方法

エンジン始動時作動油温が低い状態の場合は、次のメッセージが表示され、警告ランプが1秒ごとに黄色の点灯と消灯を繰り返します。



(1) 警告ランプ

表示されたら、中速以下で暖機運転をしてください。(詳細はエンジン始動後の暖機運転と点検(67ページ)を参照)

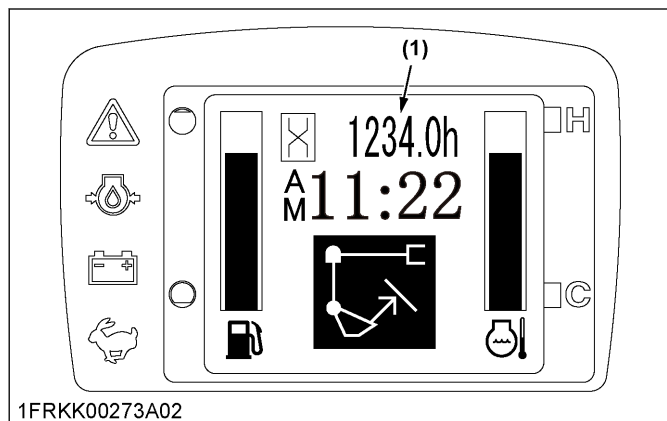
表示されると、作動油温が適切な温度に上がるまでエンジン回転数が中速回転までしか上がりません。作動油温が適切な温度に上がると、アクセル操作に合わせて、エンジン回転数が最高回転数まで上がるようになります。

3.6 アワメータ

本機の通算稼働時間を表示します。

メータの進み方

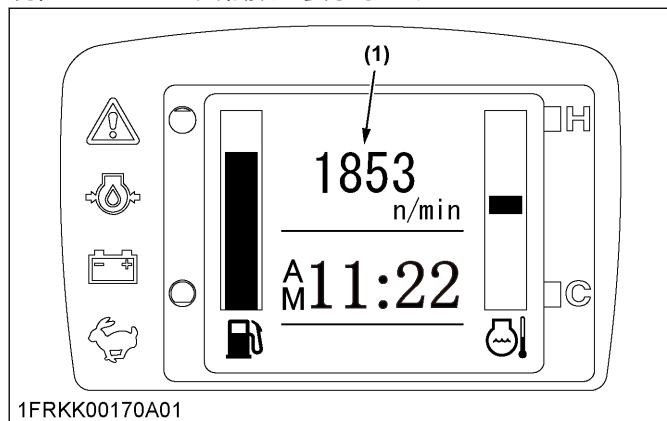
- エンジン回転数に関係なく1時間運転した時にメータが1時間進みます。



(1) アワメータ

3.7 エンジン回転計

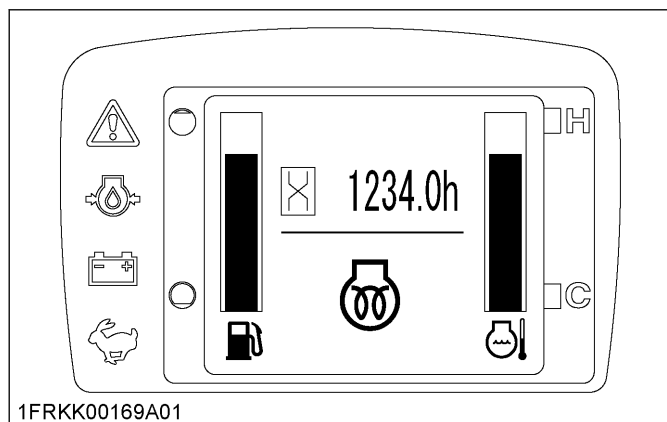
現在のエンジン回転数を表示します。



(1) エンジン回転計

3.8 グロー表示

スタータキーを[RUN]にした時、エンジンの予熱が必要な場合に表示します。
表示が消えてからエンジンを始動してください。



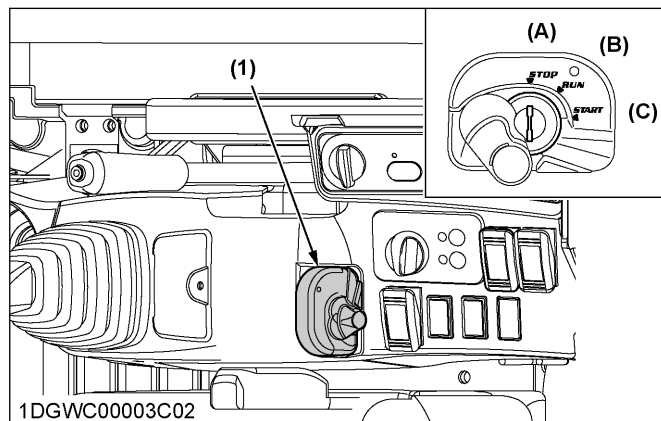
3.9 ユーザーが設定できる項目

3.9.1 時計の設定

補足：

- 時計の精度は、1か月あたり±数分程度ですので、定期的に再設定してください。

- スタータキーを[RUN]位置にします。



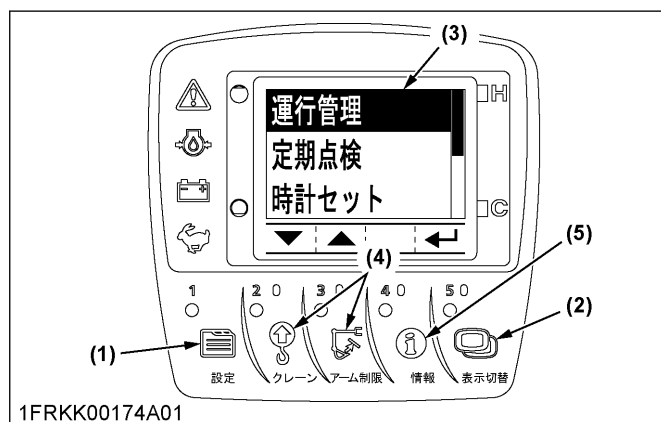
(1) スタータスイッチ

(A) [STOP]

(B) [RUN]

(C) [START]

- ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押し[運行管理]、[定期点検]、[時計セット]画面を表示します。



(1) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）

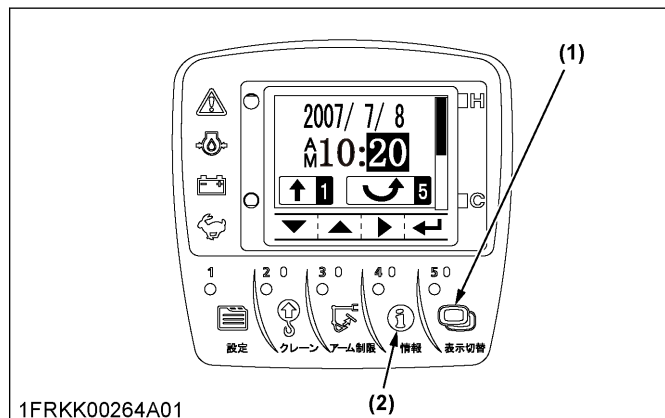
(2) 決定スイッチ（スイッチ 5）

(3) カーソル

(4) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）

(5) 項目移動スイッチ（スイッチ 4）

3. カーソル移動スイッチ（スイッチ 2）を 2 回押して **[時計セット]**画面を選択し、決定スイッチ（スイッチ 5）を押して次の画面を表示します。



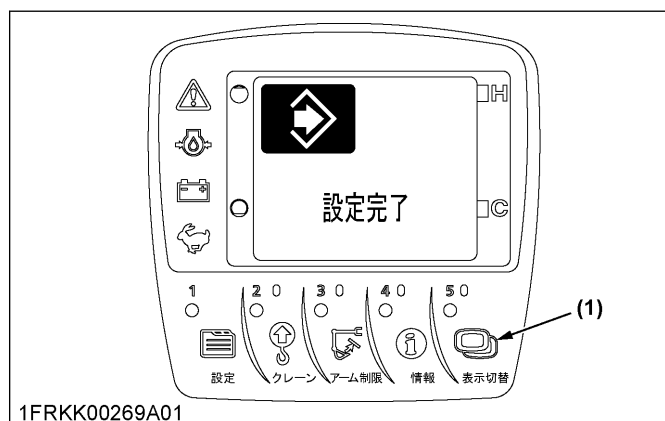
- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）
(2) 項目移動スイッチ（スイッチ 4）

4. 変更したい部分にカーソルを合わせて、数字を変えます。
- ▶ 項目移動スイッチ（スイッチ 4）を押すと **[年]>[月]>[日]>[時]>[分]>[年]**の順番で選択項目が移動します。
 - ▼ カーソル移動スイッチ（スイッチ 2）を押すと数字が小さくなります。
 - ▲ カーソル移動スイッチ（スイッチ 3）を押すと数字が大きくなります。
 - ▲、▼ は連続で押すと、数字の変更速度が早くなります。

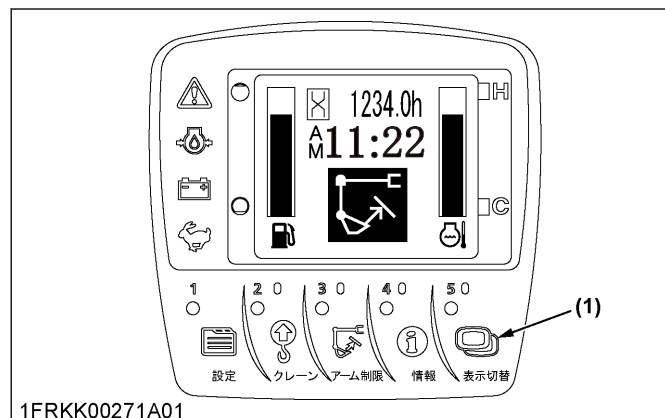
補足：

- 時計合わせ画面に入って決定スイッチ（スイッチ 5）を押すと秒の単位が 00 秒にセットされます。

5. ◀ 決定スイッチ（スイッチ 5）で設定が終わると
◀ （決定スイッチ）を押して時計を合わせます。



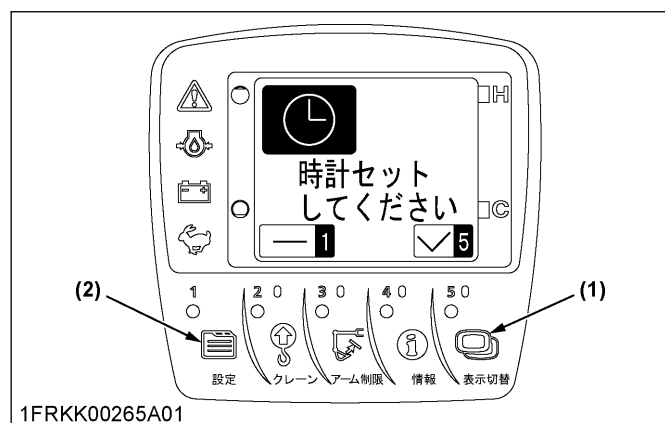
- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）



- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）

重要：

- バッテリーを外した場合など、時計が止まると次の表示が出ます。決定スイッチ（スイッチ 5）を押して再度時計をセットしてください。



- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）
(2) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）

補足：

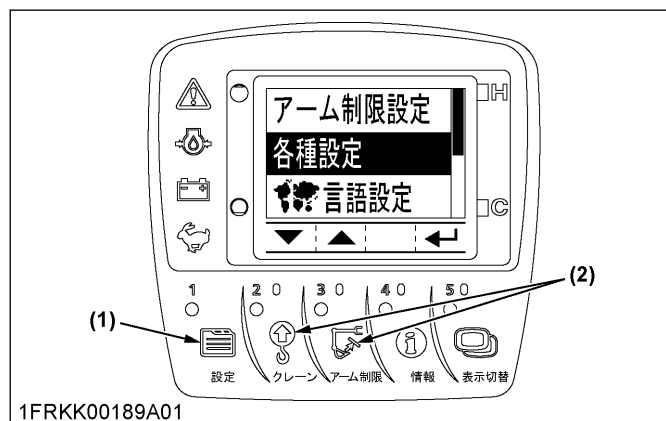
- 時計セット画面でユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押すと時刻を変更せずに元に戻ります。

3.9.2 年月日の並び替えおよび AM/PM 表示を 24 時間表示に切り替える方法

詳細内容はクボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。

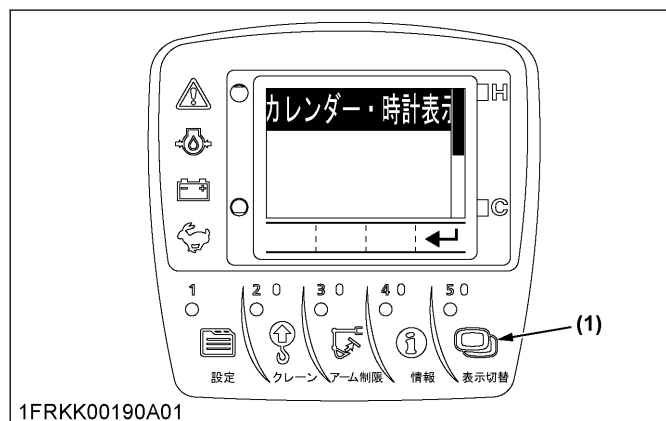
1. スターターキーを **[RUN]**位置にします。
2. ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押して **[運行管理]**、**[定期点検]**、**[時計セット]**画面を表示します。

3. カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）を押して **[各種設定]** を選択します。



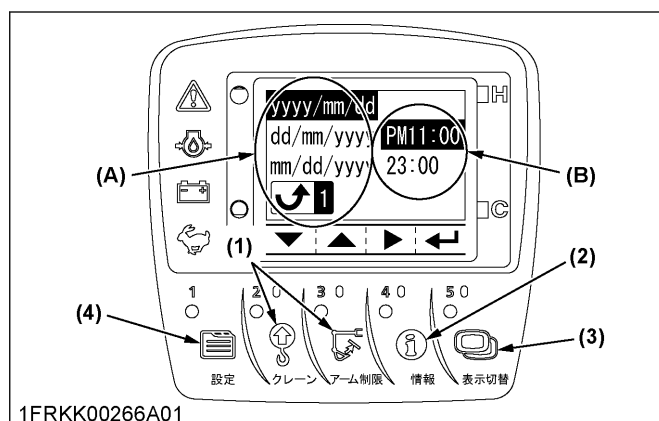
- (1) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）
(2) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）

4. **[カレンダー・時計表示設定]** のメニュー項目を選択し決定スイッチ（スイッチ 5）を押します。



- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）

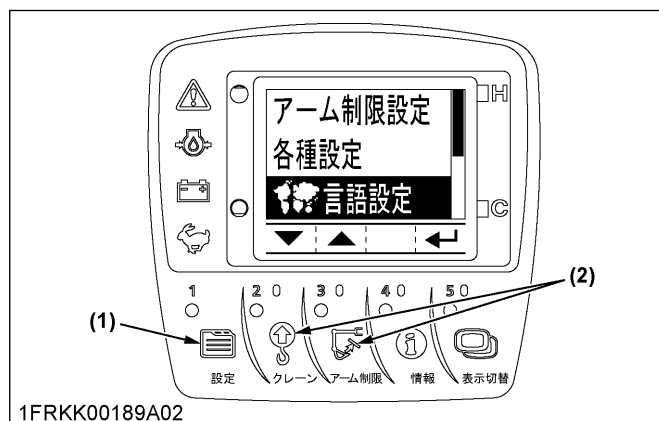
5. 詳細画面が表示されたら、次のように変更項目を選択し、変更します。
- カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）で選択項目を上下し、(A)側の年月日の並び順を変更します。（この変更は時計合わせ画面の年月日並び順に反映されます。）
 - 項目移動スイッチ（スイッチ 4）でカーソルを (B)側に移動し、**[AM/PM 表示]**、**[24 時間表示]**のどちらかを選択します。
 - 決定スイッチ（スイッチ 5）を押すと、変更して終了します。
 - ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）**[終了]**を押すと、変更せずに終了します。



- (1) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）
(2) 項目移動スイッチ（スイッチ 4）
(3) 決定スイッチ（スイッチ 5）
(4) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）
(A) 年月日表示
(B) 時計表示

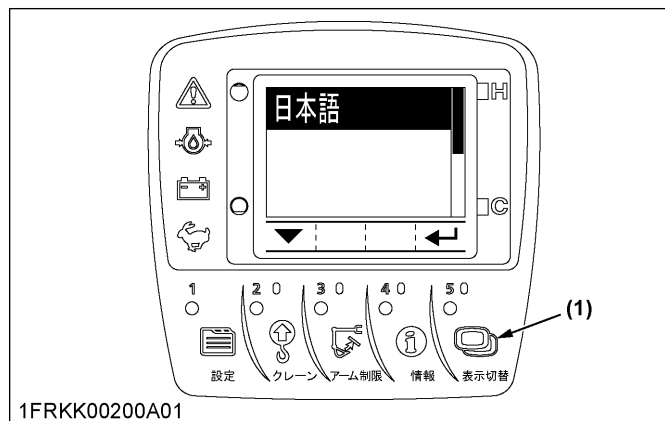
3.9.3 言語設定

- スタータキーを**[RUN]**位置にします。
- ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押して“運行管理”、“定期点検”、“時計セット”画面を表示します。
- カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）を押して“言語設定”を選択します。



- (1) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）
(2) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）

4. “日本語”を選択し決定スイッチ（スイッチ 5）を押します。



(1) 決定スイッチ（スイッチ 5）

補足：

- 標準では日本語のみが選択できますが、“韓国語”、“英語”、“フランス語”、“数字・絵文字表示”モードを選択できるようにすることができます。
この機能を有効にしたい場合は、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。

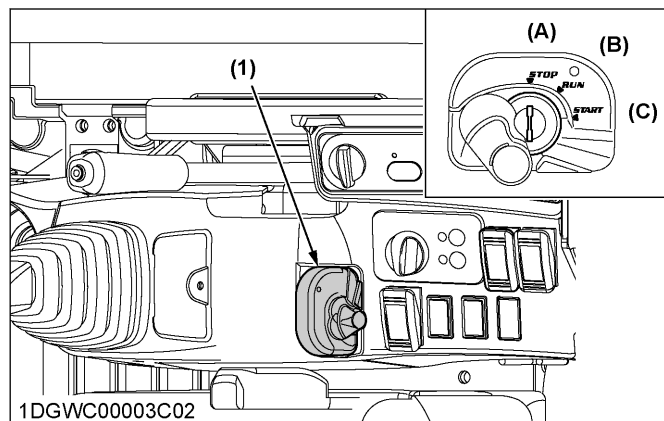


3.9.4 運行管理の確認

運行管理では本機の稼働状況を 3 か月前まで確認できます。

次の手順に沿って操作してください。

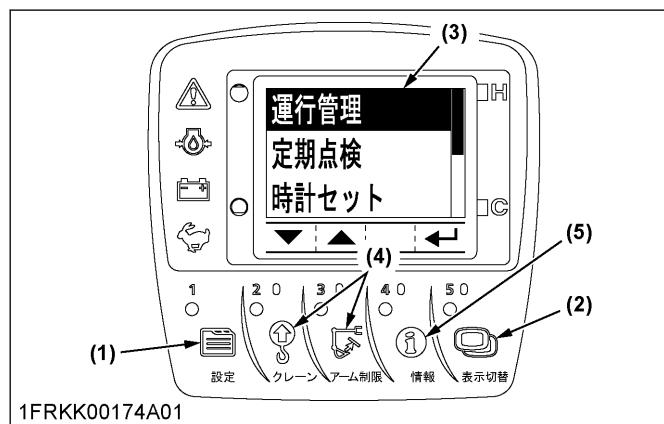
1. スタータキーを[**RUN**]位置にします。



(1) スタータスイッチ

- (A) [**STOP**]
(B) [**RUN**]
(C) [**START**]

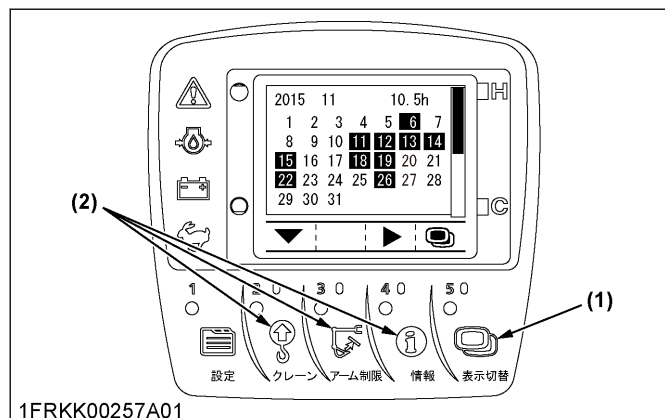
2. ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押しメニュー画面を表示します。
3. カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）を押して[**運行管理**]を選択し、←決定スイッチ（スイッチ 5）で決定します。



- (1) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）
(2) 決定スイッチ（スイッチ 5）
(3) カーソル
(4) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3）
(5) 項目移動スイッチ（スイッチ 4）

4. 決定スイッチ（スイッチ 5）を押してカレンダーを表示します。

カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3、4）を押すことにより先月、先々月（90 日前）までの運行管理（機械が稼動した日と稼動した時間）が見られます。白黒反転しているところが機械が稼動した日です。



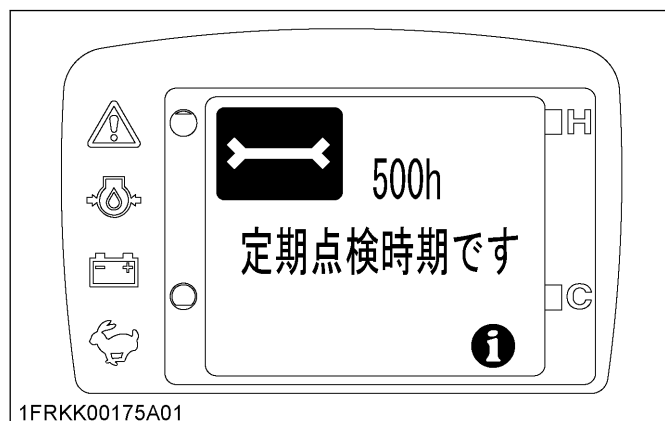
- (1) 決定スイッチ（スイッチ 5）
(2) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、3、4）

補足：

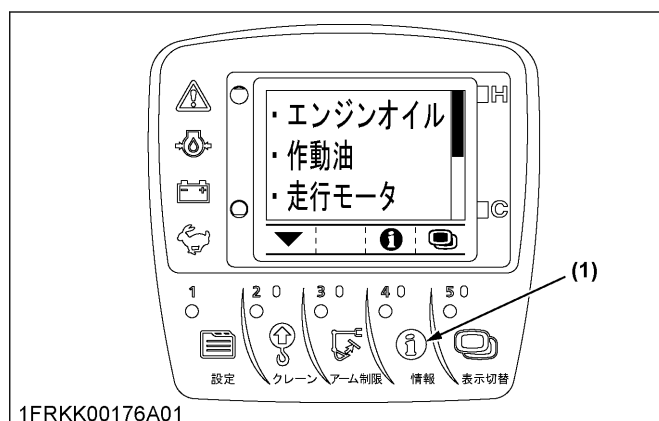
- ・ [-]が表示されている箇所は時計を合わせなおした場合やバッテリーを取り外した場合などの原因で、運行管理情報が不明になった場合に表示されることがあります。

3.10 液晶モニタに表示される定期点検項目

定期点検 10 時間前にメーターパネルに次の画面が表示されます。



1. 点検内容を確認するためインフォメーションスイッチ（スイッチ 4）を押します。



- (1) インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）

2. 表記された内容の整備作業を行います。

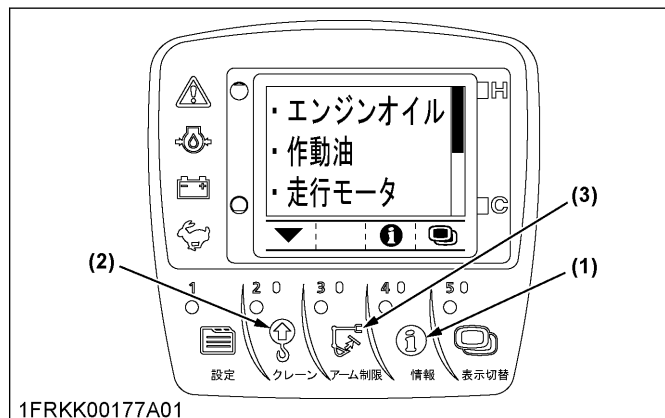
重要：

- ・ 整備が完了してからキースwitchの ON-OFF 操作を 10 回以上行くと点検表示が自動で消えます。
- ・ 定期点検時期を過ぎた場合には、"定期点検時期をすぎています"が表示されます。速やかに表記されている整備作業を行ってください。
- ・ ユーザー設定メニューの[定期点検]を選択し、手動で消去しない限り、[定期点検]表示が消えないようにすることもできます。設定を変更したい場合には購入先にご相談ください。

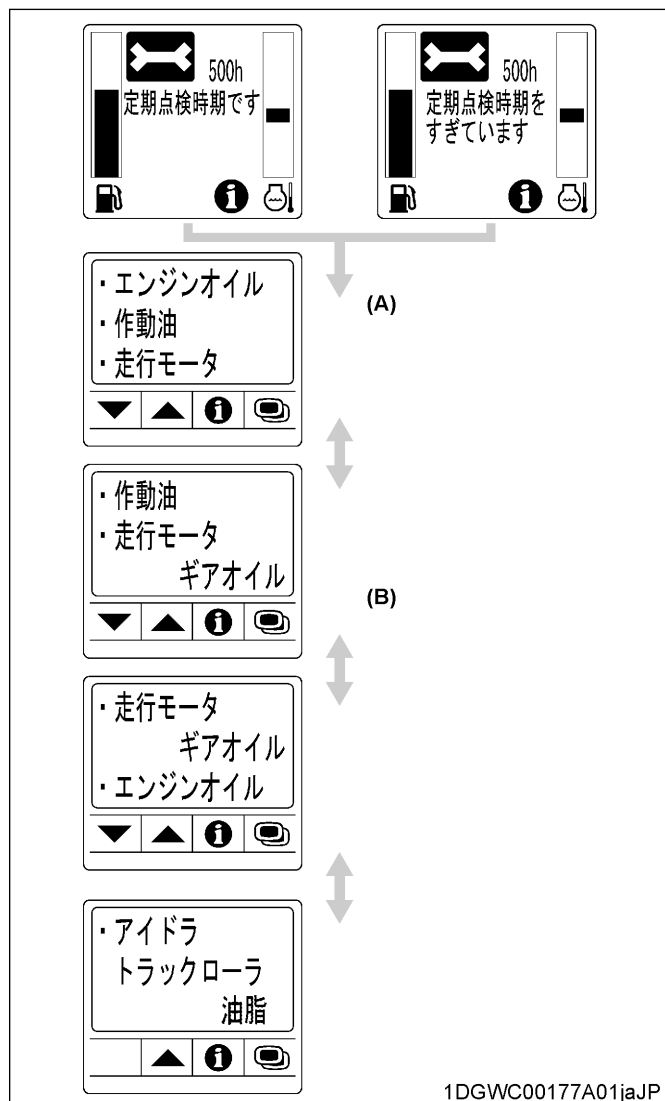
3.10.1 点検項目が画面に表示しきれない場合の確認方法

1. インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）を押します。

2. カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、または 3）を押します。
押す度に点検項目が上下に移動します。



- (1) インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）
(2) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2）
(3) カーソル移動スイッチ（スイッチ 3）

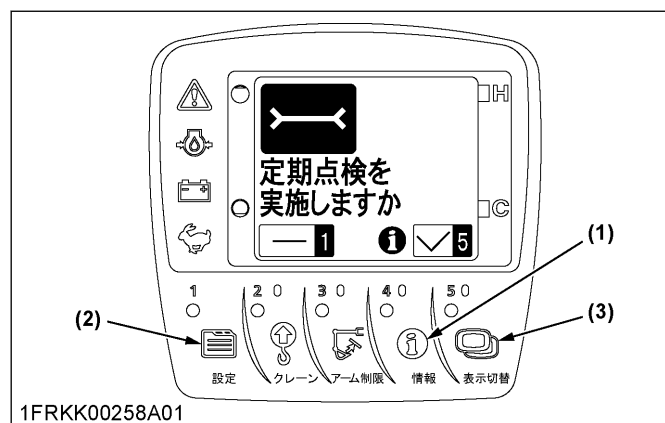


- (A) インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）を押す
(B) カーソル移動スイッチ（スイッチ 2、または 3）を押し点検項目を上下させる

3.10.2 点検実施後の操作

点検が完了したら、次の手順で“定期点検”の表示を消します。

1. 次のメッセージが画面上に現れ、点検完了を知らせます。
2. 点検項目を見るには、インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）を押します。点検項目が表示されます。
3. 点検が完了したら、表示切替スイッチ（スイッチ 5）を押します。完了していない場合は、ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）を押して、前の画面に戻ってください。



- (1) インフォメーションスイッチ（スイッチ 4）
(2) ユーザー設定スイッチ（スイッチ 1）
(3) 表示切替スイッチ（スイッチ 5）

3.10.3 定期点検項目一覧

アワメータが点検時間に達すると点検項目が液晶モニタに表示されます。

No.	項目	時期	数	アワメータ表示時間																それ以後	参照ページ
				50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	走行モータオイル	交換	2	◎ *1									○							500 時間ごと	113
2	エアクリーナエレメント	交換	1																	1000 時間ごと または 1 年ごと	117
3	燃料フィルタカートリッジ	交換	1										○							500 時間ごと	112
4	エンジンオイル (DH-2 級)	交換	1										○							500 時間ごと または 1 年ごと	113
5	エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	1										○							500 時間ごと または 1 年ごと	114
6	作動油	交換	1																	1000 時間ごと	114
7	作動油サクションフィルタ	交換	1																	1000 時間ごと	116
8	作動油リターンフィルタ	交換	1																	1000 時間ごと	115
9	ブレザフィルタ (U-55-6E のみ)	交換	1										○							500 時間ごと	113
10	油圧パイロットフィルタ	交換	1																	1000 時間ごと	116
11	オイルセパレータエレメント	交換	1																	1500 時間ごと	118
12	トラックローラ、フロント アイドラの油脂	交換	10 または 12																	2000 時間ごと	118
13	DPF	洗浄	1																	3000 時間ごと	119

*1 ◎は初回のみ実施してください。

- 補足：
- ブレーカなどの油圧アタッチメントを使用する場合は交換時間が短くなります。(詳細は作動油リターンフィルタの交換 (115 ページ) の項を参照)

4. 警告ランプ

重要：

- メータ表示を確認するだけでなく、点検は確実に行ってください。
(詳細はメンテナンス (90 ページ) を参照)
(表示内容、処理方法の詳細は画面一覧 (150 ページ) を参照)

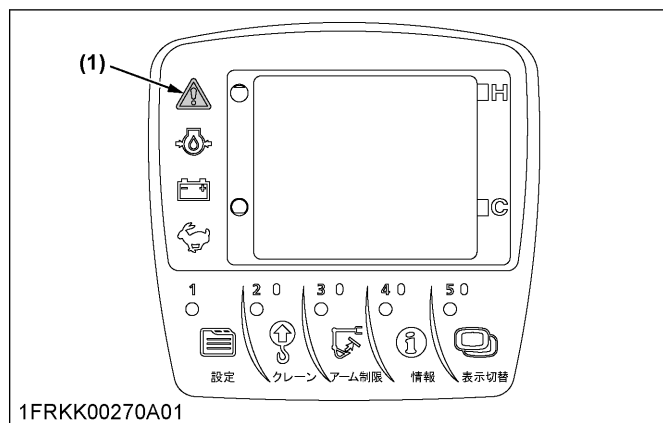
配線の断線、短絡などの異常および燃料などの警告の表示ランプです。

2 色のランプでオペレータに注意を喚起します。

異常	赤色ランプ
警告	黄色ランプ

補足：

- 警告、異常表示すると同時に“ピ、ピ、ピツ”と警告ブザーが鳴ります。

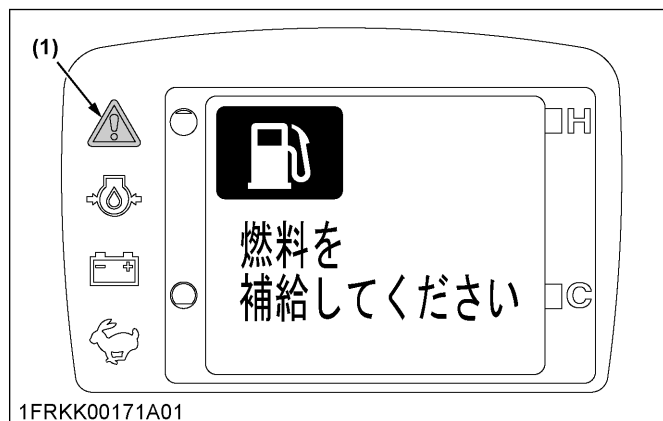


(1) 警告ランプ

5. メーターパネル (液晶モニタ) 警告異常時

5.1 燃料残量警告

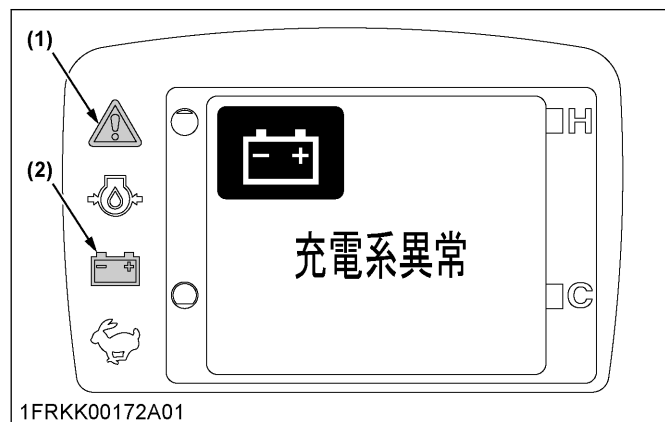
燃料残量が少なくなると黄色の警告ランプが点滅し、次のメッセージが表示されます。



(1) 警告ランプ

5.2 バッテリ充電異常警告

充電系統に異常が生じると、赤色の警告ランプが点滅し、充電ランプが点灯するとともに次のメッセージが表示されます。



(1) 警告ランプ
(2) 充電ランプ

補足：

- 充電系統の断線、異常があるときにエンジンを始動せずスタータキーを[RUN]位置にすると充電ランプが消灯したままになります。この場合は、速やかに購入先に修理を依頼してください。

5.3 エンジンオイル油圧低下警告

潤滑系統に異常が生じると、赤色の警告ランプが点滅し、オイルランプが点灯するとともに次のメッセージが表示されます。

すぐにエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。



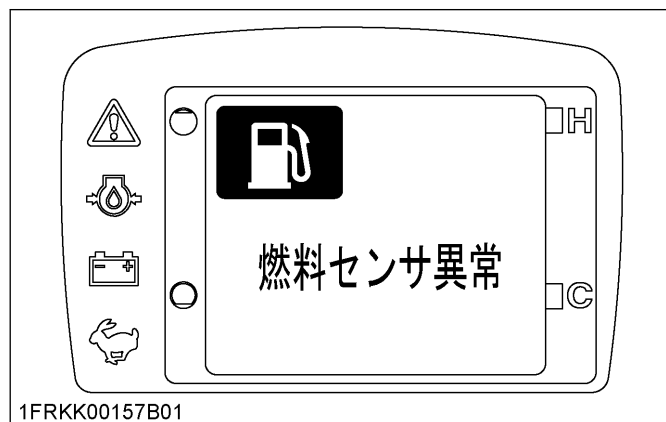
(1) 警告ランプ
(2) オイルランプ

補足：

- 潤滑系統の断線、異常があるときにエンジンを始動せずスタータキーを[RUN]位置にするとオイルランプが消灯したままになります。この場合は、速やかに購入先に修理を依頼してください。

5.4 その他の異常警告

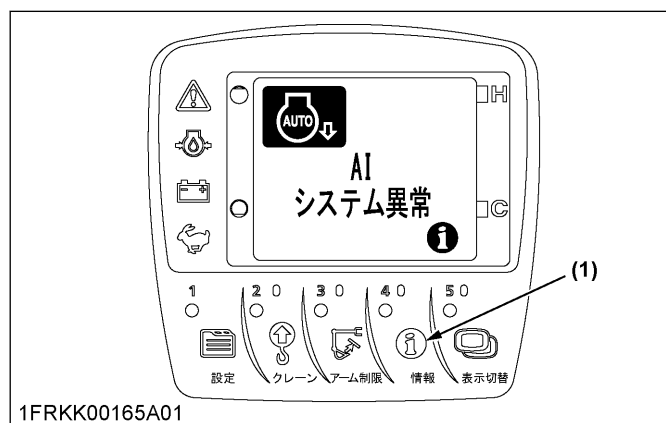
各部の異常が検知されると、次のようにメッセージが表示されます。
(詳細はガイダンス画面一覧 (151 ページ) 参照)



補足：

- 警告表示が表示されていても、表示切替スイッチを押せば、通常の表示を見ることができます。

5.5 インフォメーション

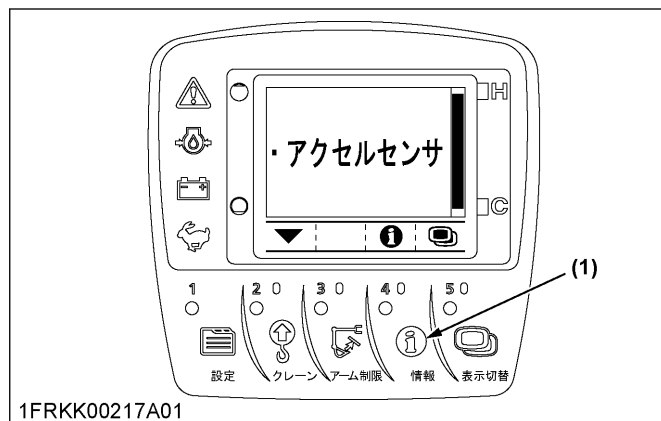


(1) インフォメーションスイッチ

警告表示が出た場合、**i** マークが表示されることがあります。
その場合は、インフォメーションスイッチを押して詳細内容を確認することができます。
購入先に修理を依頼する際、その情報も併せて連絡してください。

表示例

インフォメーションスイッチを押すと、次のように詳細内容が表示されます。

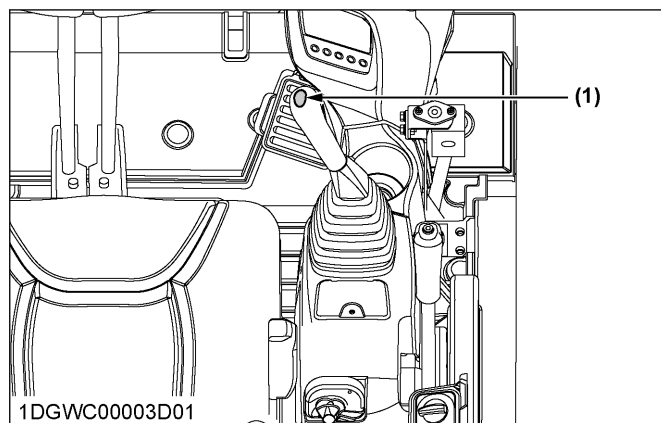


(1) インフォメーションスイッチ

もう一度インフォメーションスイッチを押すと元の表示に戻ります。

6. ホーンスイッチ

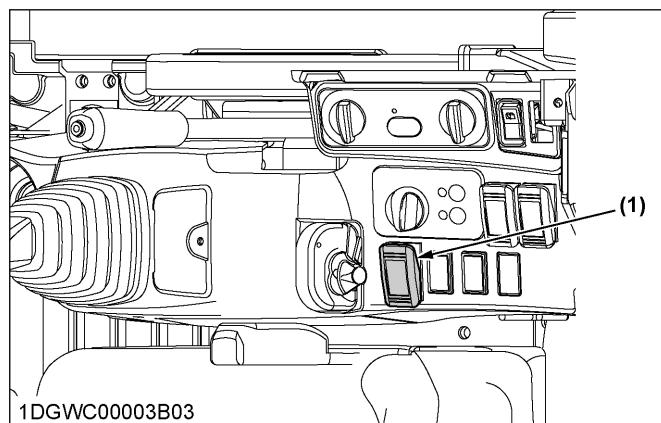
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
スタータキーが[STOP]の位置でもホーンスイッチを押すと鳴らすことができます。



(1) ホーンスイッチ

7. 作業灯スイッチ

スタータキーが[RUN]の位置で、作業灯スイッチを押すと、キャブ作業灯とブームの作業灯が点灯します。



(1) 作業灯スイッチ

8. オートアイドルスイッチ

オートアイドル制御の作動、解除の選択を行います。
(詳細はオートアイドル制御の取扱い (72 ページ) を参照)



警告

- 操作レバーを操作する前に、オートアイドルスイッチのランプが点灯、消灯することを必ず確認してください。
- 本機の積込み、積降ろし時は安全のため、必ずオートアイドル制御を解除 (ランプが消灯) してください。(オートアイドルスイッチを押すと点灯し、再度押すと消灯します。)
もし怠ると、オートアイドルが作動した状態で操作レバーを動かすと、エンジン回転数が下がった状態から急に上がるので危険です。

補足:

- 寒冷時は作動油の温度が上がるまで、オートアイドル機能が作動しない事がありますが、故障ではありません。

オートアイドル機能

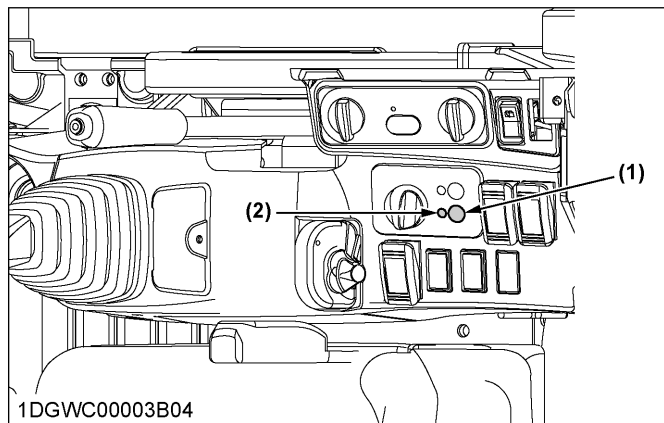
作業中、全作業レバーを中立位置で放置すると約 4 秒後に、エンジン回転をアイドリングへ自動的に下げる機能です。燃料消費や騒音を抑える効果があります。オートアイドルスイッチで、オートアイドル制御の作動と解除が選択できます。

作動

オートアイドルスイッチを押します。オートアイドル制御作動のとき、オートアイドルランプが点灯します。

解除

オートアイドルスイッチを再度押すとオートアイドル制御解除となり、オートアイドルランプが消灯します。

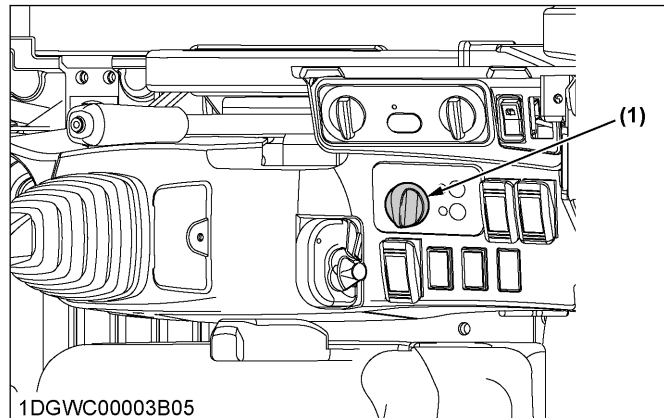


- (1) オートアイドルスイッチ
(2) オートアイドルランプ

9. アクセルダイヤルの操作

エンジンの最高回転数を任意に変更できます。
運転席に座って、次の手順を行ってください。

1. アクセルダイヤルを右側 (高速側) に回します。
エンジン回転が上がります。
2. エンジンを止めるときはアクセルダイヤルを左側 (低速側) にいっぱい戻し、エンジン回転をアイドリングにしてから、スタータキーを[STOP]位置にします。



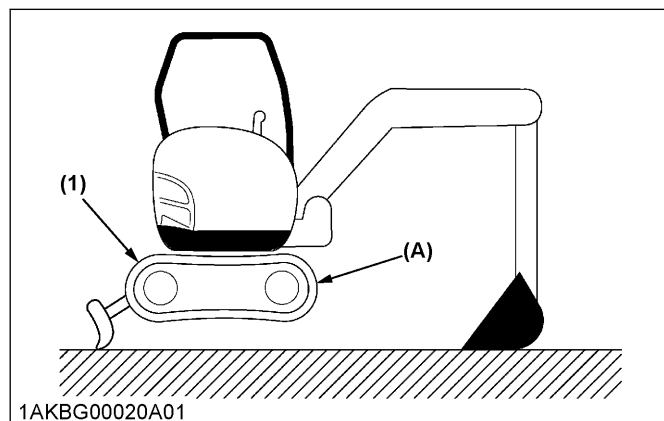
(1) アクセルダイヤル

10. 走行増速スイッチ

走行速度は高低速の切替えができます。

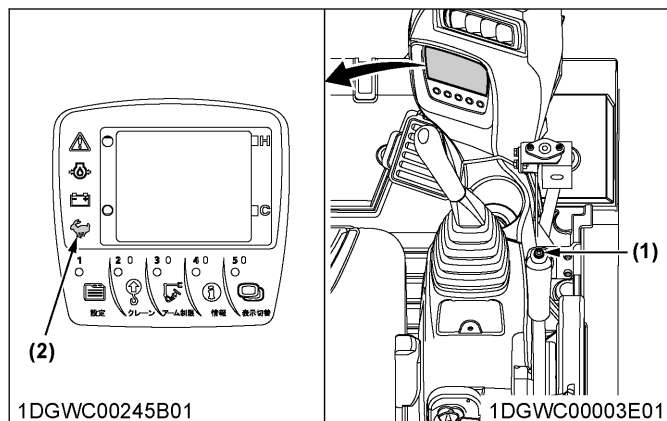
重要:

- 走行増速中 (🚦 マーク点灯中) は、走行抵抗が大きいと自動的に低速に切り替わります。走行抵抗が小さくなると自動的に高速に切り替わります。
この時、🚦 マークは切り替わりません。
- やわらかい地面で作業を行って泥がクローラに付着した場合、ブレードとクローラを回転させて泥を落としてください。



(1) クローラ (A) 回転させて泥を落とす

- 走行増速スイッチを押すとブザーが 2 回鳴り、走行速度は低速から高速に切り替わります。このとき 🚦 マークが点灯します。
- もう一度走行増速スイッチを押すとブザーが 1 回鳴り、走行速度は高速から低速に切り替わります。このとき 🚦 マークが消灯します。



(1) 走行増速スイッチ
(2) 2速ランプ

補足：

- ・ 走行増速スイッチを入れても走行抵抗が大きい場合には増速しないことがあります。故障ではありません。
- ・ 走行増速スイッチを操作するときは、スイッチを確実に押してください。
- ・ 走行増速スイッチを押すたびに高低速が切り替わります。
- ・ スタータスイッチを[STOP]位置にするか作業機操作ロックレバーを解除すると、走行増速は解除され、マークは消灯します。

11. 再生禁止スイッチ

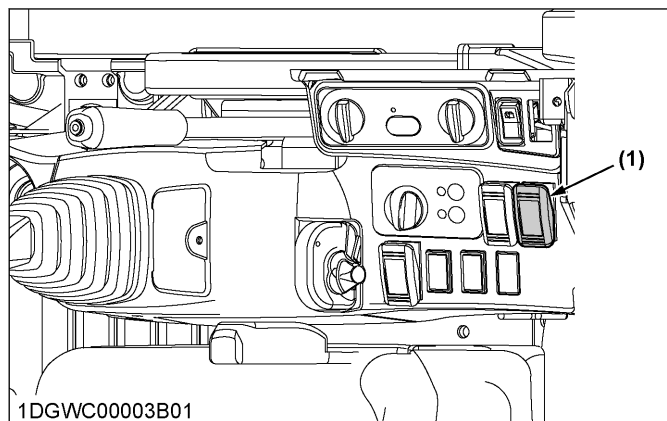
重要：

- ・ 再生禁止をしたまま長時間使用しないでください。DPF にススがたまり、DPF の目詰まりにつながります。

再生禁止スイッチにより、DPF の再生は自動的に開始されなくなります。

人間、動物、植物や可燃物の周囲で作業する場合に、再生禁止が有効です。

再生禁止スイッチを押すと、再生禁止が設定されます。再度押すと、設定が解除されます。



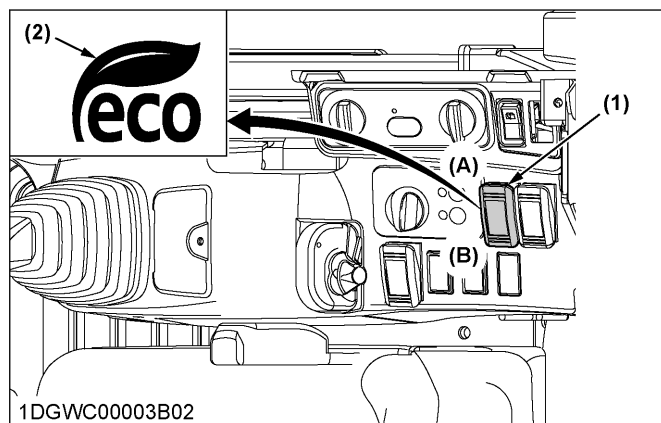
(1) 再生禁止スイッチ

12. エコモード

エコモードとは、標準モードに対して低燃費で作業できるモードです。

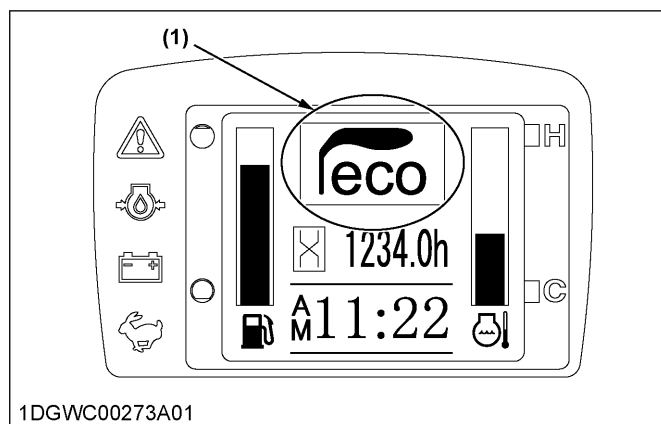
エコモードにするとエンジン回転数が中速までしか上がりません。

エコモードスイッチを押して上側に倒すと、エコモードスイッチランプが点灯し、エコモードに変わります。下側に倒すと、エコモードスイッチランプが消灯し、標準モードになります。



(1) エコモードスイッチ (A) エコモード
(2) エコモードスイッチランプ (B) 標準モード

エコモードでは、次のエコモードマークが液晶画面に表示されます。

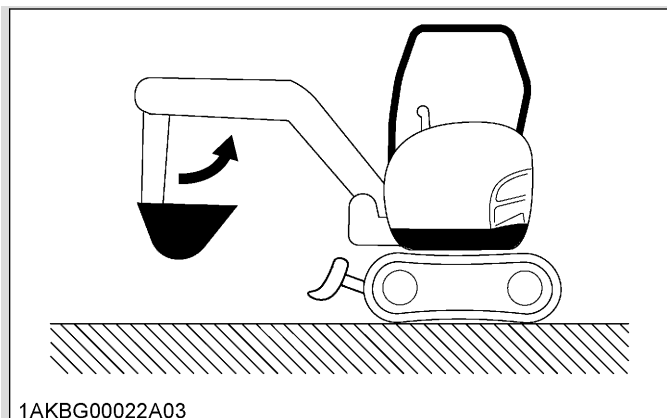


(1) エコモードマーク

13. アームかき込み制限スイッチ [アームかき込み制限仕様]

警告

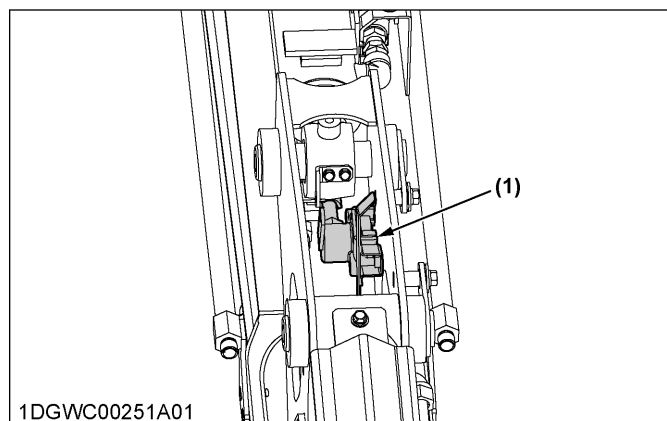
- ・ ブームシリンダとアタッチメントが一番近づく姿勢にして、boomシリンダから 150 mm 以上離れたところでセットしてください。
- ・ 寒冷時は通常の暖機運転後、作動油を暖めてからエンジン回転を低速にし、作業機を次図の姿勢にし、ゆっくりアームかき込み操作を行い、アタッチメントがboomシリンダに近づくと、自動的にアームが停止することを確認してください。



- ・ アームかき込み制限は、ブームシリンダの破損を防ぐ補助装置です。このシステムにたよった操作はかえって危険をまねきます。常にブームシリンダとアタッチメントとの距離をじゅうぶん保って操作してください。
- ・ 作業前には必ずアーム制限の作動を確認してください。

重要：

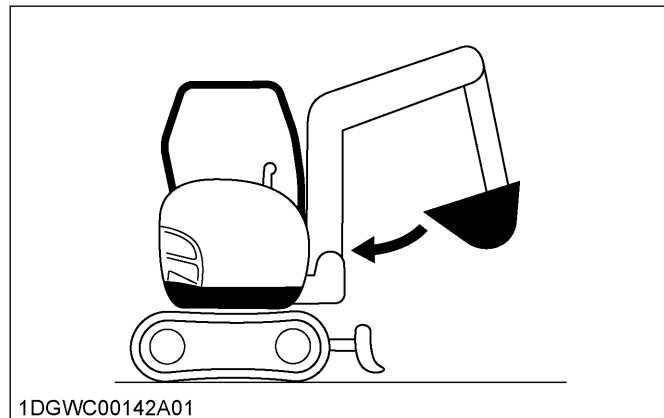
- ・ 自動停止後、バケットを運転室から約 50 mm 程度遠ざけても、アームかき込み操作ができないことがあります。バケットをじゅうぶん運転室から離せば元の作動状態に戻ります。システムを正常に機能させるために次の注意事項を必ず守ってください。
- ・ 角度検出装置をぶつけて変形させた場合、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談の上、その指示に従ってください。
- ・ 角度検出装置を水没させるような作業を行わないでください。万一水没させ異常がある場合は、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談の上、その指示に従ってください。
- ・ 角度検出装置、ハーネス、液晶メータなどの取外し、分解は絶対に行わないでください。



(1) アーム角度検出装置

- ・ 作業機を接地せずに長時間放置しないでください。図のような姿勢で長時間放置した場合、油のリークにより、ブームシリンダに干渉することがあります。また作業機を接地して走行するなどアームポートリリーフ（安全弁）が作動するような操作を行

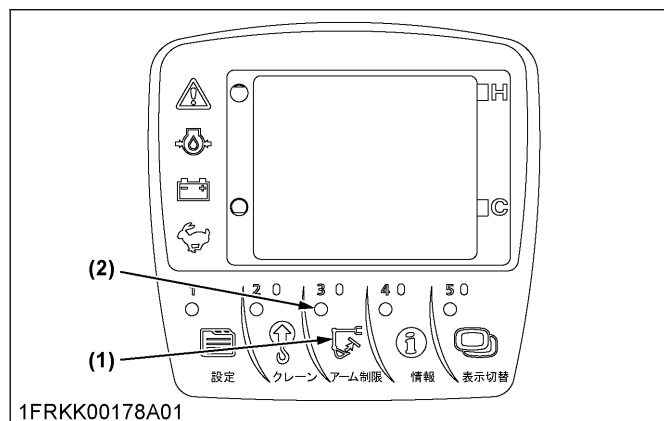
うと、アームかき込み制限位置よりアームが侵入し、ブームシリンダに干渉することがあります。万一、上記状態になった場合、アームをダンプしじゅうぶん安全な位置にバケットを移動させてから再度作業してください。



補足：

- ・ 操作方法やアタッチメントの重さ、外気温度により、停止位置が異なる場合がありますが故障ではありません。
- ・ アームかき込み制限は、一度エンジンを停止して再始動させても設定した状態のままです。

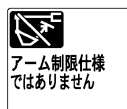
アームかき込み制限スイッチでアームかき込み制限制御の作動、解除の選択を行います。（主に、ブレーカやその他アタッチメント装着時）
アームかき込み制限スイッチを押すたびに作動と解除が切り替わります。



- (1) アームかき込み制限スイッチ
(2) ランプ

補足：

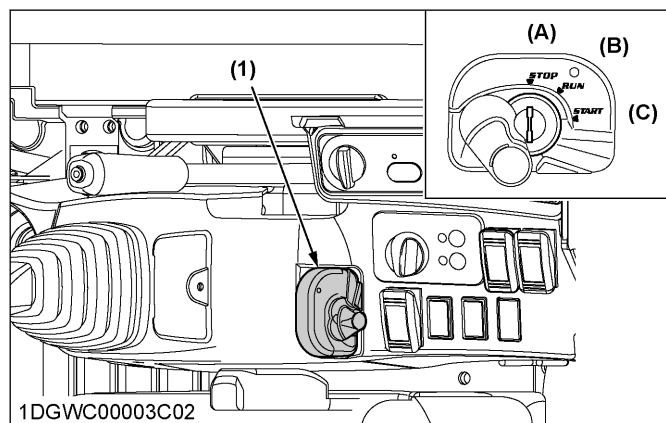
- ・ アーム制限仕様でない機械でアームかき込み制限スイッチを押すと次のメッセージが液晶画面に表示されます。アーム制限は作動しません。



1FRKK00207A01

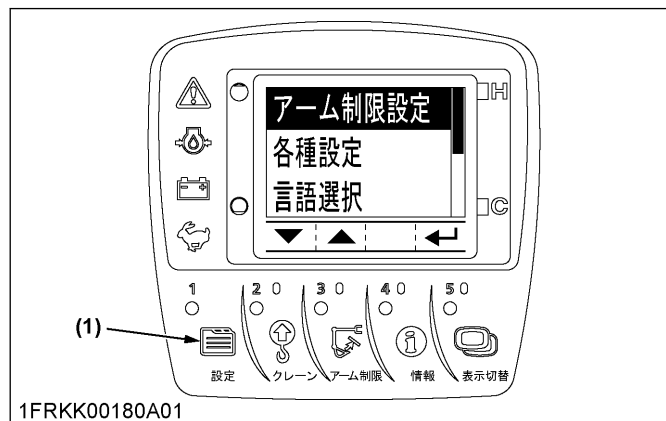
アームかき込み制限位置の設定

1. スタータキーを[**RUN**]位置にします。



- (1) スタータスイッチ
(A) [**STOP**]
(B) [**RUN**]
(C) [**START**]

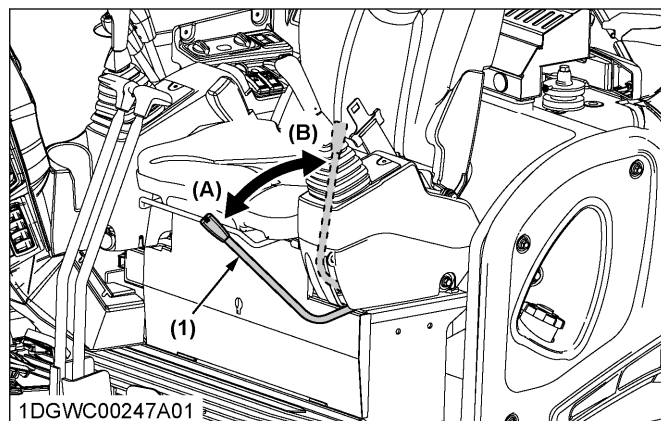
2. ユーザー設定スイッチを押し、[**アーム制限設定**]にします。



- (1) ユーザー設定スイッチ

3. メータパネルの指示に従い設定します。

a. レバーロックを上げます。



- (1) 作業機操作ロックレバー
(A) 解除
(B) ロック

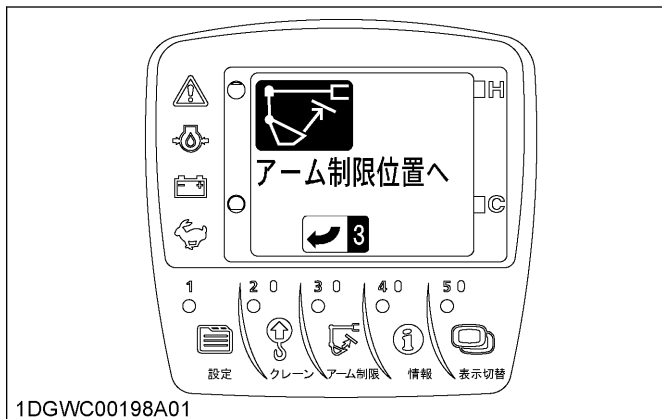
b. エンジンをかけます。



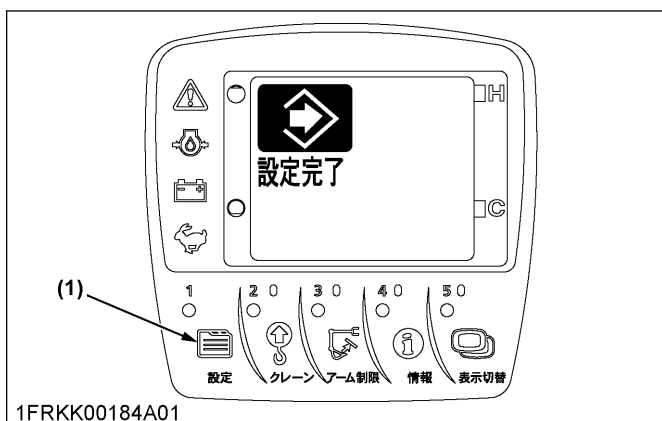
c. レバーロックを下げます。



d. 止めたい位置にアームを動かします。

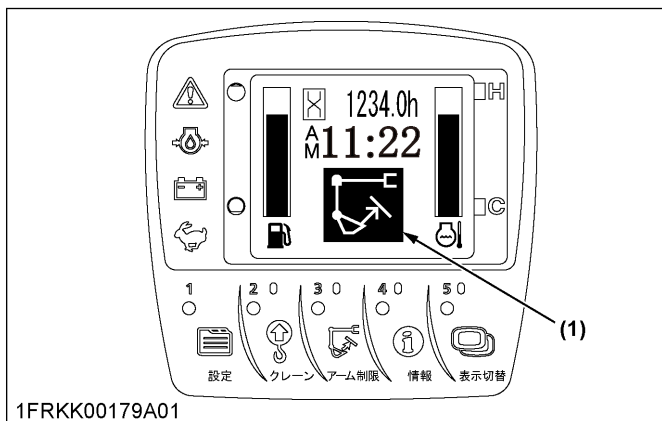


- e. “設定完了”が表示されたらユーザー設定スイッチ（スイッチ1）を押します。



- (1) ユーザー設定スイッチ（スイッチ1）

“アーム制限設定完了”の表示の後、液晶表示部にアームかき込み制限中のマークが表示され、アームかき込み制限が作動します。



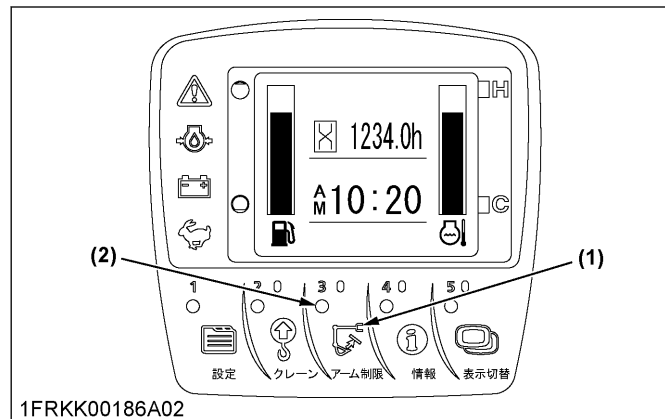
- (1) アームかき込み制限中のマーク

補足：

- 一度調整された位置は、再度調整するまで記憶されます。バッテリーを取り外しても記憶しています。

アームかき込み制限位置の解除

1. アームかき込み制限スイッチを押します。

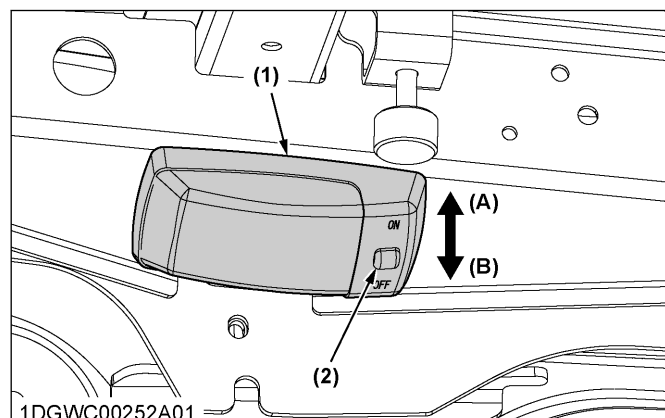


- (1) アームかき込み制限スイッチ
(2) ランプ

2. アームかき込み制限ランプが消えてアームかき込み制限が解除されます。

14. ルームランプ [ROPS キャブ仕様]

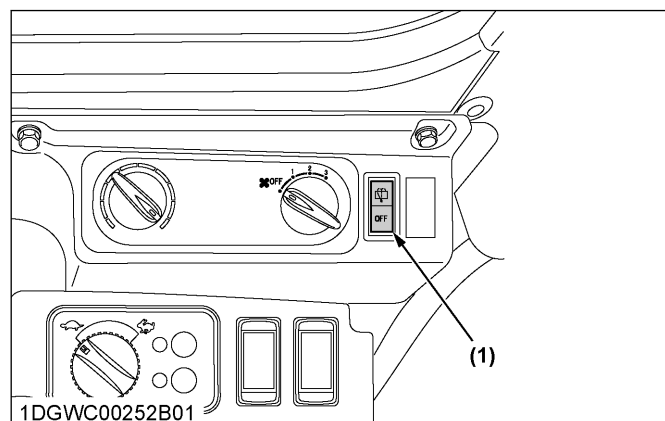
スタータキーを[RUN]の位置にして、ルームランプのスイッチを[ON]にすると点灯します。



- (1) ルームランプ
(2) スイッチ

- (A) [ON]
(B) [OFF]

15. ワイパおよびウインドウォッシャースイッチ [ROPS キャブ仕様]



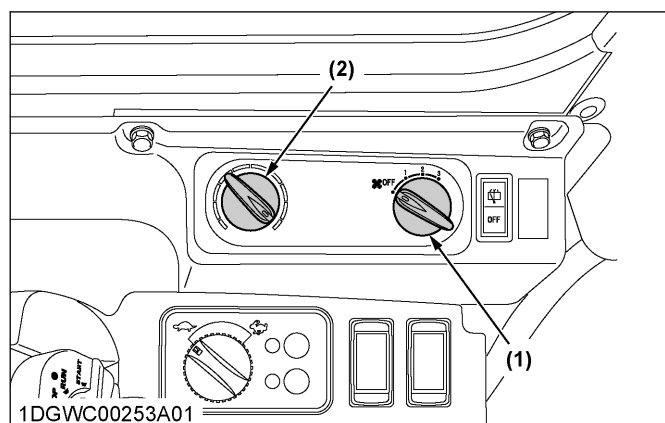
- (1) ワイパおよびウインドウォッシャースイッチ

スタータキーを[**RUN**]の位置にしてワイパスイッチを押すとワイパモーターが作動し、さらに押し込めばウィンドウォッシャが作動します（[**OFF**]の位置を押し込んでウィンドウォッシャが作動します）。

- ・ ウォッシャタンクが空のときは、ウォッシャスイッチを使用しないでください。ポンプを痛めることがあります。
- ・ から拭きはガラスを傷つけることがあります。必ず、ウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。
- ・ 寒冷時は、ワイパを作動させる前に、ワイパゴムがガラスに張りついていないことを点検してください。凍結したまま作動させるとモーターの故障原因になります。

16. ヒータスイッチ [ROPS キャブ仕様]

スタータキーを[**RUN**]の位置にして、ヒータスイッチを右に回すとヒータのファンが回り暖房します。スイッチは3段あり、1段目は弱暖房、3段目は強暖房です。



- (1) ヒータスイッチ
(2) 温度調整ダイヤル

補足：

夏は温度調整ダイヤルを左（青色側）に回し、冬は右（赤色側）に回してください。

ヒータとエアコンの取扱い

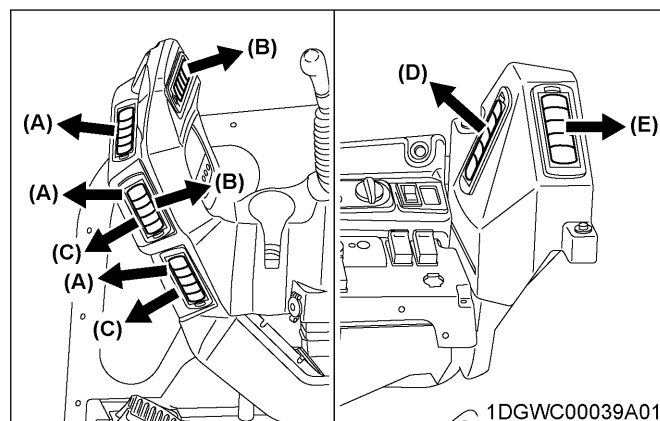
警告

- ・ ウォータホースは2年ごとに交換してください。
- ・ 毎日次の項目を点検し、異常がある場合はただちに処置してください。
 - － ウォータホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れたりしていないか。
 - － ジョイントや接合部に水漏れがないか。
 - － 保護スリーブやグロメットが傷んだり外れたりしていないか。
 - － 固定ボルトが外れていたり、ブラケットが傷んだりしていないか。
- ・ ウォータホースやヒータに触らないでください。ヤケドするおそれがあります。

- ・ 除湿をしてもウィンドウのくもりが取れないときは、布で拭き取ってください。
- ・ 吹出口をすべてふさがないでください。故障の原因になります。

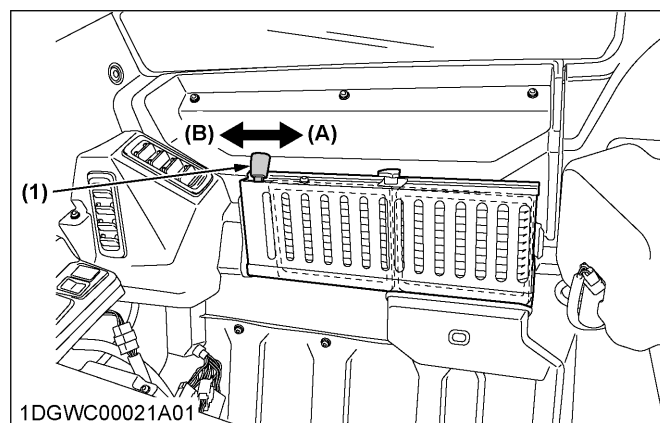
1. 空気の流れ [ヒータ仕様、エアコン仕様]

キャブ内の空気のは次の図の通りです。6 か所の吹出口の調節により、最適のコンディションが得られます。

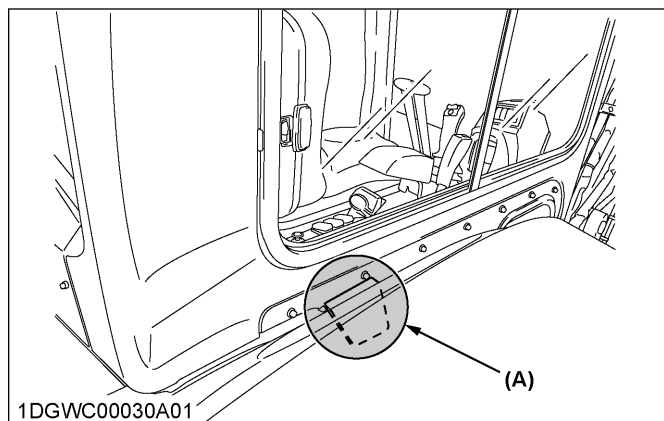


- (A) フロントウィンドウ
(B) 胸元
(C) 足元
(D) 側方
(E) 後方

外気導入切り替えレバーを希望位置にセットしてください。



- (1) 外気導入切り替えレバー (A) 外気導入
(B) 室内循環



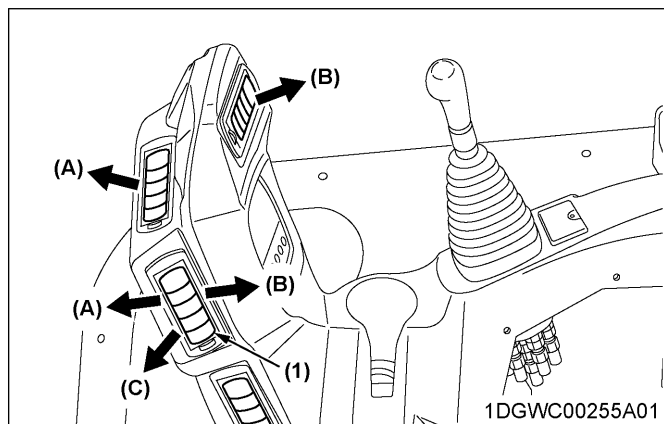
(A) 外気導入口

重要：

- ・ 洗車時は外気導入口に水が入らないようにしてください。

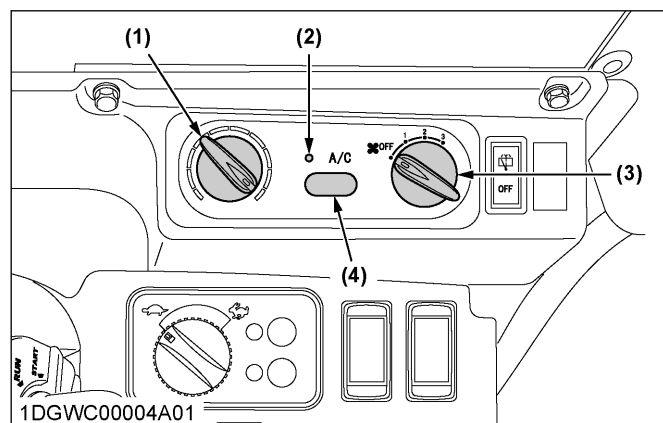
2. 風向き調節 [ヒータ仕様、エアコン仕様]**フロント吹出口**

風の方向は、吹出口の向きにより自由に調節できます。デフロスタ（フロントウィンドウのくもり止め）として使用する場合、吹出口をフロントウィンドウの方向に向けてください。



(1) フロント吹出口

- (A) フロントウィンドウ
(B) 胸元
(C) 足元

3. コントロールパネル [エアコン仕様]

- (1) 温度調整ダイヤル
(2) インジケータランプ
(3) ファンスイッチ
(4) エアコンスイッチ

エアコンスイッチ

エアコンを使うときは、このスイッチを押して ON にします。ON のとき、インジケータランプが点灯します。再度スイッチを押すと OFF になります。

温度調整ダイヤル

ダイヤルを左に動かすと冷風、右に動かすと温風が出ます。

ファンスイッチ

風量が 3 段階に切り替えられます。[3]は最も風量の多い位置です。

4. エアコン操作**補足：**

- ・ エアコン作動中はドアを閉じてください。
- ・ 室内が除湿されるとエアコンユニット内に水がたまり、機体外に排出されるようになっています。
- ・ コンプレッサ作動中は、アイドリング回転を上げる機能が働いています。

暖房

1. ファンスイッチと温度調整ダイヤルで必要な温度に調整します。

補足：

- ・ 夏期ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、温度調整ダイヤルを左端（冷風側）に寄せてください。

除湿暖房

1. エアコンスイッチを押してエアコンを作動します。
2. ファンスイッチを回してファンを作動します。
3. 温度調整ダイヤルを右（温風）側へ動かして風の温度を調整します。

冷房

1. エアコンスイッチを押してエアコンを作動します。
2. ファンスイッチを回してファンを作動します。

3. 温度調整ダイヤルを左（冷風）側へ動かして風の温度を調整します。

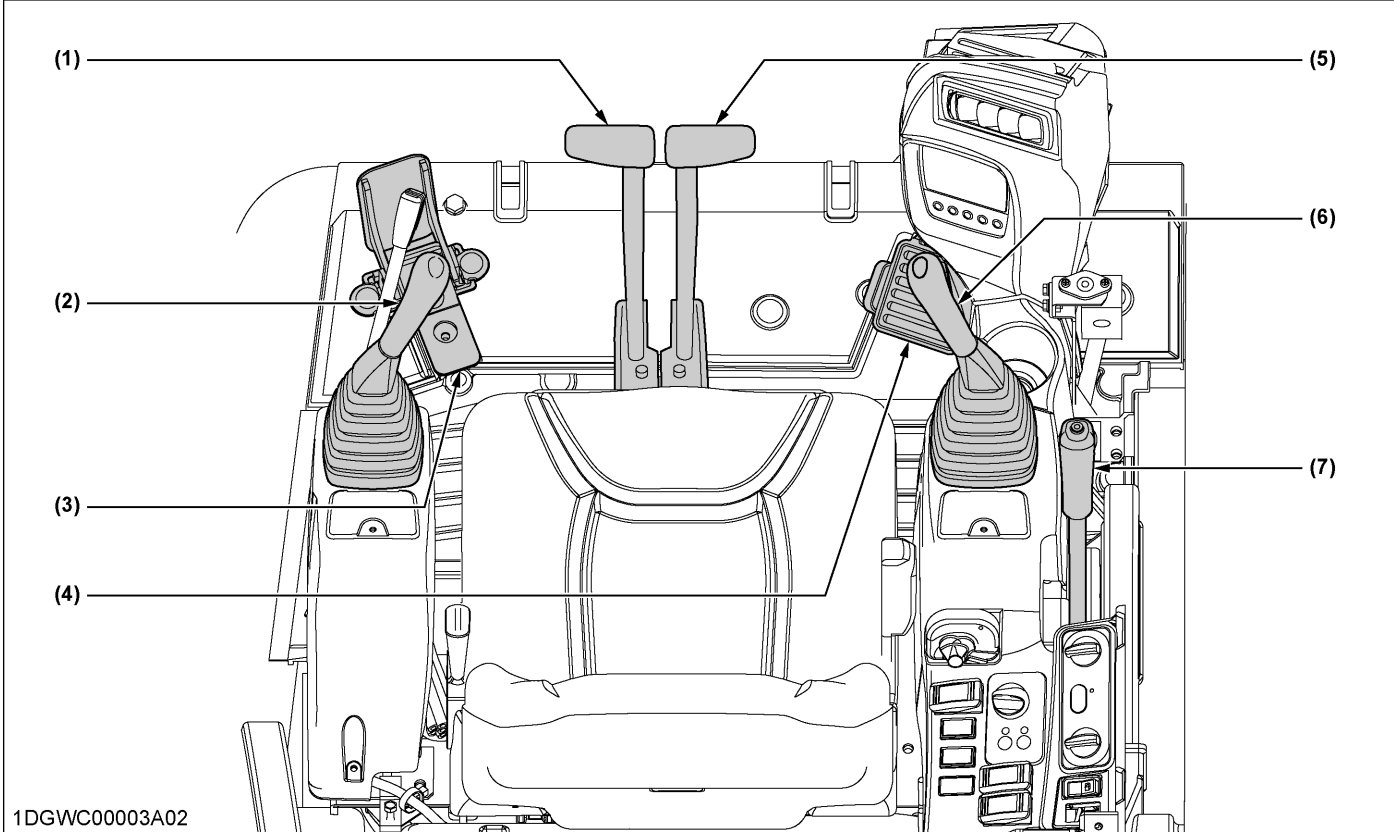
デフロスト

フロントウインドウの曇りおよび凍結を除去するとき
は、

1. フロント吹出口を開き、フロントウインドウの方向に向けます。
2. ファンスイッチを[3]にし、温度調整ダイヤルを右（温風）側にします。

操作レバーの取扱い

操作レバーの名称



1DGWC00003A02

(1) 走行レバー（左）	56	(5) 走行レバー（右）	56
(2) 左作業機操作レバー	57	(6) 右作業機操作レバー	57
(3) AUX1（サービスポート）ペダル【サービスポート仕様】	59	(7) ブレード操作レバー	59
(4) スイングペダル	59		

安全装置の取扱い

1. 作業機操作ロックレバー

意図しないレバー操作で機械が動かないようにする安全装置

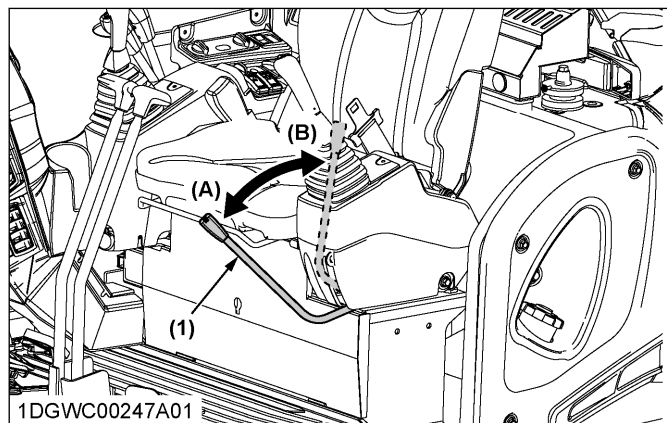
警告

- ・ 休車時や機械を離れるときは、必ずバケットおよびブレードを地面に降ろし、作業機操作ロックレバーをロックしてください。作業機が落下すると危険です。必ず、ロックが働く位置にあることを確認してから、降りてください。また、キーを抜き、いたずらされないようにしてください。

作業機操作レバーおよび走行レバーのロックまたは解除をします。

補足：

- ・ 作業機操作レバーが固定されるのではなくレバー操作をしても機械が動かない状態になります。
- ・ 作業機操作ロックレバーをロック位置にすると作業機が操作できなくなります。乗降時は、作業機操作ロックレバーをロック位置にしてください。また、機械を離れるときは、バケットおよびブレードを接地し、エンジンを止めてください。



(1) 作業機操作ロックレバー (A) 解除 (B) ロック

各操作レバー

1. 走行レバー（右、左）

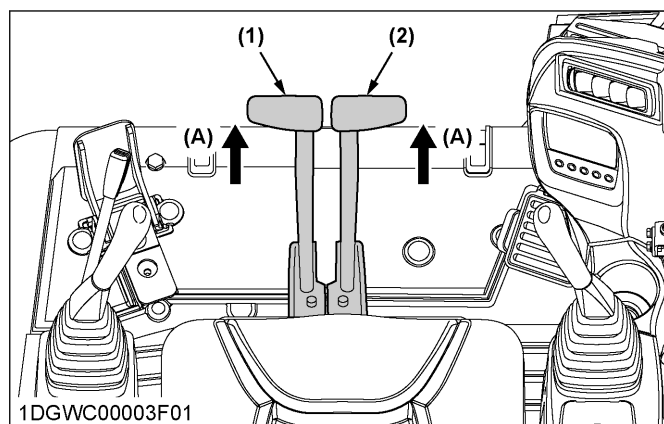
左右のクローラを回転もしくは逆回転させるレバー

警告

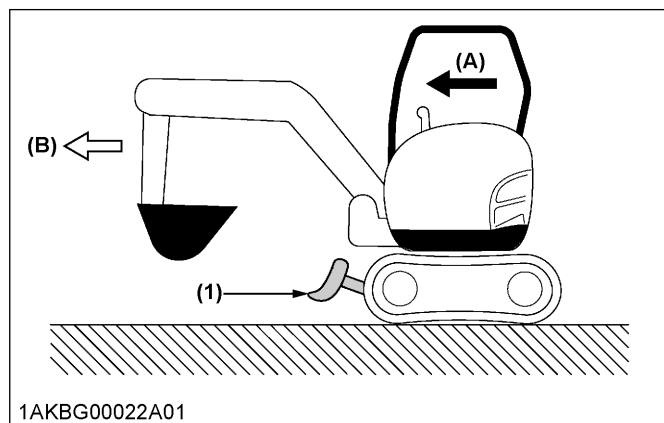
- ・ ブレードとフロントアイドラを後側にしてレバー操作を行うと、レバー方向と反対方向に走行しますので、ブレードとフロントアイドラの位置を確認してください。（ブレードのある方向が前側です）確認を怠ると、運転者の意志と反対の方向に動き、傷害事故を引き起こすことがあります。

運転席に座って、ブレードとフロントアイドラが前方にある場合で、レバーを前に倒せば前進、後ろに倒せば後進します。

前進

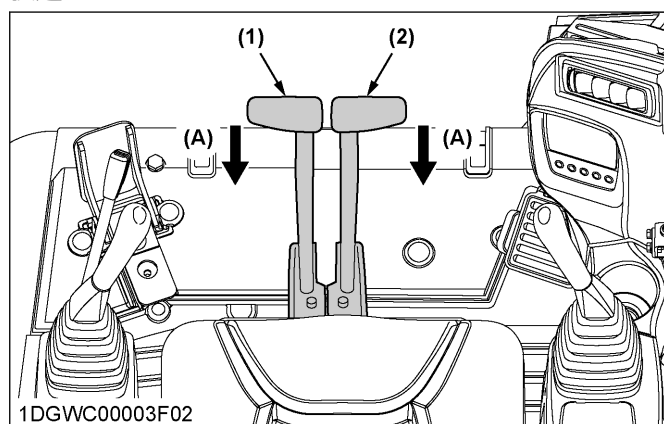


(1) 左走行レバー (2) 右走行レバー (A) 前進

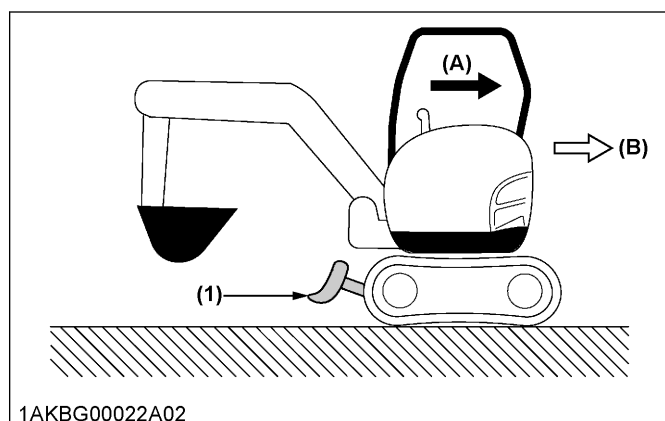


(1) ブレード (A) 走行レバー操作方向 (B) 機体進行方向

後進



(1) 左走行レバー (2) 右走行レバー (A) 後進



(1) ブレード

(A) 走行レバー操作方向

(B) 機体進行方向

2. 作業機操作レバー（右、左）

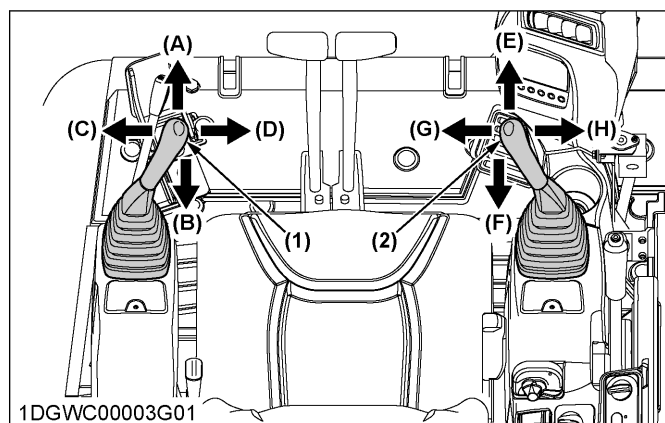
ブーム、アーム、バケット、および旋回の操作をします。



警告

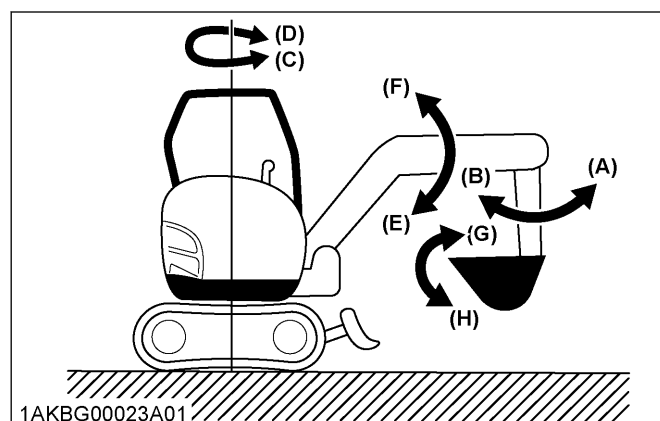
- 傾斜地での旋回は転倒の危険があるので、避けてください。やむを得ず傾斜地で旋回などの操作および掘削作業をするときは、足場を水平にしてから行ってください。もし怠ると、転倒して傷害事故を引き起こすことがあります。

レバー位置と作業機操作については次の通りです。



(1) 左作業機操作レバー

(2) 右作業機操作レバー



操作方向	左作業機操作レバー
(A)	アーム伸ばし
(B)	アームかき込み
(C)	左旋回
(D)	右旋回

操作方向	右作業機操作レバー
(E)	ブーム下げ
(F)	ブーム上げ
(G)	バケットかき込み
(H)	バケットダンプ

補足：

- 油圧パイロットシステムを採用していますので、作業機操作はエンジン作動時のみ可能です。バケットおよびブレードを接地する場合はエンジンを低回転にして行ってください。
- 乗降時は作業機操作ロックレバーを引上げて必ずロック位置にしてください。
- 作動油温が低い場合は、作業機の操作レバーに対する応答性が低くなりますので、暖機運転は必ず実施してください。
- 作動油温が低い間は操作レバーがやや重く感じられますが、特に故障ではありません。
- 危険防止のため、油圧機器を取り外す場合は油圧回路の残圧を抜いてから行ってください。（詳細は油圧回路の残圧の抜き方（90 ページ）を参照）
- 作業機が地面に付いていない場合は、機体に近づかないでください。
- エンジン停止後約 1 分以内では、エンジンを再始動することなく作業機を地面に下ろすことができます。スタータスイッチを[RUN]の位置にした後、作業機操作ロックレバーのロックを解除し、右作業機操作レバーを押してください。

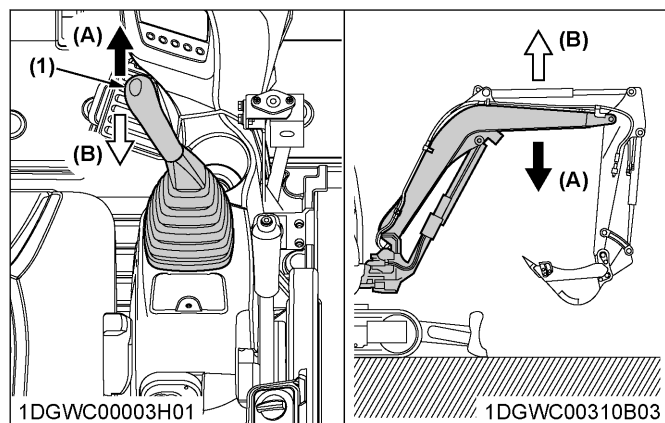
2.1 ブーム操作

ブーム上げ

- 右作業機操作レバーを後側に引きます。

ブーム下げ

右作業機操作レバーを前側に押します。
バケットからの土こぼれを少なくするため、ブーム上げエンドにクッションを採用しています。
エンジン始動後すぐなど作動油温が低い場合、通常作業時よりクッション時間が長くなる場合があります。
これは作動油の粘度によるもので異常ではありません。



(1) 右作業機操作レバー

(A) 下げる
(B) 上げる

補足：

- ブームを下げる時、ブレードとブームシリンダを当てないように、またバケットの爪でブレードを引っ掛けないように注意してください。

2.2 アーム操作

重要：

- アームをかき込む際に、アームが真下に向かったとき、一瞬動きが止まることがあります。これは、故障ではありません。

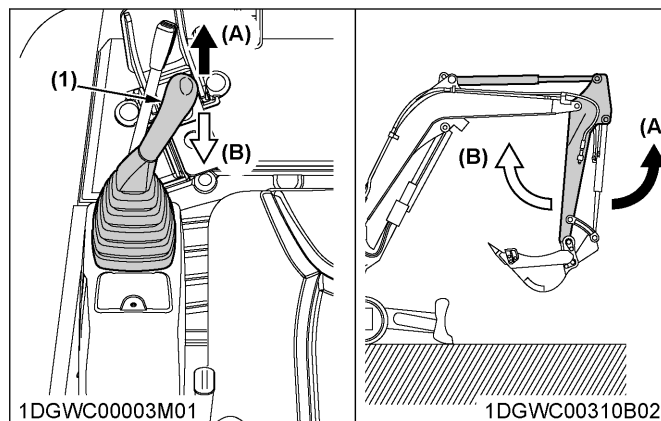
アームかき込み

- 左作業機操作レバーを後側に引くと、アームは手前に引きよせられます。

アーム伸ばし

- 左作業機操作レバーを前側に押すとアームが伸びます。

アームかき込みエンドおよび伸ばしエンド時のショックを和らげるため、クッションを採用しています。エンジン始動後すぐなど、作動油温が低い場合、通常作業時よりクッション時間が長くなる場合があります。これは作動油の粘度によるもので異常ではありません。



(1) 左作業機操作レバー

(A) 伸ばし
(B) かき込み

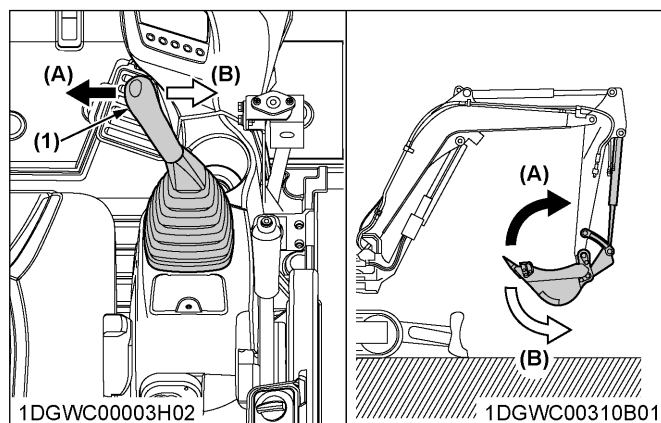
2.3 バケット操作

バケットかき込み

- 右作業機操作レバーを左側に倒します。

バケットダンプ

- 右作業機操作レバーを右側に倒します。



(1) 右作業機操作レバー

(A) かき込み
(B) ダンプ

2.4 旋回操作



警告

- 傾斜地での旋回は転倒の危険があるので、避けてください。やむを得ず傾斜地で旋回などの操作および掘削作業をするときは、足場を水平にしてから行ってください。
もし怠ると、転倒して傷害事故を引き起こすことがあります。

重要：

- 急旋回、急逆旋回は、機械の寿命を縮めます。緊急時以外は、極力行わないでください。

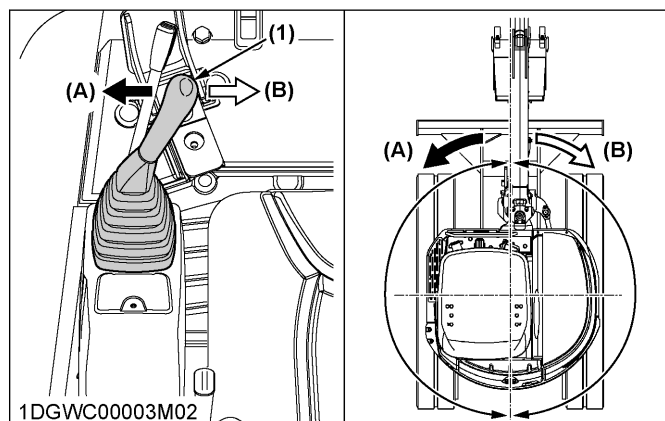
左作業機操作レバーで旋回操作ができます。

左旋回

- 左作業機操作レバーを左側に倒します。

右旋回

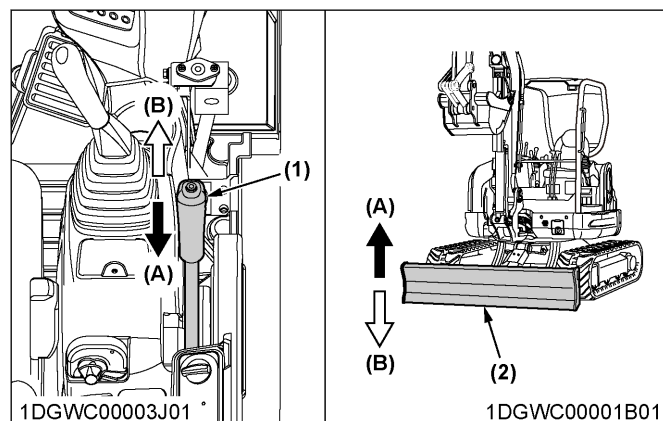
- 左作業機操作レバーを右側に倒します。



(1) 左作業機操作レバー

(A) 左旋回
(B) 右旋回

ブレード作業を行う場合、左手で走行レバー 2 本を操作し、右手でブレードの上げ下げ操作を行ってください。



(1) ブレード操作レバー
(2) ブレード

(A) 上げる
(B) 下げる

3. スイングペダル

フロント作業機全体をスイング操作するペダルです。

警告

- スイング操作しないときはペダルカバーを手前に倒し、スイングペダルをロックしておいてください。もし怠ると、誤操作により運転者の意に反してスイングし、傷害事故を引き起こすことがあります。

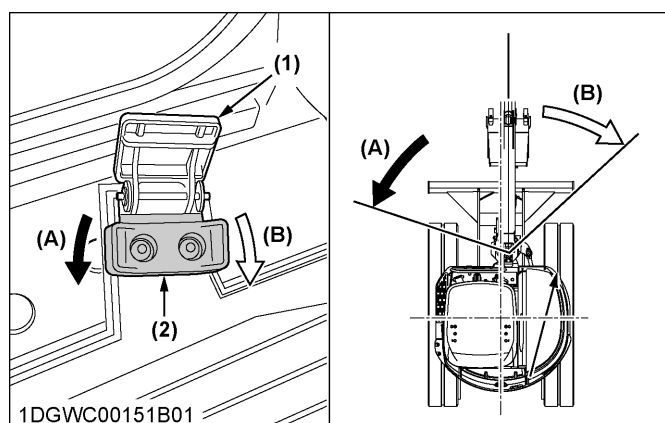
スイング操作ペダルでブームを左右へスイングすることができます。

左スイング

- ペダルの左側を踏みます。

右スイング

- ペダルの右側を踏みます。



(1) スイングペダルカバー
(2) スイング操作ペダル

(A) 左スイング
(B) 右スイング

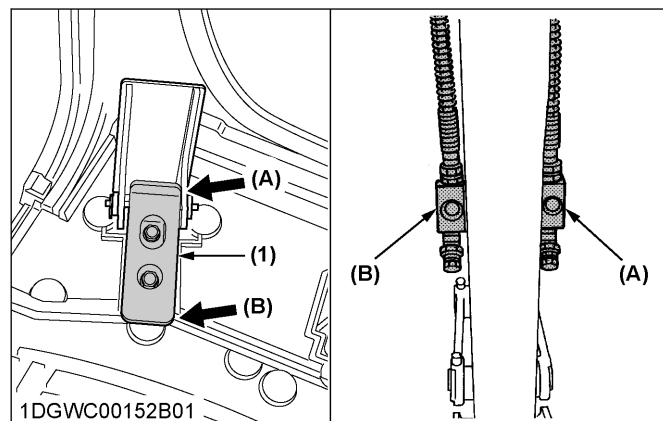
5. AUX1（サービスポート）ペダル [AUX1（サービスポート）仕様]

サービスポートの起動や停止と排出される作動油の流れ方向を操作するペダル

重要：

- 操作できるアタッチメントは、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。

ブレーカなどのアタッチメントを操作します。サービスポート仕様はペダルを前に踏むとオペレータより見て右(A)に、ペダルを後に踏むとオペレータより見て左(B)に油が流れます。



(1) AUX1（サービスポート）ペダル

(A) 右
(B) 左

	U-40-6E	U-55-6E
流量 (エンジン回転数)	65 L/min (2200 rpm)	75 L/min (2200 rpm)
圧力	20.6 MPa (210 kgf/cm ²)	

4. ブレード操作レバー

ブレード操作レバーを後ろに引くとブレードが上がり、前に押すと下がります。

6. サードラインの取扱い [AUX1 (サービスポート) 仕様]

サードライン

ブレーカ使用時などに便利なサードラインバルブを標準装備しています。

ブレーカ作業などの作業において油温の上昇を抑える効果があります。

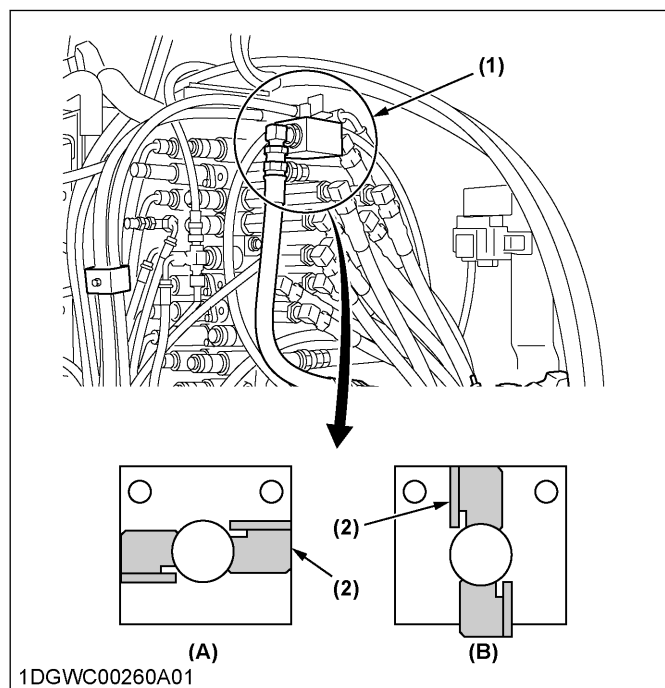
右ボンネットを開けると、工具なしで切り替えることができます。

1-way

- ブレーカ作業など一方向にしか油が流れない作業で使います。

2-way

- クラムシェルやフォークローなどのアタッチメントで使います。



(1) サードライン
(2) 切替レバー

(A) 1-way
(B) 2-way

緊急時ブーム降下弁



警告

- エンジンを始動して操作レバーで作業機を地面に降ろせる場合はブーム降下弁を絶対に使用しないでください。
- 緊急時ブーム降下弁を使用するときは必ずエンジンを停止してください。
- この作業をするときは、作業機の下に何も無いことを確認してください。

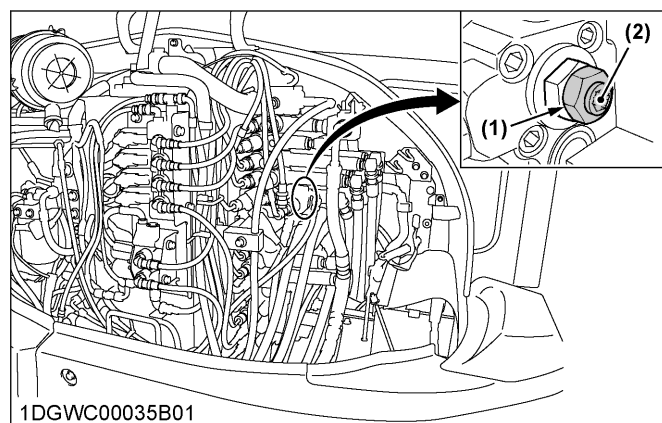
エンジントラブルやアキュムレータ機能不全などの非常時に作業機を地面に降ろす必要がある場合は、緊急時ブーム降下弁を使用してください。

補足：

- クレーン仕様とクレーン仕様でない場合で手順が異なります。ご注意ください。

1. 緊急時ブーム降下弁の使用方法[クレーン仕様以外]

- 右ボンネットを開けます。
- コントロールバルブのブームセクションにある、ブーム降下弁のナットをゆるめ、止めネジを1回転ゆっくりゆるめます。
2回転以上ゆるめないでください。



(1) ナット (二面幅 13 mm)
(2) 止めネジ (二面幅 4 mm)

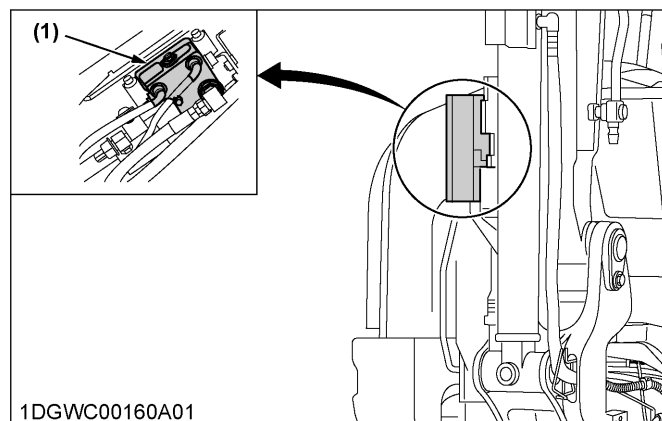
- 作業機を地面に降ろした後、ブーム降下弁の止めネジとナットを締め込みます。

補足：

- 締込トルクは止めネジが 6.3 N・m～7.5 N・m (0.64 kgf・m～0.76 kgf・m)、ナットが 19 N・m～21 N・m (1.94 kgf・m～2.14 kgf・m) です。

2. 緊急時ブーム降下弁の使用方法[クレーン仕様]

クレーン仕様の場合、緊急時ブーム降下弁の操作の前にブーム落下防止弁の操作が必要です。ご注意ください。

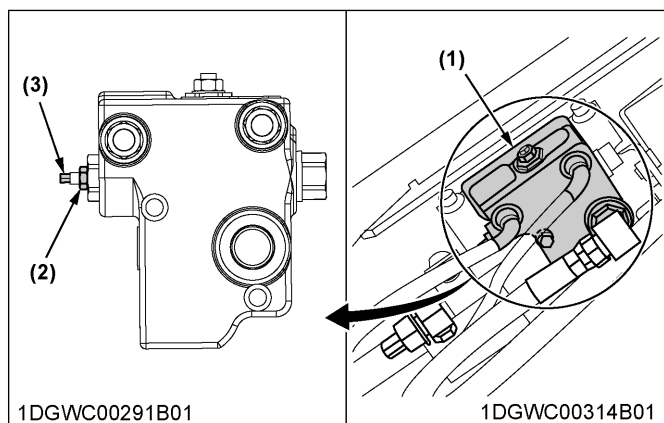


(1) ブーム落下防止弁

**警告**

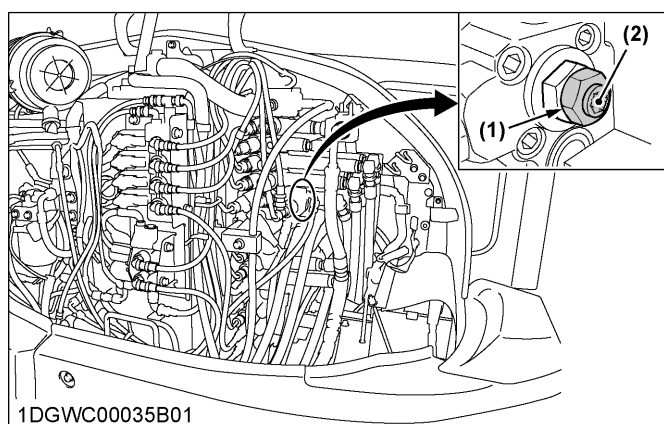
- ・ブームシリンダのホースが破損している場合、ブーム落下防止弁のニードル弁を締め込んだ時点で、ブームが降下し、破損部から作動油が流れ出します。じゅうぶん注意して、作業を行ってください。
- ・ブーム落下防止弁のニードル弁は、3 回転半以上締め込まないでください。降下速度が上がるため、危険です。

1. ブーム落下防止弁のカバーを外します。
2. 次の図で示されたブーム落下防止弁のナットをゆるめ、ニードル弁を時計回りに 3 回転締め込みます。3 回転半以上締め込まないでください。



- (1) ブーム落下防止弁
(2) ナット (二面幅 14 mm)
(3) ニードル弁

3. 右ボンネットを開けます。
4. コントロールバルブのブームセクションにある、ブーム降下弁のナットをゆるめ、止めネジを 1 回転ゆっくりゆるめます。2 回転以上ゆるめないでください。



- (1) ナット (二面幅 13 mm)
(2) 止めネジ (二面幅 4 mm)

5. 作業機を地面に降ろした後ブーム降下弁の止めネジとナットを締め込みます。

補足：

- ・ 締込トルクは止めネジが 6.3 N・m～7.5 N・m (0.64 kgf・m～0.76 kgf・m)、ナットが 19 N・m～21 N・m (1.94 kgf・m～2.14 kgf・m) です。

6. ブーム落下防止弁を元の状態に戻します。

操作パターンの変更方法

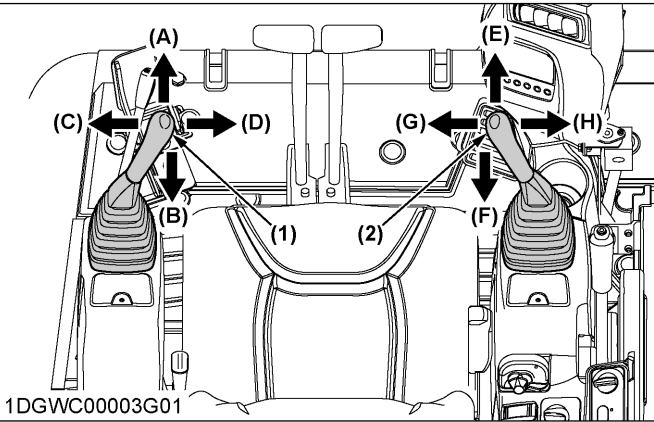
スーパーチェンジ仕様

警告

- 本仕様は操作レバーパターンを変更することができます。運転前に操作レバーパターンを確認しないと誤操作の原因となり、思わぬ人身事故を引き起し危険です。
- 作業機操作パターンを変更するときは必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業前には必ず周囲の安全を確認して、各レバーをゆっくり操作してください。
- 操作パターンが確実に切り替わっていることを確認してからご使用ください。

注意

- 本機械は、操作パターンを JIS パターン以外に切り替えると、国土交通省所轄の工事には使用できません。
- 出荷時は JIS パターンに設定されています。



レバー位置	動作	
	JIS パターン (クボタ)	C パターン (日立、コマツ)
(1) 左作業機操作レバー	(A) アーム伸ばし	右旋回
	(B) アームかき込み	左旋回
	(C) 左旋回	アーム伸ばし
	(D) 右旋回	アームかき込み
(2) 右作業機操作レバー	(E) ブーム下げ	
	(F) ブーム上げ	
	(G) バケットかき込み	
	(H) バケットダンプ	

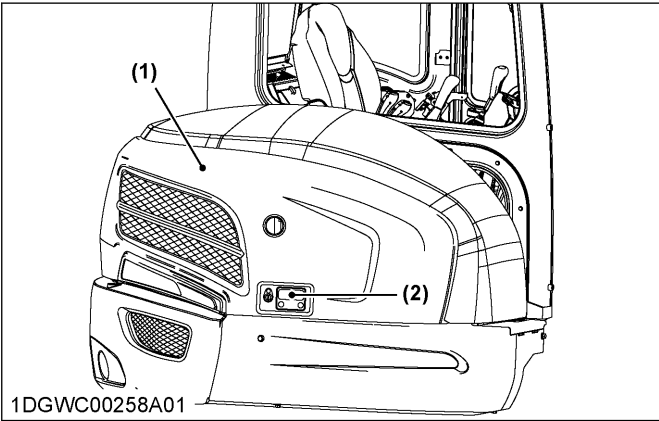
1. スーパーチェンジの操作パターン変更方法

警告

- 作業機操作パターンを変更するときは必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業機操作パターンを変更した後、初めて作業機を操作する場合、前後左右の安全を確認して、エンジンを低回転にしてゆっくり操作してください。
- 切替レバーが確実にセットされていることを確認してください。もしセットされていないと、作業機が誤作動し非常に危険です。

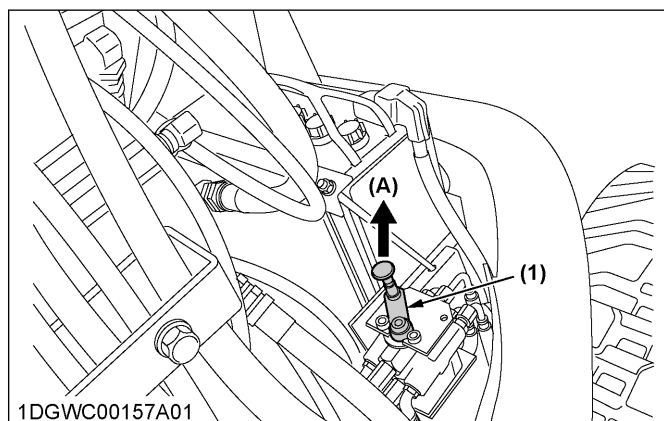
本仕様は、スーパーチェンジ（操作パターン切替機能）を装備していますので、JIS パターン（クボタ）から C パターン（日立、コマツ）に変更できます。切替えは次の要領で行ってください。

1. エンジンを停止してフロント部を接地し、各シリンダ内の残圧を抜きます。
2. 左操作ボックスのロックレバーをロック状態にし、右ボンネットを開きます。



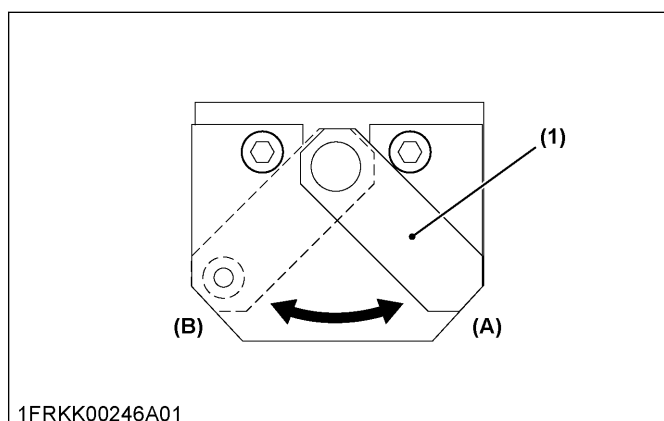
- (1) 右ボンネット
(2) キャッチ

3. 切替レバーのグリップ部を引っ張り、ロックを外してから回転し、希望のパターン位置に合わせます。



(1) 切替レバー

(A) 引く



(1) 切替レバー

(A) クボタパターン

(B) C (日立、コマツ) パターン

4. 切替レバーがロックされていることを確認します。
5. 右ボンネットを閉めます。

4 パターンマルチ仕様



警告

- 本機は操作レバーパターンを変更することができません。運転前に操作レバーパターンを確認しないと誤操作の原因となり、思わぬ人身事故を引き起し危険です。
- 作業前には必ず周囲の安全を確認して、各レバーをゆっくり操作してください。
- 操作パターンが確実に切り替わっていることを確認してからご使用ください。



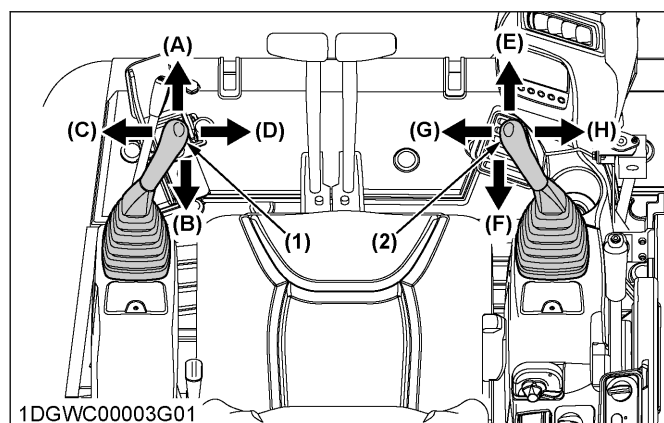
注意

- 本機械は、操作パターンを JIS パターン以外の操作パターンに切り替えると国土交通省所轄の工事には使用できません。
- 出荷時は JIS パターンに設定されています。

重要：

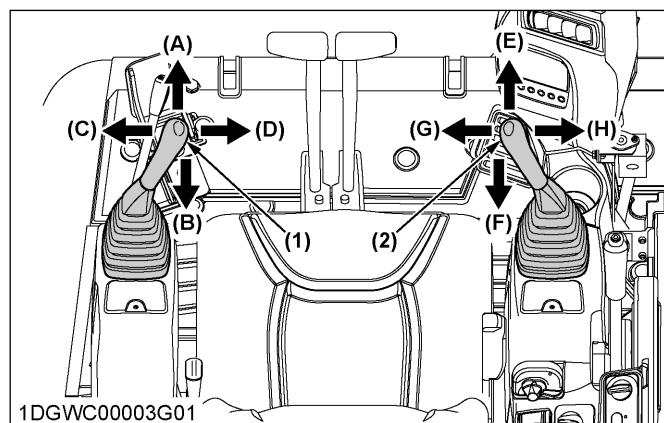
- 油圧パイロットシステムを採用していますので、作業機操作はエンジン作動時のみ可能です。バケットおよびブレードを接地する場合は、エンジンを低回転にしてください。
- 乗降時は操作ロックレバーを引き上げて必ずロック位置にしてください。
- 作動油温が低い場合は、作業機の操作レバーに対する応答性が低くなりますので、暖機運転は必ず実施してください。
- 作動油温が低い場合は、操作レバーがやや重く感じられますが特に支障はありません。

I (JIS、クボタ) パターン



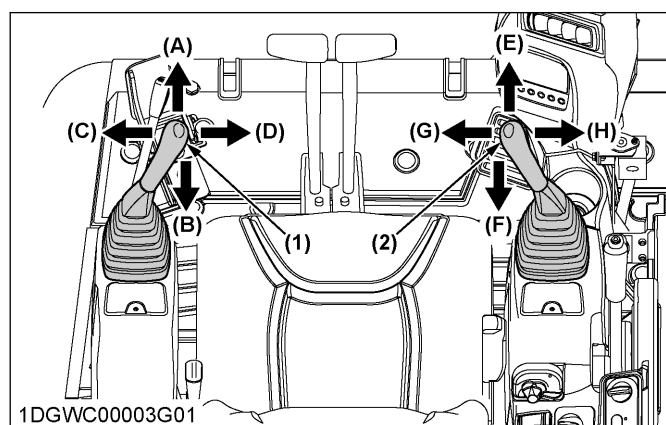
レバー位置		動作
(1) 左作業機操作レバー	(A)	アーム伸ばし
	(B)	アームかき込み
	(C)	左旋回
	(D)	右旋回
(2) 右作業機操作レバー	(E)	ブーム下げ
	(F)	ブーム上げ
	(G)	バケットかき込み
	(H)	バケットダンプ

H (日立、コマツ) パターン



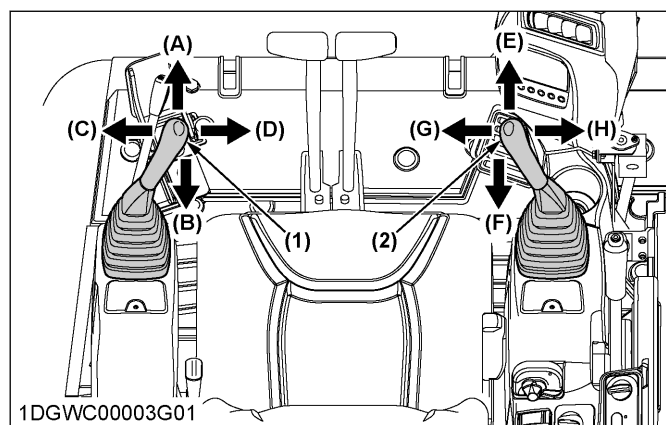
レバー位置		動作
(1) 左作業機操作レバー	(A)	右旋回
	(B)	左旋回
	(C)	アーム伸ばし
	(D)	アームかき込み
(2) 右作業機操作レバー	(E)	ブーム下げ
	(F)	ブーム上げ
	(G)	バケットかき込み
	(H)	バケットダンプ

M (三菱) パターン



レバー位置		動作
(1) 左作業機操作レバー	(A)	ブーム下げ
	(B)	ブーム上げ
	(C)	バケットダンプ
	(D)	バケットかき込み
(2) 右作業機操作レバー	(E)	アームかき込み
	(F)	アーム伸ばし
	(G)	左旋回
	(H)	右旋回

K (神鋼) パターン



レバー位置		動作
(1) 左作業機操作レバー	(A)	ブーム下げ
	(B)	ブーム上げ
	(C)	バケットダンプ
	(D)	バケットかき込み
(2) 右作業機操作レバー	(E)	アーム伸ばし
	(F)	アームかき込み
	(G)	左旋回
	(H)	右旋回

1. 4 パターンマルチの操作パターン変更方法

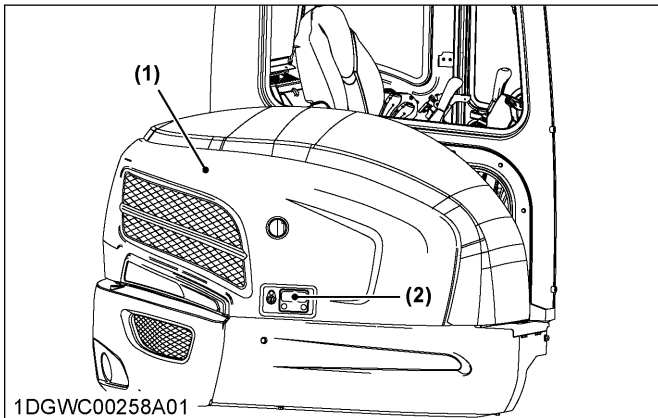
警告

- 本機は 4 パターンマルチコントロールを装備しており、操作レバーパターンを変更することができます。運転前に操作レバーパターンを確認しないと誤操作の原因となり、思わぬ人身事故を引き起こし危険です。運転前には、パターンマルチコントロールの切替レバー位置と各作業機操作レバーの動きを必ず確認してください。
- 作業機操作パターンを変更するときは必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業機操作パターンを変更した後、初めて作業機を操作する場合、前後左右の安全を確認して、エンジンを低回転にしてゆっくり操作してください。
- 切替レバーが確実にセットされていることを確認してください。もしセットされていないと、作業機が誤作動し非常に危険です。

4 パターンマルチ仕様機では、I パターン、H パターン、M パターン、K パターンの 4 種類の作業操作の変更がワンタッチで可能です。操作パターンを変更する場合、次の手順で行ってください。

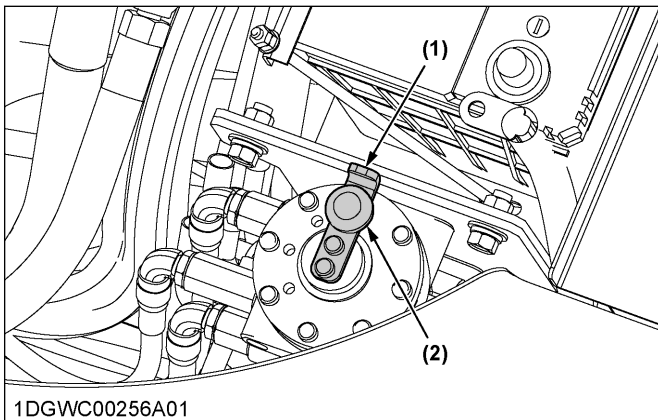
- エンジンを停止してフロント部を接地し、各シリンダ内の残圧を抜きます。

2. 左操作ボックスのロックレバーをロック状態にし、右ボンネットを開きます。

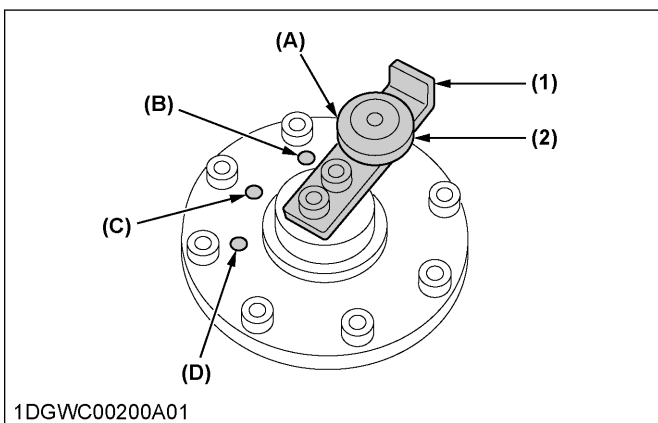


- (1) 右ボンネット
(2) キャッチ

3. 切替レバーのグリップ部を引っ張り、ロックを外してから回動し、希望のパターン位置 (I、H、M、K) に合わせます。



- (1) 切替レバー
(2) グリップ



- (1) 切替レバー
(2) グリップ
(A) I (JIS、クボタ、古河) パターン
(B) H (日立、コマツ) パターン
(C) M (三菱) パターン
(D) K (神鋼) パターン

4. 切替レバーがロックされていることを確認します。
5. 右ボンネットを閉めます。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動



警告

- 必ず座席に座って各操作レバーやペダルが中立位置にあることを確認して始動してください。もし怠ると、エンジンの始動と同時に機械が動き出し、正常な運転ができなくなり危険です。
- エンジンの排気ガス中には、有害な一酸化炭素などが含まれており危険です。排気ガスがたまりやすい室内や通気の悪い場所では機械の運転をしないでください。

補足：

- 本機には盗難防止装置が装備されています。間違ったキーでエンジン始動しようすると、メータパネルに“キーが違います エンジン始動できません”と表示されエンジンが始動できません。正しいキーでエンジン始動してください。
- キーにキーホルダなどの金属部品を取り付けたり、キーをたばねたりして使用すると正しいキーでも同様の現象になる場合があります。その場合は金属部品を取り外してエンジン始動してください。



1FRKK00161A01

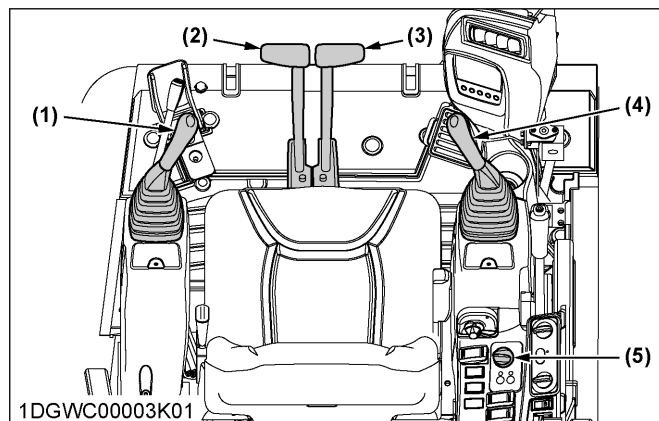
- 作業機操作ロックレバーを解除位置にしたままエンジンを始動しようするとメータパネルに“レバーロックを上げて下さい”と表示されエンジンが始動できません。作業機操作ロックレバーが確実にロック位置にないと、エンジン始動はできません。



1FRKK00160A01

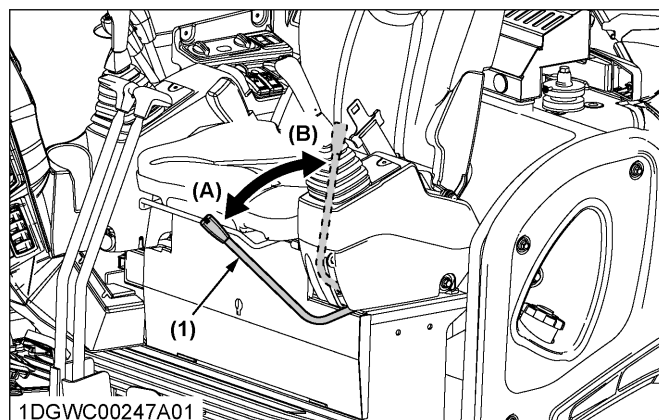
- エンジン始動時、メータの表示が一時消えピッと音が鳴る事がありますが故障ではありません。

- スタータスイッチを作動する前に、各レバーやペダルが中立位置にあることを確認します。



- 左作業機操作レバー
- 左走行レバー
- 右走行レバー
- 右作業機操作レバー
- アクセルダイヤル

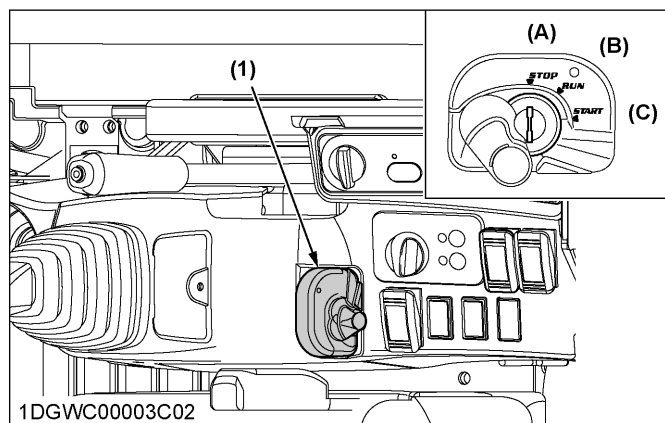
- 作業機操作ロックレバーをロック位置にします。



- 作業機操作ロックレバー (A) 解除 (B) ロック

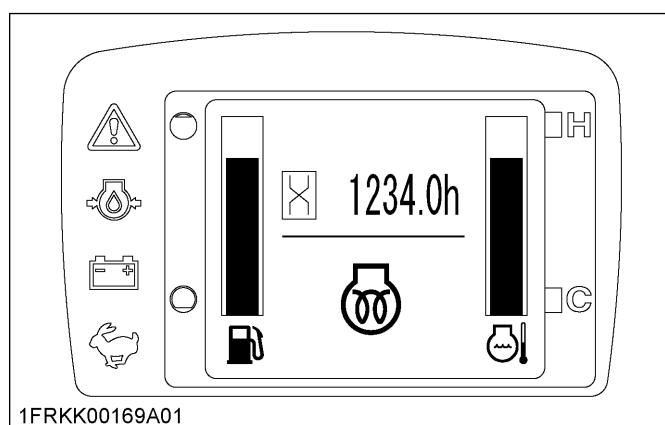
- スタータスイッチにスタータキーを差し込みます。
- アクセルダイヤルを中速側に回します。

5. スタータキーを[**RUN**]位置にし、液晶モニタの  が消えるまで[**RUN**]位置を保持します。



(1) スタータスイッチ

- (A) [**STOP**]
(B) [**RUN**]
(C) [**START**]



6. このとき 、 ランプが点灯していることを確認します。消灯している場合は故障ですので、販売店に相談してください。
7. キーを[**START**]位置に回します。
8. エンジンが始動したら、キーから手を離します。自動的に[**RUN**]に戻ります。

重要：

- セルモータは大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内に始動しなかった場合は、一度キーを[**STOP**]にし、20 秒以上休止してから手順 5.、6.、7.、8.の操作を繰り返してください。
- もしバッテリーがあがり、ブースタケーブルなどで別のバッテリーに接続する場合には、必ず 12 V 用のバッテリーを使用してください。24 V 用のバッテリーは絶対に使用しないでください。

1. 寒冷時の始動

オートアイドルスイッチが OFF（ランプが消灯）であることを確認してください。

1. スタータスイッチを作動する前に、各レバーやペダルが中立位置にあることを確認し、ロックレバーがロックされていることを確認します。
2. スタータスイッチにスタータキーを差し込みます。
3. アクセルダイヤルを高速側  いっぱいに回します。
4. スタータキーを[**RUN**]の位置にし、液晶表示部の  が消えるまで[**RUN**]位置を保持します。
5. キーを[**START**]位置に回します。
6. エンジンが始動したらキーから手を離します。自動的に[**RUN**]に戻ります。
7. エンジンが始動しない場合は、いったんスタータキーを[**STOP**]の位置にし、手順 4.、5.、6.の操作を繰り返します。

エンジン始動後の暖機運転と点検

暖機運転

重要：

- 低回転で長時間暖機運転を行うと、DPF 再生ができない場合があります。次のメッセージに注意して行ってください。



1DGWC00026A03



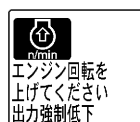
1DGWC00026A02

エンジン回転をメッセージが消えるまで上げてください。

- また、次のメッセージが出ている状態でエンジン回転を上げずに作業機操作ロックレバーをロック位置にしたままにすると、DPF 保護のため 60 秒後にエンジンが停止します。特にご注意ください。



1DGWC00024A01



1DGWC00026A02

1. 暖機運転前には、オートアイドルスイッチを OFF（ランプが消灯）にします。
2. エンジン始動後、アイドルリングが円滑になるまで（約 5 分間）負荷をかけずに暖機運転をします。

補足：

- ・ 作動油温が低い場合、次のメッセージが表示され、エンジン回転数が中速回転までしか上がりません。作動油温が適切な温度に上がると、アクセル操作に合わせて、エンジン回転数が最高回転数まで上がるようになります。



1DGWC00005A01

- ・ 作動油温が低い場合は、作業機の操作レバーに対する応答性がぶくなりますので、暖機運転は必ず実施してください。
- ・ 作動油温が低い間は操作レバーがやや重く感じられますが、故障ではありません。
- ・ 作動油温が低い間は、オートアイドル機能が作動しないことがあります。故障ではありません。
- ・ 冷却水温が上がるまで、アイドル回転を上げるアイドルアップ機能が働きます。
- ・ [エアコン仕様] はエアコンスイッチを ON にしてください。

各部の点検

エンジンが暖まってから次の点を確認してください。

- ・ 液晶表示部に異常表示がないか。
- ・ 排気色は正常か。
- ・ 異常音や、異常振動はないか。
- ・ 油、燃料、水などが漏れていないか。

次の場合は、直ちにエンジンを止めてください。

- ・ 回転が急に下降したり上昇したりする。
- ・ 突然異常音をたてた。
- ・ 排気色が悪くなった。
- ・ 運転中、液晶表示部に“エンジン油圧異常”が表示された。

重要：

- ・ エンジンを止めてから、バックホーの不調と処置の項に従ってください。
(詳細はバックホーの不調と処置 (136 ページ) を参照)
わからない場合は、クボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
- ・ [エアコン仕様]
長期間 (1 か月以上) 休車後使用するときは、コンプレッサの故障を防ぐため、10 分以上エアコンをかけながら暖機運転してください。

重要：

- ・ エンジンを停止する前に、バケットおよびブレードを接地してください。
- ・ バッテリスイッチなどでバッテリーの電源を直接遮断してエンジンを停止しないでください。故障や不調の原因となるおそれがあります。

アクセルダイヤルを低速側にいっぱいまわして、エンジンを 5 分ほどアイドリングさせて、徐々に冷やしてください。

1. 左右作業機操作レバーをゆっくり動かし、作業機を地面に置きます。
2. スタータキーを[STOP]の位置に戻し、エンジンを停止し、キーを抜きます。

重要：

- ・ エンジン停止後、再始動には 2 秒間のタイムラグを設けています。
3. 作業機操作ロックレバーを引き上げてロック位置にします。

1. オーバーヒート時の対処



警告

- ・ 運転中や運転停止直後にラジエータキャップを開けると蒸気や熱湯が噴出しヤケドすることがあります。ラジエータが冷えてからラジエータキャップを開けてください。

万一冷却水温が沸点 (水温計が[H]) 近くになったときまたはそれ以上になったとき (いわゆるオーバーヒート) には次のように行動してください。

1. 安全な位置で機械の運転を止めます。
(エンジンの負荷を抜きます)
2. エンジンは急に停止せず、無負荷アイドリングで約 5 分間運転した後停止します。
3. さらに、10 分間または蒸気が噴出している間は機械からじゅうぶん離れて待機します。
4. ヤケドなどの危険性がなくなってから、オーバーヒートの原因をバックホーの不調と処置の項に従って除去します。
(詳細はバックホーの不調と処置 (136 ページ) を参照)
5. その後、エンジンを再始動します。

エンジンの停止



警告

- ・ エンジンを停止した状態で、作業機およびブレードを浮かせたまま放置しないようにしてください。自重で徐々に下がり、事故になります。

バックホーの運転

ならし運転

重要：

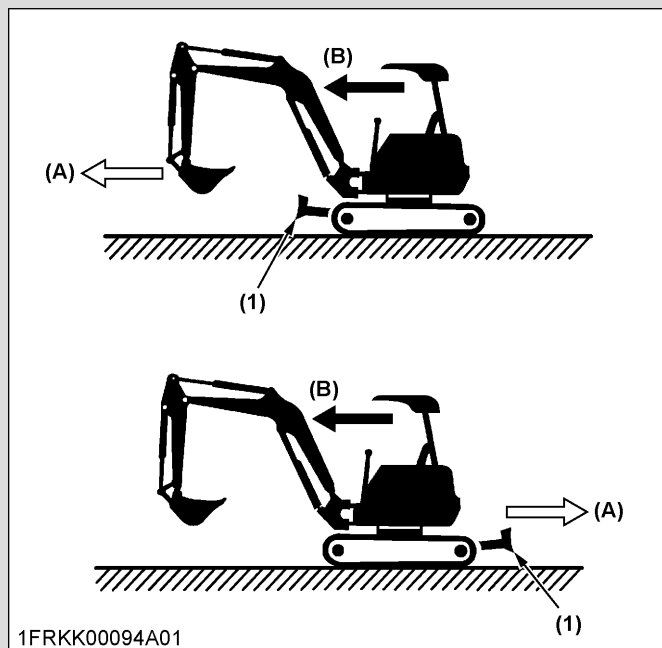
- 機械の寿命は初めの 100 時間の取扱いで左右されます。いたわってお使いください。
特に新車時は、無理な負荷をかけないでください。
- 50 時間まで 50 %以下の負荷。
- 100 時間まで 70 %以下の負荷。

発進と走行



警告

- 発進する前に、前後左右の安全を確認してください。
- ブレードとフロントアイドラを後側にしてレバー操作を行うと、レバー方向と反対方向に走行しますので、ブレードとフロントアイドラの位置を確認してください。（ブレードのある方向が前側です。）もし怠ると、運転者の意志と反対の方向に動き、傷害事故を引き起こすことがあります。

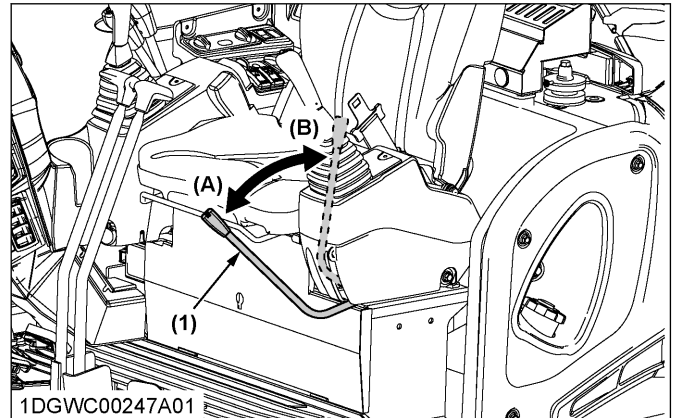


1FRKK00094A01

- (1) ブレード (A) 機体進行方向 (B) 走行レバー操作方向

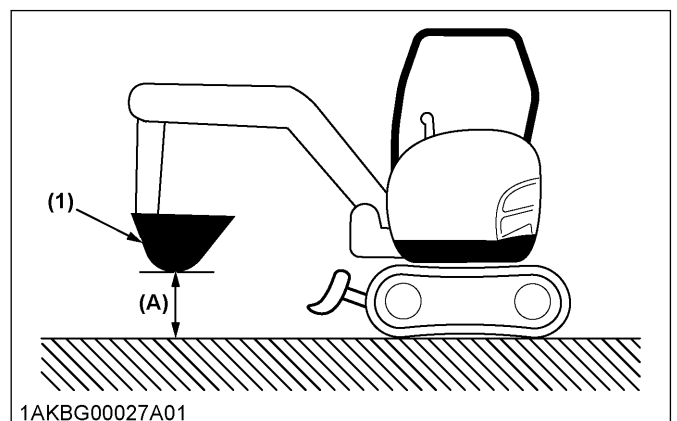
- 15°より急な斜面での走行は絶対にしないでください。もし怠ると、転倒し、傷害事故を引き起こすことがあります。

- 作業機操作ロックレバーを解除位置に押し下げ、作業機を折りたたみ、地上よりバケット下面を 20 cm ～40 cm 上げます。



1DGWC00247A01

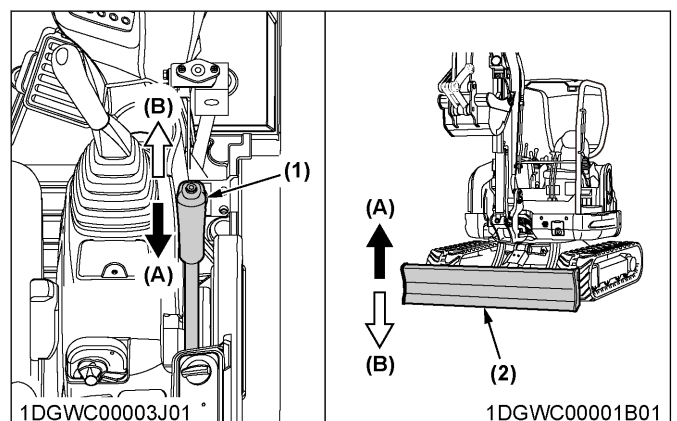
- (1) 作業機操作ロックレバー (A) 解除 (B) ロック



1AKBG00027A01

- (1) バケット (A) 20 cm～40 cm

- ブレード操作レバーを後側に引いて、ブレードを上げます。



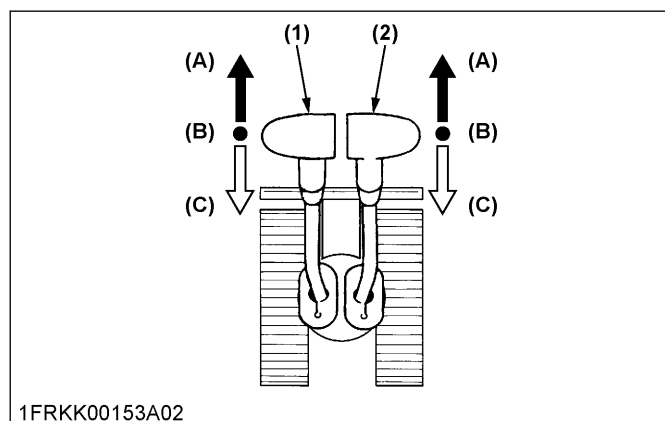
1DGWC00003J01

- (1) ブレード操作レバー (2) ブレード

- (A) 上げる (B) 下げる

1DGWC00001B01

3. 走行レバーをゆっくり前側（前進）、または後側（後進）に操作します。
操作した方向に発進します。



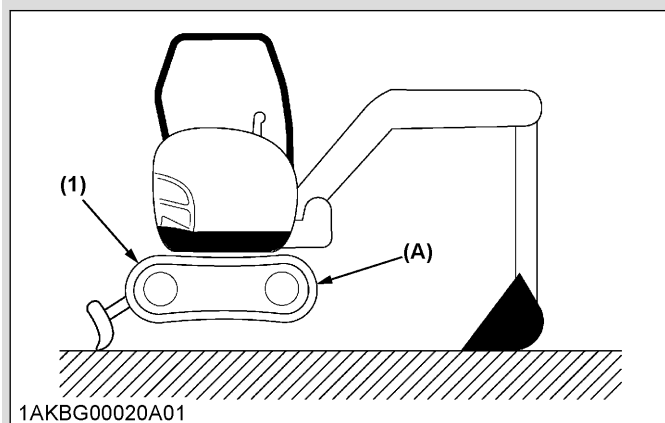
- (1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

- (A) 前進
(B) 中立
(C) 後進

1. 高速走行

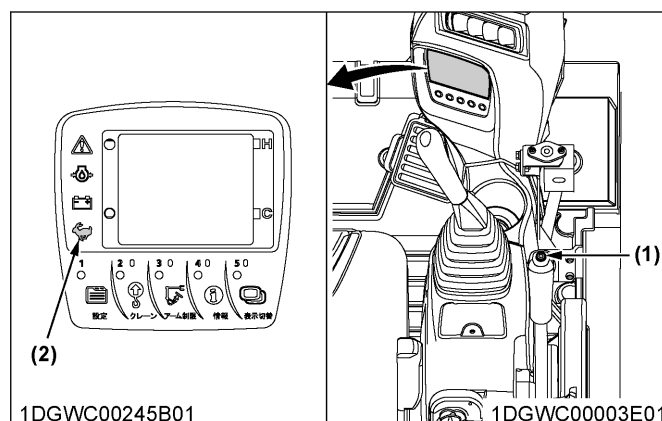
警告

- 登坂時、不整地走行時などで、走行抵抗が大きいときは、走行増速スイッチは使用しないでください。
- 軟弱地盤などで、クローラに土や砂利が詰まってクローラが異常に張ってきて走行できない場合は、ブレード、アーム、バケットでクローラを浮かせて回転させ、土や砂利を落とし、クローラがスムーズに動くようにしてください。



- (1) クローラ (A) 回転させて泥を落とす

- 走行増速スイッチを押すとブザーが2回鳴り、走行速度は低速から高速に切り替わります。この時、マークが点灯します。
- もう一度走行増速スイッチを押すとブザーが1回鳴り、走行速度は高速から低速に切り替わります。この時、マークが消灯します。



- (1) 走行増速スイッチ
(2) 2速ランプ

方向転換

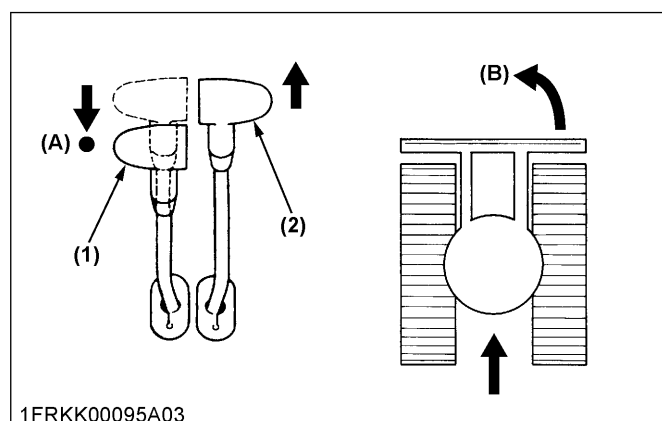
警告

- 急斜面途中での方向転換（Uターンなど）は転倒の危険性があります。平たんな地面で行ってください。
- 方向転換の際は周囲に人がいないかじゅうぶん確認してから行ってください。
- 方向転換の際は無理なピボットターン、スピントーンは極力避け、切返しの回数を増して行ってください。もし怠ると、傷害事故を引き起こすことがあります。

1. 走行時の方向転換（ピボットターン）

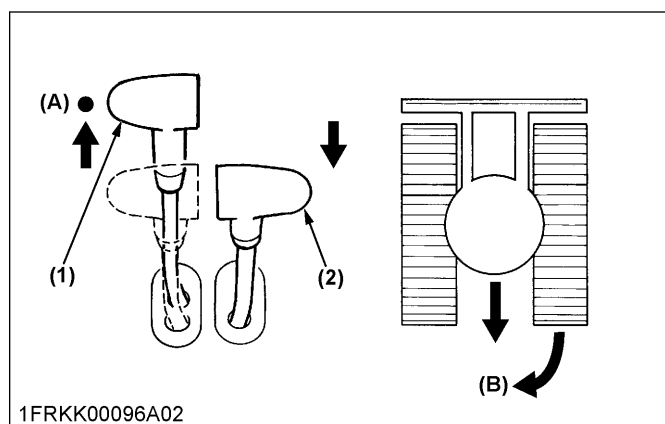
次の説明は、ブレードが前方にある場合の操作方法です。

- 前進時、左（右）走行レバーを中立位置にすれば、左へ（右へ）方向転換します。



- (1) 左走行レバー (A) 中立
(2) 右走行レバー (B) ピボットターン

- 後進時、左（右）走行レバーを中立位置にすれば、右へ（左へ）方向転換をします。



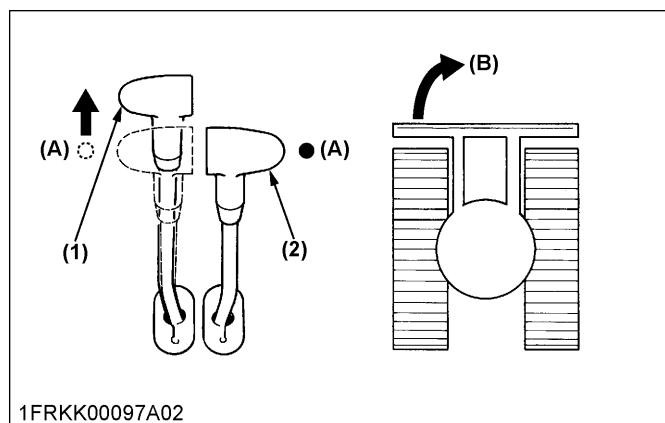
(1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

(A) 中立
(B) ピボットターン

2. 停止時の方向転換（ピボットターン）

次の説明は、ブレードが前方にある場合の操作方法です。

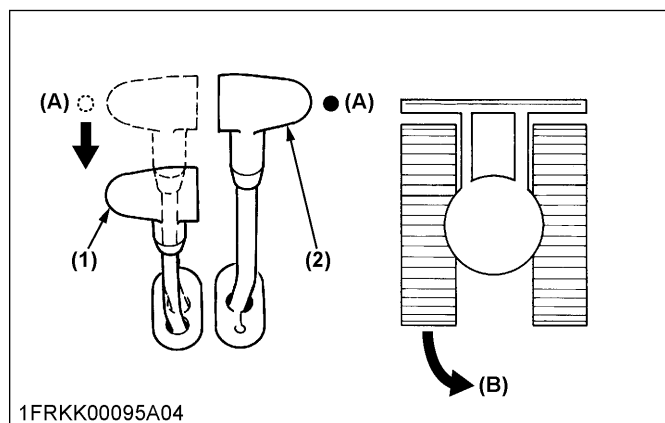
- 左（右）走行レバーを前側に操作すれば、右へ（左へ）方向転換します。



(1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

(A) 中立
(B) ピボットターン

- 左（右）走行レバーを後側に操作すれば、左へ（右へ）方向転換します。



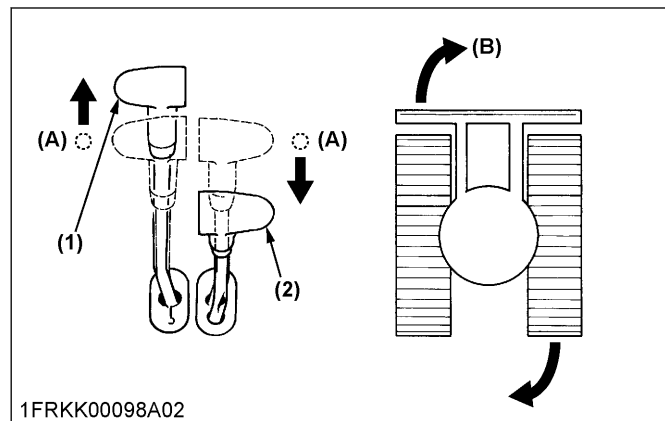
(1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

(A) 中立
(B) ピボットターン

3. スピンターン

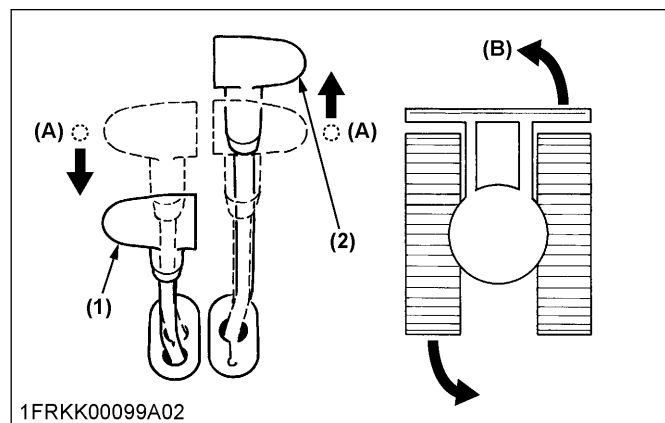
次の説明は、ブレードが前方にある場合の操作方法です。

左（右）走行レバーを前側に、右（左）走行レバーを後側に操作すれば、その場で右へ（左へ）ターンします。



(1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

(A) 中立
(B) スピンターン



(1) 左走行レバー
(2) 右走行レバー

(A) 中立
(B) スピンターン

坂道の登り降り

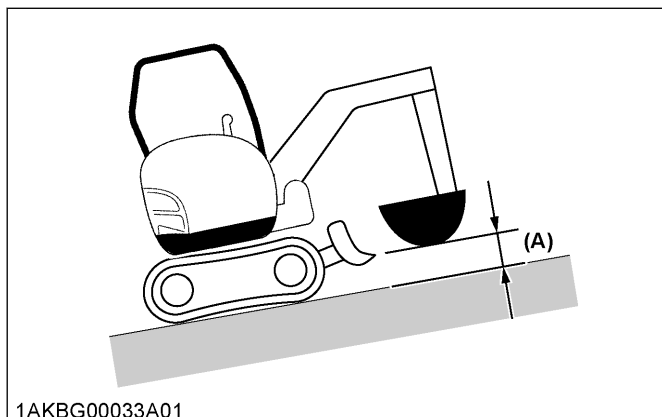


警告

- 傾斜地での走行時は、必ず旋回フレームとトラックフレームを平行にしてください。もし怠ると、意志に反して旋回し、転倒して傷害事故を引き起こすことがあります。
- 坂道を登る場合はバケット下面を地上より 20 cm ～40 cm 上げて走行してください。
- クローラがスリップするような急勾配の下り坂を降りる場合は、バケットを地面に降ろして、すべらせながら降りてください。また勾配のゆるい下り坂を降りる場合は、バケットをすぐに接地できる高さにしてください。
- 坂道での登り降りは、アクセルダイヤルを調整して、ゆっくり走行してください。
- 坂道での登り降りは、オートアイドルスイッチを OFF（ランプ消灯）の位置にしてください。

もし怠ると、意志に反してエンジン回転数が変化し、傷害事故を引き起こすことがあります。

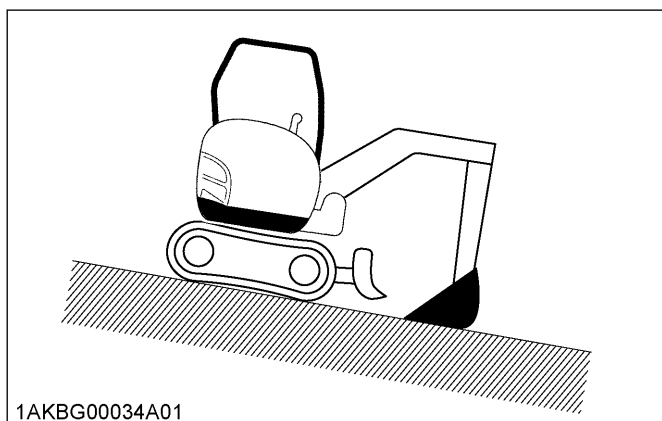
登坂時



1AKBG00033A01

(A) 20 cm～40 cm

降坂時



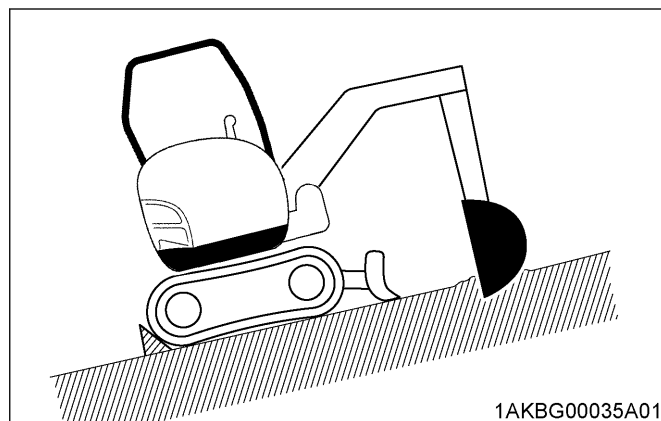
1AKBG00034A01

傾斜地での駐停車



警告

- 傾斜地での駐停車は危険です。傾斜地では駐停車しないでください。
やむを得ず傾斜地で駐停車する場合、バケットを地面にくいこませ、各レバーを中立位置に戻した後、歯止めをかけてください。
もし怠ると、機械がすべり落ち、傷害事故を引き起こすことがあります。



1AKBG00035A01

駐車

1. 機械を水平な堅土上に停めます。
2. アームを垂直に立て、バケットおよびブレードを地面に降ろします。
3. アクセルダイヤルを低速側にいっぱい回し、エンジンを 5 分ほどアイドリングさせて徐々に冷やします。
4. スタータキーを[STOP]にしてエンジンを止め、キーを抜きます。
5. 作業機操作ロックレバーを引上げてロック位置にします。
6. 機械から離れるときは、すべてのカバーを閉じ、施錠します。

オートアイドル制御の取扱い



警告

- 操作レバーを操作する前に、オートアイドルスイッチの下ランプが点灯、消灯することを必ず確認してください。
- 本機の積込み、積降ろし時は安全のため、必ずオートアイドルスイッチを OFF にしてください（ランプが消灯）。（オートアイドルスイッチを押すと点灯し、再度押すと消灯します。）
もし怠ると、オートアイドルが作動した状態で操作レバーを動かすと、エンジン回転数が下がった状態から急に上がるので危険です。

オートアイドル機能

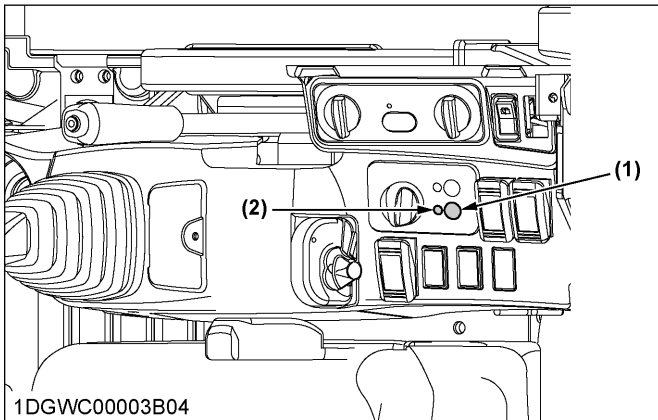
作業中、全作業レバーを中立にすると約 4 秒後から、次に作業レバーを動かすまでの間、エンジン回転をアイドリングへ下げる機能です。燃料消費と騒音を抑える効果があります。オートアイドルスイッチを押し、オートアイドル制御の作動と解除の選択を行います。

作動

- オートアイドルスイッチを押すとオートアイドル制御作動になります。
（オートアイドルランプ点灯）

解除

- オートアイドルスイッチを再度押すと、オートアイドル制御解除になります。
(オートアイドルランプ消灯)



- (1) オートアイドルスイッチ
(2) オートアイドルランプ

補足：

- 寒冷時は作動油が暖まるまで、オートアイドル機能が作動しない事がありますが、故障ではありません。
- DPF 再生時はオートアイドルのアイドル回転が上昇しますが、故障ではありません。

各部の開閉および着脱

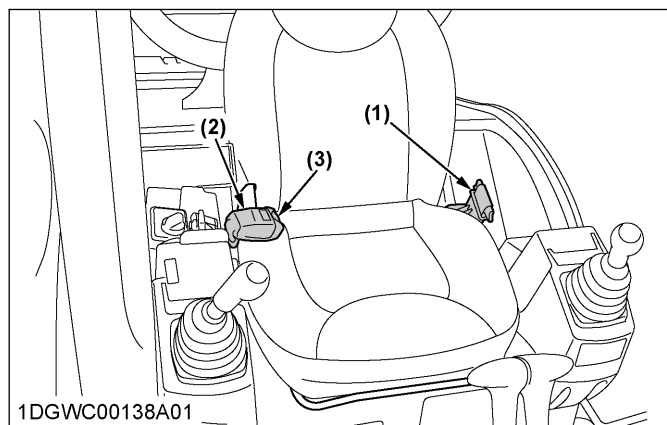
座席

1. シートベルト



警告

- ・ 運転時は常にシートベルトを着用してください。
- ・ シートを最適位置に調整し、バックルで留めてください。
- ・ ROPS キャブ、4 ポスト ROPS キャノピまたは 2 ポスト TOPS キャノピを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合は、修理せず交換してください。
- ・ キャブまたはキャノピが装着されていない機械は、運転しないでください。



- (1) シートベルト
(2) ソケット
(3) ボタン

シートベルト着用

1. 運転席左側からシートベルトを引き出します。
2. シートベルトの金具（運転席左側）を、運転席右側のソケットに、カチッと音がするまで挿入します。

シートベルト解除

1. ソケットの赤いボタンを押して、シートベルトを外します。
2. シートベルトは自動的に巻き取られます。

重要：

- ・ シートベルトを外すときは、ベルトを真っすぐな状態で格納してください。真っすぐでない状態で格納すると、シートベルトのロック機構が正常に作動しない場合があります。

2. 座席の調整

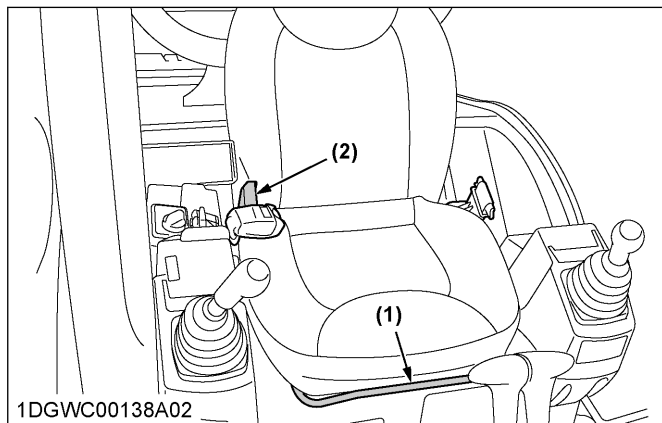


警告

- ・ エンジンを始動したまま座席を前に倒したとき、走行レバーが動き車体が動くことがあります。座席を前に倒す場合は必ずエンジンを止めて、作業機操作ロックレバーをロックにしてください。

前後スライドおよびリクライニング付きの座席です。

1. 前後調節レバーを上方向に動かすと座席を前後に動かすことができます。運転操作のしやすい位置に調節してください。
2. シート右下にあるリクライニングレバーを動かすと座席の背もたれをリクライニングすることができます。運転操作のしやすい位置に調節してください。調節後固定されたことを確認してください。



- (1) 前後調節レバー (2) リクライニングレバー

ボンネット

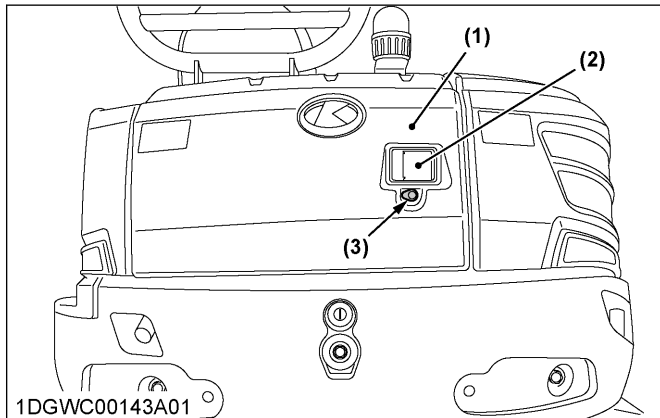
1. 後ボンネットの開閉



警告

- ・ 後ボンネットを閉めるとき手をはさまないようにしてください。
- ・ 後ボンネットを閉めたときには、確実にロックしてください。

1. スタータキーをキー穴に入れ右に回し、施錠を解除してからキャッチを引き、後ボンネットを開けます。



- (1) 後ボンネット
(2) キャッチ
(3) キー穴

2. 閉じるときは、“カチッ”と音がするまで後ボンネットを確実に閉じます。
3. スタータキーを左に回して施錠します。

重要：

- ・ ボンネットを開けたままで運転はしないでください。
ボンネット損傷の原因となります。

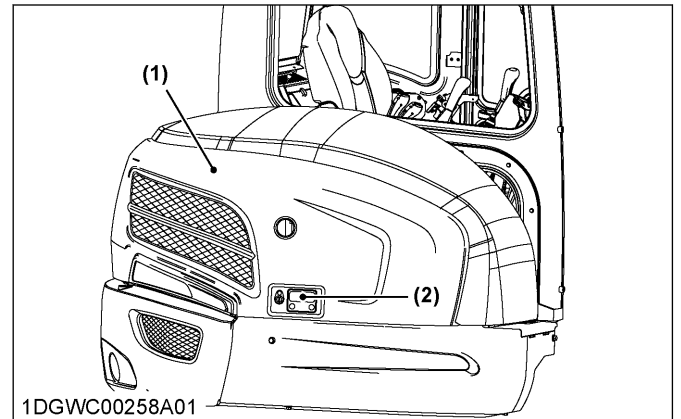
2. 右ボンネットの開閉



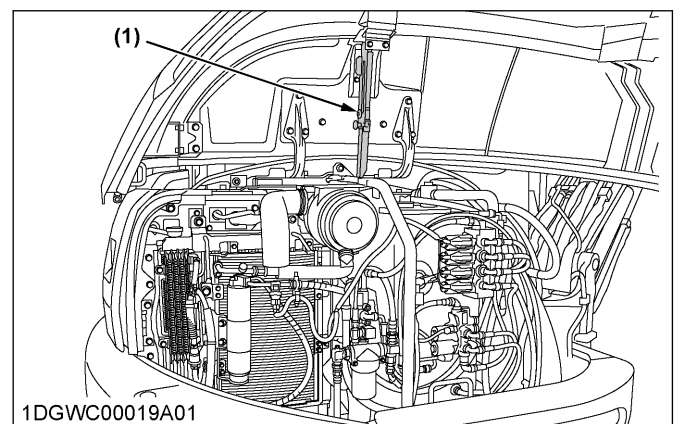
警告

- ・ 右ボンネットを閉めるとき手をはさまないようにしてください。
- ・ 右ボンネットを閉めたときには、確実にロックしてください。

1. スタータキーをキー穴に入れ右に回し、施錠を解除します。
2. キャッチを引き、固定金具のステーがロックされるまで、右ボンネットを持ち上げます。
3. 閉じるときは、右ボンネットを少し持ち上げ、固定金具のステーを引き、ロックを解除します。
4. 右ボンネットを下げていき、“カチッ”と音がするまで確実に閉じます。



- (1) 右ボンネット
(2) キャッチ



- (1) ステー

5. スタータキーを左に回して施錠します。

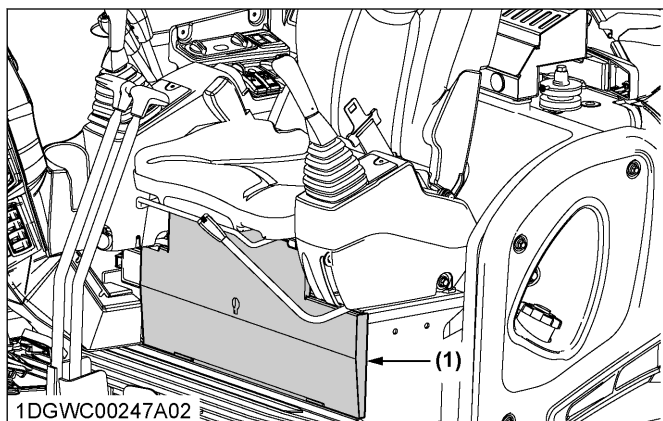
工具箱



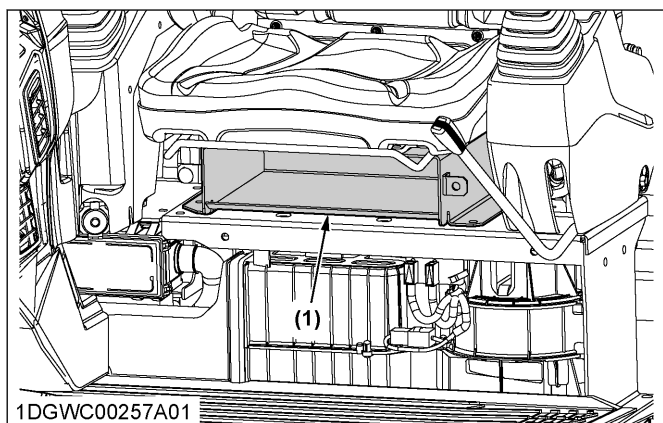
警告

- ・ エンジンを始動したまま座席を前に倒したとき、走行レバーが動き車体が動くことがあります。座席を前に倒す場合は必ずエンジンを止めて、作業機操作ロックレバーをロックにしてください。

前カバーを開けると、座席下部に工具の収納スペースがあります。



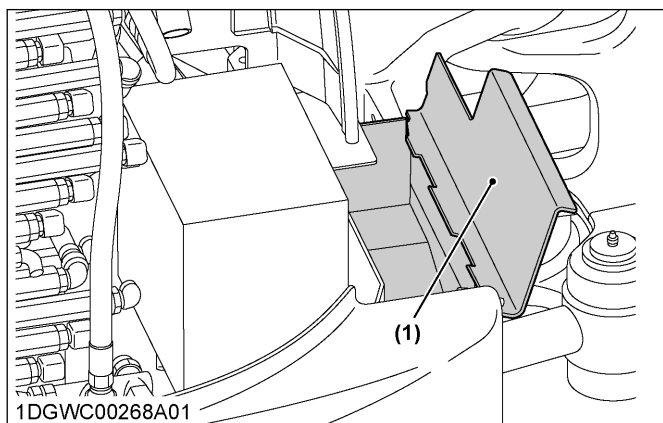
(1) 前カバー



(1) 工具箱

[U-40-6E]

右ボンネットを開けると、工具の収納スペースがあります。

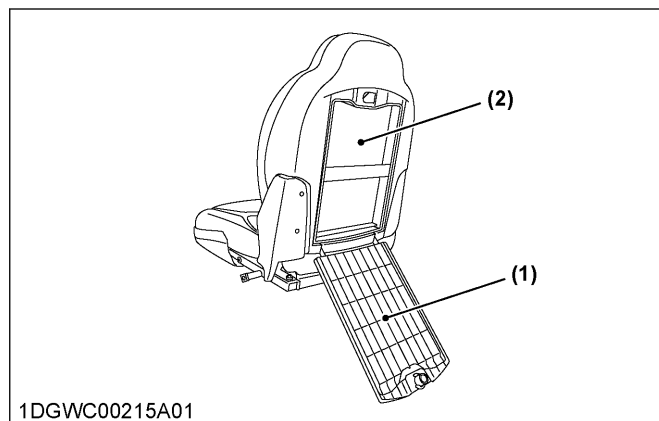


(1) 工具箱

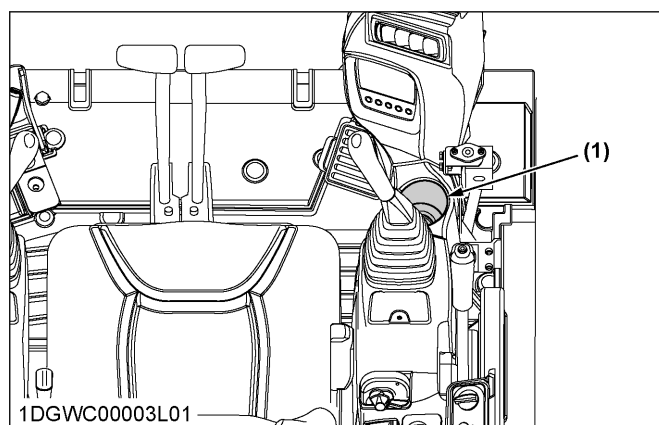
取扱説明書収納部

座席の後に取扱説明書収納部があります。

1. キーをキー穴に入れ、後カバーを開きます。
2. 取扱説明書を収納します。



(1) 後カバー
(2) 取扱説明書収納部

カップホルダ

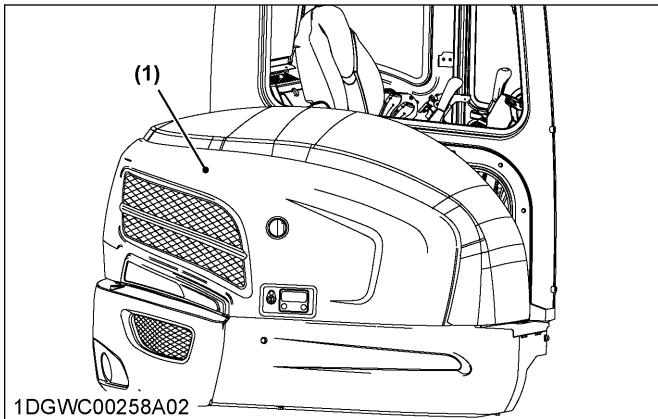
(1) カップホルダ

グリースガン収納部**警告**

- ・ エンジンを始動したまま座席を前に倒したとき、走行レバーが動き車体が動くことがあります。座席を前に倒す場合は必ずエンジンを止めて、作業機操作ロックレバーをロック位置にしてください。

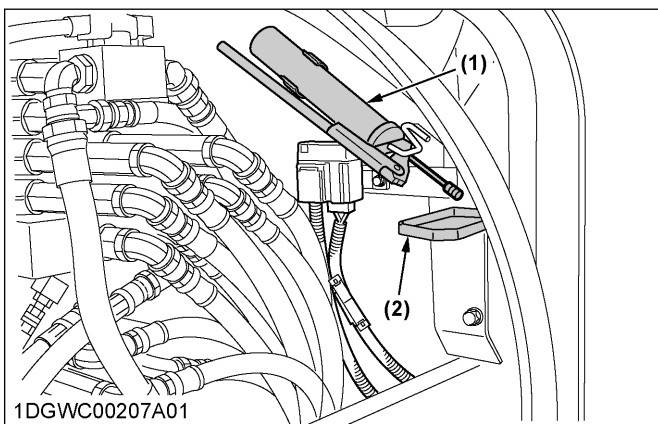
右ボンネットを開けると、中にグリースガン収納部があります。

使用後はグリースガンを金具にはめて、右ボンネットを閉めてください。



(1) 右ボンネット

グリース受け皿にグリースがたまっている場合は、グリースをウエスで拭き取ってください。

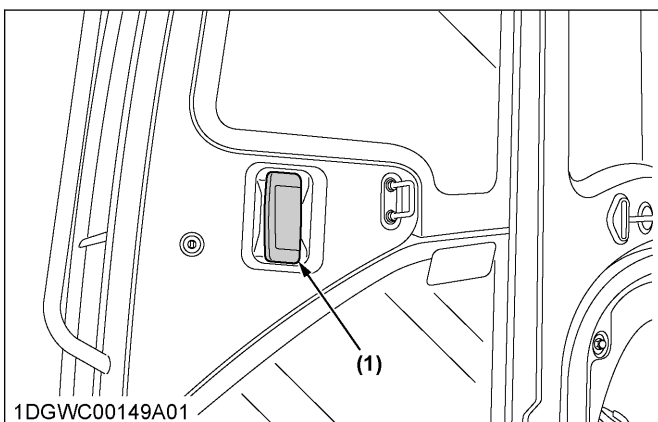


(1) グリースガン
(2) グリース受け皿

キャブドアの開閉 [ROPS キャブ仕様]

開ける時

1. スタータキーで解錠します。
2. 取手を引きドアを引いて開けます。



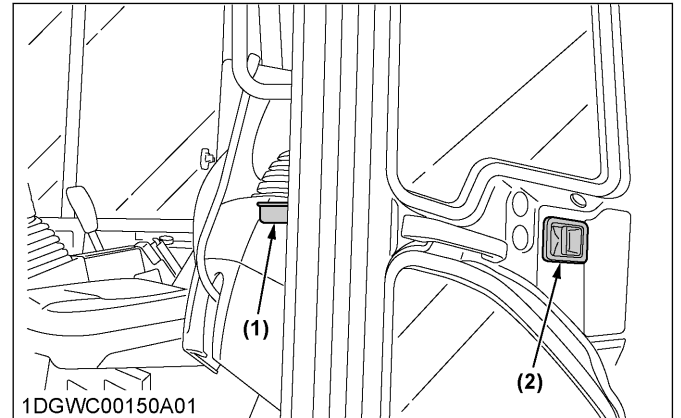
(1) ドア取手 (外側)

補足：

- ・ ドアをいっぱい開けて、端を押せばロックされます。

閉じるとき

1. 解除レバーを下げてロックを外します。
2. ドアを閉めます。



(1) 解除レバー
(2) ドア取手 (内側)

補足：

- ・ 長時間機械から離れる場合は、施錠してください。

キャブフロントウインドウの開閉 [ROPS キャブ仕様]

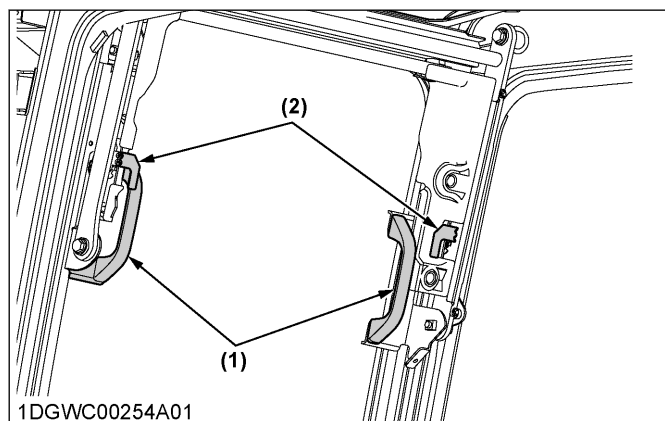


警告

- ・ 開閉の際、フロントウインドウとキャブ側受けの間に足を置いたり、手を置いたりすると、はさまれる危険がありますので、絶対に避けてください。
- ・ 他の人が身をのりだしたりすると、同様の危険がありますので、のりださないでください。

フロントウインドウの開閉は、次の手順で行ってください。

1. ウィンドウ上部左右のロックレバーを押し、ロックを解除します。



- (1) 取手
(2) ロックレバー

2. ウィンドウの上部左右についている取手を両手でしっかり持って、手前に引き気味に持ち上げて、スライドさせながら後方に引き寄せます。
3. 後方に引き寄せた状態で上方に押し上げてロックします。

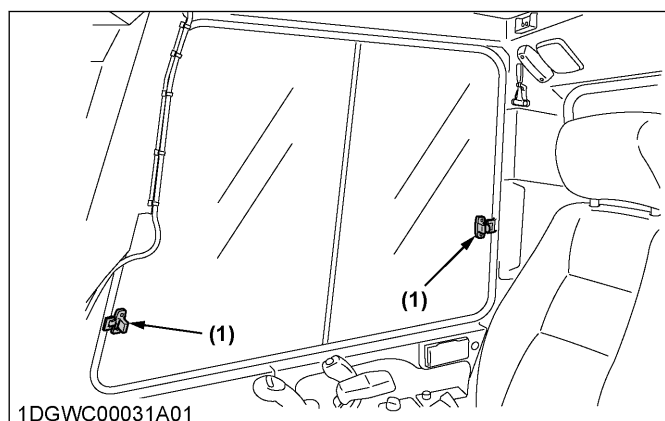
**警告**

- ・ ロックレバーの固定が不十分な場合は、作業中にフロントウィンドウが落下するおそれがあります。確実に固定してください。

4. 閉める場合は、開ける操作の逆の手順となります。

キャブサイドウインドウの開閉 [ROPS キャブ仕様]

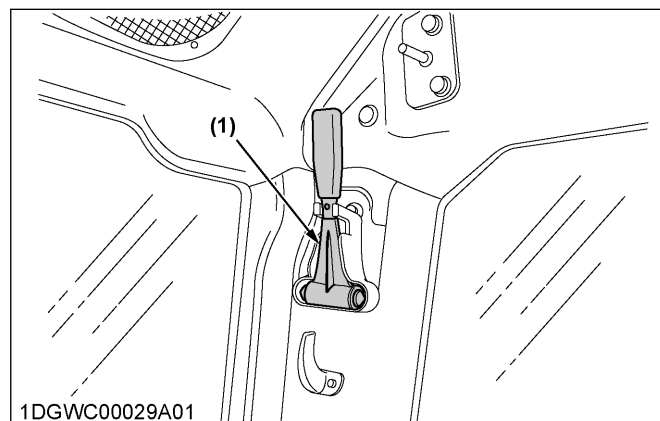
1. グリップを引いて、ロックを解除し、サイドウィンドウを前後に動かして開けます。
2. 閉めるときは、サイドウィンドウのフレームにグリップがロックされるまでサイドウィンドウを動かします。



- (1) グリップ

緊急脱出用ハンマ [ROPS キャブ仕様]

緊急時のキャブ内からの脱出用として緊急脱出用ハンマを設置しています。脱出には、窓ガラスを緊急脱出用ハンマでたたいて割ってから、脱出してください。



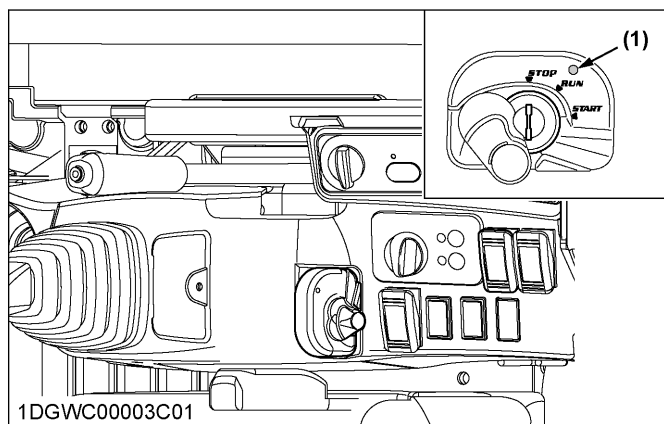
- (1) 緊急脱出用ハンマ

盗難防止装置

本機には登録したキーでしかエンジン始動できない盗難防止装置が付いています。

登録したキーが盗難された場合、その盗難キーの登録を抹消することにより盗難キーでのエンジン始動はできなくなり、機械の盗難を防止します。

また、キー[STOP]時には盗難防止機能が働いていることを示す盗難防止インジケータが点滅しつづけます。必ずインジケータが点滅している事を確認してから機械から離れてください。

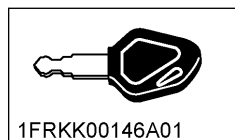


(1) 盗難防止インジケータ

盗難防止装置のキーの取扱い

本機には 2 種類のキーが付属しています。

黒色キー（個別キー）

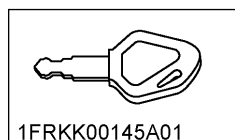


エンジン始動用キーです。操作は今までどおりキー挿入後[START]位置に回すとエンジン始動できます。赤色キーを使って黒色キーを本機に登録するとエンジン始動に使うことができます。本機に登録されていないキーではエンジンは始動しません。

補足：

- スペアキーを含み、最初は 2 個付属しています。付属の黒色キー 2 個はすでに登録済です。最大 4 個まで登録できます。

赤色キー（登録キー）



エンジン始動用の黒色キーを万一紛失した場合、新しい黒色キーを本機に登録するためのキーです。

このキーでエンジン始動はできません。

（使い方の詳細は黒色キーの本機への登録のしかた（79 ページ）を参照）

黒色キー（個別キー）の本機への登録のしかた（黒色キーを紛失したとき）

警告

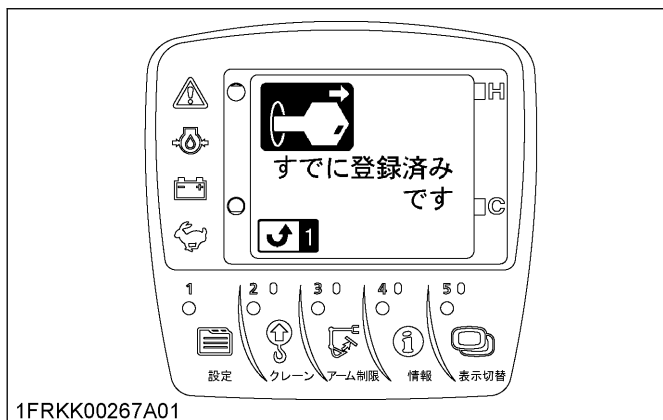
- 盗難防止キーの設定は必ず座席に座って各操作レバーが中立位置にあることを確認してから行ってください。もし怠ると、エンジンの始動と同時に機械が動き出して危険です。
- エンジンの排ガス中には有害な一酸化炭素などが含まれており危険です。排気ガスのたまりやすい室内や、通気の悪い場所では行わないでください。

重要：

- もし登録済みの黒色キーが盗難、または紛失した場合は、残りの黒色キーを再登録してください。再登録すると盗難または紛失した黒色キーの登録は消えて、盗難または紛失した黒色キーでのエンジン始動はできなくなります。
- もし赤色キーが盗難、または紛失した場合は、黒色キー（エンジン始動用キー）の登録、再登録ができなくなります。また、周辺機器の交換が必要となりますので保管にはじゅうぶん注意してください。万一紛失した場合には速やかにクボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。
- 黒色キー、赤色キーに金属製のキーホルダや当社指定以外のリングをつけないでください。キーとキースイッチの間の信号伝達の妨げになり、エンジン始動やキー登録が正常に行えない場合があります。
- 複数のキーをたばねて使用しないでください。電波が混信してエンジンが始動できないことがあります。
- 納車時キーをたばねているリングは切断してご使用ください。（たばねたまま使用すると赤色キーでエンジンが始動したり、正しく再登録できないことがあります。）
- 機械を中古で再販する場合、必ずすべてのキーをつけて販売するか、紛失した場合認定工場に依頼して新たなキーを登録しなおしてから販売してください。

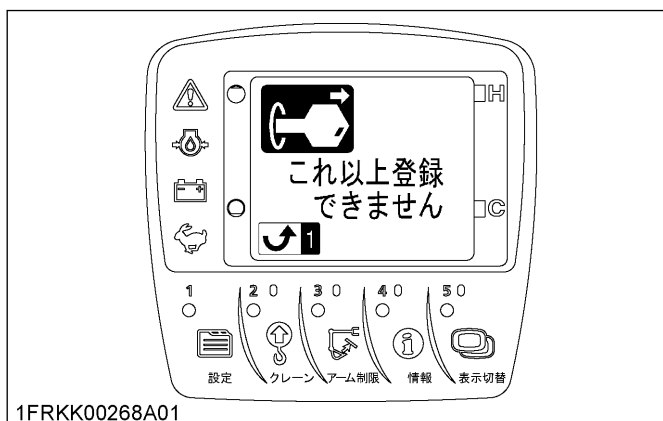
補足：

- 黒色キー登録中に、間違って登録済みの黒色キーを登録しようとする、メータパネルに“すでに登録済みです”と表示され、登録作業はできません。



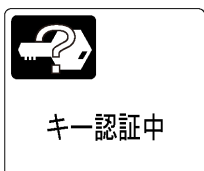
1FRKK00267A01

- 黒色キーを4本以上登録しようとする、メータパネルに“これ以上登録できません”と表示され登録できません。



1FRKK00268A01

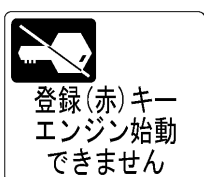
- エンジン始動操作時は、状況に応じて次の表示が出て、エンジンが始動できない場合があります。
 - キーが認証中の場合
また、キー付属以外の金属製のリングやキーホルダをつけている場合や複数のキーをたばねて使用している場合は、この表示が出る場合があります。



キー認証中

1FRKK00191A01

- 赤色キーで始動しようとした場合



登録(赤)キー
エンジン始動
できません

1FRKK00193A01

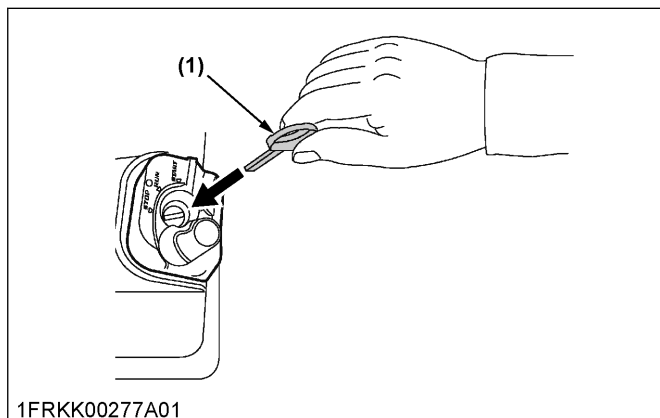
- 登録されていないキー（別の機械など）の場合



キーが違います
エンジン始動
できません

1FRKK00161A01

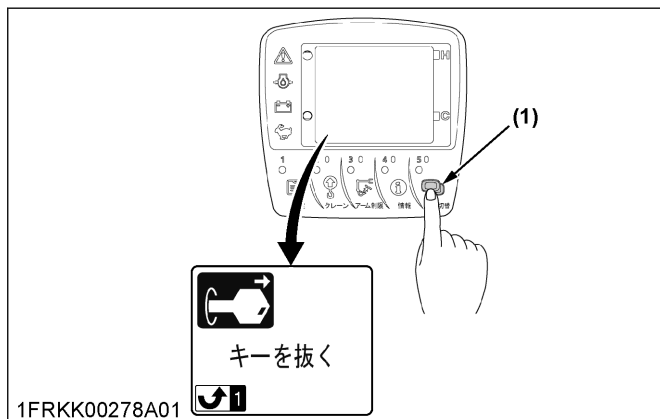
1. 赤色キーをキースイッチに挿入します。
挿入したままで回さないでください。[RUN]位置にしてしまった場合は[STOP]位置にしてください。



1FRKK00277A01

(1) 赤色キー

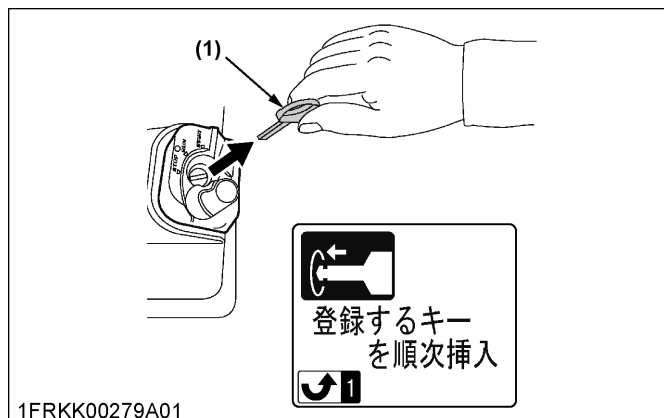
2. 表示切替スイッチを1回押します。
メータパネルに“キーを抜く”と表示されます。



1FRKK00278A01

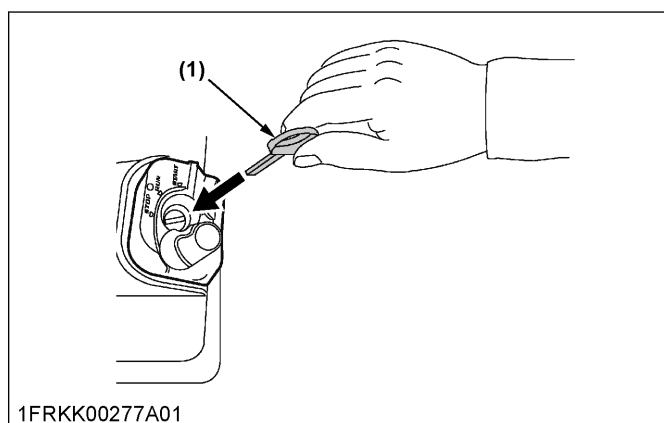
(1) 表示切替スイッチ

3. 赤色キーをキースイッチから抜きます。
メータパネルに“登録するキーを順次挿入”が表示されます。



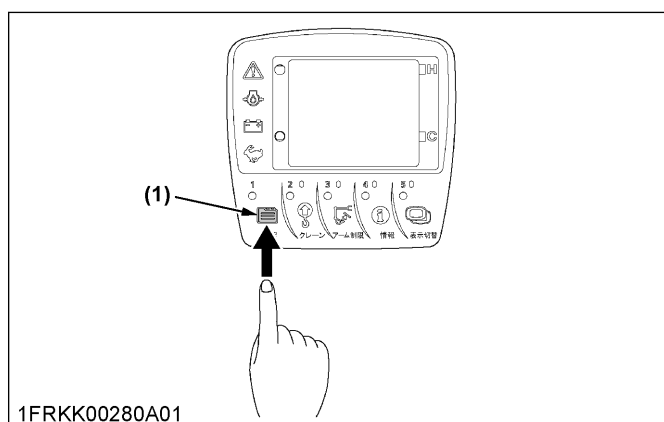
(1) 赤色キー

4. 黒色キーをキースイッチに挿入します。
挿入したままで回さないでください。**[RUN]**位置にしてしまった場合は**[STOP]**位置にして、手順 1.から再度操作してください。



(1) 黒色キー

5. すべての登録作業が完了したら、ユーザー設定スイッチを押します。



(1) ユーザ設定スイッチ

トラックによる輸送

警告

- 本機の質量や寸法に見合ったトラックを選定し、過積載をしないでください。もし怠ると、積み込み時にトラックの運転席が浮き上がったたり、輸送時の安全運転に支障をきたします。
- アユミ板は荷台に掛け金で確実に引っ掛けてください。また、濡れたアユミ板はすべります。特に木製のアユミ板はすべり止めに注意してください。もし怠ると、転落、転倒による傷害事故を引き起こすことがあります。
- アユミ板、プラットフォームを使用せず、本機をジャッキアップしての積み込み、積降ろし作業は絶対に行わないでください。もし怠ると、転落、転倒による傷害事故を引き起こすことがあります。

輸送の際は、道路交通法、道路運送車両法、車両制限令および関連法令を守ってください。

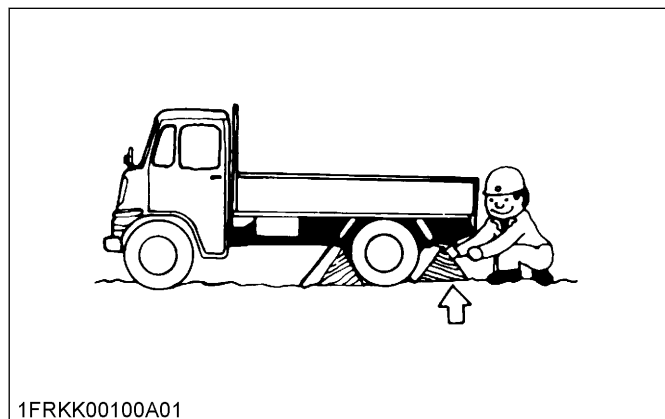
トラックへの積み込み、輸送

警告

- アームを伸ばした状態で積み込むと、本機の重心移動による反動でオペレーターと周囲の人に危険が及ぶ場合がありますので注意してください。

補足：

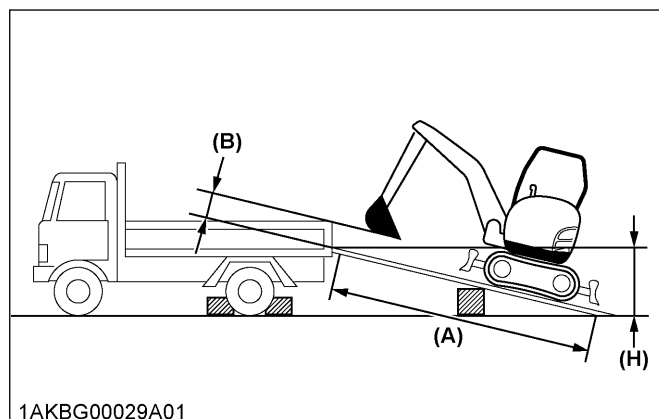
- トラックに積載した状態で、全高が 3.8 m を超えないようにしてください。3.8 m を超える場合は出発地警察署長の許可が必要です。
1. トラックは駐車ブレーキを掛け、タイヤの前後に歯止めをして動かないようにします。



2. じゅうぶんな強度と幅を持ったプラットフォームを掛けます。

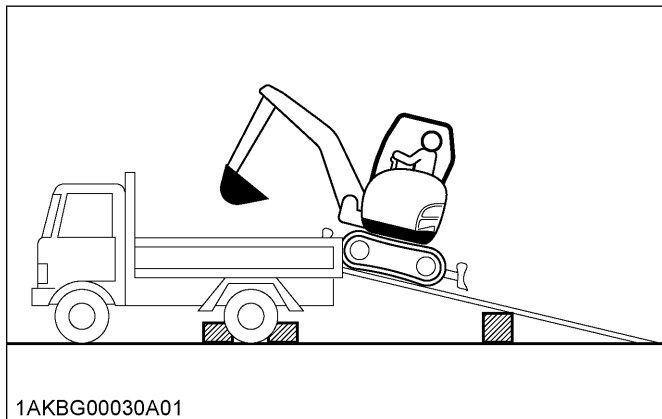
やむを得ずアユミ板を使用するときは、平たんで堅固な場所で行い、じゅうぶんな強度、幅、および長さのものを使用し、左右平行にかけ、クローラと位置あわせを行ってください。また、アユミ板の長さは、トラックの荷台の高さ (H) の 4 倍以上の長さのものを使用してください。アユミ板がトラックから外れないよう、掛け金具付きのアユミ板にするとともに、各部に亀裂などがないか使用前に点検してください。また、アユミ板には支え台を使用して、たわみを防止してください。

3. オートアイドルスイッチを必ず解除 (ランプ消灯) (エンジン回転数が上がった状態) にします。
4. 走行増速スイッチを必ず低速 ( マーク消灯) にします。
5. 本機のトラックへの積み込みは、アームをアユミ板に垂直か少しかき込んだ姿勢で、作業機をアユミ板から 20 cm ~ 40 cm の高さに行います。



- (A) $4 \times (H)$ 以上
(B) 20 cm ~ 40 cm

6. 本機をトラックの荷台に移す前、次図の状態ですわったん停止し、作業機を荷台に軽く接地した後、ゆっくり前進し機体を水平にします。



アユミ板の上で方向修正すると転落のおそれがあります。必要な場合は必ずいったんアユミ板を降りて方向修正の上、登りなおしてください。

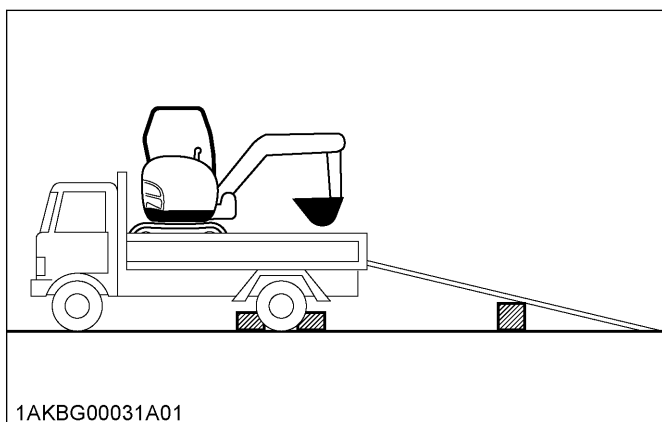
7. 荷台上で所定の位置まで前進した後、アームをかき込んだ状態で車のバランスに注意しながらゆっくり上部旋回体を 180°旋回します。
8. バケットおよびブレードを荷台に降ろし、エンジンを停止して作業機操作ロックレバーをロックします。
9. ワイヤなどを使い本機を荷台に確実に固定します。

トラックからの積降ろし

オートアイドル制御を必ず解除（ランプ消灯）（エンジン回転数が上がった状態）してください。

走行速度を必ず低速（ マーク消灯）にしてください。

1. 作業機を進行方向に向け、荷台床面に対しアームをほぼ垂直か少しかき込んだ姿勢でアユミ板の手前まで前進します。



2. アユミ板に移る前に本機をいったん停止し、機械の重心の急激な移動を避けるため作業機を地面かアユミ板上に軽く接地してゆっくり前進します。

機体の吊上げ

各種クレーンを使用して吊上げ作業をする人は、クレーン本機の運転資格、玉掛資格などの法令を遵守して安全に作業してください。

警告

- 作業員を乗せての吊上げは危険ですので行わないでください。
- 吊上げに使用するワイヤロープは本機の質量に対して、じゅうぶん強度のあるものを使用してください。
- ブームのトサカ部の丸棒は吊上げ用に取り付けたものではありません。危険ですから丸棒にワイヤロープを用いて吊り上げないでください。
- ブームおよびブレードの穴部にシャックルを通して吊り上げる時は、安全のため必ず2か所で吊り上げてください。

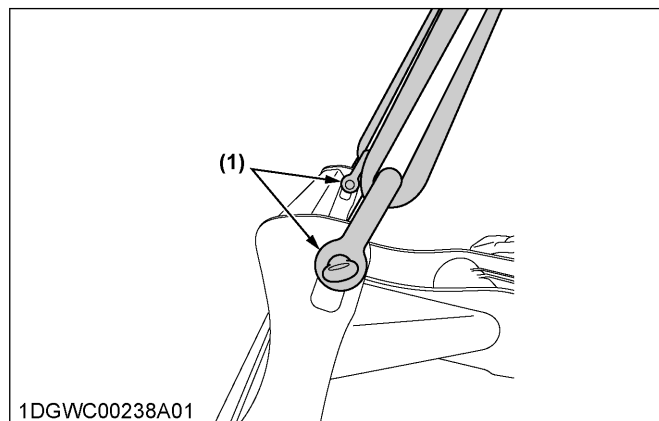
補足：

- 吊り上げるときは、重心位置に注意してバランスをじゅうぶんにとってください。
- ブームをスイングさせたり、上部を旋回させた状態にして吊り上げないでください。

機体を吊り上げるときは、次の要領で行ってください。

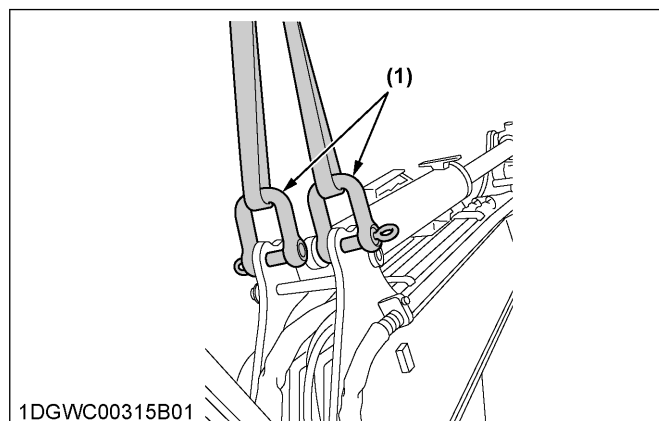
- ブレードの位置が作業機と180°逆になるように上部旋回体を旋回します。
- ブレードをいっぱいまで上げます。
- ブームを上げ、バケット、アームをいっぱいまでかき込みます。
- 作業機操作ロックレバーをロックします。
- ブームをスイングしない状態で、スイングペダルを中立にして、ペダルカバーをかけエンジンを停止します。
- ブレード両端の穴部にシャックル（3.2t以上）を通してワイヤロープをかけ、またブーム上部の穴部2か所にシャックル（2t以上）を通してワイヤロープをかけます。

【ブレード両端】



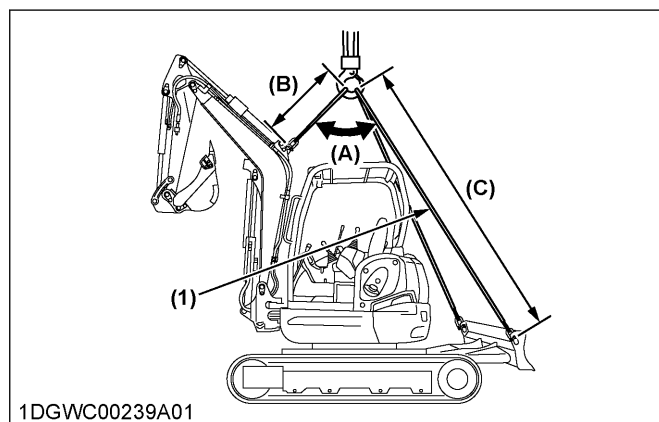
(1) シャックル（2個）

【ブーム上部】



(1) シャックル（2個）

- ワイヤロープの吊り角度を約60°にして吊り上げます。ワイヤロープの長さは図を参照してください。



(1) ワイヤロープ

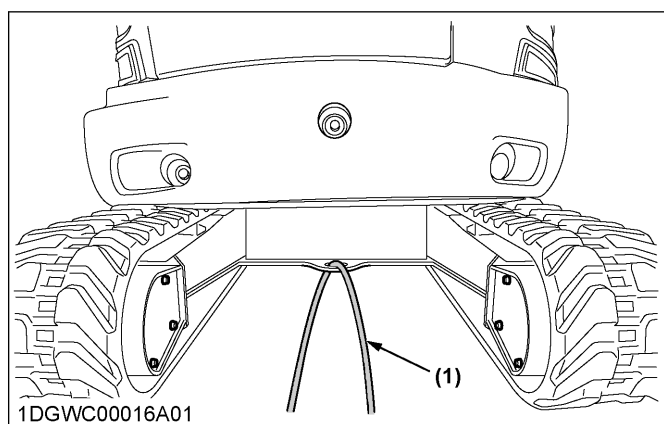
- (A) 約60°
(B) 1.08 m
(C) U-40-6E:3.61 m,
U-55-6E:3.68 m

機体のけん引

**警告**

- 使用するワイヤ、スリングベルトはじゅうぶんに強度のあるものを使用してください。
また、切断や亀裂がないか使用前に確認してください。

機体が泥ねい地にはまり、脱出が不可能になった場合の緊急時には、図のようにワイヤ、スリングベルトを使用してけん引を行ってください。



(1) スリングまたはワイヤ

荷の吊上げ作業の注意事項



警告

- 労働安全衛生規則第 164 条と労働基準局通達基発第 542 号を満たさない荷の吊上げ作業は、荷の落下や転倒の危険が生じるおそれがあるので禁止されています。
- 規則に基づいた荷の吊上げ作業に当たっては、次の事項を遵守してください。
 - 取扱説明書をよく読んで必ず所定の処置を講じた上で安全に作業をしてください。
 - 吊り上げる荷は規定の最大荷重を超えないようにしてください。
- 本機でクレーン代わりの作業をすることは、法律で禁止されていますので、絶対に行わないでください。

ミニバックホーの最大荷重

補足：

- クレーン仕様機は、別冊のクレーン仕様機取扱説明書をご参照ください。

本ミニバックホー（標準仕様機）の最大荷重は次のとおりです。
最大荷重を超えないようにし、安全に作業してください。

本機型式	U-40-6E	U-55-6E
標準アーム	1745 N (178 kgf)	1925 N (196 kgf)

労働安全衛生規則第 164 条（主たる用途以外の使用の制限）

車両系建設機械による荷の吊上げについては、労働安全衛生規則第 164 条により、作業の性質上やむを得ないときなどであって、所定の措置を講じる場合に限るとされています。

以下の規則を満たさない場合の荷の吊上げ作業は絶対にしないでください。

第 164 条

事業者は、車両系建設機械を、パワー・ショベルによる荷のつり上げ、クラムシェルによる労働者の昇降等当該車両系建設機械の主たる用途以外の用途に使用してはならない。

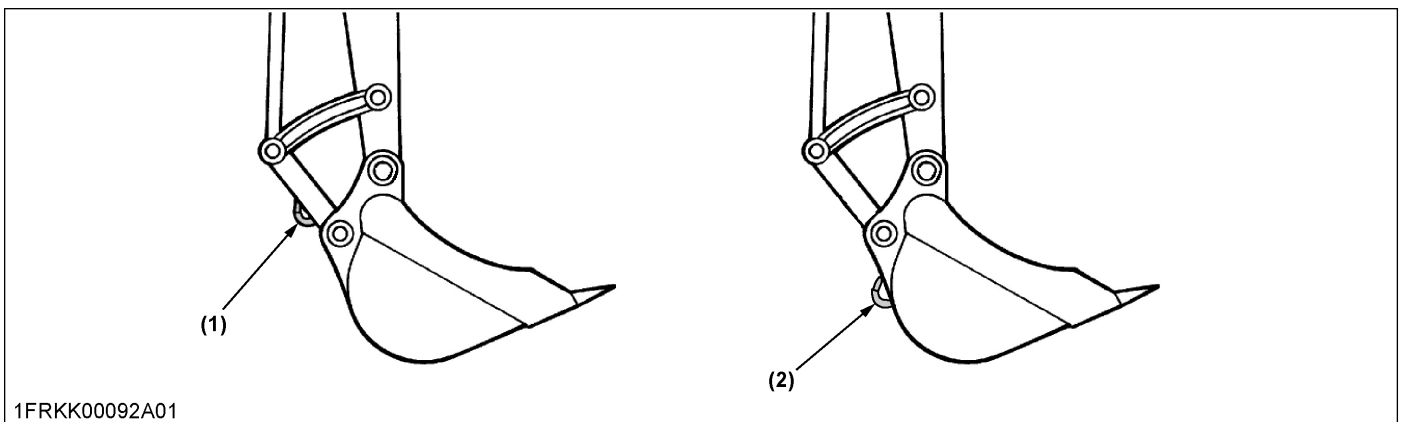
- 前項の規定は、次のいずれかに該当する場合には適用しない。
 - 荷のつり上げの作業を行う場合であって、次のいずれにも該当するとき。
 - 作業の性質上やむを得ないとき又は安全な作業の遂行上必要なとき。
 - アーム、バケット等の作業装置に次のいずれにも該当するフック、シャックル等の金具その他のつり上げ用の器具を取り付けて使用するとき。
 - 負荷させる荷重に応じた十分な強度を有するものであること。
 - 外れ止め装置が使用されていること等により当該器具からつり上げた荷が落下するおそれのないものであること。
 - 作業装置から外れるおそれのないものであること。
 - 荷のつり上げの作業以外の作業を行なう場合であって、労働者に危険を及ぼすおそれのないとき。
- 事業者は、前項第 1 号イ及びロに該当する荷のつり上げの作業を行なう場合には、労働者とつり上げた荷との接触、つり上げた荷の落下又は車両系建設機械の転倒若しくは転落による労働者の危険を防止するため、次の措置を講じなければならない。
 - 荷のつり上げの作業について一定の合図を定めるとともに、合図を行なう者を指名して、その者に合図を行なわせること。
 - 平坦な場所で作業を行なうこと。
 - つり上げた荷との接触又はつり上げた荷の落下により労働者に危険が生ずるおそれのある箇所に労働者を立ち入らせないこと。

4. 当該車両系建設機械の構造及び材料に応じて定められた負荷させることができる最大の荷重を超える荷重を掛けて作業を行わないこと。
5. ワイヤロープを玉掛用具として使用する場合にあっては、次のいずれにも該当するワイヤーロープを使用すること。
 - イ. 安全係数（クレーン等安全規則（昭和 47 年労働省令第 34 号。以下「クレーン則」という。）第 213 条第 2 項に規定する安全係数をいう。次号において同じ。）の値が 6 以上のものであること。
 - ロ. ワイヤロープ 1 よりの間において素線（フィラ線を除く。）のうち切断しているものが 10 パーセント未満のものであること。
 - ハ. 直径の減少が公称径の 7 パーセント以下のものであること。
 - ニ. キンクしていないものであること。
 - ホ. 著しい形崩れ及び腐食がないものであること。
6. つりチェーンを玉掛用具として使用する場合にあっては、次のいずれにも該当するつりチェーンを使用すること。
 - イ. 安全係数の値が 5 以上のものであること。
 - ロ. 伸びが、当該つりチェーンが製造されたときの長さの 5 パーセント以下のものであること。
 - ハ. リンクの断面の直径の減少が、当該つりチェーンが製造されたときの当該リンクの断面の直径の 10 パーセント以下のものであること。
 - ニ. き裂がないものであること。
7. ワイヤロープ及びつりチェーン以外のものを玉掛用具として使用する場合にあっては、著しい損傷及び腐食がないものを使用すること。

バケットまたはバケットリンクにフックを付けて作業する場合の注意事項

一般注意事項

- ・ バケットまたはバケットリンクにフックを付ける場合は、必ず最寄の購入先または、当社サービス認定工場に連絡してください。



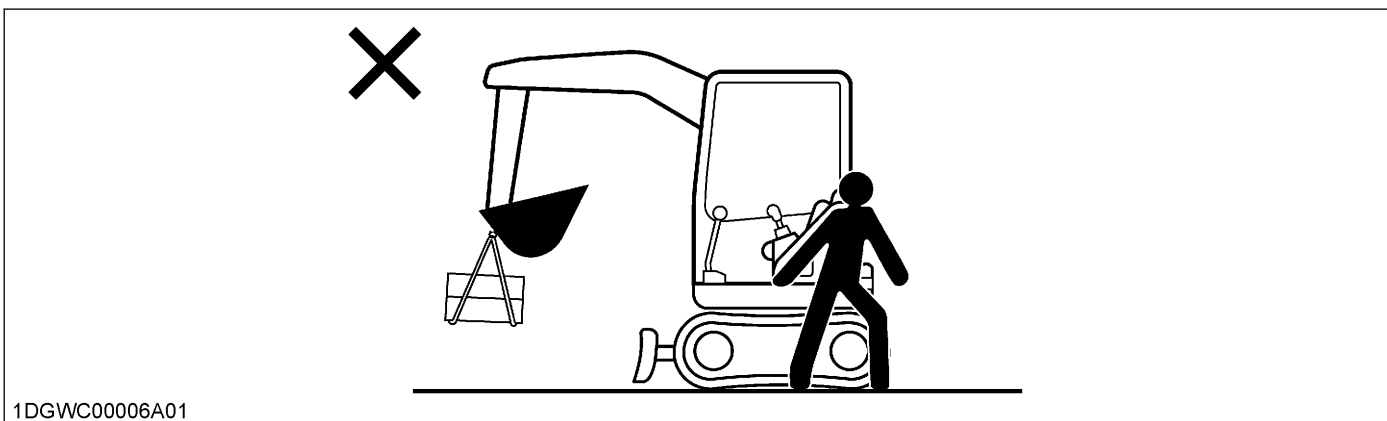
- (1) リンクフック
- (2) バケットフック

- ・ 吊り作業を行う場合には、労働安全衛生規則第 164 条に従い、次の内容に注意して作業を行ってください。
 - － 作業前には、フック、外れ止め金具、およびフック取付け部に異常がないか点検してください。異常があれば、必ず最寄の購入先または、当社サービス認定工場に連絡し必要な措置を依頼してください。
 - － 専用のバケットフックに、確実にワイヤーロープなどの吊り具を取り付けてください。
 - － 合図を行う作業者の指示に従ってください。
 - － 機械の転倒や転落の防止のため、平たんな場所で行ってください。
 - － 作業範囲内に人を近づけないでください。フロントアタッチメントを利用しての人の上げ下げは、絶対に行わないでください。
 - － ワイヤロープなどを玉掛け用具として使用する場合は、労働安全衛生規則に基づき、取り扱ってください。

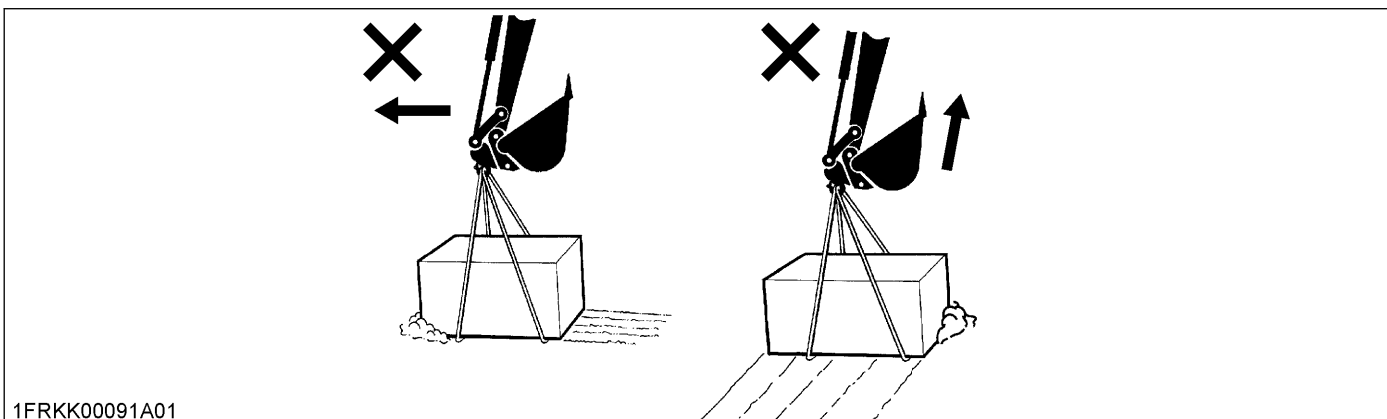
吊り作業時の注意事項

- ・ 吊り荷が大きく揺れると危険です。エンジンの回転数を下げて、コントロールレバーは、ゆっくりと操作してください。
- ・ 旋回操作を行う場合は、特に周囲の安全に注意して作業してください。

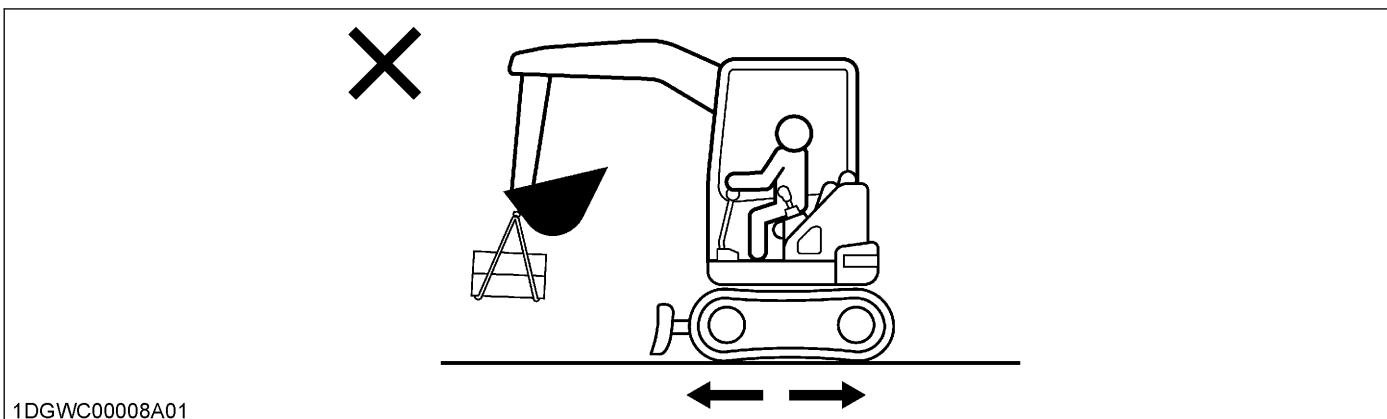
- 荷を吊ったままの状態では運転席を離れることは絶対に行わないでください。



- 規定の吊上げ荷重を厳守してください。
- 規定以上の吊上げ荷重や、衝撃荷重、および機械の損傷をまねくおそれのある作業は行わないでください。
- 荷の引きずりは、危険ですので行わないでください。



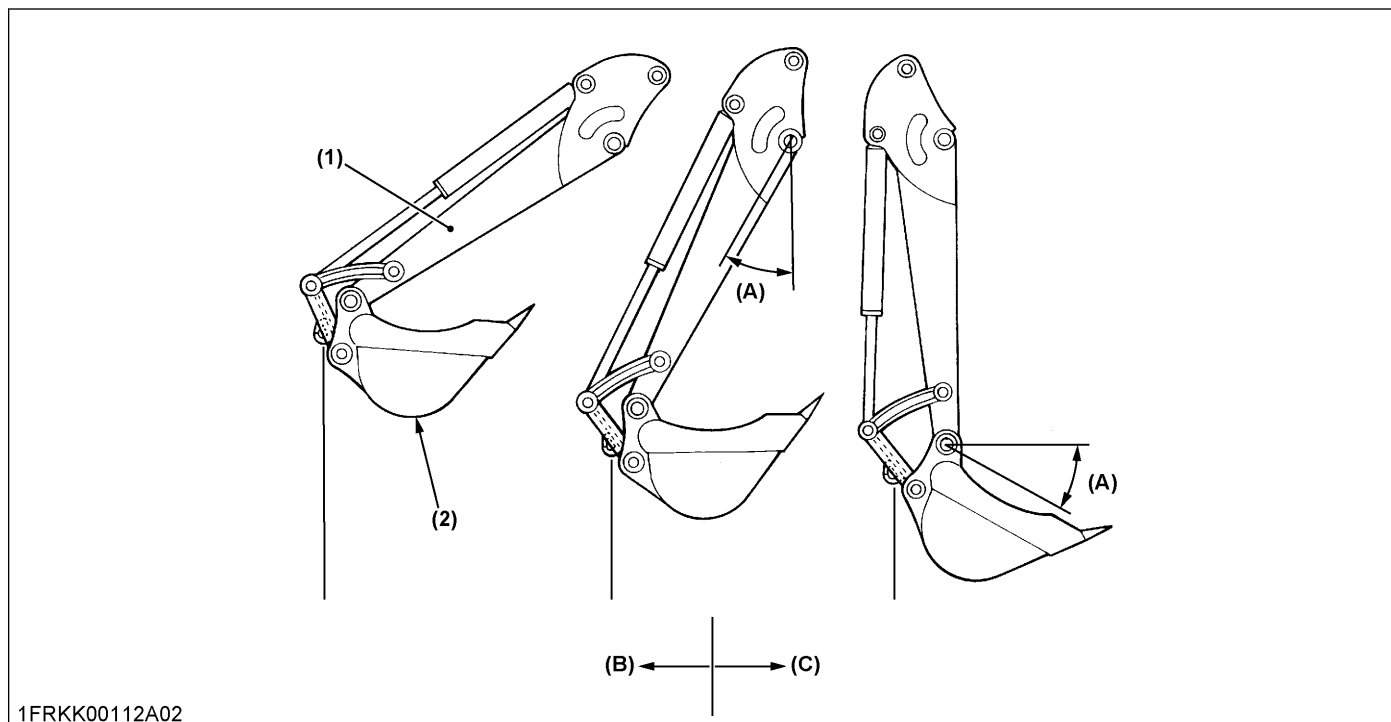
- 荷を吊った状態での走行は、絶対に行わないでください。



- バケットの角度によって、吊り具などがフックの外れ止め金具から外れて落下するおそれがあります。バケットを巻き込みすぎないようにじゅうぶんに注意してください。

バケットリンクにフックを溶接した場合の吊り作業の注意事項

アームが垂直位置付近でバケットをかき込むと玉掛用具がフックの外れ止めに掛かるおそれがあるので次図を参考にバケットのかき込み姿勢を選んでください。

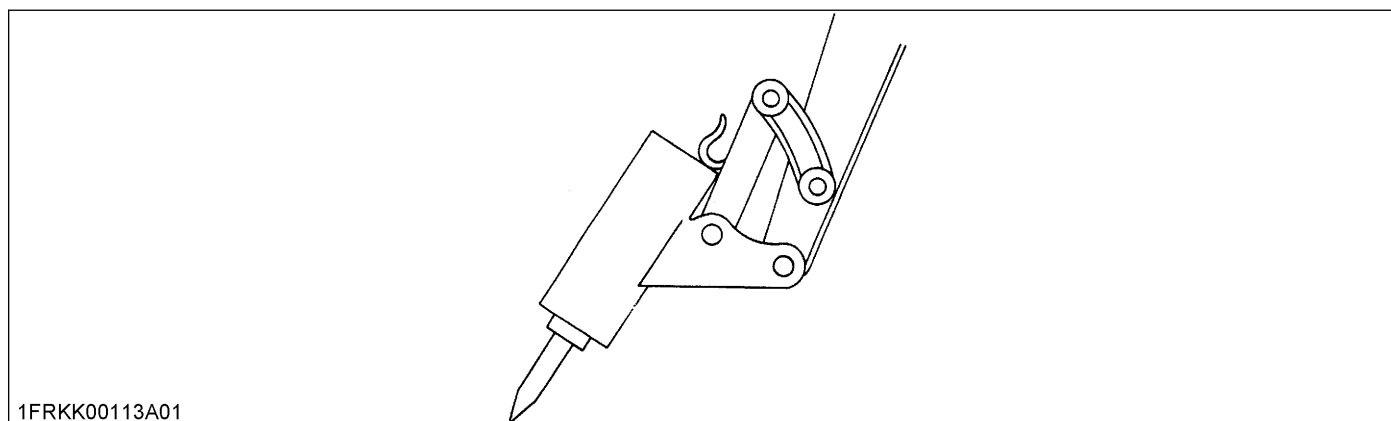


(1) アーム
(2) バケット

(A) 30°
(B) バケットを水平よりかき込んで使用可能
(C) バケットを水平よりダンプさせて使用すること

バケットリンクにフックを溶接した場合のバケット以外の作業機について

バケットリンクにフックを溶接して使用する場合は、バケットを前提としております。
バケット以外の作業機（ブレーカ、フォーククローなど）をフック溶接後に使用する場合は、作業機とフックが干渉するおそれがありますので、注意して使用してください。



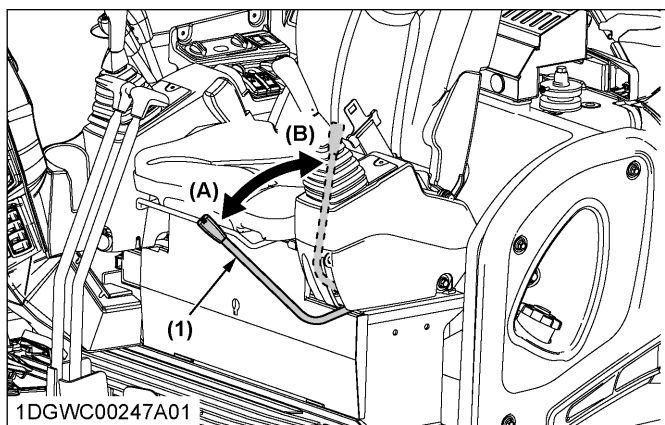
メンテナンス

⚠ 警告

- 給油および点検整備するときは、次の手順で行ってください。
 1. 本機を平たんな広い場所に置きます。
 2. バケットおよびブレードを地面に接地します。
 3. エンジン进行を止めます。
 4. 各操作レバーを操作して残圧が抜けたことを確認します。
 5. スタータキーを抜き安全確認を行います。
 6. 給油および点検と整備を行います。
- ⚠黄色ページの点検整備時の注意をよく読んで作業を行ってください。
(詳細は点検整備時の注意(15 ページ)を参照)

油圧回路の残圧の抜き方

1. バケットおよびブレードを接地します。
2. スタータキーを[STOP]の位置にし、エンジンを停止します。
3. エンジンが停止したら、スタータキーを[RUN]位置にします。
4. 作業機操作ロックレバーを解除位置にします。



(1) 作業機操作ロックレバー (A) 解除 (B) ロック

5. 作業機操作レバーを動かして、油圧回路の残圧を抜きます。

廃棄物の処理

⚠ 警告

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは、次の事を守ってください。

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、および海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、およびその他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

⚠ 警告

- 機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次の事故または故障が発生するおそれがあります。

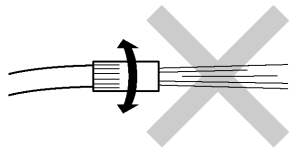
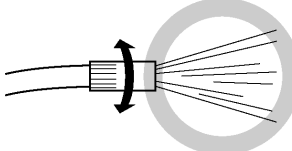
- 電気配線部被覆の損傷や断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
- 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
- 機械の破損、損傷、または故障の原因になります。

例)

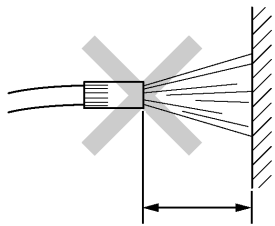
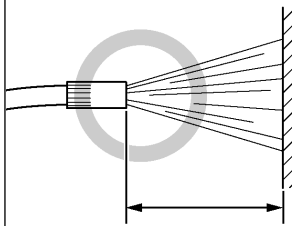
- ・ シールやラベルの剥がれ
- ・ 電子部品、エンジン、安全キャブ室内などへの浸入による故障
- ・ タイヤ、オイルシールなどのゴム類、樹脂類、ガラスなどの破損
- ・ 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、および故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書およびラベルに従って、正しく使用してください。

直射洗車厳禁

直射	拡散
 1LMSE00008A01	 1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁

 1LMSE00036A01	 1LMSE00036B01
2 m 未満	2 m 以上

プラスチック部品と合成皮革の洗浄

- プラスチック部品や合成皮革の汚れを取り除くときは、やわらかい布で拭いてください。
- 汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭いてください。
- 表面に残った洗剤や水分は、水を含ませてからかたく絞ったやわらかい布で拭き取ってください。
- アルコールやベンジンなどの有機溶剤や、アルカリ性や酸性の溶剤などが付着すると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

仕業点検

1. 仕業点検一覧表

項目		補給または交換する油脂、部品	参照ページ
前回使用時の異常箇所		—	—
冷却水の点検と補給		—	93
各部のオイル量	燃料の点検と補給	JIS2 号軽油	93
	エンジンオイルの点検と補給	エンジンオイル（DH-2 級）	94
	作動油の点検と補給	作動油	95
ウォーターセパレータの水、沈殿物の点検と洗浄		—	96
ラジエータ、オイルクーラ、および燃料クーラの点検と掃除		—	97
バキューエータバルブの掃除		—	98
エアクリーナのインジケータの点検 [U-40-6E のみ]		—	98
バッテリー、配線、およびエンジン周りの点検と清掃		—	98
DPF の点検と掃除		—	99
ウィンドウォッシュ液の点検 [ROPS キャブ仕様]		—	99
2 ポスト TOPS キャノピ、4 ポスト ROPS キャノピ、および ROPS キャブの点検		—	99
本機洗車の方法		—	99
排気ガス漏れの点検		—	100
角度検出装置の点検 [アームかき込み制限仕様]		—	100
ファンベルトの点検			100
エアコンベルトの点検 [ROPS キャブ、エアコン仕様]			100
作業機部分の給脂	ブーム根元	グリース、極圧添加 EP2	100
	アーム根元		
	ブームシリンダボス		
	アームシリンダボス		
	バケットシリンダボス		
	スイングシリンダボス		
	ブレードシリンダボス		
	ブレード根元ピン		
	バケット用ピン		
	スイング支点ピン		

2. 冷却水の点検と補給



警告

- ・ 運転中や運転停止直後にラジエータキャップを開けると蒸気や熱湯が噴出しヤケドすることがあります。ラジエータが冷えてからラジエータキャップを開けてください。

重要：

- ・ 冷却水は、リザーブタンク[FULL]以上は入れないでください。
- ・ 泥水や海水は絶対に補給しないでください。
- ・ ロングライフクーラントを補給してください。
ロングライフクーラントの混合比は不凍液 50 %、水 50 %です。守らない場合、低温での凍結、オーバーヒート温度の低下につながります。
- ・ ラジエータキャップは通常の場合開けないでください。

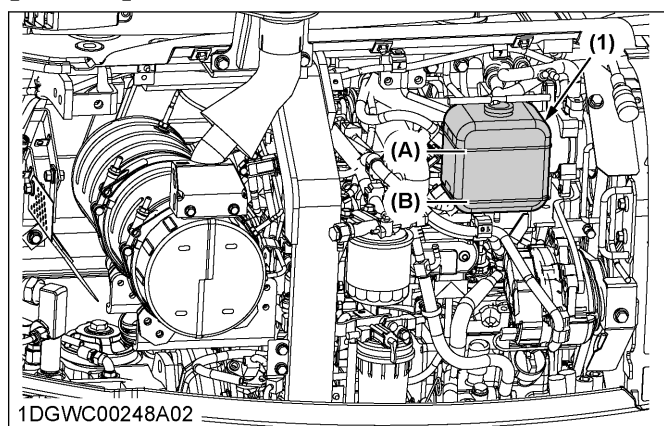
補足：

- ・ 冷却水の点検は、エンジンが冷えているときにリザーブタンクで行ってください。
- ・ 工場出荷時は、冷却水としてロングライフクーラント（混合割合：不凍液 50 %、水 50 %）が入っています。

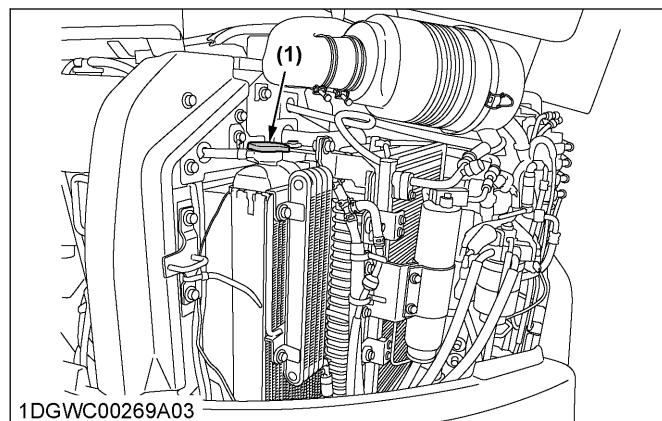
1. 後ボンネットを開けます。
2. リザーブタンクの冷却水が規定量入っているか点検します。
水面がリザーブタンクの[FULL]～[LOW]の間であれば正常です。

	【キャノピ仕様】	【キャブ仕様】
冷却水	約 7.8 L	約 8.1 L

【U-40-6E】

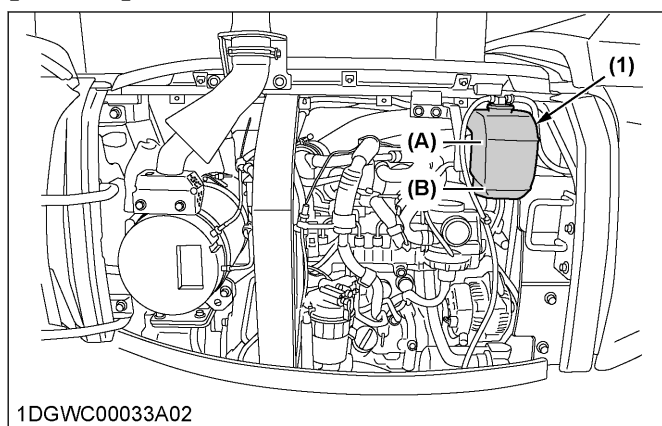


1DGWC00248A02
(1) リザーブタンク (A) FULL (B) LOW

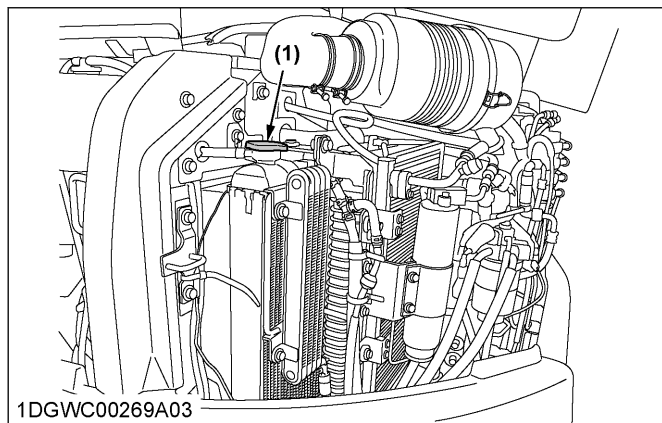


1DGWC00269A03
(1) ラジエータキャップ

【U-55-6E】



1DGWC00033A02
(1) リザーブタンク (A) FULL (B) LOW



1DGWC00269A03
(1) ラジエータキャップ

3. 冷却水が不足している場合、ラジエーターキャップを外し、リザーブタンクへロングライフクーラントを補給します。

3. 燃料の点検と補給



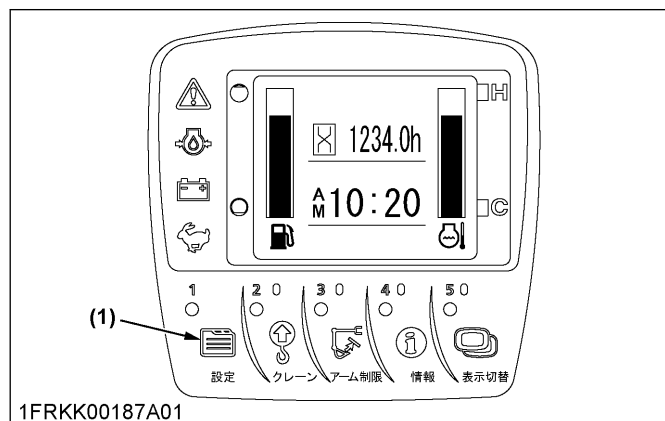
警告

- ・ 燃料を補給する際は必ずエンジンを停止してください。
- ・ 火気を絶対に近づけないでください。

もし怠ると、火災を起こすおそれがあります。

補足：

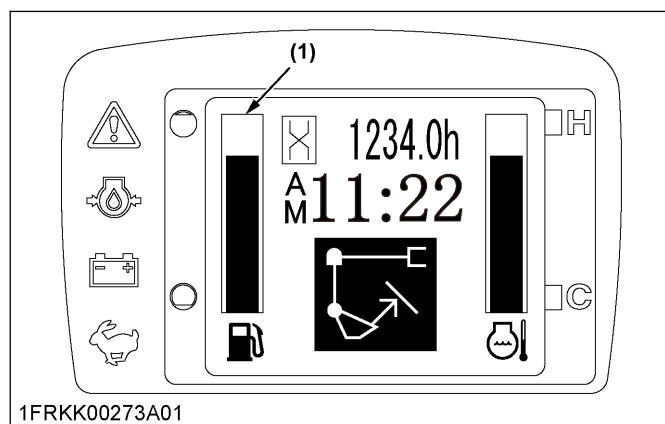
- 燃料キャップはキャップからキーを抜くと開きません。
- 作業終了後は、燃料タンクが満タンになるように補給し、キャップを確実に締めてください。
- 燃料の補給をする場合は、必ず燃料タンクのストレーナを通してください。
- 燃料タンク内にゴミや水などの異物が混入しないよう、じゅうぶんに注意してください。
- 燃料タンクを空にすると、燃料系統に空気が入ります。もし空気が混入したときはエア抜きをしてください。
(エア抜きのしかたの詳細は燃料系統のエア抜き (129 ページ) を参照)
- スタータキーを挿入しない状態でも、電子メータのユーザー設定スイッチ (スイッチ 1)、表示切替スイッチ (スイッチ 5) のどちらかを押すと約 10 秒間液晶モニタにアワメータ、燃料、および水温が表示され、確認することができます。



(1) ユーザー設定スイッチ

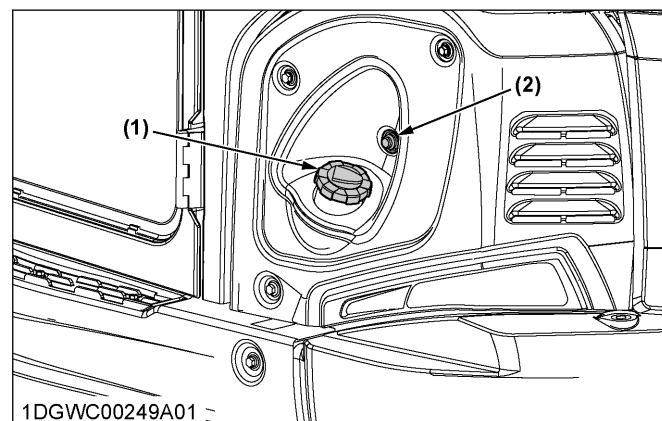
- 満タンお知らせブザースイッチを押すと、同様の表示が液晶モニタに出ると同時に、満タンお知らせブザーの機能が働きます。
(詳細は、燃料補給 (満タンお知らせブザー) (35 ページ) を参照)

1. 燃料計で燃料の残量を点検します。

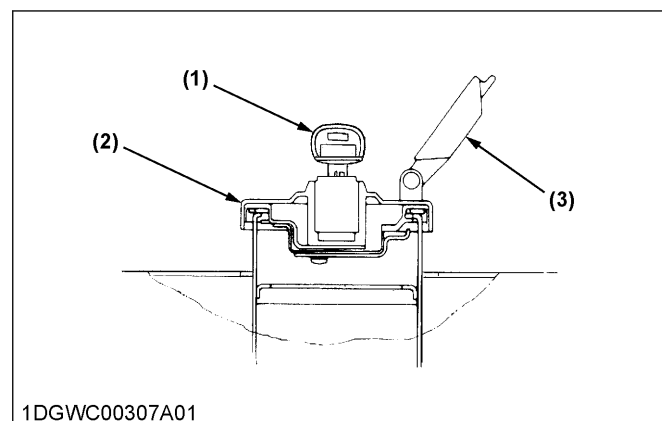


(1) 燃料計

2. 燃料が少ない場合は、燃料タンクのキャップを開けて、燃料口から補給します



(1) キャップ
(2) 満タンお知らせブザースイッチ



(1) キー
(2) キャップ
(3) キャップカバー

4. エンジンオイルの点検と補給

警告

- エンジンオイルを補給する際は、オルタネータの端子に体が接触しないよう注意してください。

重要：

- エンジンオイルは、気温に適した粘度のオイルを使ってください。
(詳細は推奨オイルとグリース一覧表 (141 ページ) を参照)
- エンジン停止直後では、機体内の各部にオイルが残っていますので正確なオイル量が測れません。機体を水平にして少なくとも 5 分以上たってから点検してください。
- 点検後はオイルゲージを確実に挿入してください。
- DPF (ディーゼルパーティキュレートフィルタ) 再生時に燃料の一部がエンジンオイルに混ざり、オイルが希釈 (増加) される場合があります。オイルゲージの上限を超えた場合は、オイル希釈が限界を超

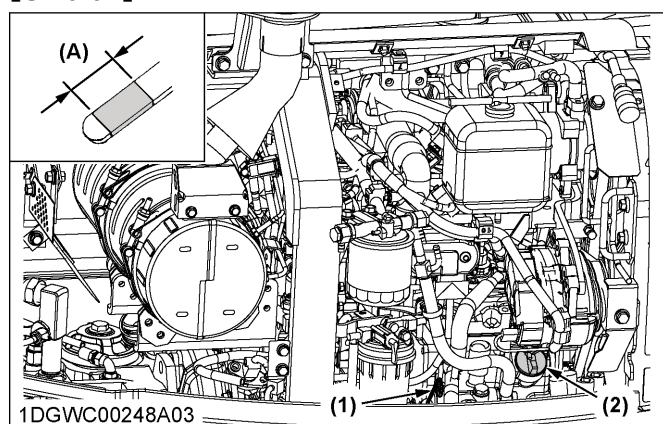
え故障の原因になるので直ちにオイルを交換してください。

- DPF 再生の間隔が 5 時間以下になった場合はオイルを交換してください。

1. 後ボンネットを開けます。
2. オイルゲージを引き抜き、エンジンオイルが規定量入っているか点検します。
オイルゲージでオイル量が次図に示す範囲であれば正常です。

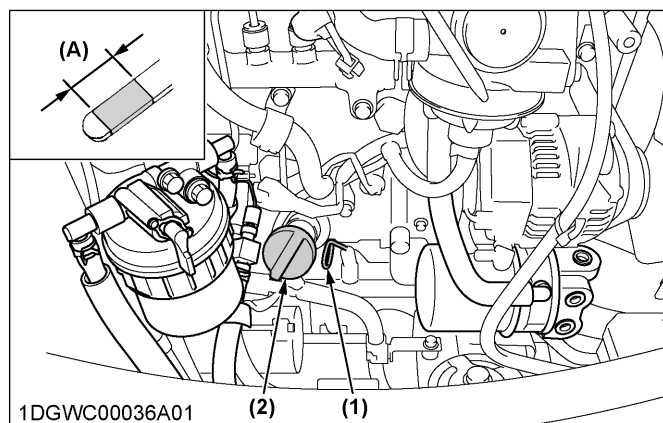
	[U-40-6E]	[U-55-6E]
エンジンオイル量	約 5.0 L (フィルタ含む)	約 9.0 L (フィルタ含む)

[U-40-6E]



- (1) オイルゲージ (A) 適量範囲
(2) 給油口

[U-55-6E]



- (1) オイルゲージ (A) 適量範囲
(2) 給油口

3. 不足している場合、給油口より補給します。

補足：

- ・ エンジンオイルは推奨品を使ってください。
(詳細は推奨オイルとグリース一覧表 (141 ページ) を参照)

5. 作動油の点検と補給

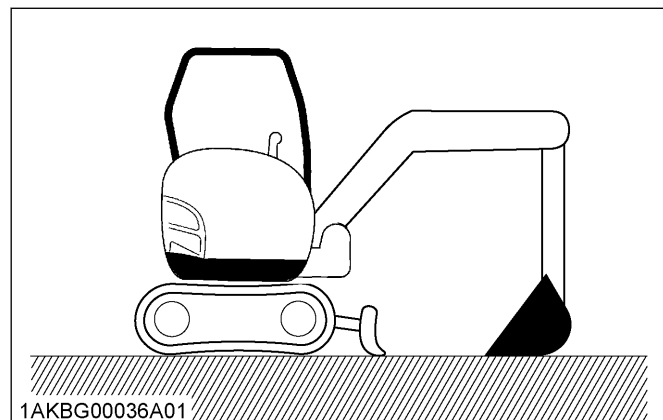
警告

- ・ 作動油タンクの給油口を外すときは、油温が完全に下がってから外してください。油が噴出し、ヤケドをする可能性があります。
- ・ エンジンを停止して、給油キャップをゆっくり開けてタンクの内圧を抜いてください。

重要：

- ・ 次記と異なる作業機姿勢や傾斜地で補給すると、作動油の過不足が生じます。必ず、水平な場所で指定の作業機姿勢にして補給してください。
- ・ 補給する場合は、付近の砂やゴミをよく拭き取り、必ず同一銘柄の作動油を使用してください。
工場出荷時の作動油銘柄は、推奨オイルとグリース一覧表に記載しています。
(詳細は推奨オイルとグリース一覧表 (141 ページ) を参照)
絶対に他銘柄と混合しないでください。
- ・ 油面計の上限を超えて給油すると、キャップより油が噴出する場合があります。

1. 機体を水平な場所に止め、スイング中央、アーム垂直、バケット底水平で、バケットおよびブレードを地面に接地します。

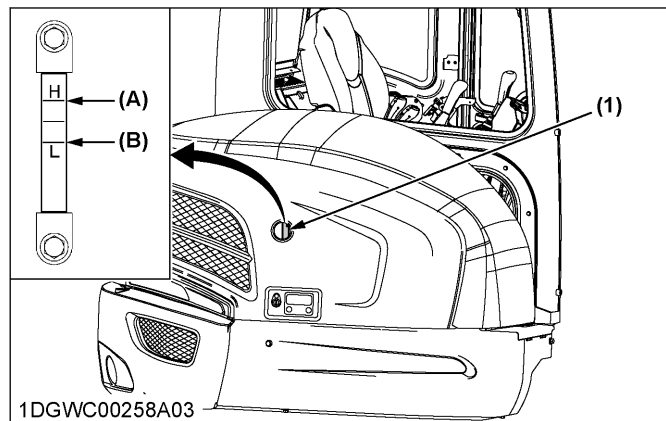


2. 油面計で作動油の量を点検します。

- ・ [U-40-6E]
常温 (10 °C ~ 30 °C) において油面計の H ~ L の間にあれば正常です。
- ・ [U-55-6E]
常温 (10 °C ~ 30 °C) において油面計の中央にあれば正常です。

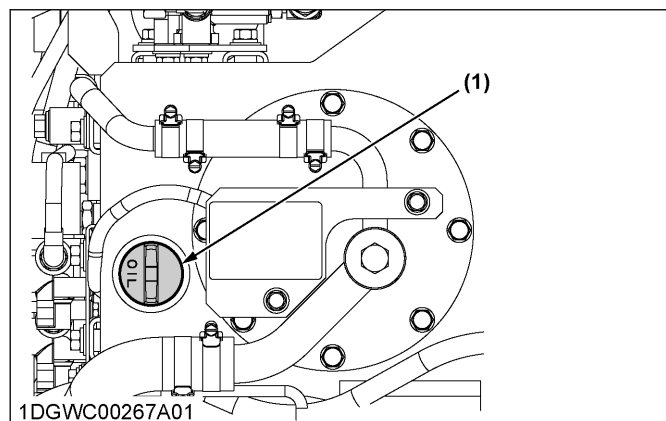
3. 不足しているときは、給油口より補給します。
作動油に水などが混入したときは、全量交換をしてください。
(詳細は作動油の交換 (114 ページ) を参照)

【U-40-6E】



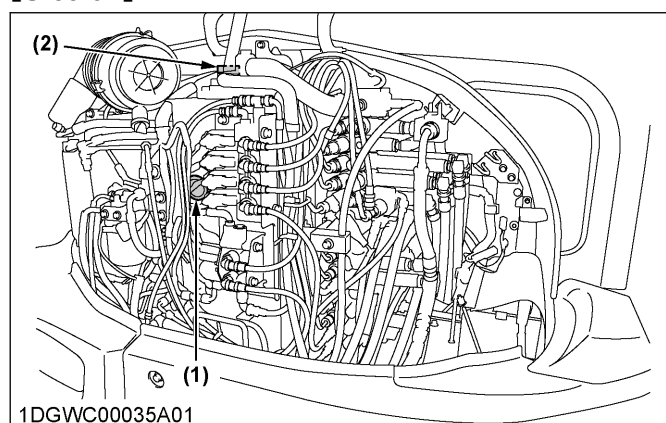
(1) 油面計

(A) H (上限)
(B) L (下限)



(1) 給油口

【U-55-6E】



(1) 給油口
(2) 油面計

作動油オイル交換容量	U-40-6E	全油量 69 L (オイルゲージ中央時 32 L)
	U-55-6E	全油量 79 L (オイルゲージ中央時 45 L)

6. ウォータセパレータの水および沈殿物の点検と洗浄

重要：

- 次のメッセージが表示されたら、ただちに水を排出してください。
(この表示が出ると、警告音も発せられます。)



燃料水混入

1DGWC00294A01

U-55-6E は、ウォータセパレータと燃料フィルタの排水を行ってください。

(詳細は燃料系統の排水 (122 ページ) を参照)

- 清掃は、軽油もしくは洗浄油で行ってください。
- 組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。
- 必ず燃料系統のエア抜きをしてから、運転してください。
(詳細は燃料系統のエア抜き (129 ページ) を参照)

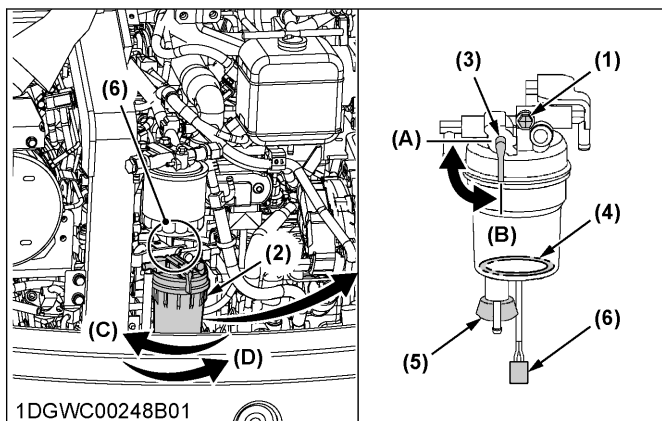
点検と水抜き

燃料中に含まれる水やゴミがウォータセパレータ内に沈殿します。水やゴミがたまったら排出してください。

- ウォータセパレータハンドルを[OFF]位置にします。
- 上部のネジをゆるめ、下部のコックをゆるめて、水とゴミを取り除きます。
- ウォータセパレータハンドルを[ON]位置にします。
- 燃料系統のエア抜きを行います。

洗浄【U-40-6E】

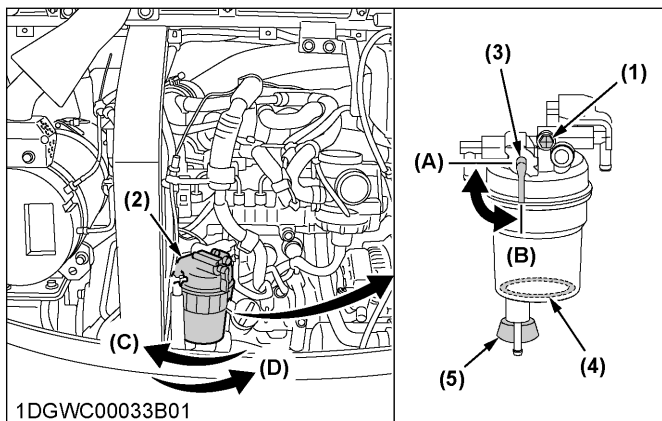
- ウォータセパレータハンドルを[OFF]位置にします。
- 水位センサのコネクタを外します。
- カップ本体をゆるめてカップを外し、内部を軽油で洗浄します。
- カップ本体を確実に締め付けます。
- 水位センサのコネクタを元どおりに取り付けます。
- ウォータセパレータハンドルを[ON]位置にします。



- | | |
|-------------------|-----------|
| (1) ネジ | (A) [OFF] |
| (2) カップ | (B) [ON] |
| (3) ウォータセパレータハンドル | (C) ゆるめる |
| (4) フロート | (D) 締める |
| (5) コック | |
| (6) 水位センサのコネクタ | |

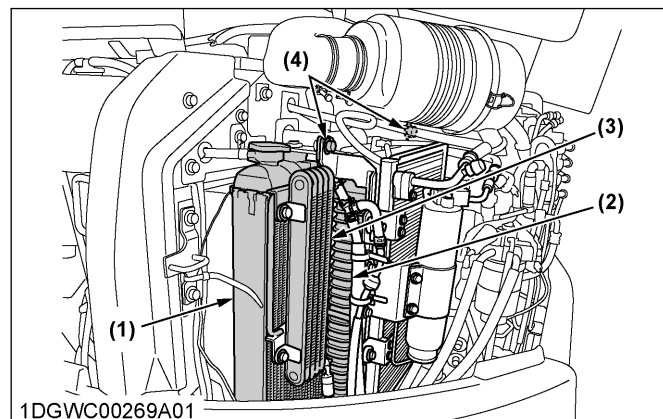
洗浄【U-55-6E】

1. ウォータセパレータハンドルを[OFF]位置にします。
2. カップ本体をゆるめてカップを外し、内部を軽油で洗浄します。
3. カップ本体を確実に締め付けます。
4. ウォータセパレータハンドルを[ON]位置にします。

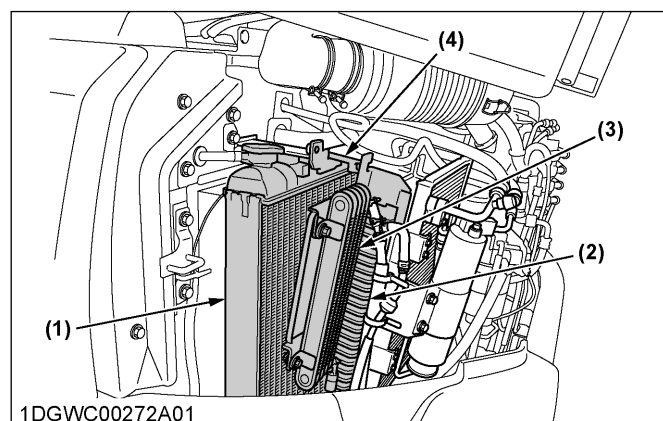


- | | |
|-------------------|-----------|
| (1) ネジ | (A) [OFF] |
| (2) カップ | (B) [ON] |
| (3) ウォータセパレータハンドル | (C) ゆるめる |
| (4) フロート | (D) 締める |
| (5) コック | |

1. フィンの目詰まりを点検します。
2. もし詰まっていれば圧縮空気またはスチームで吹き飛ばします。その際、必ず安全メガネを着用してください。ストッパを手前に倒して、ボルト2本を外すと、オイルクーラが手前に倒れますので、掃除がしやすくなります。



- | |
|------------|
| (1) ラジエータ |
| (2) オイルクーラ |
| (3) 燃料クーラ |
| (4) ボルト |



- | |
|------------|
| (1) ラジエータ |
| (2) オイルクーラ |
| (3) 燃料クーラ |
| (4) ストッパ |

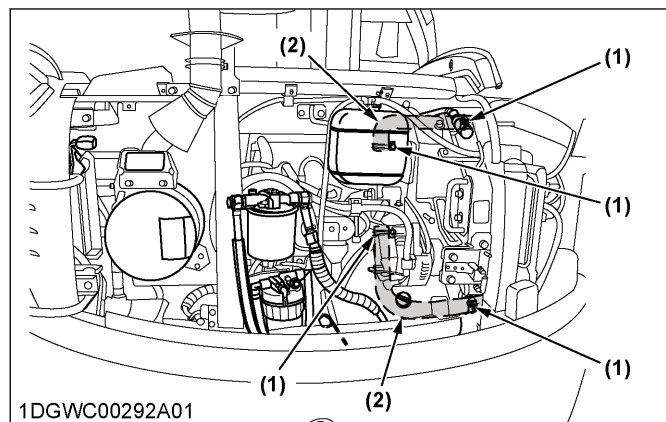
7. ラジエータ、オイルクーラ、および燃料クーラの点検と掃除

重要：

- ラジエータ、オイルクーラ、および燃料クーラのフィンは変形しやすいものです。掃除の際は変形させないようにご注意ください。変形の度合いによってはオーバーヒートや作動油温の上昇をまねき機器類の不良の原因となります。

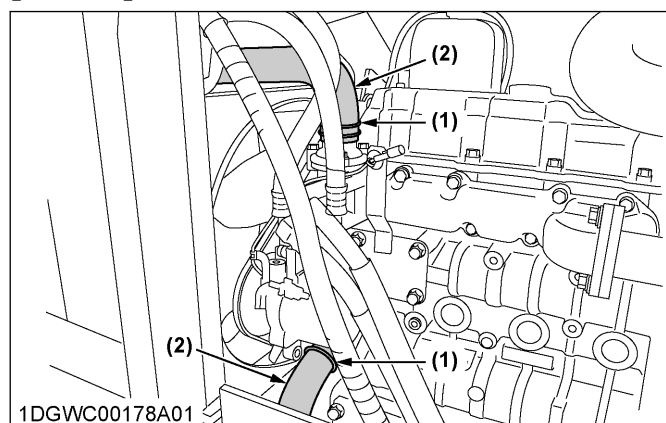
- ラジエータホースを点検します。ひび割れしたり、もろくなっていたら交換します。また、締付バンドのゆるみも点検します。

[U-40-6E]



- (1) 締付バンド
(2) ラジエータホース

[U-55-6E]



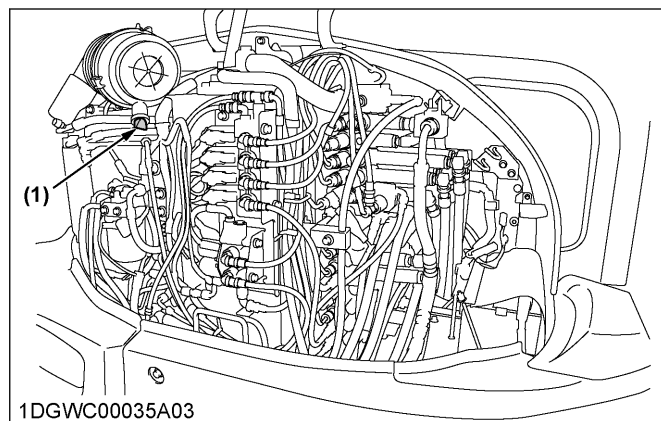
- (1) 締付バンド
(2) ラジエータホース

8. バキューエータバルブの掃除

警告

- エンジンを停止し、スタータキーを抜いてから作業を行ってください。

- 右ボンネットを開けます。
- バキューエータバルブを開きます。
- ホコリとゴミを取り除きます。

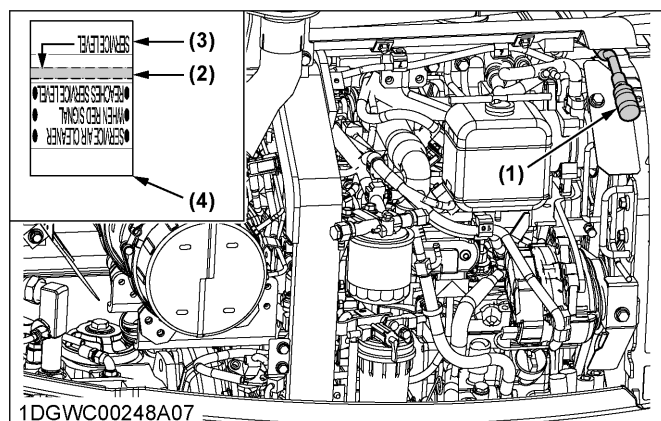


- (1) バキューエータバルブ

- 右ボンネットを閉じます。

9. エアクリーナのインジケータの点検 [U-40-6E のみ]

- エアクリーナの目詰まりをインジケータで点検します。
- 指示計（赤色）が清掃レベルに達している場合、速やかにエアクリーナエレメントを清掃します。（詳細はエアクリーナエレメントの清掃と点検（108ページ）を参照）
- 清掃後、リセットボタンを押してインジケータをリセットします。



- (1) インジケータ
(2) 指示計（赤色）
(3) 清掃レベル（SERVICE LEVEL）
(4) リセットボタン

10. バッテリ、配線、およびエンジン周りの点検と掃除

警告

- ワイヤハーネスおよびバッテリー（+）コードが損傷していると、ショートを起こしますので必ず点検してください。

- ・ バッテリ、配線およびマフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス、バッテリー（+）コードの被覆は各部の角に接触、損傷したり自然劣化することがありますので、次の要領で点検を行ってください。

- ・ ワイヤハーネスの損傷およびクランプのゆるみがないか確認します。
- ・ ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないか確認します。
- ・ 各スイッチが確実に作動することを確認します。

11. DPF（ディーゼルパーティキュレートフィルタ）の点検と清掃

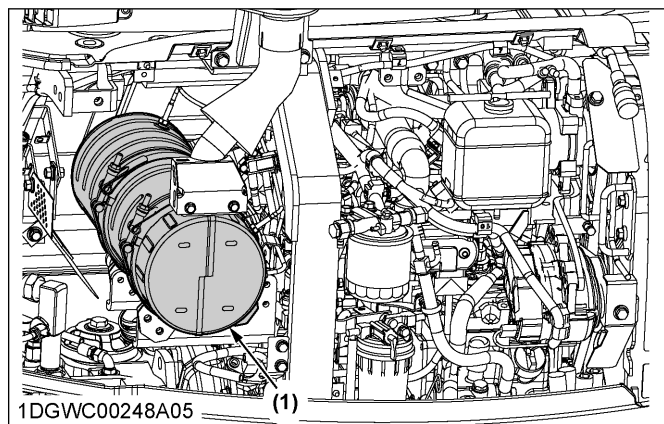


警告

- ・ DPF の点検・清掃を行うときは、必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷えてから行ってください。

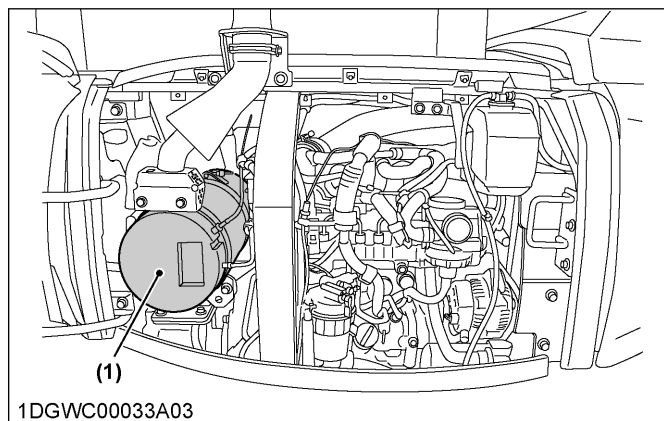
1. 後ボンネットを開けます。
2. DPF マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検します。
可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。

[U-40-6E]



(1) DPF

[U-55-6E]



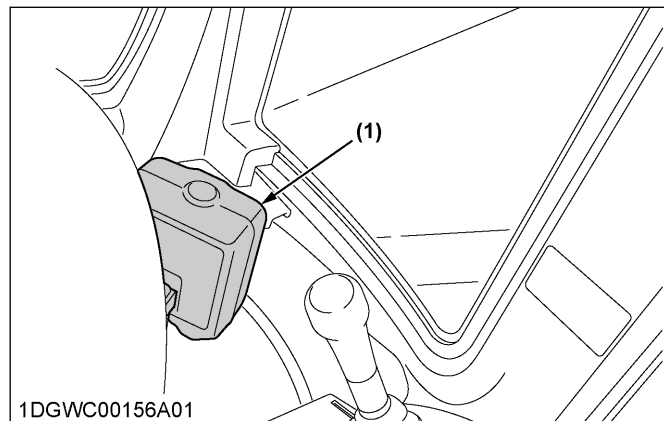
(1) DPF

12. ウィンドウウォッシャ液の点検 [ROPS キャブ仕様]

1. ウォッシャタンク内のウォッシャ液の量を確認します。
2. 少ない場合はウォッシャ液を補給します。

補足：

- ・ タンク内が空のままウォッシャスイッチを使用するとモータが破損することがあります。早目に補給してください。



(1) ウィンドウウォッシャタンク

13. 2ポスト TOPS キャノピ、4ポスト ROPS キャノピ、および ROPS キャブの点検



警告

- ・ 2ポスト TOPS キャノピ、4ポスト ROPS キャノピ、および ROPS キャブは絶対に取り外さないでください。TOPS、ROPS としての機能が損なわれます。

1. 取付ボルトにゆるみがないか確認します。

14. 本機洗車の方法

重要：

- ・ 電気系統に水が浸入すると作動不良を起こすことがあります。センサやコネクタなど電装品に直接水をかけないでください。
- ・ エンジンをかけたまま洗車すると、エアクリーナ吸気口から水しぶきを吸い込みエンジントラブルが発生することがあります。エアクリーナに水をかけないように注意してください。

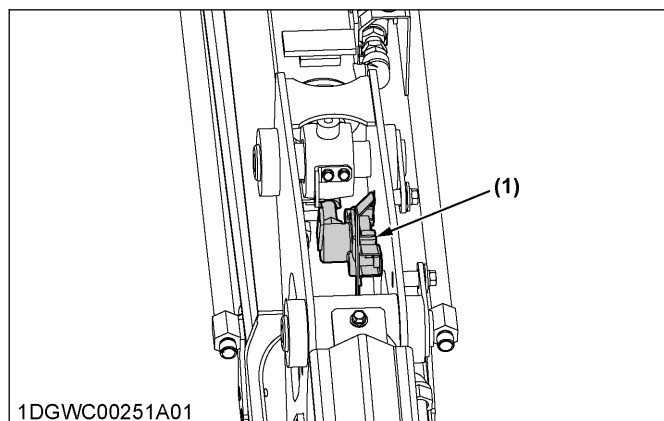
1. エンジンを停止します。
2. 洗車します。

15. 排気ガス漏れの点検

1. 排気ガスの漏れがないかを点検します。

16. 角度検出装置の点検 [アームかき込み制限仕様]

1. アームの回転角度検出装置のリンク部に曲がりや破損がないかを点検してください。
2. 曲がりや破損があれば速やかに認定工場にご相談ください。



(1) アーム角度検出装置

17. ファンベルトの点検

⚠ 警告

- ・ ファンベルトを点検する前に、必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

1. ファンベルトに亀裂がないか、適正な張り状態かを点検します。
(詳細はファンベルトの張りの点検と調整 (107 ページ) を参照)

18. エアコンベルトの点検 [ROPS キャブ、エアコン仕様]

⚠ 警告

- ・ エアコンベルトを点検する前に、必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

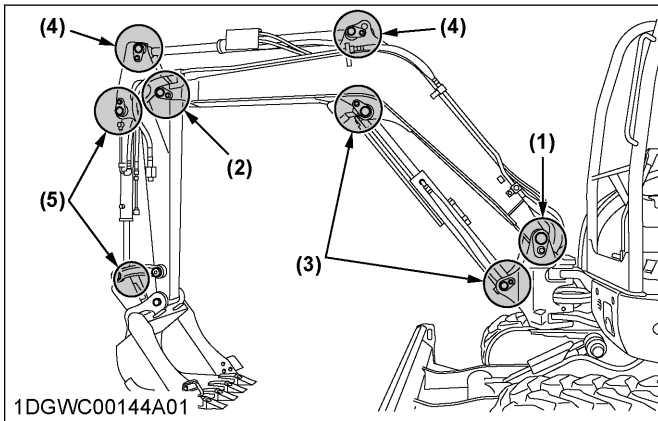
1. エアコンベルトに亀裂がないか、適正な張り状態かを点検します。
(詳細はエアコンベルトの張りの点検と調整 [ROPS キャブ、エアコン仕様] (107 ページ) を参照)

19. 作業機部分の給脂

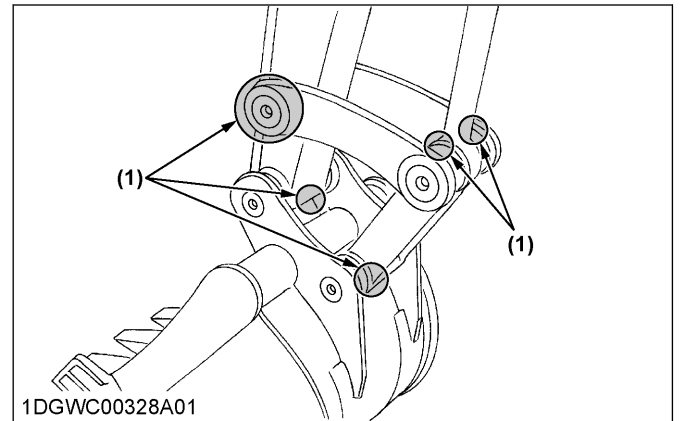
重要:

- ・ 水の中を掘削するときは、作業前にじゅうぶんグリースを入れ、さらに終わったら直ちにグリースを入れてください。
- ・ 高圧洗車後はグリースを入れてください。
- ・ 作業中ピン部から音が出る場合は、グリースを入れてください。
- ・ 重掘削および深掘り作業ごとにグリースを入れてください。

1. グリースニップルにグリースをさします。



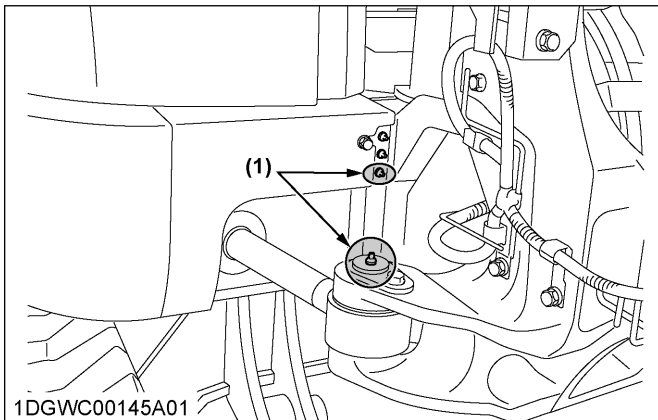
- (1) ブーム根元 (1 か所)
- (2) アーム根元 (1 か所)
- (3) ブームシリンダボス (2 か所)
- (4) アームシリンダボス (2 か所)
- (5) バケットシリンダボス (2 か所)



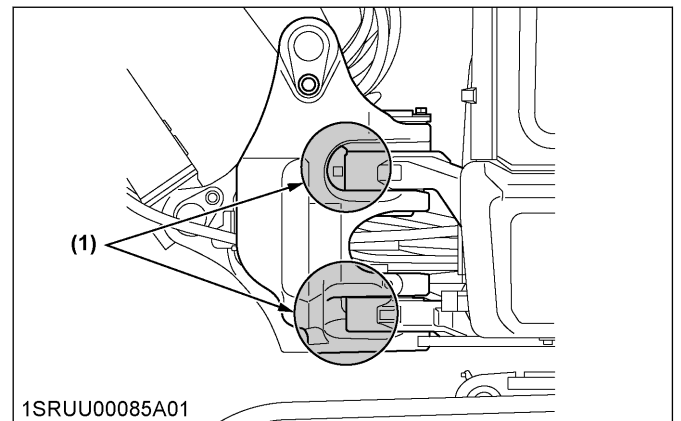
- (1) バケット用ピン (5 か所)

補足：

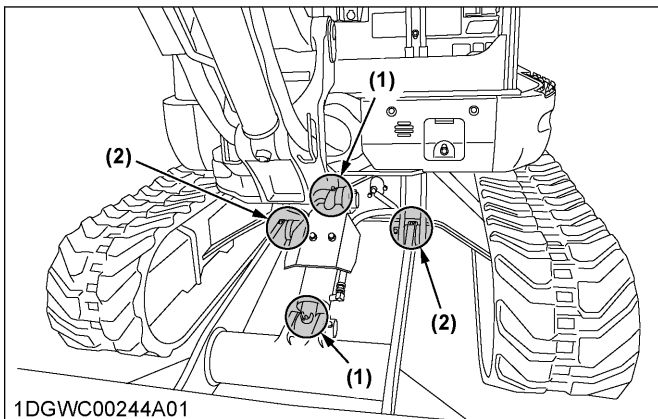
- ・ バケット用ピンは給脂後、バケットを数回操作して再度グリースをさしてください。



- (1) スイングシリンダボス (2 か所)



- (1) スイング支点ピン (2 か所)



- (1) ブレードシリンダボス (2 か所)
- (2) ブレード根元ピン (2 か所)

定期点検表

No.	時期		アワメータ表示時間																それ以後	参照 ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	燃料	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	104
2	ウォータセパレータ	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	104
3	バッテリー	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	104
4	旋回ベアリング歯面	給脂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	106
5	クローラ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	107
6	走行モータオイル	交換	◎*1									○							500 時間ごと	106
7	ファンベルト	点検 調整				○				○				○				○	200 時間ごと	107
8	エアクリーナエレメント	掃除 点検				○				○				○				○	200 時間ごと	108
		交換																	1000 時間ごと または 1 年ごと	117
9	旋回ベアリングボール部	給脂				○				○				○				○	200 時間ごと	109
10	燃料ホースとバンド	点検				○				○				○				○	200 時間ごと	109
		交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
11	吸気ホースとバンド	点検				○				○				○				○	200 時間ごと	109
		交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
12	ラジエータホースとバンド	点検				○				○				○				○	200 時間ごと	110
		交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	120
13	パイロットバルブ	給脂					○					○					○		250 時間ごと	112
14	燃料フィルタカートリッジ	交換										○							500 時間ごと	112
15	エンジンオイル（DH-2 級）*2	交換										○							500 時間ごとまたは 1 年ごと	113
16	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	交換										○							500 時間ごとまたは 1 年ごと	114
17	エンジンバルブクリアランス	点検																	1000 時間ごと	114
18	作動油*3	交換																	1000 時間ごと	114
19	作動油サクションフィルタ	交換																	1000 時間ごと	116
20	作動油リターンフィルタ *3	交換																	1000 時間ごと	115
21	プレザフィルタ*3 [U-55-6E のみ]	交換										○							500 時間ごと	113
22	油圧パイロットフィルタ	交換																	1000 時間ごと	116
23	油圧パイロットラインフ ィルタ	洗浄																	1000 時間ごと	117
24	インジェクタ先端	点検																	1500 時間ごと	117
25	オイルセパレータエレメ ント	交換																	1500 時間ごと	118
26	EGR クーラ	点検																	1500 時間ごと	118
27	トラックローラ、フロン トアイドラの油脂	交換																	2000 時間ごと	118
28	オルタネータ、セルモータ	点検																	2000 時間ごと	118

(次へ続く)

No.	時期		アワメータ表示時間																それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
29	ターボチャージャ [U-40-6E のみ]	点検																	3000 時間ごと	118
30	EGR システム	点検																	3000 時間ごと	118
31	DPF	洗浄																	3000 時間ごと	119
		点検																	1 年ごと	119
32	電気配線	点検																	1 年ごと	119
33	排気マニホールド（亀裂、ガス漏れ、および取付ネジ）	点検																	1 年ごと	119
34	吸気ライン	点検																	1 年ごと	119
35	ブーストセンサおよび AFS（エアフローセンサ）	点検																	1 年ごと	119
36	DPF 差圧センサおよび差圧センサ配管	点検																	1 年ごと	119
37	DPF 排気ガス温度センサ	点検																	1 年ごと	119
38	EGR 配管	点検																	1 年ごと	119
39	冷却水	交換																	2 年ごと	119
40	オイルセパレータのゴムホース	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
41	DPF 差圧センサゴム配管（前後）	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
42	AFS（エアフローセンサ）下流側の吸入管	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
43	ブーストセンサ圧力ゴム配管	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
44	EGR クーラホース	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
45	油圧ホース	交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
46	燃料フィルタ	排水																	必要に応じて	122

*1 ◎は初回のみ実施してください。

*2 エンジンオイルは運転により少しずつ消費されますので、次第に減ってきます。また、作業内容やエンジンの違いなどにより消費量は異なります。使用前に必ずオイル量がオイルゲージ上下限内にあることを確認し、オイル補給などのメンテナンスを実施してください。エンジンの寿命を短くしたり焼き付いたりする危険性を避けるため、クボタ指定オイルとクボタ純正オイルフィルタを使用し、指定された交換時間を守ってください。

*3 ブレーカなどの油圧アタッチメントを使用する場合は交換時間が短くなります。（詳細は作動油リターンフィルタの交換（115 ページ）の項を参照）

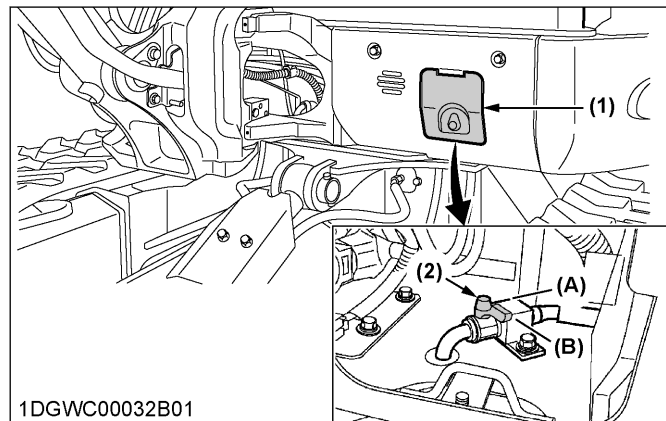
No.	時期		アワメータ表示時間																それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エアコンベルト	点検調整				○				○				○				○	200 時間ごと	107
2	内気フィルタ*1	清掃				○				○				○				○	200 時間ごと	110
		交換																	1000 時間ごと	110
3	エアコンコンデンサ	清掃				○				○				○				○	200 時間ごと	111
4	エアコンパイプ、ホース	点検																	1 年ごと	119
		交換																	2 年ごとまたは 4000 時間ごと	121
5	エアコンガス	点検																	必要に応じて	121
6	エアコンの簡易点検	点検																	3 か月ごと	123

*1 砂塵などの多い場所で作業したときは、早期にフィルタの清掃または交換を行ってください。汚れが多いときはフィルタを交換してください。

50 時間使用ごとの整備

1. 燃料タンクの水抜き

- カバーを開け、シャットオフバルブを開いて水を抜きます。



- 1DGWC00032B01
- (1) カバー (A) 開
(2) シャットオフバルブ (B) 閉

2. ウォータセパレータの水抜き

重要：

- 次のメッセージが表示されたら、ただちに水を排出してください。
(この表示が出ると、警告音も発せられます。)



燃料水混入

1DGWC00294A01

U-55-6E は、ウォータセパレータと燃料フィルタの排水を行ってください。

(詳細は燃料系統の排水 (122 ページ) を参照)

- 清掃は、軽油もしくは洗浄油で行ってください。
- 組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。
- カップ部の水を抜いた後はエア抜きを行ってください。
(詳細は燃料系統のエア抜き (129 ページ) を参照)
- 燃料系統の排水を行わないと、DPF の洗浄効率が落ち、DPF の寿命が予定 (3000 時間) より短縮するおそれがあります。

水が溜まると赤色のフロート (浮き輪) が浮いてくるので、コックをゆるめて水を捨ててください。

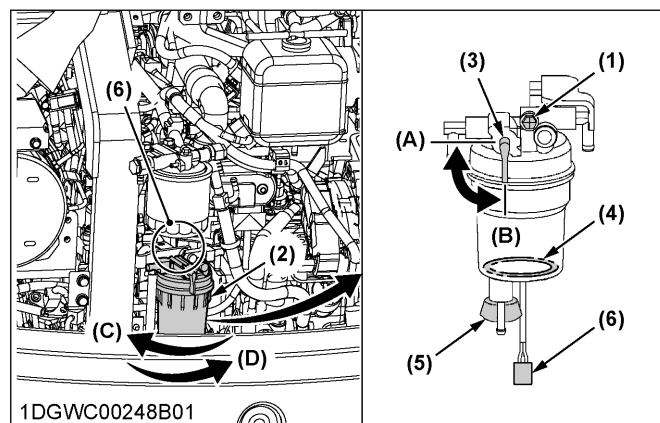
- ウォータセパレータハンドルを[OFF]位置にします。
- ネジをゆるめます。
- コックをゆるめて水を排出します。
- カップ内にゴミなどが沈殿している場合は、カップを外して清掃します。
- 清掃後、カップを確実に締めます。

- ウォータセパレータハンドルを[ON]位置にします。

補足：

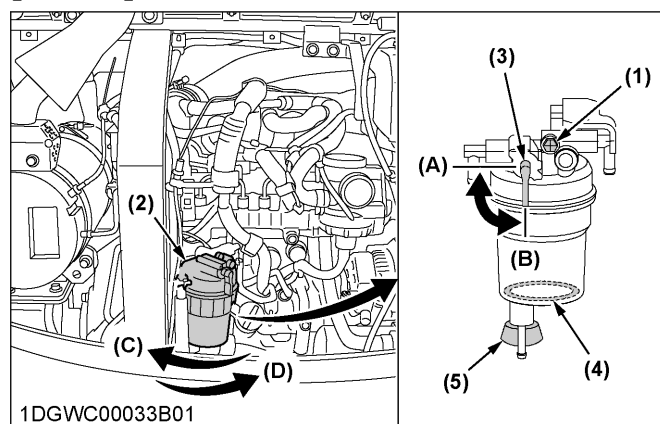
- カップを外す場合、U-40-6E は事前に水位センサのコネクタを外してください。カップの清掃が終わったら、コネクタを取り付けてください。

[U-40-6E]



- 1DGWC00248B01
- (1) ネジ (A) [OFF]
(2) カップ (B) [ON]
(3) ウォータセパレータハンドル (C) ゆるめる
(4) フロート (D) 締める
(5) コック
(6) 水位センサのコネクタ

[U-55-6E]



- 1DGWC00033B01
- (1) ネジ (A) [OFF]
(2) カップ (B) [ON]
(3) ウォータセパレータハンドル (C) ゆるめる
(4) フロート (D) 締める
(5) コック

3. バッテリーの点検



危険

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なタイプの 2 種類があります。補水が必要なバッテリーについては、次の事を守ってください。

- バッテリーは液面が[LOWER] (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。

- [LOWER]以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに[UPPER]と[LOWER]の間に補水してください。

⚠ 警告

- バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
もし怠ると、希硫酸によって、ヤケドすることがあります。
- バッテリーの点検および取外し時には、エンジンを停止し、スタータキーを[STOP]の位置にしてください。
- 充電中はガスが発生し、引火爆発の危険があります。絶対に火気を近づけたり、スパークさせてはいけません。
バッテリー充電時、各セルの液栓はすべて外しておいてください。
- バッテリーの近くで作業するときは必ず眼鏡などで目を守ってください。

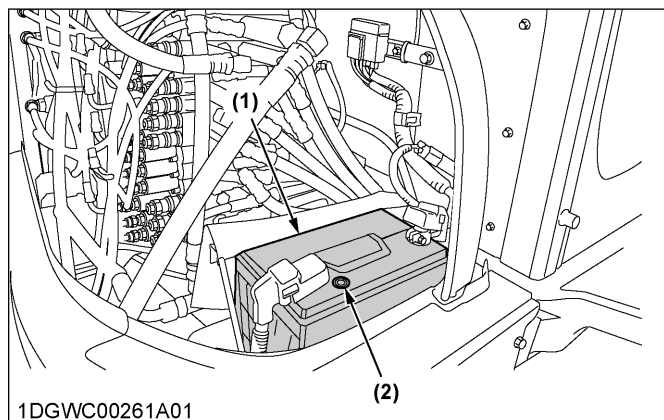
バッテリーの取扱いは特に注意してください。
バッテリーの寿命を縮めるだけでなく、メンテナンス費用の増加につながります。バッテリーが弱まるとエンジンが始動しづらくなり、作業灯がじゅうぶんな光を発しなくなります。
U-40-6E は補水不要のバッテリーを搭載していますが、点検が必要です。

[U-40-6E]

1. 右ボンネットを開けてバッテリーインジケータを確認します。
2. バッテリーインジケータの表示が白になったときは充電せず、次の指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。

バッテリー型式

90D26L



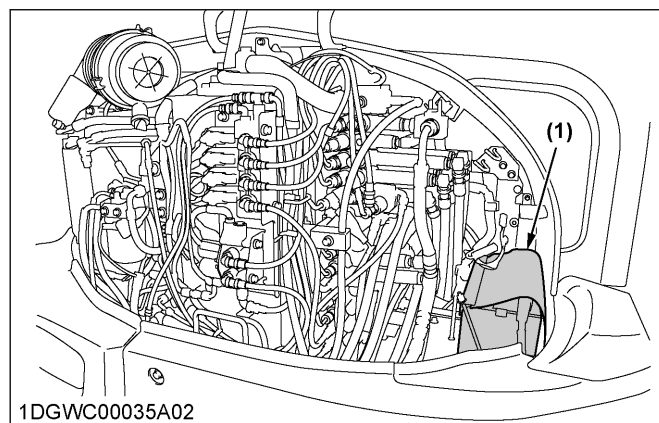
- (1) バッテリー
(2) インジケータ

インジケータの見方

表示の色	必要な処置
緑	使用可能です。
黒	補充電が必要です。
白	交換が必要です。

[U-55-6E]

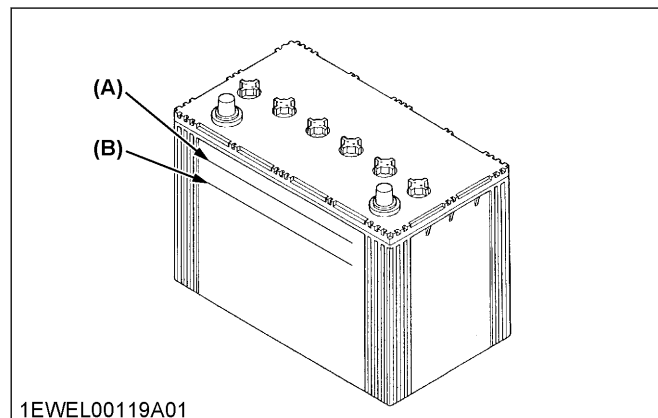
1. 右ボンネットを開けてバッテリー液を確認します。
2. 液不足の場合、バッテリー補充液または蒸留水を補充します。
3. 電解液がこぼれて減ったら、同じ濃度の希硫酸をバッテリー専門店で補充します。



- (1) バッテリー

バッテリーの液面

バッテリー液があるか（[LOWER]を下回っていないか）を確認してください。



- (A) [UPPER] (上限)
(B) [LOWER] (下限)

3.1 バッテリーの取外し

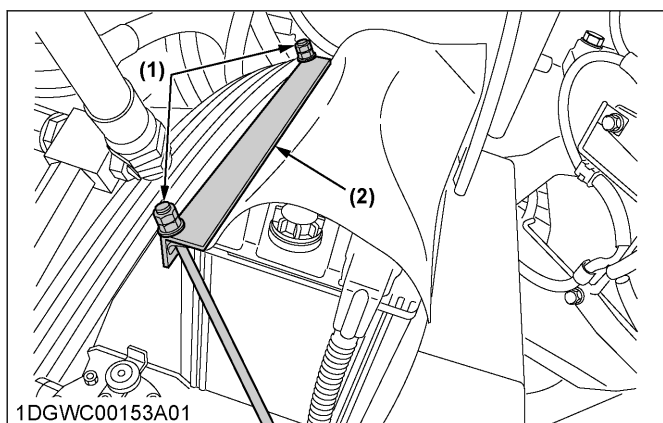
⚠ 警告

- バッテリーの充電は必ず本機から取り外し換気のよいところで行ってください。

- ・ バッテリからコードを外すときは（-）側、取り付けるときは（+）側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- ・ 充電は、バッテリーの（+）を充電器の（+）に、バッテリーの（-）を充電器の（-）にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。コードの接続を間違わないように注意してください。
- ・ 絶対に本機のバッテリーコード（-）、（+）をバッテリーにつけたまま充電はしないでください。
- ・ ターミナルのゆるみは、スパークや電装品の故障の原因になります。しっかりと締め付けてください。
- ・ バッテリ補充液、または蒸留水補充の際は、キャップを開ける前にバッテリー上面にあるゴミ、埃などを払い落とした後行ってください。

重要：

- ・ バッテリ液が不足するとバッテリーを傷め、多いと液がこぼれて本機の金属部を腐蝕させます。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
 - ・ 急速充電は、できるだけ避けてください。バッテリー寿命を短くします。
 - ・ バッテリにコードを接続するときは、（+）と（-）を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリーと電気系統が故障します。
1. エンジンを停止し、スタータキーを[STOP]の位置にします。
 2. バッテリの（-）コードを外します。
 3. バッテリの（+）コードを外します。
 4. バッテリボルトのナットを外してバッテリーボルトを外します。
 5. バッテリのオサエカナグをずらしてバッテリーを外します。



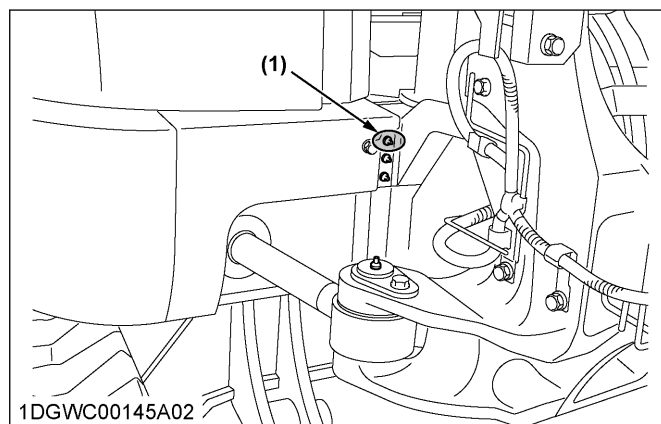
- (1) バッテリボルト
(2) オサエカナグ

4. 旋回ベアリング歯面の給脂

1. グリースニップルから、グリースを注入します。約 90°ずつ旋回して 4 回に分けて給脂します。

補足：

- ・ 給脂はグリースニップルから 1 か所に約 50 g（グリースガンで約 20 回強）を注入し、歯面全体に給脂するようにしてください。



- (1) グリースニップル

5. 走行モータのオイル交換

初回は 50 時間、2 回目以降は 500 時間ごとに交換してください。

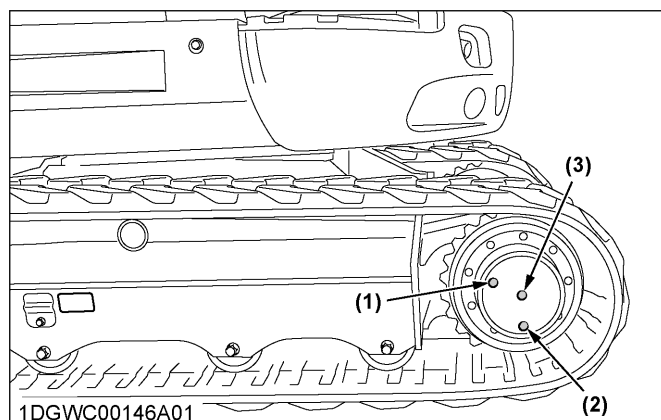
1. 走行モータのドレーンプラグが下になるようにクローラを回転させます。
2. ドレーンプラグを外して排油します。
3. ドレーンプラグを締め付け後、給油口、検油口プラグを外し給油口よりギヤオイルを注油します。

走行モータのオイル規定量	約 0.9 L
--------------	---------

補足：

- ・ ギヤオイルは SAE#90 を使ってください。（詳細は推奨オイルとグリース一覧表（141 ページ）を参照）

4. 検油口より油が流出するまで注入しプラグを確実に締め付けます。



- (1) 給油口
(2) ドレーンプラグ
(3) 検油口

6. クローラの点検

50 時間ごとにクローラの張り代を点検してください。
(詳細はクローラの調節 (129 ページ) を参照)

200 時間使用ごとの整備

50 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. ファンベルトの張りの点検と調整



警告

- ・ エンジンを停止し、キーを抜いてください。
- ・ ベルト張り調整時、オルタネータの端子と工具などが接触しないよう注意してください。

重要:

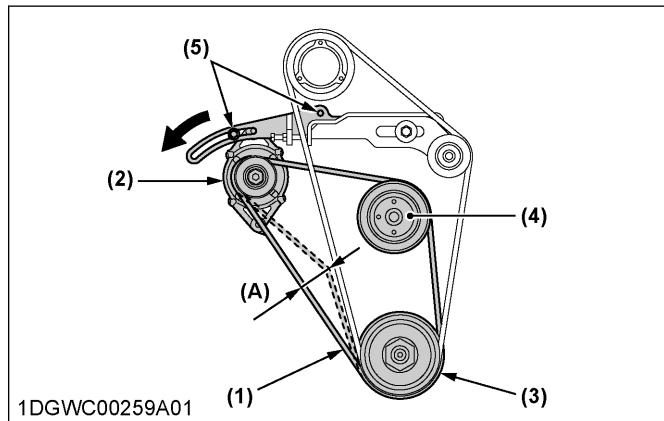
- ・ ベルトの張りが弱いまま運転すると、ベルトがスリップし、エンジンの能力低下だけでなく、寿命を短くしますので、点検および調整してください。
- ・ ファンベルトが切れた場合は、警告ランプ (赤色) が点滅、充電ランプが点灯し、次のメッセージが表示されます。速やかにエンジンを停止してください。



充電系異常

1FRKK00154A01

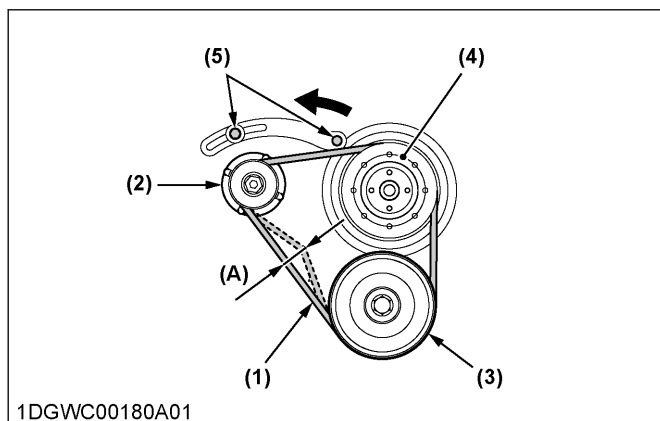
[U-40-6E]



- (1) ファンベルト
(2) オルタネータ
(3) クランク軸プーリ
(4) ファンプーリ
(5) ボルトおよびナット

(A) たわみ 7 mm~9 mm

[U-55-6E]



- (1) ファンベルト
(2) オルタネータ
(3) クランク軸プーリ
(4) ファンプーリ
(5) ボルトおよびナット

(A) たわみ 7 mm~9 mm

点検

1. ベルトの中央部を指先で押さえベルトのたわみを点検します。
58.8 N~68.6 N (6 kgf~7 kgf) の力で押して、7 mm~9 mm たわむのが適当です。
2. 各プーリの破損、V 溝の摩耗、V ベルトの摩耗を点検します。
特に V ベルトが V 溝の底に当たっていないかどうかよく点検してください。
3. ベルトが伸びて調節シロがなくなったり、切り傷や亀裂があれば交換します。

調整

1. ボルトをゆるめます。
2. オルタネータを矢印の方向に動かしてベルトを張ります。
3. ボルトを締め付けます。

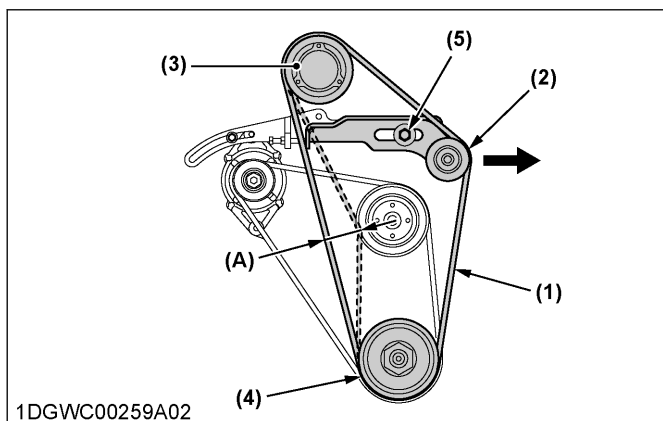
2. エアコンベルトの張りの点検と調整 [ROPS キャブ、エアコン仕様]



警告

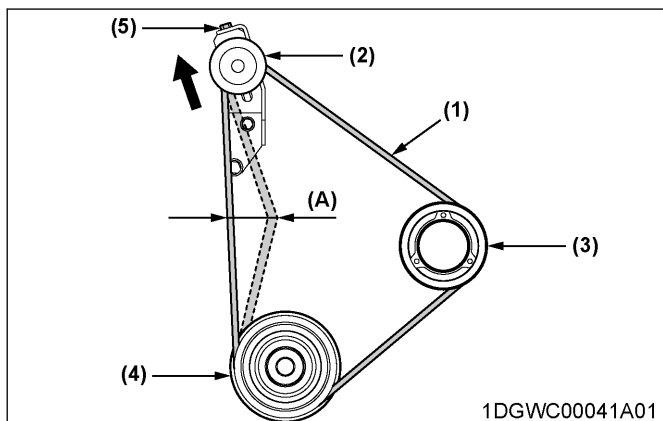
- ・ エンジンを停止し、キーを抜いてください。
- ・ 点検後、ベルトカバーを確実に取り付けてください。

【U-40-6E】



- (1) エアコンベルト (A) 12 mm~15 mm
 (2) テンションプーリ
 (3) エアコンコンプレッサ
 (4) クランク軸プーリ
 (5) ボルト

【U-55-6E】



- (1) エアコンベルト (A) 12 mm~15 mm
 (2) テンションプーリ
 (3) エアコンコンプレッサ
 (4) クランク軸プーリ
 (5) ボルト

点検

- ベルトの中央部を指先で押さえベルトのたわみを点検します。
58.8 N~68.6 N (6 kgf~7 kgf) の力で押し、12 mm~15 mm たわむのが適当です。
- 各プーリの破損、V 溝の摩耗、V ベルトの摩耗を点検します。
特に V ベルトが V 溝の底に当たっていないかどうかよく点検してください。
- ベルトが伸びて調節シロがなくなったり、切り傷や亀裂があれば交換します。

調整

- テンションプーリのボルトをゆるめます。
- テンションプーリを矢印の方向へ動かしてベルトを張ります。
- テンションプーリのボルトを締め付けます。

3. エアクリーナエレメントの清掃と点検



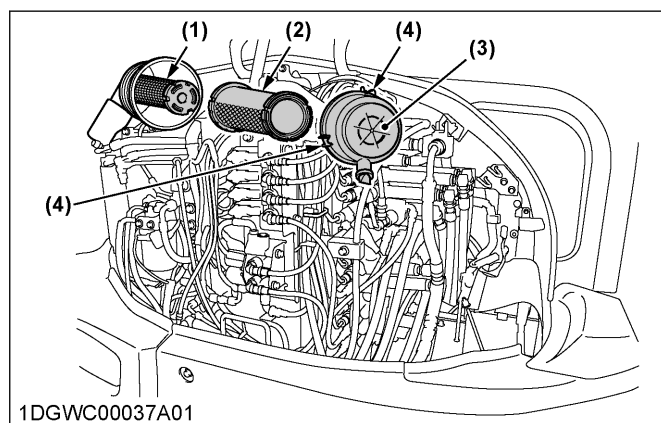
警告

- 圧縮空気でホコリを荒落とすする場合ゴミが飛散しますので、必ず安全メガネを着用してください。特に、砂塵などの多い場所で作業するときは、早期に掃除や点検を行ってください。

- 後ボンネットを開けます。
- クランプを外してアウターエレメントを取り出します。

補足：

- インナーエレメントは取り外さないでください。



- (1) インナーエレメント
 (2) アウターエレメント
 (3) ダストカップ
 (4) クランプ

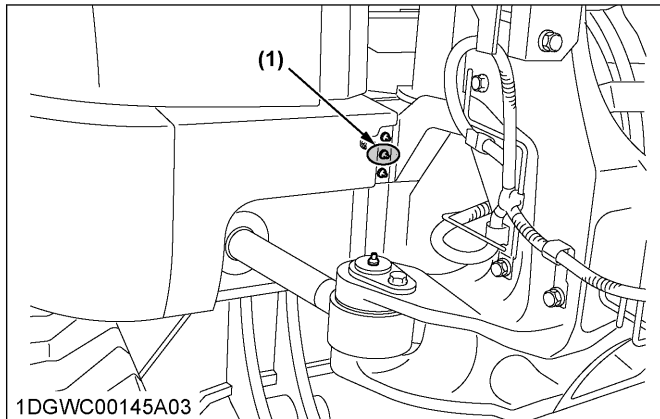
- アウターエレメントおよびケース内側を次の要領で清掃します。
 - 乾燥した 205 kPa (2.1 kgf/cm²) 以下の圧縮空気をエレメントの外側に吹きつけて、付着したホコリの荒落としをします。
 - さらに内側から外側に向けて吹きつけ、全面にわたってホコリを落とします。



- 清掃後はアウターエレメントを組み込みます。
- 後ボンネットを閉じます。

4. 旋回ベアリングボール部の給脂

1. 中央のグリースニップルからグリースをさします。
約 90°ずつ回転して 4 回に分けて給脂します。

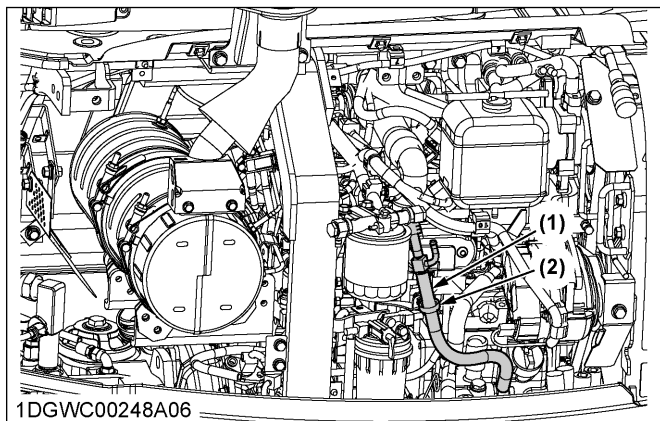


(1) グリースニップル

5. 燃料ホースとバンドの点検

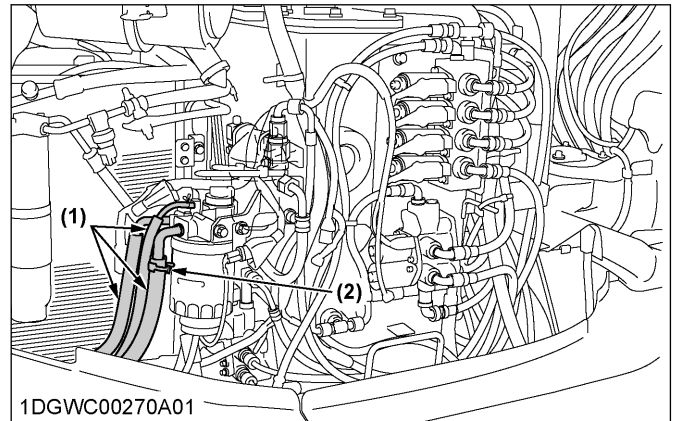
1. 燃料ホースとバンドを点検します。
2. 締付バンドがゆるんでいたり、燃料漏れのある場合はバンドを確実に締め付けます。
3. 燃料ホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れているときには、クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

[U-40-6E]



(1) 燃料ホース
(2) バンド

[U-55-6E]



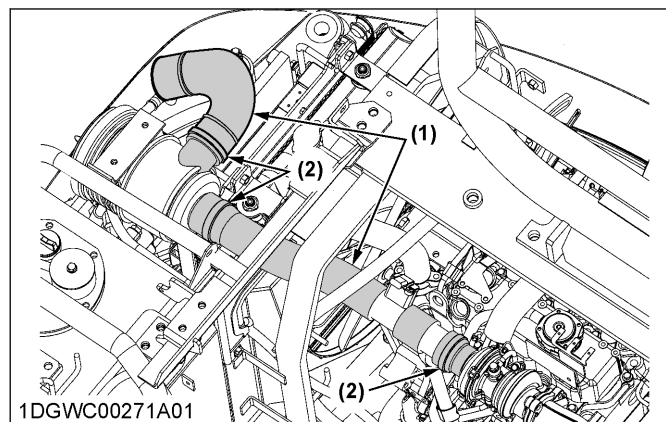
(1) 燃料ホース
(2) バンド

6. 吸気ホースとバンドの点検

1. 吸気ホースとバンドを点検します。
2. 締付バンドがゆるんでいたり、空気漏れのある場合はバンドを確実に締め付けます。

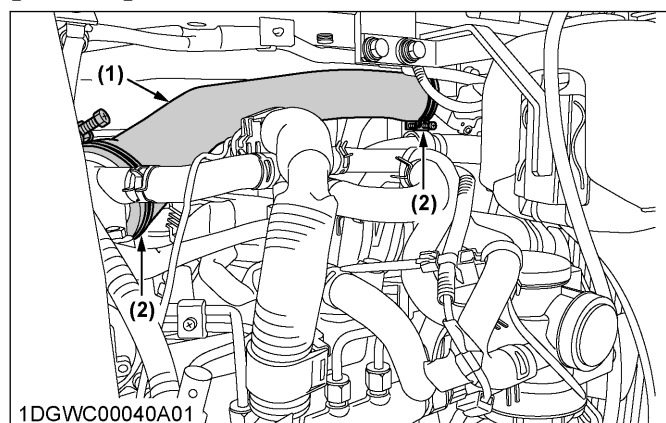
3. 吸気ホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れているときには、クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

[U-40-6E]



- (1) 吸気ホース
- (2) バンド

[U-55-6E]



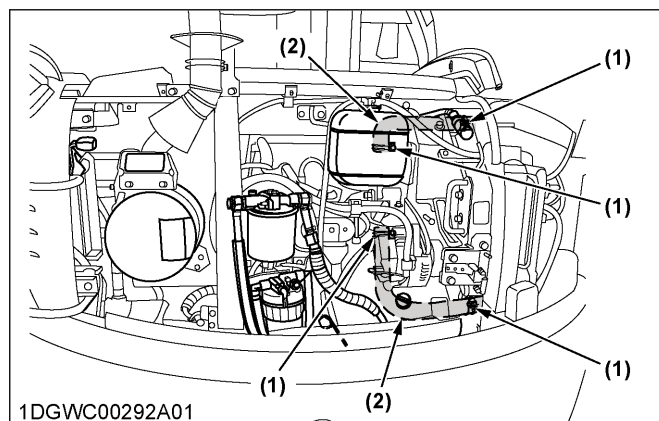
- (1) 吸気ホース
- (2) バンド

7. ラジエータホースとバンドの点検

ラジエータホースの点検は、200 時間運転ごとまたは 6 か月ごとに行ってください。

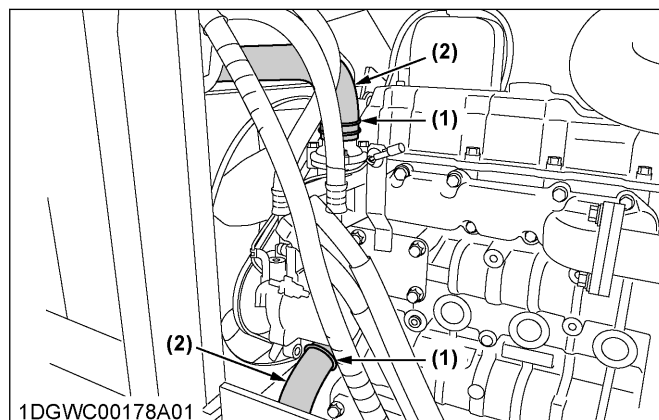
1. ラジエータホースとバンドを点検します。
2. 締付バンドがゆるんでいたり、水漏れのある場合はバンドを確実に締め付けます。
3. ラジエータホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れているときにはホースを交換し、バンドを確実に締め付けます。

[U-40-6E]



- (1) 締付バンド
- (2) ラジエータホース

[U-55-6E]

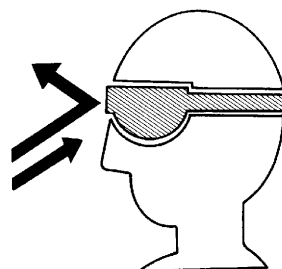


- (1) 締付バンド
- (2) ラジエータホース

8. エアコンフィルタの清掃[エアコン仕様]

⚠ 警告

- 圧縮空気でホコリを荒落とさせる場合は、ゴミが飛散しますので、必ず安全メガネを着用してください。



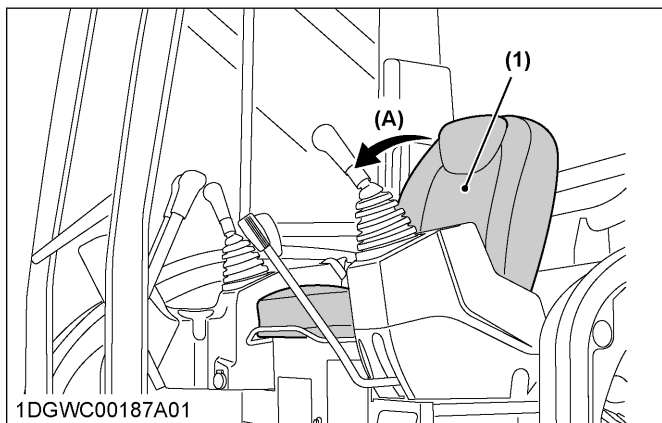
1EWEL00015A01

特に、砂塵などの多い場所で作業するときは、早期に掃除および点検を行ってください。

重要：

- ・ 清掃時、フィルタをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエアコンに侵入し、エアコンを損傷することがあります。変形したときは、すぐに新しいフィルタと交換してください。

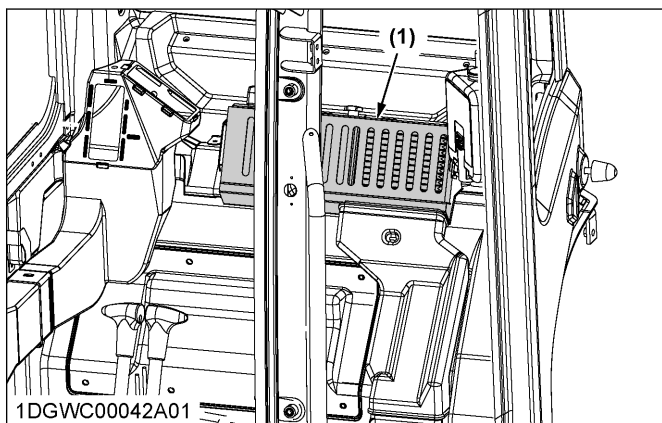
1. シートを前に倒します。



(1) シート

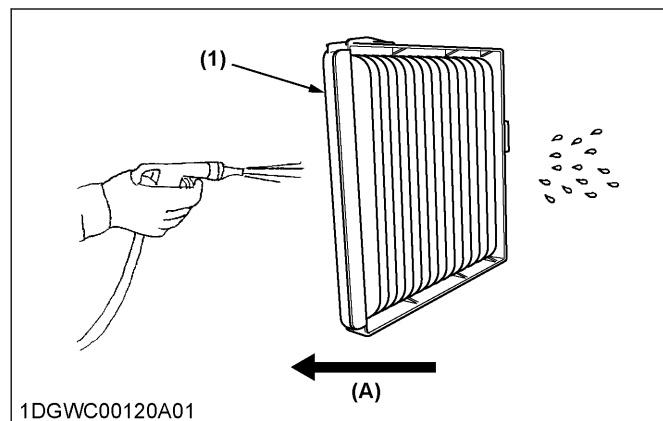
(A) 倒す

2. カバーを開けて、エアコンフィルタのカバーを取り外します。
3. エアコンフィルタを取り出します。



(1) エアコンフィルタ

4. エアコン作動時の風の流れと逆方向よりエアブローします。



(1) 内気フィルタ

(A) エアコン作動時の風の流れ

補足：

- ・ エアブローの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm²) 以下にしてください。
- ・ フィルタの汚れがひどいときは、新しいフィルタに交換してください。

9. エアコンコンデンサの清掃[エアコン仕様]



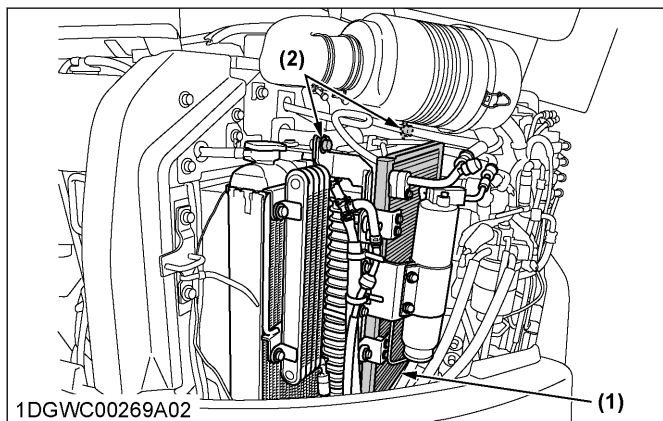
警告

- ・ 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

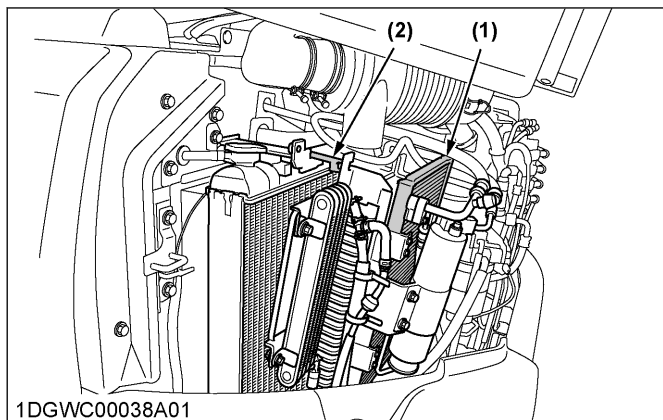
コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば清掃してください。

1. ボルトをゆるめてエアコンコンデンサを傾けます。

2. エアブローまたは水道水などでゴミを取り除きます。



- (1) エアコンコンデンサ
- (2) ボルト



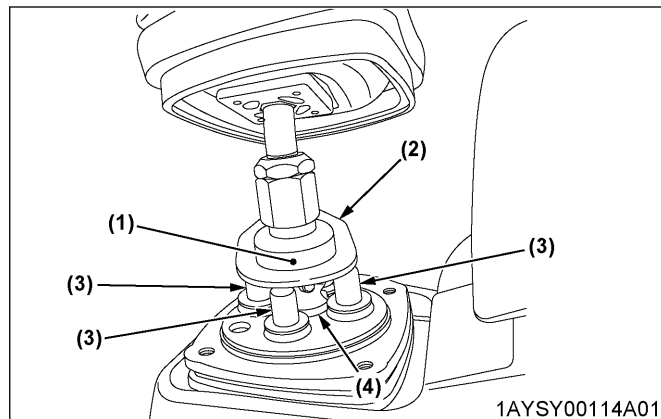
- (1) エアコンコンデンサ
- (2) ストップ

250 時間使用ごとの整備

50 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. パイロットバルブの給脂

1. プッシュロッドとプレートの当たり面およびユニバーサルジョイントにグリースを塗布します。



- (1) パイロットバルブ
- (2) プレート
- (3) プッシュロッド
- (4) ユニバーサルジョイント

補足：

- ・ 左右のパイロットバルブともに、グリースを塗布してください。

500 時間使用ごとの整備

50 時間、250 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. 燃料フィルタカートリッジの交換

重要：

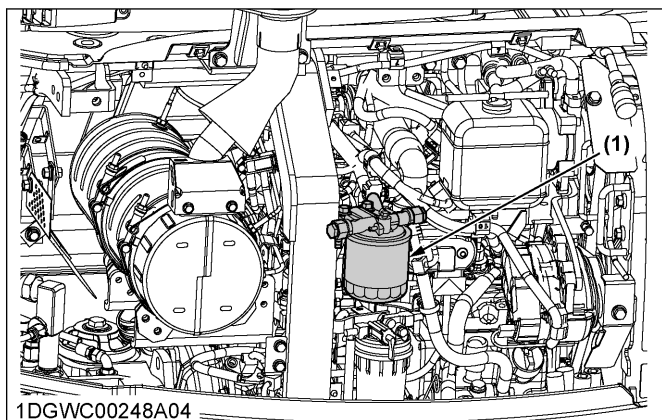
- ・ 燃料フィルタカートリッジを定期的に交換しないと、DPF の洗浄効率（3000 時間）が落ち、DPF の寿命が予定より短縮するおそれがあります。
- ・ 組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。
- ・ 新しいフィルタを取り付ける前にフィルタカートリッジ内に燃料を充填しないでください。燃料中のゴミがエンジンを損傷させる可能性があります。

補足：

- ・ U-55-6E は、フィルタを外す前に、水位センサのコネクタを外してください。フィルタの交換が終わったら、コネクタを取り付けてください。

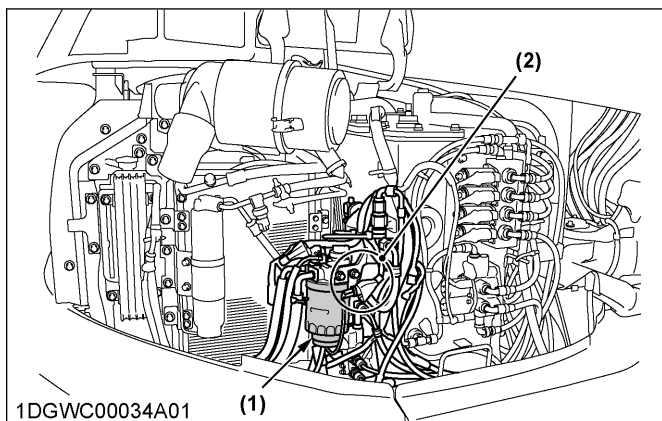
1. フィルタレンチでフィルタを外します。

[U-40-6E]



(1) 燃料フィルタカートリッジ

[U-55-6E]



(1) 燃料フィルタカートリッジ
(2) 水位センサのコネクタ

2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
3. エア抜きを行います。
(詳細は燃料系統のエア抜き (129 ページ) を参照)

2. 走行モータのオイル交換

初回は 50 時間、2 回目以降は 500 時間ごとに交換してください。

交換のしかたについては、50 時間使用ごとの整備の項を参照してください。

(詳細は走行モータのオイル交換 (106 ページ) を参照)

3. ブレザフィルタの交換 [U-55-6E のみ]

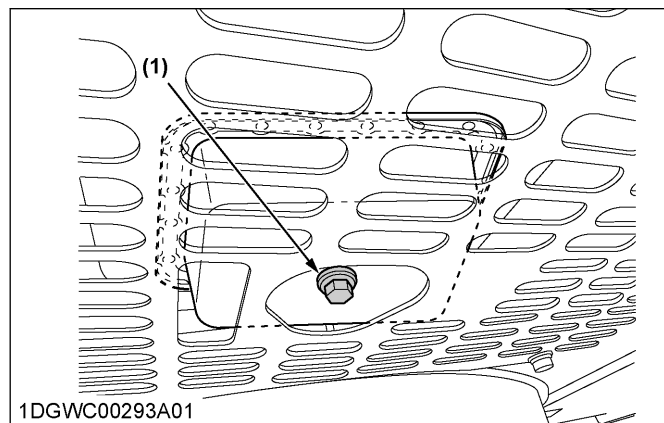
交換のしかたについては、1000 時間使用ごとの整備の作動油リターンフィルタの交換の項を参照してください。

(詳細は作動油リターンフィルタの交換 (115 ページ) を参照)

4. エンジンオイルの交換

500 時間ごとまたは 500 時間に達しない場合でも 1 年に 1 度は交換してください。

1. エンジン底部のドレーンプラグを外して、排油します。
2. 排油後はドレーンプラグを確実に締め付けます。

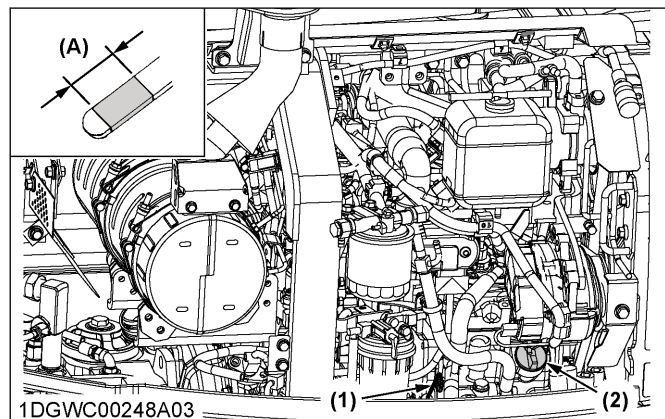


(1) ドレーンプラグ

3. 給油口よりエンジンオイルを規定量給油します。

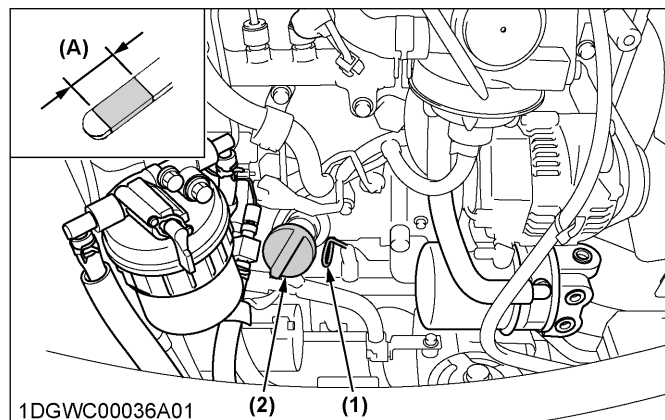
エンジンオイル量	[U-40-6E]	約 5.0 L (フィルタ含む)
	[U-55-6E]	約 9.0 L (フィルタ含む)

[U-40-6E]



- (1) オイルゲージ (A) 適量範囲
(2) 給油口

[U-55-6E]



- (1) オイルゲージ (A) 適量範囲
(2) 給油口

補足：

- エンジンオイルは推奨品を使用してください。
(詳細は推奨オイルとグリース一覧表 (141 ページ) を参照)

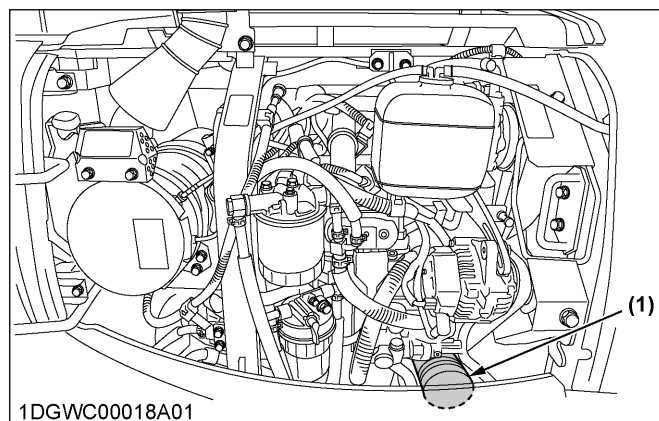
4. エンジンをアイドリング運転し、停止してから約 5 分後にオイルゲージで規定量入っているか、確認します。

5. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

500 時間ごとまたは 500 時間に達しない場合でも 1 年に 1 度はエンジンオイルの交換と一緒に行ってください。

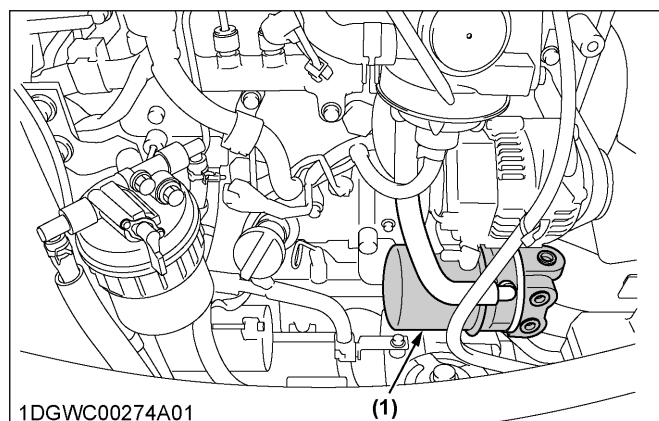
1. フィルタレンチで取り外します。

[U-40-6E]



- (1) オイルフィルタカートリッジ

[U-55-6E]



- (1) オイルフィルタカートリッジ

- 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗付してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
- エンジンにオイルを規定量まで補給します。
- 約 5 分間運転し、“エンジン油圧異常”の警告が出ないことを確認してから、エンジンを止めます。
- 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給します。

1000 時間使用ごとの整備

50 時間、200 時間、250 時間、500 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

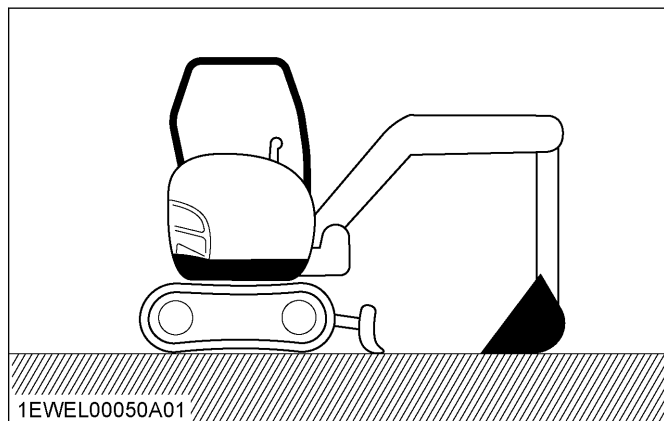
1. エンジンバルブクリアランスの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2. 作動油の交換

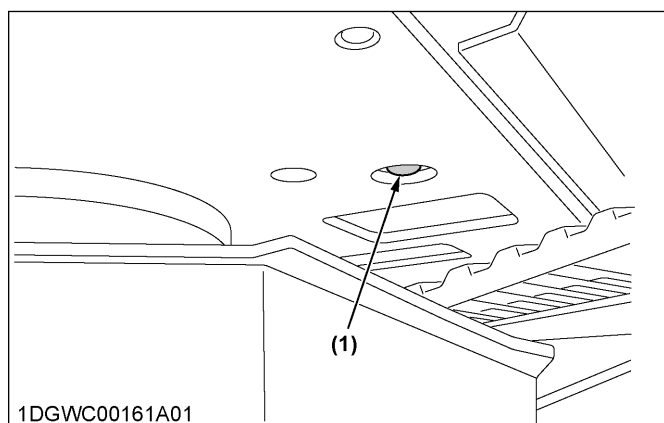
タンク内のリターンフィルタおよびサクションフィルタも一緒に交換してください。

1. 車体を水平な場所に止め、スイング中央、アーム垂直、バケット底水平でバケットおよびブレードを地面に接地します。

**警告**

- 密閉式の作動油タンクである U-40-6E では、給油キャップをゆっくり開けて、内圧を抜いた後、次の作業を行ってください。

2. オイルタンク底部のドレーンプラグを外して排油します。
排油は作動油タンク内の油温が下がってから行ってください。



(1) 作動油ドレーンプラグ

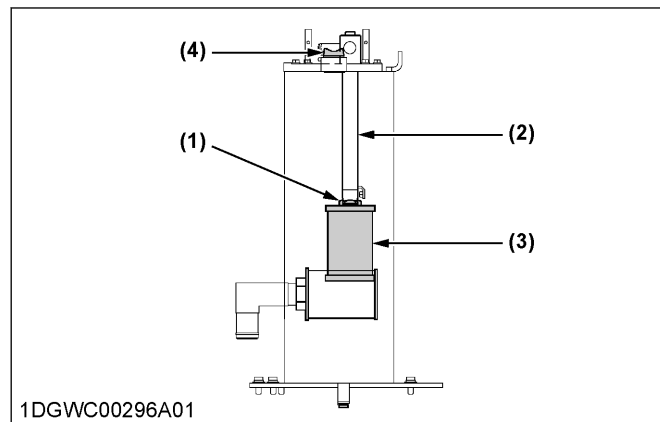
重要：

- ブレーカなどの油圧アタッチメントを使用している場合は前記と異なり、油圧アタッチメントの使用頻度により次のように行ってください。

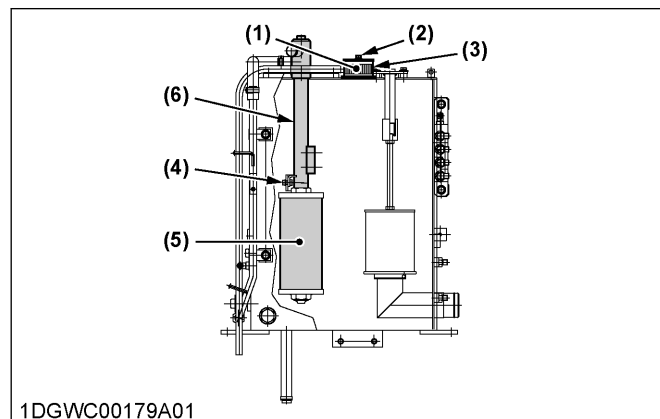
油圧アタッチメントの使用時間比率		作動油の交換時間	リターンフィルタの交換時間
標準作業（バックホー作業）		1000 時間ごと	1000 時間ごと
ブレーカ使用比率	20 %以上	800 時間ごと	400 時間ごと
	40 %以上	400 時間ごと	
	60 %以上	300 時間ごと	
	80 %以上	200 時間ごと	200 時間ごと

3. 作動油リターンフィルタの交換

フィルタは作動油タンク内の油温が下がってから外してください。

[U-40-6E]

- (1) セットボルト
- (2) フィルタサポート
- (3) リターンフィルタ
- (4) 給油キャップ

[U-55-6E]

- (1) プレザフィルタ
- (2) ボルト
- (3) カバー
- (4) セットボルト
- (5) リターンフィルタ
- (6) フィルタサポート

1. フィルタサポートの上部を持ち、タンクより取り外します。
2. 次の要領でフィルタを交換します。

・ [U-40-6E]

セットボルトをゆるめ、次にフィルタサポートからリターンフィルタを取り外し、新しいフィルタと交換します。

・ [U-55-6E]

カバーのボルトを取り外し、プレザフィルタを取り出し、新しいフィルタと交換します。

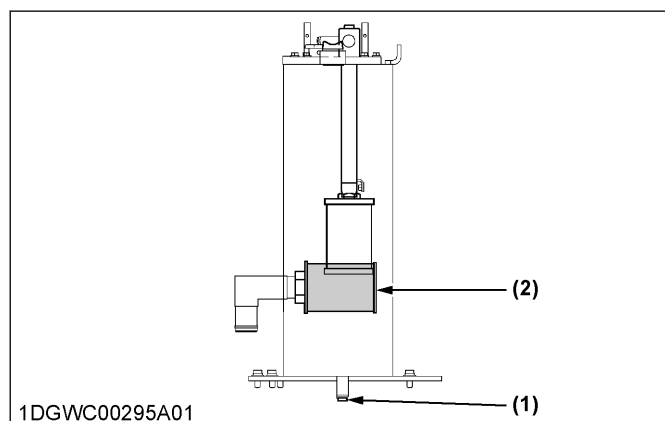
4. サクションフィルタの交換

補足：

- ・フィルタ交換後、油面の点検を必ず行ってください。
- ・タンク内に沈殿物がたまっている場合は、内面を洗浄してください。
- ・タンク内に異物が混入しないようにじゅうぶん注意してください。
- ・サクションフィルタの交換に際しては、クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

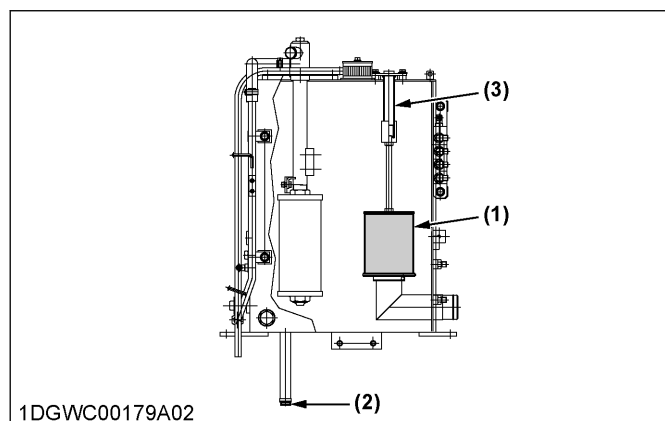
1. サクションフィルタを取り外して、新しい部品と交換します。
U-55-6E は固定ピンを外してからサクションフィルタを取り外します。

【U-40-6E】



- (1) ドレーンプラグ
(2) サクションフィルタ

【U-55-6E】



- (1) サクションフィルタ
(2) ドレーンプラグ
(3) 固定ピン

2. ドレーンプラグを確実に締め付けます。
3. 給油口より作動油を規定量給油します。

作動油オイル交換容量

作動油オイル 交換容量	[U-40-6E]	全油量 69 L (オイルゲージ中央時 32 L)
	[U-55-6E]	全油量 79 L (オイルゲージ中央時 45 L)

4. エンジンを約 5 分間アイドリングさせ、停止後、規定量入っているか確認します。

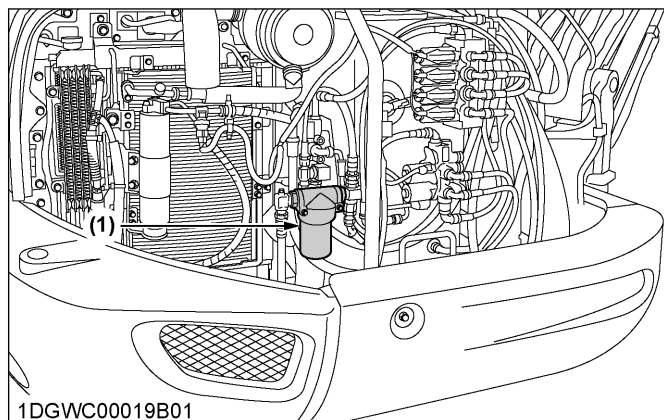
5. 油圧パイロットフィルタのエレメントの交換

エレメントの交換は油温が下がってから行ってください。

1. 右ボンネットを開けます。
2. パイロットフィルタのケースをヘッドカバーより取り外します。
3. エレメントを回転させながら下方に抜き取ります。
4. O リングを新品と交換します。
5. 新しいエレメントの O リングにきれいな作動油を薄く塗布し、傷つけないよう確実にはめ込みます。
6. ケースをヘッドカバーに締め付けます。
7. 交換後、エンジンをアイドリング回転で約 3 分間運転し、油圧回路内のエアを抜きます。

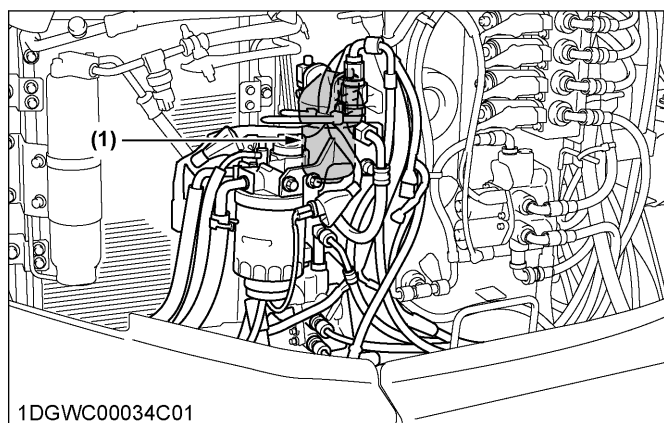
8. 作動油タンクの液面の点検を必ず行います。

【U-40-6E】

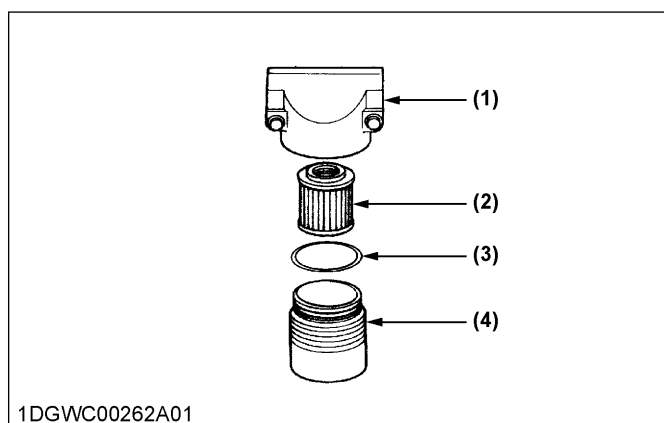


(1) 油圧パイロットフィルタ

【U-55-6E】



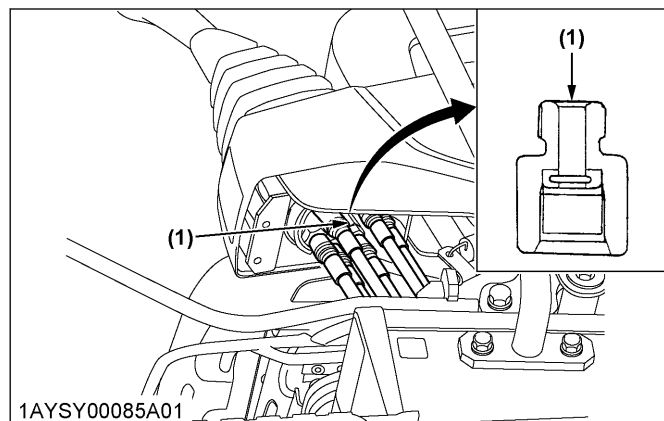
(1) 油圧パイロットフィルタ



- (1) ヘッドカバー
- (2) エレメント
- (3) Oリング
- (4) ケース

6. 油圧パイロットのラインフィルタの洗浄

フィルタの凹部にはホコリ、ゴミがたまります。オイルを凸部側に吹きつけて洗浄してください。



(1) 油圧パイロットのラインフィルタ

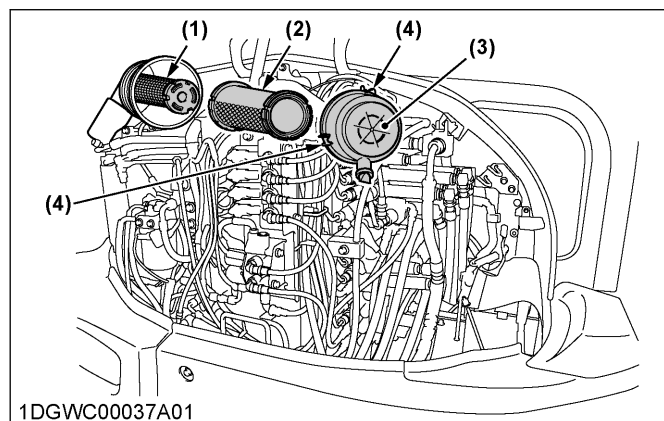
補足：

- ・ 左右のラインフィルタともに、洗浄してください。

1000 時間使用ごとまたは 1 年使用ごとの整備

1. エアクリーナエレメントの交換

1. クランプを外してアウターエレメントとインナーエレメントを取り出します。
2. 新品と交換後、組み込みます。



- (1) インナーエレメント
- (2) アウターエレメント
- (3) ダストカップ
- (4) クランプ

1500 時間使用ごとの整備

50 時間、250 時間、500 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. インジェクタ先端の点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2. オイルセパレータエレメントの交換

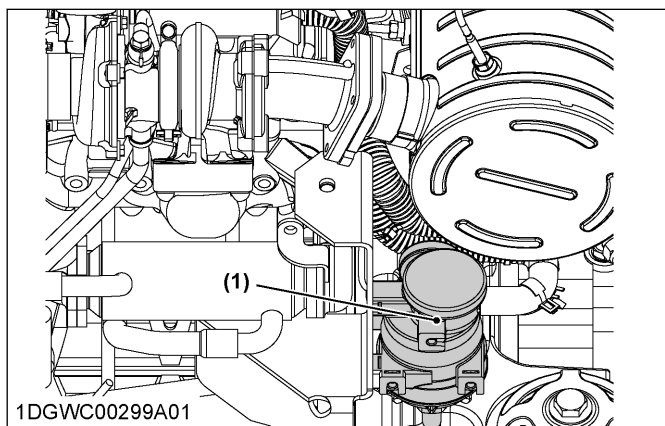


警告

- ・ オイルセパレータエレメントを交換する前に、必ずエンジンを止めてください。

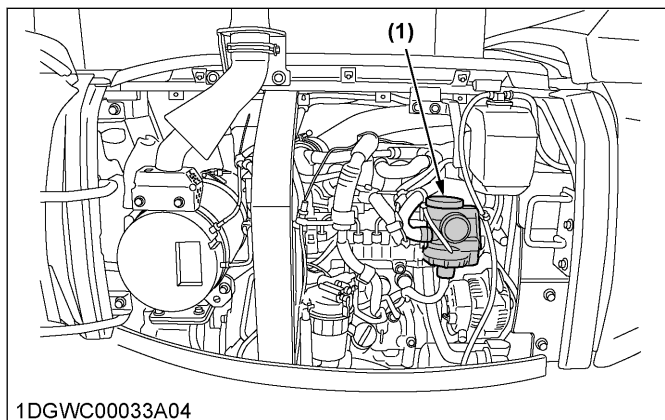
1. カバーを外し、エレメントを取り出します。清浄なウエスを使って、オイルと炭素粉をきれいに拭き取ります。
2. 新しいオイルセパレータエレメントとOリングを取り付けます。
3. カバーが本体に接触するまで、カバーを締め付けます。

[U-40-6E]

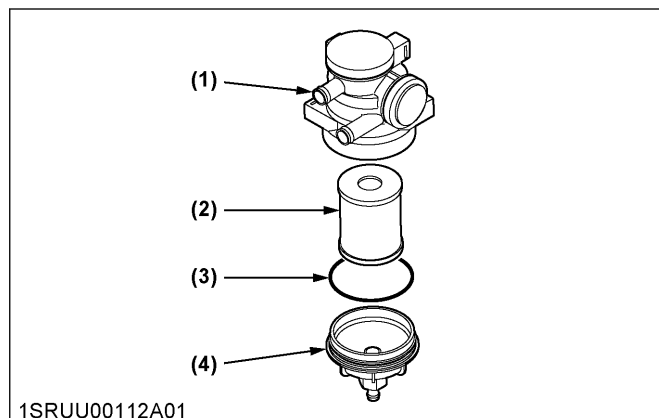


(1) オイルセパレータ

[U-55-6E]



(1) オイルセパレータ



- (1) 本体
- (2) オイルセパレータエレメント
- (3) Oリング
- (4) カバー

3. EGR クーラの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2000 時間使用ごとの整備

50 時間、200 時間、250 時間、500 時間、1000 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. トラックローラとフロントアイドラの油脂交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2. オルタネータとセルモータの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

3000 時間使用ごとの整備

50 時間、200 時間、250 時間、500 時間、1000 時間、1500 時間使用ごとの整備も一緒に行ってください。

1. ターボチャージャの点検[U-40-6E のみ]

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2. EGR システムの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

3. DPF(ディーゼルパーティキュレートフィルタ)の洗浄

DPF の稼働が長くなるにつれて、フィルタ内に灰（燃えカス）がより多く貯まります。あまりに灰が多く貯まると、DPF の性能に悪影響を及ぼします。

クボタ建設機械販売会社または認定工場に DPF の洗浄を依頼してください。

重要：

- フィルタを洗浄するには、特殊な工具が必要です。有毒な化学物質が DPF 内部に存在している可能性があるため、たとえば分解、振動、加熱など、いかなる他の方法でもフィルタの洗浄を試みないでください。

1 年使用ごとの整備

1. 電気配線の点検



警告

- ワイヤハーネスおよびバッテリーコードが損傷していると、ショートを起こすので必ず点検してください。
- バッテリー、配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので点検してください。

重要：

- ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金などで代用せず、認定工場で点検、修理してください。
- 本機のハーネスは防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますので、むやみに修理して使用せず、クボタ建設機械販売会社または認定工場で点検、修理してください。

配線のターミナル（端子）部のゆるみは、接続不良になり、また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）、漏電、または焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換、修理してください。

2. エアコンパイプとホースの点検



警告

- ウォータホースやヒータにさわらないでください。ヤケドするおそれがあります。

1. エアコンホース、パイプの傷みや締付バンドのゆるみがないか点検してください。
2. 異常があれば交換、整備を行ってください。

3. 排気マニホールドの点検（亀裂、ガス漏れ、および取付ネジ）

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

4. 吸気ラインの空気漏れの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

5. ブーストセンサおよび AFS（エアフローセンサ）の点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

6. DPF(ディーゼルパーティキュレートフィルタ)の点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

7. DPF(ディーゼルパーティキュレートフィルタ)の差圧センサおよび配管のガス漏れ点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

8. DPF(ディーゼルパーティキュレートフィルタ)の排気ガス温度センサの点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

9. EGR 配管のガス漏れ点検

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

2 年使用ごとの整備

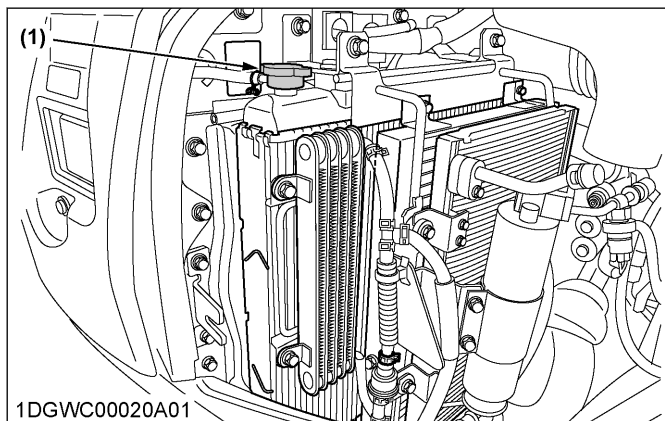
1. 冷却水の交換(ロングライフクーラント使用時)



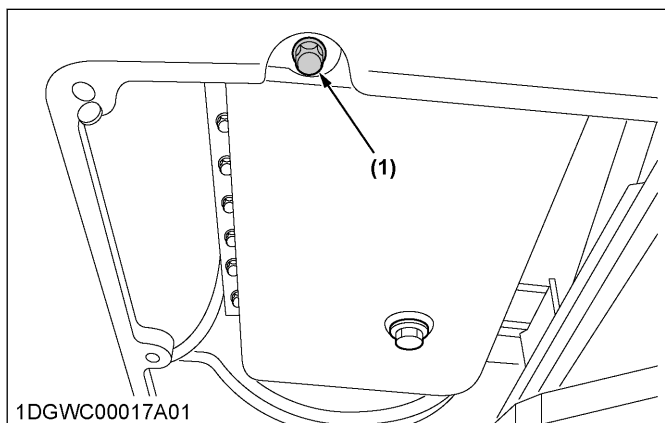
警告

- 運転中や運転停止直後にラジエータキャップを開けると蒸気や熱湯が噴出しヤケドすることがあります。ラジエータが冷えてからラジエータキャップを開けてください。

1. ラジエータキャップを外してラジエータ下部のドレインプラグを外し、冷却水を全部出します。

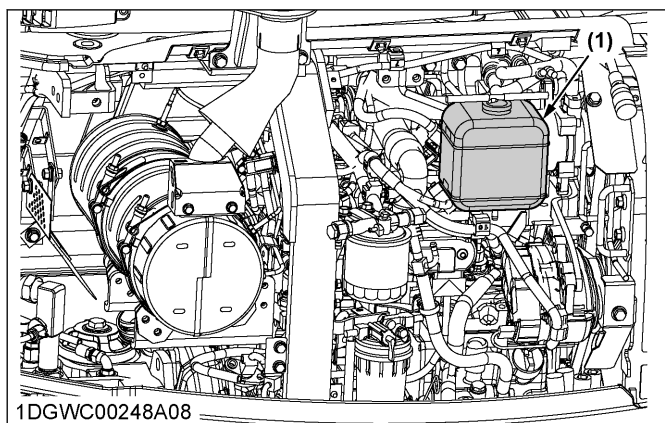


(1) ラジエータキャップ



(1) 冷却水ドレインプラグ

2. リザーブタンクを取り外して、キャップを外し、排水します。



(1) リザーブタンク

3. ラジエータの給水口から注水しながら排水します。排出口からきれいな水が出てくるまで続けます。
4. ドレインプラグを確実に締め付け、ラジエータおよびリザーブタンクにロングライフクーラントを注水します。
5. 注水後キャップを締め、エンジンを始動し約5分間アイドリングさせ、停止後、規定量まで冷却水が入っているか確認します。

1.1 不凍液の使い方（ロングライフクーラント以外の場合）

重要：

- 異なるメーカーの不凍液を混用しないでください。
- 不凍液の混合比は、メーカーや気温によっても多少異なります。

（詳細は低温への備え（134 ページ）を参照）

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が 0℃ 以下になるようなときは、必ず不凍液を使ってください。

1. パーマネントタイプ（PT 形）の不凍液を清水と混合します。
2. ラジエータおよびリザーブタンクに補給します。

補足：

- 工場出荷時は、冷却水としてロングライフクーラント（混合割合は不凍液 50%、水 50%）が入っています。

2 年使用ごとまたは 4000 時間使用ごとの整備

1. ラジエータホースとバンドの交換

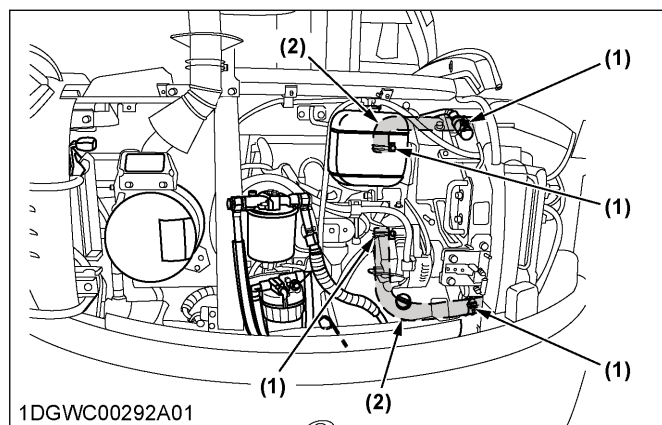


警告

- ラジエータホースやバンドが古くなると破裂して熱湯が噴出し思わぬヤケドをすることがあります。早目に交換してください。

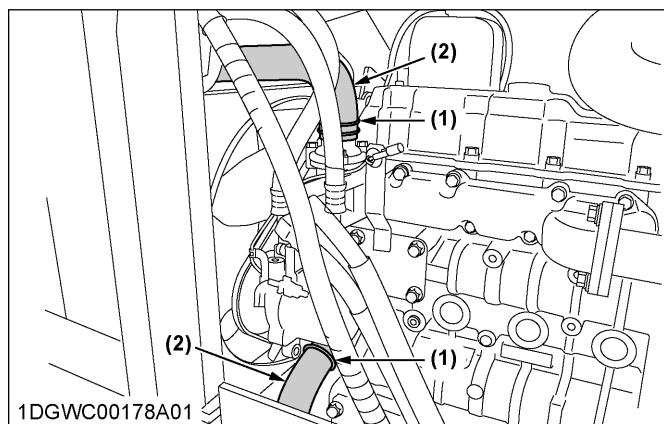
- 2 年ごとにラジエータホースおよびバンドを交換してください。
- それ以前でもチェックしたときにラジエータホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れがあった場合には交換してください。

[U-40-6E]



(1) 締付バンド
(2) ラジエータホース

[U-55-6E]



- (1) 締付バンド
(2) ラジエータホース

2. エアコンパイプとホースの交換[エアコン仕様]



警告

- ・ ウォータホースやヒータにさわらないでください。ヤケドするおそれがあります。
- ・ 2 年ごとにエアコンパイプとホースを交換してください。
- ・ それ以前でもチェックしたときエアコンパイプやホースが膨れたり、かたくなったり、ひび割れしていれば交換してください。

3. 燃料ホースとバンドの交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

4. 吸気ホースとバンドの交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

5. オイルセパレータのゴムホースの交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

6. DPF(ディーゼルパーティキュレートフィルタ)の差圧センサゴム配管(前後)の交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

7. AFS(エアフローセンサ)下流側の吸入管の交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

8. ブーストセンサ圧カゴム配管の交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

9. EGR クーラホースの交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

10. 油圧ホースの交換

クボタ建設機械販売会社または認定工場に相談してください。

必要に応じた点検と整備

1. 冷媒の取扱いの注意

このエアコンは、フロン排出抑制法に定められる第一種特定製品です。地球環境を保護するため、次のことが法律で決められており、違反した場合は罰せられます。

- ・ この製品に封入されている冷媒をみだりに大気中に放出してはいけません。
- ・ この製品を廃棄する際には、封入されている冷媒を回収しなければなりません。
- ・ フロン回収済みの証明がなければ、廃棄物リサイクル業者による引取りは禁止されています。
- ・ 冷媒の種類および量

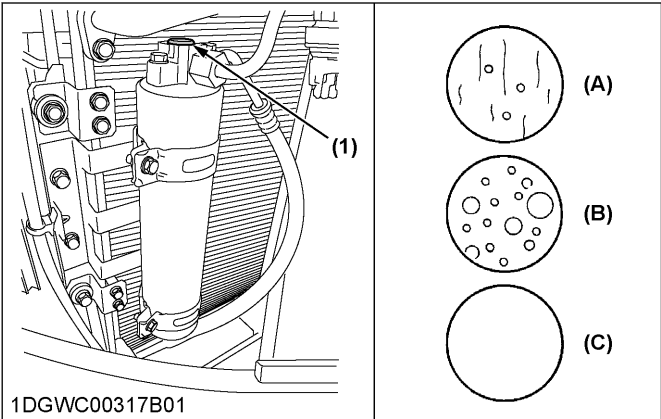
種類	冷媒番号	GWP 値	出荷時封入量
HFC	R134a	1430	0.70 kg

2. 冷媒(ガス)量の点検

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。次の要領で点検し、冷媒が不足しているときは、購入先に依頼して漏えいの有無を確認、必要に応じて修理を実施した後、充てんをしてください。

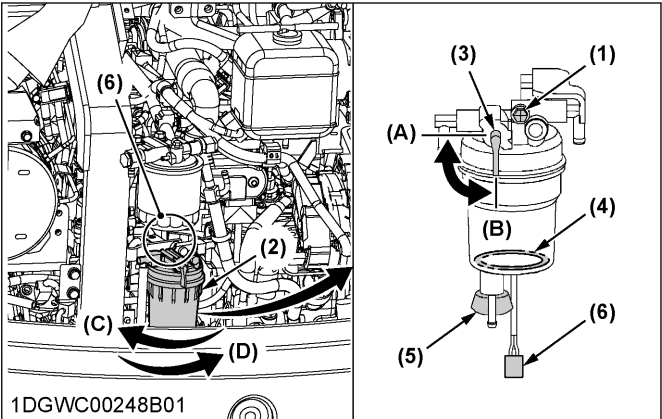
点検方法

1. エアコンを次の条件で運転します。
 - ・ エンジン回転数 約 1500 rpm
 - ・ 温度調整ダイヤル 最強冷位置
 - ・ ファンスイッチ 最強風 (3)
 - ・ エアコンスイッチ ON
2. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。



(1) サイトグラス
(A) 適正
(B) 不足
(C) なし

(A) 適正	流れの中にほとんど気泡が含まれていない。
(B) 不足	流れの中に気泡が含まれている。(気泡が連続的に通過)
(C) なし	無色透明



(1) ネジ
(2) カップ
(3) ウォータセパレータハンドル
(4) フLOAT
(5) コック
(6) 水位センサのコネクタ
(A) [OFF]
(B) [ON]
(C) ゆるめる
(D) 締める

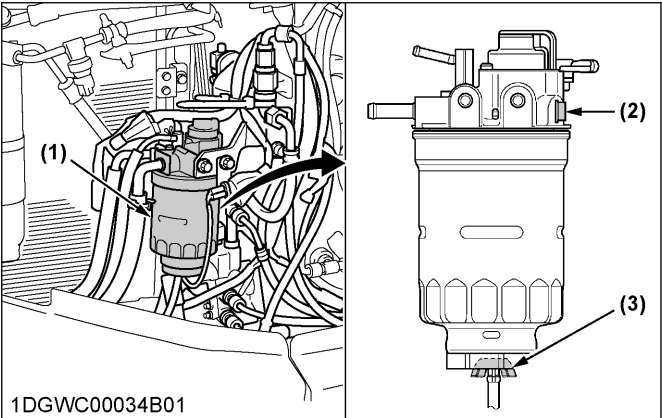
補足：

- ・ カップを外す場合は、事前に水位センサのコネクタを外してください。カップの清掃が終わったら、コネクタを取り付けてください。

[U-55-6E]

フィルタとウォータセパレータで排水してください。

1. ボルトを取り外します。
ボルトを無くさないよう、じゅうぶんに注意してください。
2. ドレインコックを開いて排水します。
3. 完全に排水したら、ドレインコックを閉じて、ボルトを締めます。
4. 燃料フィルタ排水後、ウォータセパレータも排水します。



(1) 燃料フィルタ位置
(2) ボルト
(3) ドレインコック

3. 燃料系統の排水

重要：

- ・ “燃料系水混入”の警告表示が液晶表示部に現れ、警告音が鳴ったら、直ちにエンジンを止め、次の手順で燃料系統の排水を行ってください。



1DGWC00246A01

- ・ 警告表示が現れたら、直ちに燃料系統の排水を行ってください。エンジンが重大な損傷を受けるおそれがあります。
- ・ 燃料系統の排水を行わないと、DPF の洗浄効率が落ち、DPF の寿命（3000 時間）が予定より短縮するおそれがあります。

[U-40-6E]

ウォータセパレータで排水してください。

水が溜まると赤色のフロート（浮き輪）が浮いてくるので、コックをゆるめて水を捨ててください。

1. ウォータセパレータハンドルを[OFF]にします。
2. ネジをゆるめます。
3. コックをゆるめて水を排出します。
4. カップ内にゴミなどが沈殿している場合は、カップを外して清掃します。
5. ウォータセパレータハンドルを[ON]位置にします。

3 か月ごとの点検と整備

1. エアコン機器の簡易点検

- 3 か月に 1 回以上、エアコン機器簡易点検表に従って点検をお願いします。
- 冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は、購入先に依頼して漏えい箇所の特定および修理を実施してください。
- 簡易点検表は、エアコン機器を廃棄後 3 年間は保存してください。
- 当機を譲渡する場合は、譲渡先に簡易点検表を渡してください。

バッテリーの点検と取扱い



警告

- バッテリーコードを外す場合は、ショートするおそれがありますので、必ずマイナスコードから外してください。また組み付ける場合は、プラスコードから付けてください。
- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生し、火気により引火爆発するおそれがありますので、絶対に火気を近づけないようにしてください。
- バッテリーの上や周囲に工具などの金属物や可燃物を絶対に置かないでください。ショートすると引火爆発したり、火災が発生するおそれがあります。
- バッテリー液（希硫酸）で失明や火傷をすることがありますので、バッテリー液が皮膚や衣服に着いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは水洗い後、医師の治療を受けてください。
- 充電中は各セルの液栓をすべて外してください。
- バッテリーの近くで作業するときは、必ず眼鏡や保護具で目を守ってください。

バッテリーの点検と取扱いはエンジン停止、スタータキー[STOP]の状態で行います。

1. バッテリーの保守点検

最近のバッテリーは、たいへん高性能になっていますがその取扱いを誤ると寿命を短くして、つまらぬ出費をしなければなりません。正しい取扱い方法でじゅうぶんに機能を発揮させてください。

- バッテリーは、エンジンの始動、ライトなどの電源として、どうしても必要なものです。
- バッテリーにたくわえられた電氣量が減ってくるとエンジン始動ができなくなったり、ライトが暗くなってきました。この状態になってからでは、手遅れの場合もありますから、できるだけ早めの充電が必要です。
- バッテリーは、電解液中の水が蒸発したり、充電中には液量が減少します。液が不足するとバッテリーを傷め、多いと液がこぼれて機体を傷めます。

- 極板セパレータが露出していないかどうかを点検し、不足の場合は必ずバッテリー補充液または蒸留水を追加します。
- 本機を長時間格納する場合は、バッテリーを本機から外して充電し、液面を正しく調整してから日光のあたらない乾燥したところに保存します。
- バッテリーは、保存中でも自己放電しますから 1 か月に 1 度、補充電してください。
- バッテリー補充液または蒸留水補充の際は、キャップを開ける前にバッテリー上面にあるゴミ、埃などを払い落とした後行ってください。

2. バッテリー充電時の注意

- 必ずスタータキーを[STOP]にして、バッテリーを車体から取り外して行ってください。
- バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多いと液がこぼれて車体の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は、できるだけ避けてください。バッテリー寿命を短くします。
- 急速充電法は、放電状態にあるバッテリーを短時間でその放電量の幾分かを補うために、大電流で充電する方法で、応急的な場合にだけ行います。
- バッテリーにコードを接続するときは、(+) と (-) を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリーと電氣系統が故障します。
- バッテリーからコードを外すときは (-) 側、取り付けるときは (+) 側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- 充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) に、バッテリーの (-) を充電器の (-) にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
- バッテリー液量点検、比重測定以外でバッテリーを取り扱うときは、バッテリーに接続するケーブルを取り外してから実施します。
- 各セルの液栓は、すべて外しておいてください。

3. バッテリーの点検

バッテリーの点検のしかたについては、50 時間使用ごとの整備の項を参照してください。
(詳細はバッテリーの点検 (104 ページ) を参照)

4. バッテリーを搭載したままで充電する場合の注意（やむを得ない場合のみ）

正しくは、機体からバッテリーを取り外して行ってください。

1. オルタネータに異常電圧が加わって、破損することがありますので、スタータキーを[STOP]にして、バッテリーの (-) 端子の配線を外してから充電します。
2. 充電中は、全部の液栓を外し、発生したガスを逃がします。
3. バッテリーが過熱し液温が 45 °C を超えたときは、充電を一時中止します。

4. 充電完了後は、ただちに充電をやめます。
もし、必要以上に充電を続けると、次のような症状の原因になります。
- ・ バッテリーの過熱
 - ・ バッテリー液量の減少
 - ・ バッテリーの不具合

**警告**

- ・ バッテリー接続の際、逆接続 ((+) と (-)、(-) と (+) を接続) しないように注意してください。
オルタネータなどの損傷原因になります。

なお、このようにしてエンジンを始動し、作業が終わりましたら、なるべく早く充電器の取扱説明書に従って正しく補充電をしてください。この補充電を行わなければ、バッテリーの寿命が極端に短くなりますのでご注意ください。

5. ブースターケーブルを使用時のエンジン始動方法

**警告**

- ・ バッテリーは引火性ガスを発生しますので、バッテリー近くでスパークさせたり、火気を近づけると引火爆発することがあり、たいへん危険です。
ブースターケーブルを使つてのエンジン始動は、できるだけ避けてください。

寿命末期のバッテリーは、トラブル防止のためにも、早めに新品と交換してください。
やむを得ず、ブースターケーブルを使用してエンジン始動しなければならない場合は、事故防止のため、次のようにバッテリーを取り扱ってください。

接続する前の確認

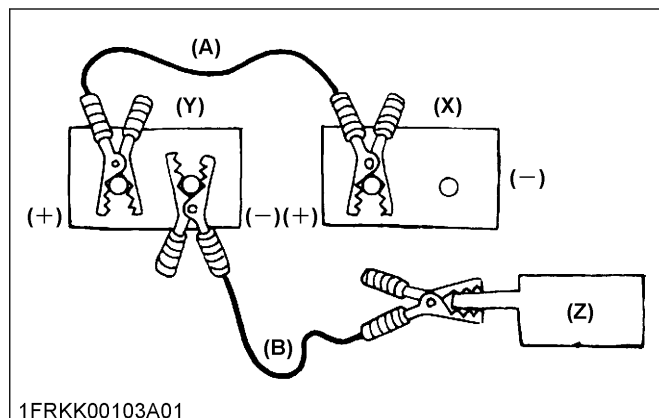
- ・ スタートキーは、[STOP]位置にします。
- ・ ブースターケーブル、クリップの容量は、バッテリー容量に合ったものを使います。
- ・ ケーブル、クリップ、およびバッテリーの (+)、(-) 端子に断線や腐蝕がないか点検します。
- ・ 正常車のバッテリーは、トラブル車のバッテリーと同容量のものを使います。

ブースターケーブルの接続

1. ブースターケーブル(A)のクリップを、トラブル車の (+) 端子に接続し、片方のクリップは正常車の (+) 端子に接続します。
2. ブースターケーブル(B)のクリップを正常車の (-) 端子に接続し、片方のクリップをトラブル車のフレームに確実に接続します。

補足：

- ・ フレームへの接続は、バッテリーからできるだけ離れたところに接続してください。



1FRKK00103A01

- (X) トラブル車のバッテリー (A) ブースターケーブル (赤)
(Y) 正常車のバッテリー (B) ブースターケーブル (黒)
(Z) トラブル車のフレーム

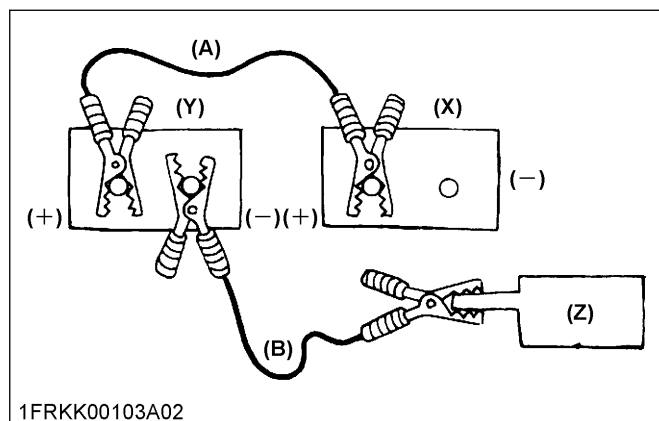
3. 各端子に接続後、トラブル車のエンジン始動前に確実に接続されているか確認します。

トラブル車のエンジン始動

1. 接続確認が終わったら、トラブル車のエンジンを始動します。
2. 始動に失敗したときは、2 分～3 分おいてから再始動します。

ブースターケーブルの取外し

1. ブースターケーブル(B)のクリップをトラブル車のフレームから取り外し、次に正常車の (-) 端子との接続を外します。
2. ブースターケーブル(A)のクリップを正常車の (+) 端子から取り外し、トラブル車の (+) 端子の接続を外します。



1FRKK00103A02

- (X) トラブル車のバッテリー (A) ブースターケーブル (赤)
(Y) 正常車のバッテリー (B) ブースターケーブル (黒)
(Z) トラブル車のフレーム

6. エンジン始動時およびバッテリー充電時の注意について

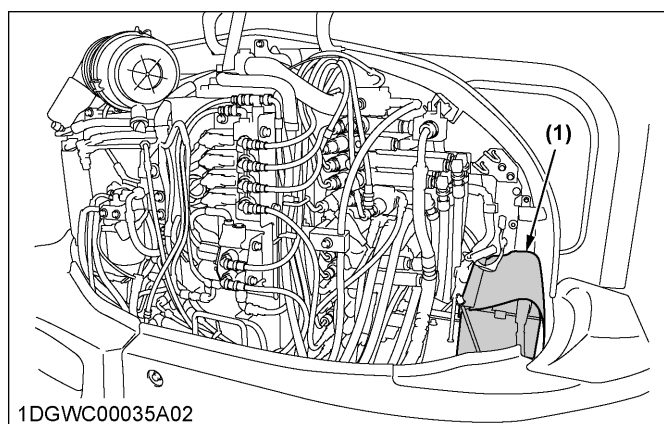
バッテリーが上がった場合の、エンジン始動方法やバッテリーの取扱いについては、次のようにしてください。

重要：

- ・ バッテリーが上がった場合の充電と始動に関する禁止作業

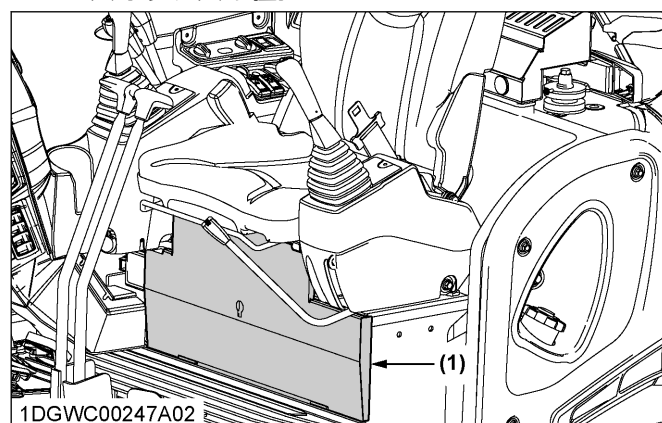
次の場合電装品（コントローラ、メータ含）に過電圧が加わり破損する可能性がありますので整備される場合はじゅうぶんに注意してください。

- 24 V 作動の大型建機、またはトラックなどからジャンプスタートをしないでください。
必ず 12 V から取り出してください。
- バッテリ端子を接続したままで充電をしないでください。
充電は必ず端子を外してください。
- バッテリ充電器によるセルスタートはしないでください。
- 24 V のバッテリーでセルスタートをしないでください。
必ず 12 V のバッテリーで行ってください。
- エンジン回転中はバッテリー端子を外さないでください。

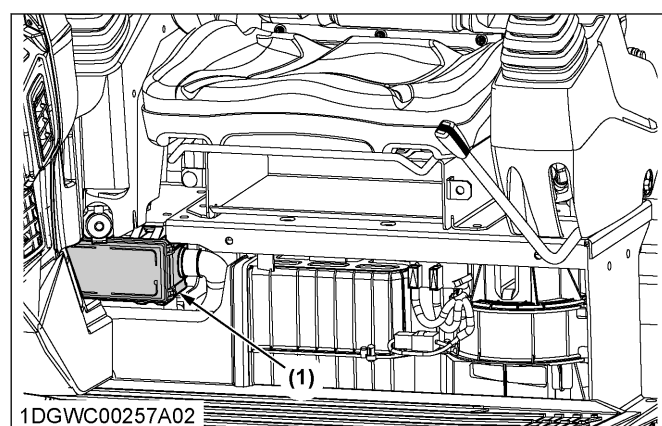


(1) バッテリ

ヒューズボックスの位置



(1) カバー



(1) ヒューズボックス

ヒューズの点検と交換



警告

- ・ ヒューズおよびスローブローヒューズの交換は、スタータキーを[STOP]位置にし、エンジンを停止してから行ってください。
もし怠ると、スパークなどが発生し危険です。

1. ヒューズの交換

重要：

- ・ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、クボタ建設機械販売会社または認定工場に点検、修理を依頼してください。
1. スタータキーを[STOP]位置にします。
 2. シート下のカバーを外し、ヒューズボックスのふたを取り外します。
 3. 切れたものと同容量のヒューズと交換します。
ヒューズの取外しはヒューズボックスカバーを使用すると簡単にできます。

2. ヒューズの容量と受け持っている回路

[U-40-6E]

キャブ

(1)	30A	5A	(13)
(2)	5A	5A	(14)
(3)	30A	5A	(15)
		10A	(16)
(4)	15A	5A	(17)
(5)	5A	15A	(18)
(6)	10A	5A	(19)
(7)	5A	10A	(20)
(8)	10A	15A	(21)
(9)	5A	15A	(22)
(10)	20A		
(11)	15A		
(12)	5A		

1DGWC00263A01

- | | |
|----------------------------|------------------|
| (1) ブロワモータ | (12) スタータ |
| (2) エアコン (ヒータ) コントローラ (+B) | (13) 燃料ポンプ |
| (3) ECU | (14) 作業灯スイッチ |
| (4) ビーコン | (15) レバーロック |
| (5) 室内灯 | (16) オルタネータ |
| (6) メータ (+B) | (17) ECU (AC) |
| (7) ホーン SW | (18) 電源取出 |
| (8) ホーン | (19) コモンレールシステム |
| (9) ECU (+B) | (20) ヒータコントローラ |
| (10) キャブ作業灯 | (21) ラジオ電源 |
| (11) フロント作業灯 | (22) ワイパー、ウォッシャー |

キャノピ

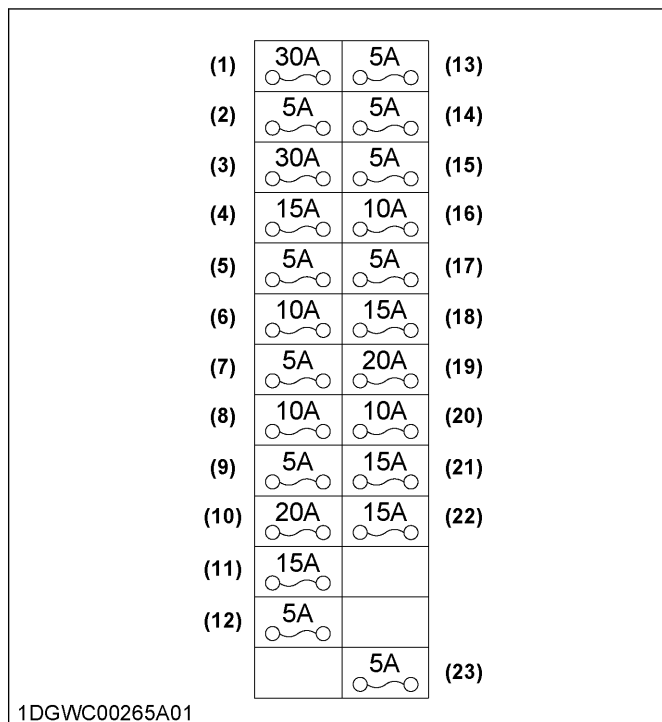
		5A	(11)
		5A	(12)
(1)	30A	5A	(13)
		10A	(14)
(2)	15A	5A	(15)
(3)	5A	15A	(16)
(4)	10A	5A	(17)
(5)	5A		
(6)	10A		
(7)	5A		
(8)	20A		
(9)	15A		
(10)	5A		

1DGWC00264A01

- | | |
|--------------|-----------------|
| (1) ECU | (10) スタータ |
| (2) ビーコン | (11) 燃料ポンプ |
| (3) 室内灯 | (12) 作業灯スイッチ |
| (4) メータ (+B) | (13) レバーロック |
| (5) ホーン SW | (14) オルタネータ |
| (6) ホーン | (15) ECU (AC) |
| (7) ECU (+B) | (16) 電源取出 |
| (8) キャノピ作業灯 | (17) コモンレールシステム |
| (9) フロント作業灯 | |

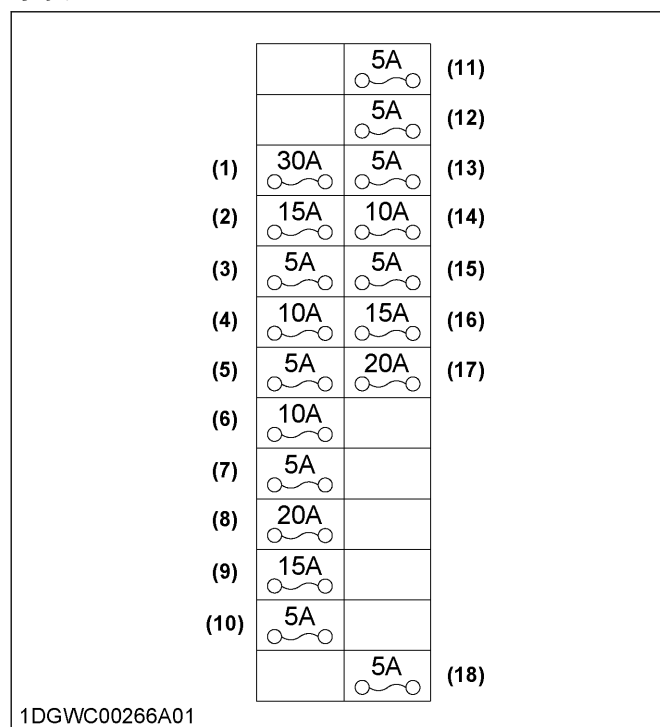
[U-55-6E]

キャブ



- | | |
|----------------------------|-----------------|
| (1) ブロワモータ | (12) スタータ |
| (2) エアコン (ヒータ) コントローラ (+B) | (13) 燃料ポンプ |
| (3) ECU | (14) 作業灯スイッチ |
| (4) ビーコン | (15) レバーロック |
| (5) 室内灯 | (16) オルタネータ |
| (6) メータ (+B) | (17) ECU (AC) |
| (7) ホーン SW | (18) 電源取出 |
| (8) ホーン | (19) 燃料フィルタヒータ |
| (9) ECU (+B) | (20) コンプレッサ |
| (10) キャブ作業灯 | (21) ラジオ電源 |
| (11) フロント作業灯 | (22) ワイパー、ウォッシャ |
| | (23) コモンレールシステム |

キャノピ



- | | |
|--------------|-----------------|
| (1) ECU | (10) スタータ |
| (2) ビーコン | (11) 燃料ポンプ |
| (3) 室内灯 | (12) 作業灯スイッチ |
| (4) メータ (+B) | (13) レバーロック |
| (5) ホーン SW | (14) オルタネータ |
| (6) ホーン | (15) ECU (AC) |
| (7) ECU (+B) | (16) 電源取出 |
| (8) キャノピ作業灯 | (17) 燃料フィルタヒータ |
| (9) フロント作業灯 | (18) コモンレールシステム |

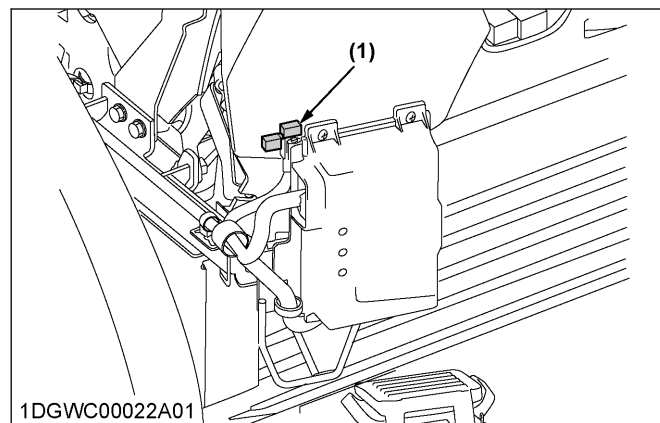
指定容量以外のヒューズは使用しないでください。

補足：

- 仕様によっては最初から、部分的にヒューズがないものがあります。
詳しくはヒューズボックスのラベルを参照してください。

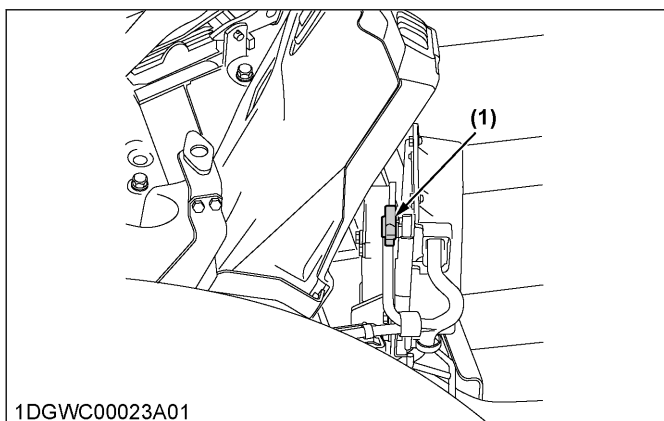
[クボトラッキングシステム仕様のみ]

車両前側から見た図



- (1) ヒューズボックス (5 A)

車両右側から見た図



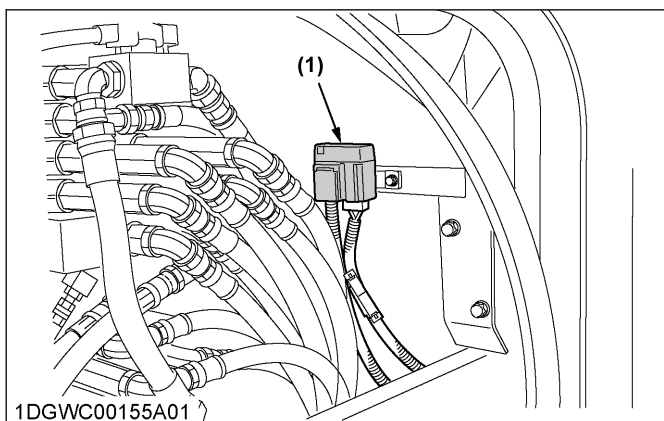
1DGWC00023A01

(1) ヒューズボックス (5 A)

3. スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。

もし切れた場合は、必ず切れた原因を調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。

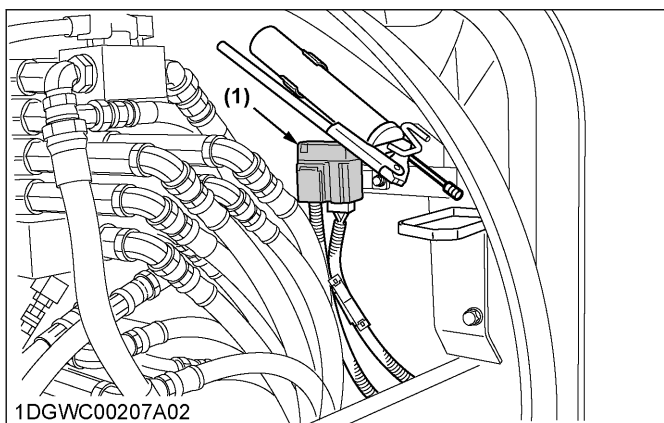


1DGWC00155A01

(1) スローブローヒューズ

スローブローヒューズ 80 A と 30 A の交換手順

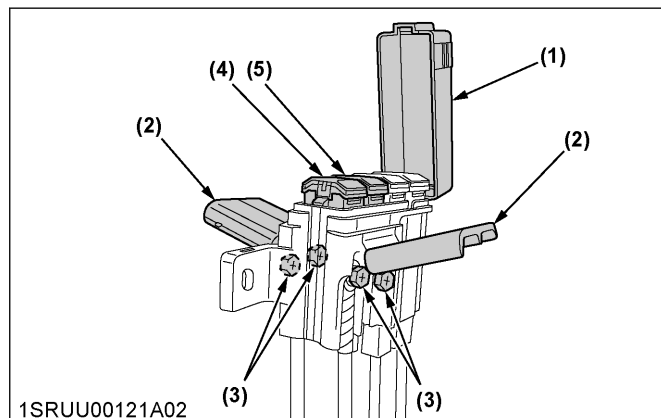
1. バッテリーの (-) 側のコードを外します。
2. スローブローヒューズケースを取り外します。



1DGWC00207A02

(1) スローブローヒューズケース

3. スローブローヒューズケースのキャップとカバーを開き、ボルトを外して、スローブローヒューズを交換します。



1SRUU00121A02

- (1) スローブローヒューズケースのキャップ
- (2) カバー
- (3) ボルト
- (4) スローブローヒューズ (80 A オルタネータ)
- (5) スローブローヒューズ (30 A エンジン ECU)

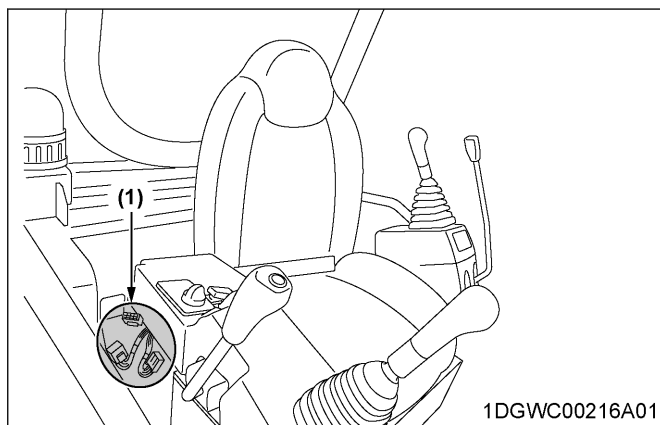
予備電源

予備電源は本機についている作業灯 (55 W) 以外に追加して作業灯を取り付ける場合に使います。

キャンピ仕様の場合はワイヤハーネス (作業灯) を分岐し、本機の作業灯を含めて 110 W まで取付けが可能です。

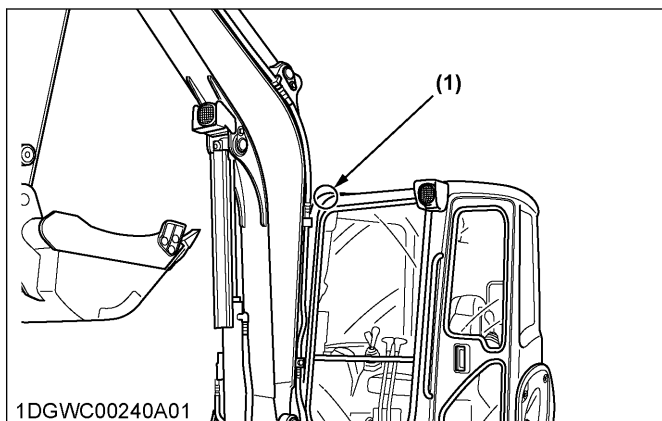
キャブ仕様の場合はキャブ前面上部右側に端子があります。最大 55 W×1 灯の取付けが可能です。

詳細については、クボタ建設機械販売会社または認定工場におたずねください。

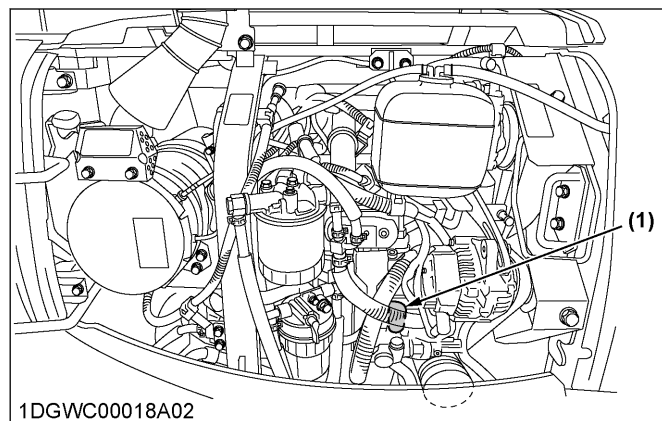


1DGWC00216A01

(1) 予備電源



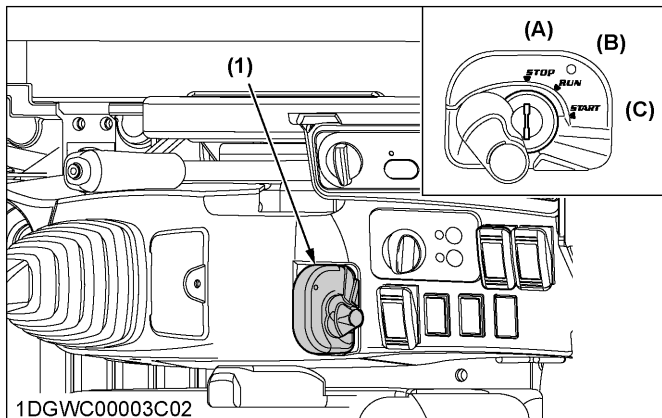
(1) 端子取出口



(1) プライミングポンプ

燃料系統のエア抜き

1. 燃料タンクに燃料を補給します。
2. スタータスイッチにキーを差し込み、[RUN]の位置に回します。



(1) スタータスイッチ

(A) [STOP]
(B) [RUN]
(C) [START]

3. 約 1 分で、自動的にエアが抜けます。

補足：

- 1 回でエアが抜けきらず始動後エンジンが停止する場合は、手順 2.、3.の操作を繰り返してください。

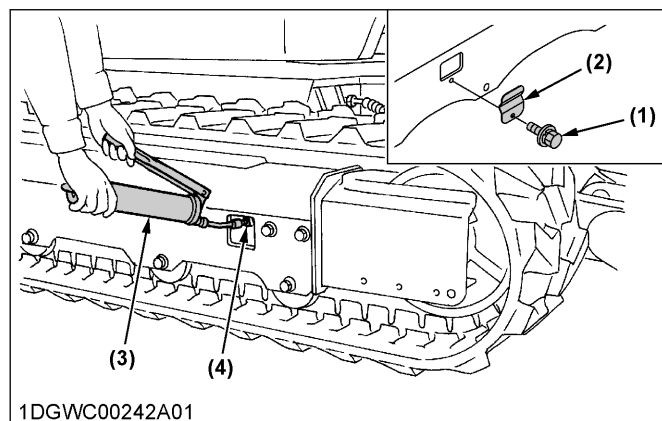
[U-40-6E]

- エアが抜けにくい場合、エンジンのプライミングポンプがかたくなるまで繰り返し押ししてください。(10 回～30 回)

クローラの調節

1. ゴムクローラの張り方

1. カバーを外し、グリースガンでグリースニップルに差し込みグリースを送り込みます。



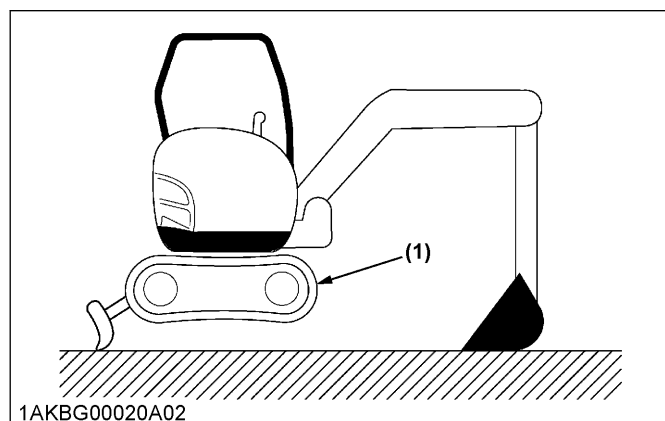
(1) ボルト
(2) カバー
(3) グリースガン
(4) グリースニップル

2. クローラの張り具合は、次図のようにクローラ部を浮かせた状態で(A)が 10 mm～15 mm になるように調整します。

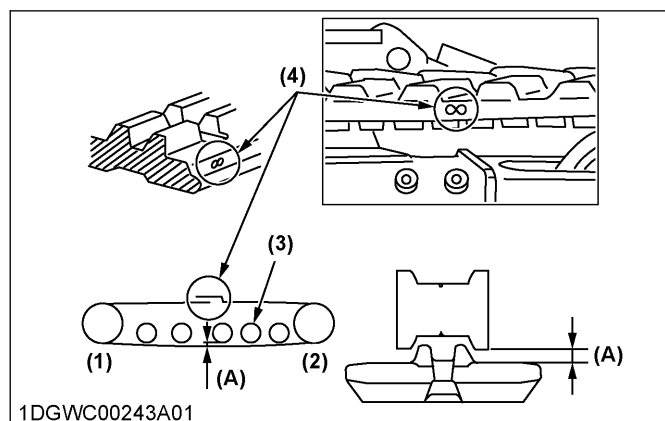
ゴムクローラの継目部がある場合は、上部中央になるように動かします。

(A) 寸法を合わせる輪転の位置は次のとおりです。

機種	(A) 寸法を合わせる輪転の位置
U-40-6E	アイドラ側から 2 輪転目
U-55-6E	アイドラ側から 3 輪転目



(1) クローラ



- (1) スプロケット側
(2) アイドラ側
(3) 輪転
(4) 継目部（継目部には∞マークが入っています。）

(A) すき間

すき間 (A)	10 mm～15 mm
---------	-------------

上図のゴムクローラは簡略化した図です。
実際の輪転の位置は実機でご確認ください。

補足：

- (A)寸法の 10 mm～15 mm は、ゴムクローラの張り調整時の目安ですが、グリースシリンダにグリースを送り込んでも(A)寸法が小さくならない場合は調整完了です。
3. 調整後 1 回～2 回クローラを回し張り代を確認します。

2. ゴムクローラのゆるめかた



警告

- グリースシリンダ内は高圧になっています。シリンダニップルをゆるめすぎたり、急激にゆるめたりすると、ニップルやグリースシリンダ内の高圧グリースが飛び出し危険です。顔などをニップル付近に近づけないように、体をニップル正面にもっていかずにニップルを徐々にゆるめてください。
- スプロケットに石などがかみこんでいるときは除去してから行ってください。

1. シリンダニップル根元部にソケットレンチを差し込み 3 回～4 回ゆっくり回してゆるめます。
2. ネジ部よりグリースが出てきたら、クローラを浮かせた状態でクローラを空転し、さらにじゅうぶんゆるめます。
3. 調整が終わったら、ニップルの六角部をソケットレンチで締め込みます。

締込トルク	約 98 N・m～108 N・m (10 kgf・m～11 kgf・m)
-------	--------------------------------------

重要：

- 50 時間ごとに張り代を確認し再調整してください。
- 張りすぎると、ゴムクローラの摩耗を早めます。
- ゆるみすぎると、次の不具合の原因になります。
 - スプロケットのかみ合い不良
 - ゴムクローラの早期摩耗
 - ゴムクローラ外れ
- ゴムクローラ部は、作業終了後、じゅうぶん清掃し、泥や異物が付着したまま放置しないでください。
- 万一作業中、ゴムクローラ部に泥や異物が詰まり、張りすぎ状態になった場合は、ブーム、アーム、バケットでゴムクローラ部を浮かせて片側ずつ無負荷回転させるなどをして、泥落としをしてください。
- クローラの継目に注意してください。
ゴムクローラには継目があります。クローラ調整の際は必ず継目部を上部中央にくるようにしてください。また、上部転輪の機械では上部転輪がリンクの間にくるようにして調整してください。
継目位置を間違えると適正張り具合よりたるみが多くなり再調整が必要となります。

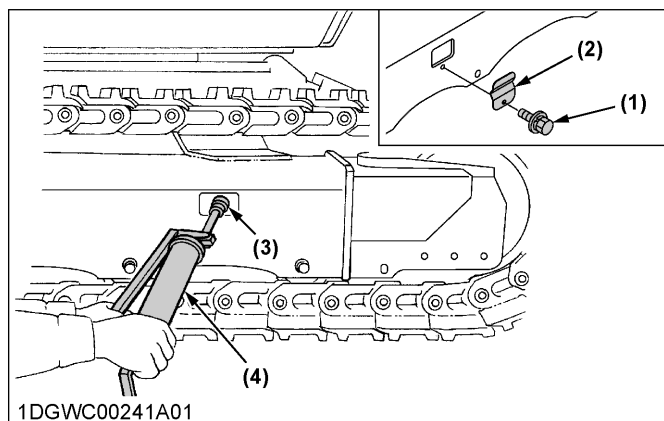
3. ゴムクローラの上手な使い方

- ターンするときはできるだけピボットターンを避けて緩旋回をしてください。
(ラグの摩耗、石のかみこみが少なくなります。)
- ターンするときに土砂のかみこみにより、リリースが作動したときは無理にターンせず一度まっすぐ後退し土砂がとれてから再度ターンしてください。

- 河川敷、碎石地盤上、または鉄筋や鉄屑上ではゴムに傷をつけクローラ寿命が短くなりますので絶対に使用しないでください。

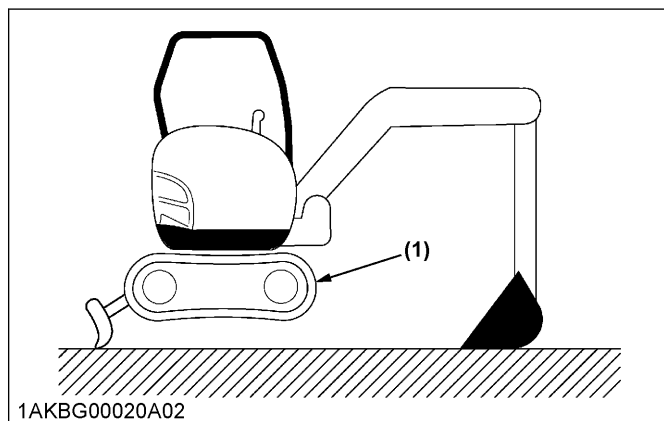
4. 鉄クローラのクローラシューの張り方

- カバーを外し、グリースガンでグリースニップルに差し込みグリースを送り込みます。

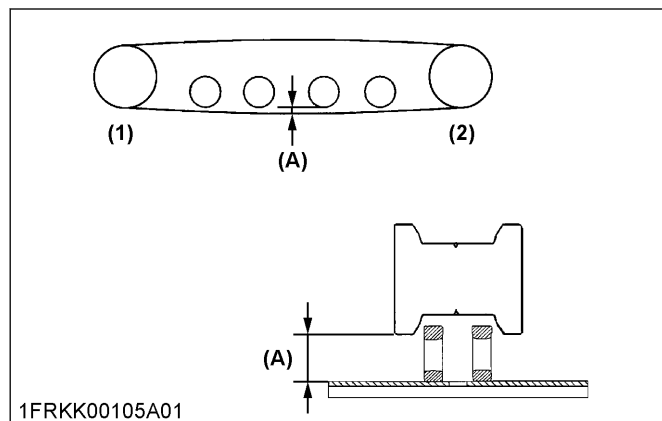


- (1) ボルト
- (2) カバー
- (3) グリースニップル
- (4) グリースガン

- クローラの張り具合は図のようにクローラ部を浮かせた状態で、中央のトラックローラの外周端とシュー上面とのすき間(A)寸法を確認します。(A)寸法が次図の数値のときが最も良い状態です。



- (1) クローラ



- (1) スプロケット側
- (2) アイドラ側

(A) すき間

すき間 (A)	80 mm～85 mm
---------	-------------

補足：

- (A)寸法の 80 mm～85 mm は、鉄クローラの張り調整時の目安ですが、グリースシリンダにグリースを送り込んで(A)寸法が小さくならない場合は調整完了です。

クローラシューをゆるめたいときは、ゴムクローラの要領で行ってください。

バケットの交換

警告

- 交換作業時は、ヘルメットや保護眼鏡などの保護具を着用してください。
- 共同作業時は、合図を徹底し相互の連絡を確実にし、安全にじゅうぶん注意してください。

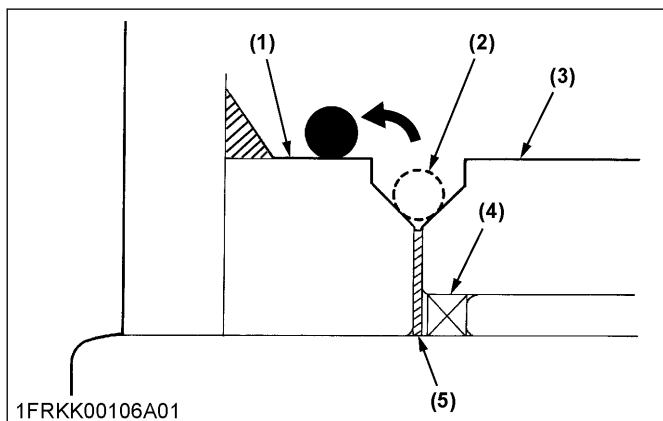
重要：

- 抜いたピンは砂や泥が付着しないよう注意してください。
- ブッシュ両端にはダストシールが入っていますのでピン脱着時、傷つけないよう注意してください。

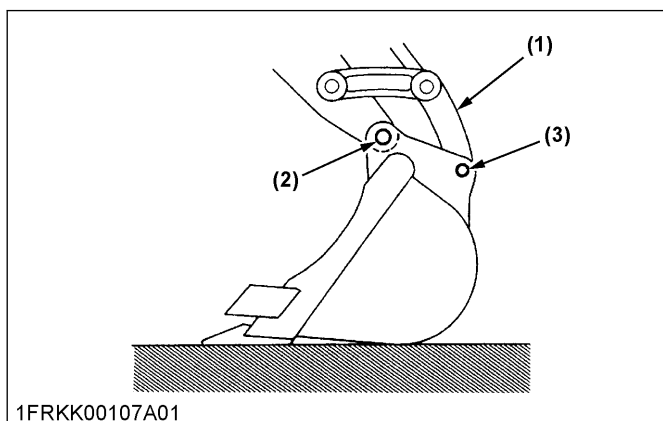
1. バケットの取外し

- バケットおよびブレードを平たんで水平な場所に接地します。
- エンジンを停止し、油圧系統の圧力を抜きます。(詳細は油圧回路の残圧の抜き方 (90 ページ) を参照)

3. Oリングを溝から外し、ピン A、B を抜きます。



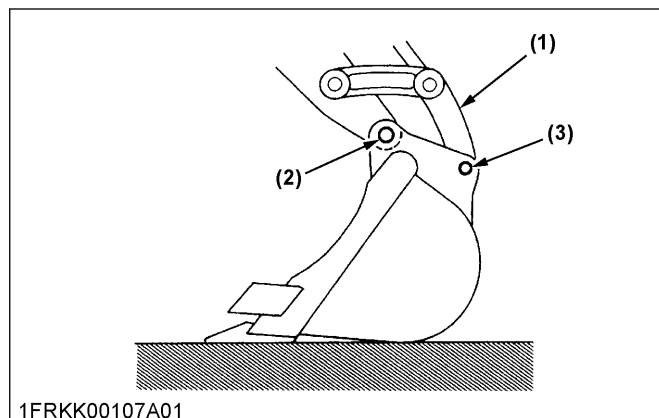
- (1) バケット
(2) Oリング
(3) アーム
(4) ダストシール
(5) シム



- (1) リンク
(2) ピン A (穴 A)
(3) ピン B (穴 B)

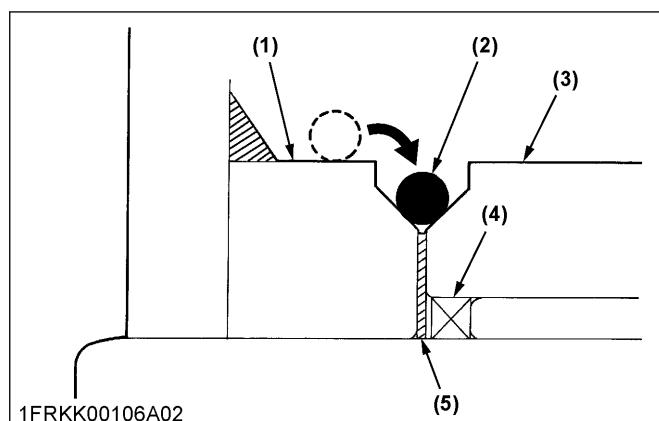
2. バケットの取付け

1. バケットのボス部に O リングをのせます。
2. アームを穴 A に合わせ、アーム両端にシムを入れ、ピンで結合します。次にリンクを穴 B に合わせ、リンク両端にシムを入れ、ピンで結合します。



- (1) リンク
(2) ピン A (穴 A)
(3) ピン B (穴 B)

3. ピンの抜け止めボルトを確実に取り付けます。
4. O リングを溝にはめます。



- (1) バケット
(2) Oリング
(3) アーム
(4) ダストシール
(5) シム

5. ピンに給脂します。

バケット爪とサイドカッタの交換

1. バケット爪の交換

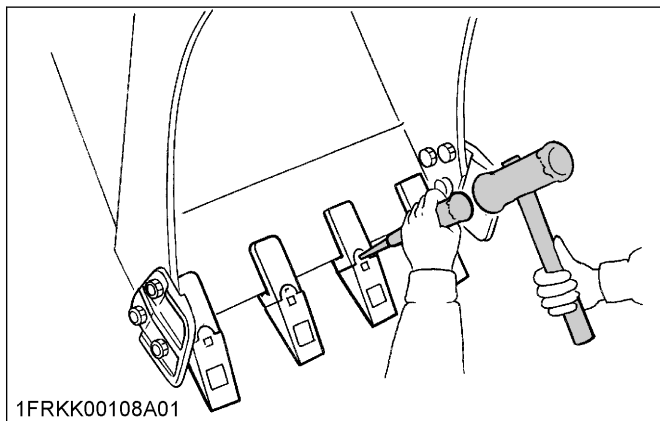


警告

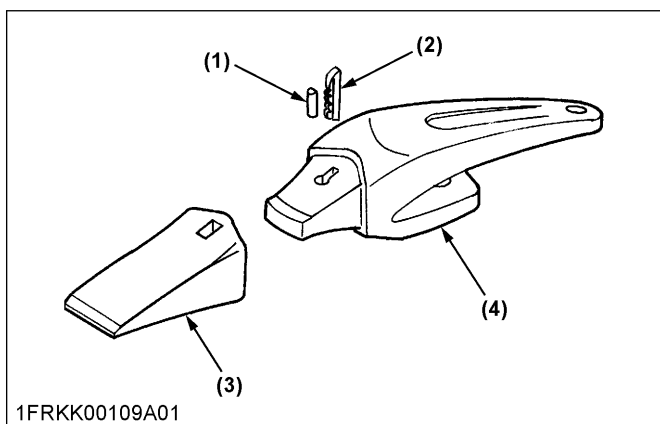
- 作業時は、必ず保護眼鏡などの保護具を使用してください。

1. ロッキングピンに打抜き具を当てて、ハンマでまずロッキングピンを打ち抜きます。
2. 摩耗したポイントをハンマでたたいてアダプタから抜き取ります。

3. アダプタに付着している土を取り除きます。



4. 新しいポイントをアダプタに合わせて挿入します。

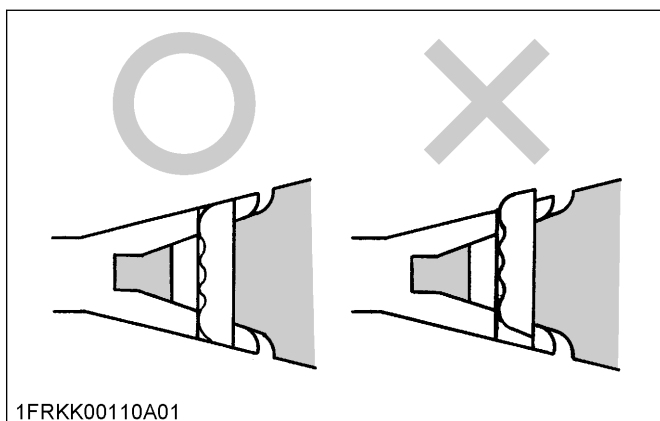


- (1) ラバープラグ
- (2) ロッキングピン
- (3) ポイント
- (4) アダプタ

5. ポイントの穴とアダプタの穴を合わせた状態でロッキングピンを打ち込みます。この場合、ピンの上面とアダプタの上面が一致するまで確実に打ち込みます。

補足：

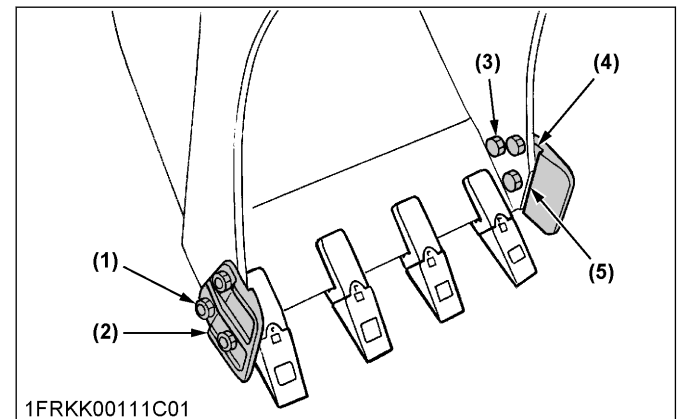
- ・ ラバープラグとロッキングピンは、新しいポイントを取り付けるごとに交換することをおすすめします。



2. サイドカッタの交換

1. ソケットレンチ、スパナでサイドカッタ取付ボルトを外します。
2. 新しいサイドカッタを取り付けます。ボルトは仮締めにします。
3. サイドカッタ当たり面とバケット口金が確実に当たっていることを確認した後、ボルトを締め付けます。

締めトルク	260 N・m～304 N・m (26.5 kgf・m～31 kgf・m)
-------	--



- (1) ナット
- (2) サイドカッタ
- (3) 取付ボルト
- (4) バケット口金
- (5) 当たり面

補足：

- ・ サイドカッタ当たり面とバケット口金が当たっていない場合や締め方が弱いとボルトがゆるむことがあります。

長期保管時の手入れ

1. 長期間休車するときの注意点

長期間休車するときは、次の点に注意して格納してください。

- ・ 各部の洗浄、掃除後、乾燥した屋内に格納し屋外に放置しないでください。
やむを得ず屋外に置くときは、平たん地を選んで、木材の上に置き、シートなどでしっかりおおいをしてください。
- ・ 給油、給脂、およびオイル交換をきれなく行ってください。
- ・ 油圧シリンダのピストンロッドの露出部にグリースをじゅうぶん塗ってください。
- ・ バッテリーはアースコードを外すか、車から降ろして保管してください。
- ・ 気温が 0℃以下に下がるときは、冷却水に不凍液を添加するか、水を完全に抜き取ってください。

2. 長期間休車後に使用するときの処置

1 か月以上休車する場合は、1 か月ごとに実施してください。

1. 油圧シリンダロッドに塗ったグリースを拭き取ります。
2. エンジンをかけ、無負荷で作業機関係、走行関係を動かし、油をじゅうぶんゆきわたらせます。

- 適当な駐車場所がなければ、板を敷くとか、ムシロの上に止めるなどして、駐車してください。土の上にじかに駐車して翌朝クローラが凍りつくと、走行不能や、走行モータなどを破損する原因になります。
- 特に、油圧シリンダのピストンロッドの表面についた水滴は、じゅうぶんに拭き取ってください。凍った水滴と一緒に泥などがシール内に入り込み、シールを損傷することがあります。

寒冷時の取扱い

1. 低温への備え

- **油圧作動油**
指定粘度のものに交換します。
- **燃料**
-5℃未満の場合は JIS3 号軽油または JIS 特 3 号軽油を使用してください。
- **バッテリー**
低温では、起電力も低下し、充電量が少ないと液も凍結します。そのため、作業終了後、エンジンを停止するとき、充電率を 75 % 以上にしておき、かつ保温に注意して、翌朝の始動に備えます。液面が低く、蒸留水を補給するときは、凍結防止のため、作業終了後を避けて翌日の作業開始前に行います。
- **冷却水**
不凍液を添加します。
休車中に気温が 0℃以下に下がる時は、冷却水に不凍液を添加して、ラジエータおよびリザーブタンクに補給し凍結を防ぎます。

水と不凍液の混合割合表

最低気温 (℃)	-5	-10	-15	-20	-25	-30	-35	-40
不凍液量 (%)	30	30	30	35	40	45	50	55
水の量 (%)	70	70	70	65	60	55	50	45

補足：

- 不凍液は、パーマネントタイプのもの、またはロングライフクーラントを使用してください。
- 水と不凍液との混合液は、冷却水を完全に抜き、水アカなどを取り除いてから注入してください。
- 不凍液には、防錆剤が入っているので、不凍液を使用する場合、保浄剤は必要ありません。
- 冷却水については、冷却水の交換の項を参照してください。
(詳細は冷却水の交換（ロングライフクーラント使用時）（119 ページ）を参照)

2. 作業終了後の注意

- 車体に付着した泥や水などはよく落とし、クローラをコンクリートの上や、乾いた場所に置いてください。特に足回りに付着した泥はよく落としておかないと凍りついて走行不能になることがあります。

重要部品の定期交換

運転上および作業上の安全を常に確保するために、機械を使用される方は、定期点検整備を必ず実施するように、お願いいたします。安全性をより高めるために、特に安全および火災に関係のある下記の重要部品について、定期交換をクボタ建設機械販売会社または認定工場へ依頼してください。

これらの部品は、経時的に材質が変化したり、摩耗や劣化を起こしやすいものです。定期点検整備などで、その程度を判定することがむずかしいため、一定のご使用期間後には、特に異常が認められなくても、新品と交換して常に完全な機能を維持する必要があります。

ただし、これらの部品は、期間前でもなんらかの異常を発見された場合は、修理または新品と交換することは従来どおりです。

ホース部分につきましては、ホースクランプの変形やき裂など劣化が認められたときは、ホースクランプも同時に新品と交換してください。

また定期交換部品以外の油圧ホースについても次の点検を行い、異常が認められたときは、増締め、交換などを行ってください。

油圧ホース交換時には、Oリングやシール類も同時に交換をしてください。重要部品の交換は、クボタ建設機械販売会社または認定工場に依頼してください。

下記の定期点検時には、燃料ホース、油圧ホースの点検も実施してください。

点検区分	点検項目
仕業点検	燃料や油圧ホースの接続部、かしめ部からの油漏れ
月例点検	燃料や油圧ホースの接続部、かしめ部からの油漏れ 燃料や油圧ホースの損傷（亀裂、摩滅、またはむしれ）
特定自主検査 （年次点検）	燃料や油圧ホースの接続部、かしめ部からの油漏れ 燃料や油圧ホースの干渉、つぶれ、老化、ねじれ、損傷（亀裂、摩滅、またはむしれ）

重要部品一覧表

No.	定期交換部品	交換時間
1	燃料ホース（燃料タンク～ウォータセパレータ）	2年ごとまたは4000時間ごとの早い方
2	燃料ホース（ウォータセパレータ～燃料ポンプ）	
3	燃料ホース（燃料ポンプ～燃料フィルタ）	
4	燃料ホース（燃料フィルタ～燃料ノズル）	
5	燃料ホース（燃料ノズル～燃料タンク）	
6	油圧ホース（メインポンプサクシオン）	
7	油圧ホース（メインポンプデリバリ）	
8	油圧ホース（ブームシリンダ）	
9	油圧ホース（アームシリンダ）	
10	油圧ホース（バケットシリンダ）	
11	油圧ホース（スイングシリンダ）	
12	油圧ホース（ブレードシリンダ）	
13	油圧ホース（サービスポート）	
14	油圧ホース（旋回モータ）	

バックホーの不調と処置

バックホーの不調と処置一覧表

もしミニバックホーの調子が悪い場合、次の表により診断し、適切な処置をしてください。
わからない場合は、購入されたクボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。

エンジン関係

現状	原因	処置
スタータが回らない場合	・ 間違ったキーでエンジン始動しようとしている。	・ “キーが違います エンジン始動できません”とメータパネルに表示されるので、正しいキーでエンジン始動する。
	・ 金属部品（キーホルダなど）をキーに取り付けている。	・ 金属部品をキーから外してエンジン始動する。
始動困難な場合	・ 燃料が流れない。	・ 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く。 ・ 燃料フィルタとウォータセパレータエレメントを点検し、汚れていれば交換する。
	・ 燃料送油系統に、空気や水が混入している。	・ パイプおよび締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換または補修しておく。 ・ 空気抜きをする。 （詳細は燃料系統のエア抜き（129 ページ）を参照）
	・ 寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	・ ラジエータに熱湯をそそぐ。
	・ バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	・ バッテリーを充電する。
出力不足の場合	・ 燃料不足。	・ 燃料を補給する。
	・ エアクリーナの目詰まり。	・ エレメントを掃除する。
突然停止した場合	・ 燃料不足。	・ 燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	・ 燃料が悪い。	・ 良質の燃料に交換する。
	・ エンジンオイルの入り過ぎ。	・ 正規のオイル量にする。
水温計の表示が[H]を示す時 (エンジンのオーバーヒート)	・ ウォータポンプのシール不良。	・ 交換する。
	・ ファンベルトの伸びまたは切断。	・ 調整または交換する。
	・ サーマスタットの不良。	・ 交換する。
	・ 冷却水の不足。	・ 規定量まで補給する。
	・ ラジエータネット、ラジエータフィンのゴミ詰まり。	・ 掃除する。
	・ ヘッド、クランクケースの錆で冷却水が汚れている。	・ 冷却水交換、防錆剤投入する。
	・ ラジエータキャップの不良（蒸発）。	・ 交換する。
	・ 冷却水通路の腐食。	・ 洗浄する。
	・ 連続過負荷運転。	・ 負荷を軽減する。
	・ ヘッドガスケットの破損（冷却水の減少）。	・ 交換する。
	・ エンジンオイルの不足。	・ 正規のオイル量にする。
	・ 燃料噴射時期の不良。	・ 調整する。
	・ 燃料が悪い。	・ 良質の燃料に交換する。

油圧関係

現状	原因	処置
作業機（ブーム、アーム、バケット）旋回、走行、ブレードの力不足、速度が遅い、または動かない。	・ 作動油量の不足。	・ 作動油を補給する。
	・ ホース、配管継手部よりの油もれ。	・ 増締めまたは交換する。

走行関係

現状	原因	処置
うまく走行しない	・ クローラに石などがかみこんでいる。	・ 除去する。
	・ クローラの張りすぎ、ゆるみすぎ。	・ 調整する。

制御関係

現状	原因	処置
アームかき込みが動かない(同時に液晶表示部に“アーム制限システム異常”と表示され、ブザーが“ピ、ピ、ピッ”と鳴る。)	・ 配線の断線または短絡。	・ 交換する。
	・ 角度検出装置の破損。	・ 認定工場に連絡する。

通信制御関係

現状	原因	処置
稼働情報や位置情報がサーバに繋がらない。	・ バッテリ接続したまま、長期間稼働していない。	・ エンジン始動するなどで、バッテリーを充電する。
	・ 配線の断線、短絡。	・ 交換する。
	・ サーバがメンテナンス中。	・ メンテナンス期間が終了するまで待って確認して、改善されなければ、認定工場に連絡する。
	・ DCU（通信機器）からサーバへの稼働情報や位置情報の送信待機中。	・ 最大1日待って確認して、改善されなければ、認定工場に連絡する。
	・ サーバが受信した稼働情報や位置情報の処理待機中。	・ 最大1日待って確認して、改善されなければ、認定工場に連絡する。

油圧ブレーカ

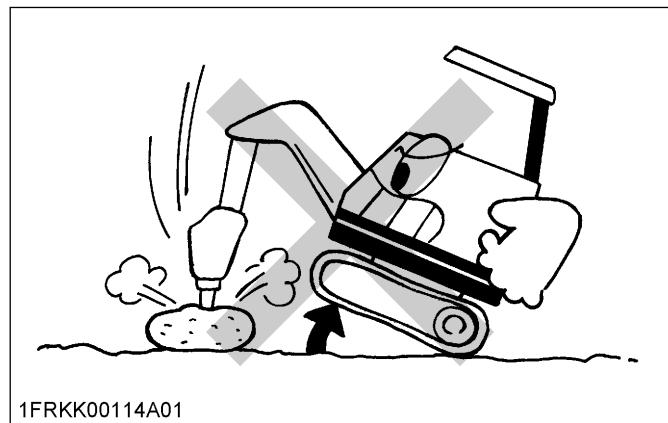
油圧ブレーカ装着時の注意

ブレーカは機械に適したブレーカを装着してください。不適切なブレーカを装着すると機械の寿命に影響を及ぼすだけでなく安全上問題になることがあります。ブレーカおよびアタッチメントを装着する場合は、事前にクボタ建設機械販売会社または認定工場にご相談ください。アタッチメントの種類によっては、機械本体にフロントガードやヘッドガードなどの保護構造物を装着する必要があります。また、操作時にアタッチメントやオプション装置がキャブなどと干渉する場合があります。

ブレーカ使用時の注意

禁止 1 作業姿勢

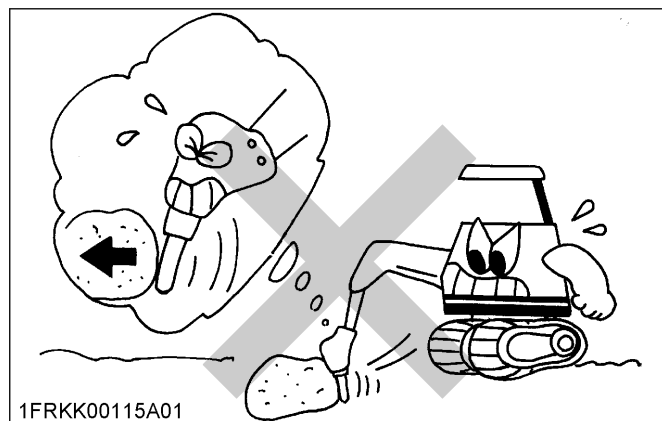
本機の前方が 5 cm 以上持ち上がった状態で打撃すると、岩石が破碎されると同時に前方へ急激に倒れ、ブレーカ本体、あるいはブラケット先端部が岩石に激突して、破損原因となることもあります。また、打撃中の振動が履帯部にも伝播するので、履帯の保護のためにも、このような打撃のしかたは避けてください。



1FRKK00114A01

禁止 2 岩石などの移動はしない

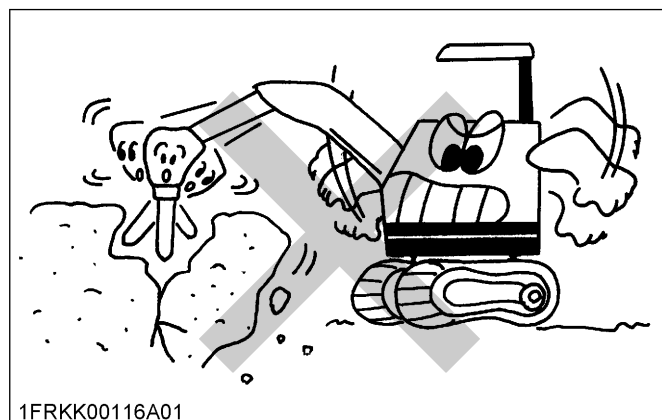
図のように本機のブームやアームなどの油圧を利用して、ロッド先端あるいはブラケット側面で岩石などを転がしたり、倒したりすることは、ブレーカの取付ボルト類の折損、ブラケットの損傷、ロッドの折損およびかじり、アームやブームの損傷の原因となりますから、絶対に行わないでください。



1FRKK00115A01

禁止 3 こじつての破碎作業はしない

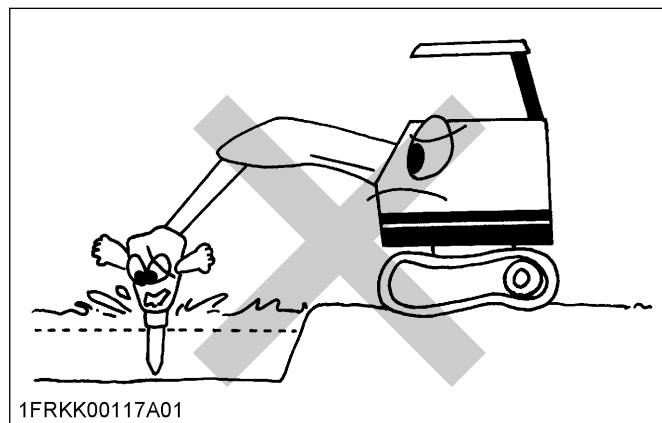
ロッドをこじって岩石などを破碎すると、ボルト類、ロッドなどの折損原因となります。



1FRKK00116A01

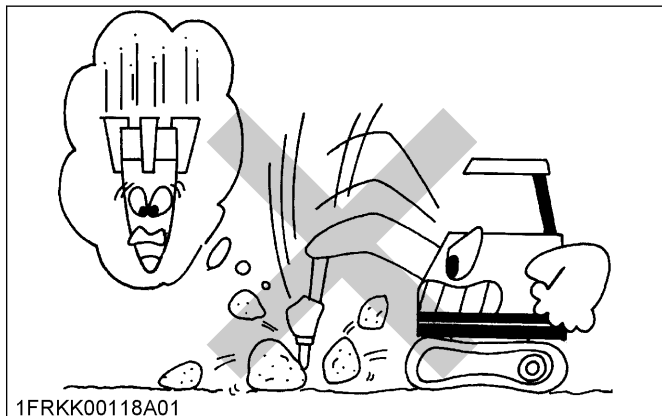
禁止 4 水や泥の中での破碎作業はしない

ロッド以外の部分を水や泥の中につけて破碎作業はしないでください。ピストンなどに錆が発生し、ブレーカの早期故障の原因となります。



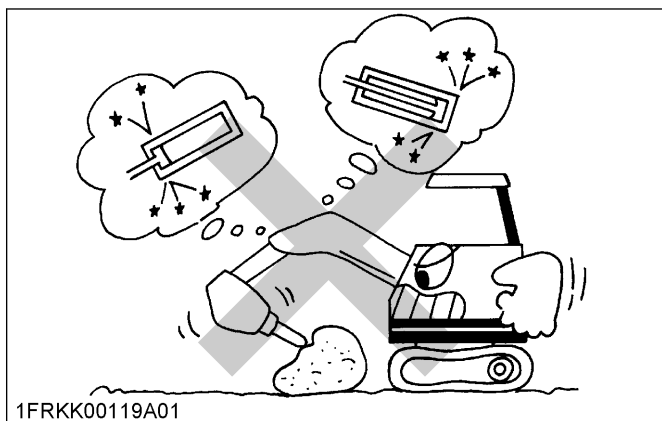
1FRKK00117A01

禁止 5 ブレーカを落下させて岩石などを割らない
ブレーカや本機に過大な力がかかり、ブレーカや本機の各部が損傷する原因となります。



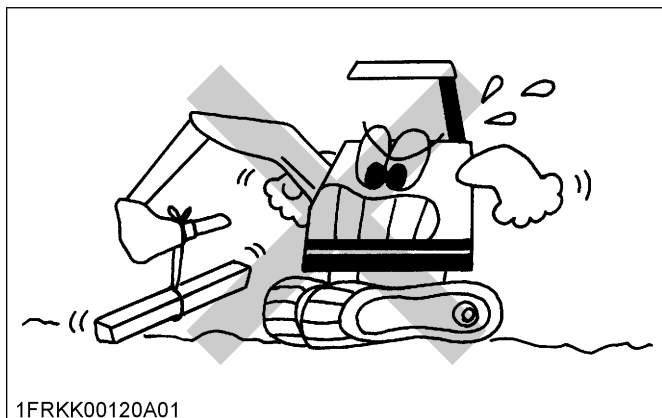
禁止 6 本機シリンダのストロークエンドで、破碎作業はしない

本機の各油圧シリンダのストロークエンド（シリンダをいっぱい伸ばしたり、いっぱい縮めた状態）で打撃作業をすると、本機シリンダの損傷、本機各部の損傷の原因となります。



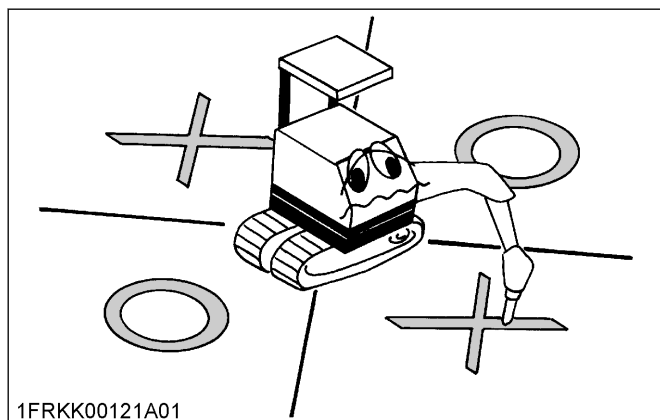
禁止 7 つり荷作業禁止

油圧ブレーカでつり荷作業は禁止されています。



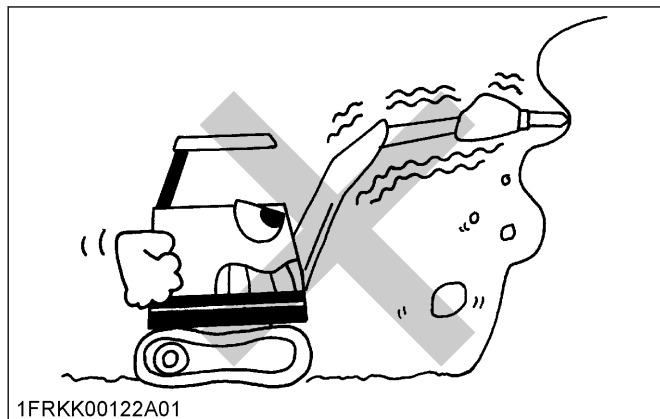
禁止 8 本機の横向き作業禁止

本機が、横向きのままでブレーカ作業はしないでください。本機の転倒、足回りの寿命の低下の原因となります。



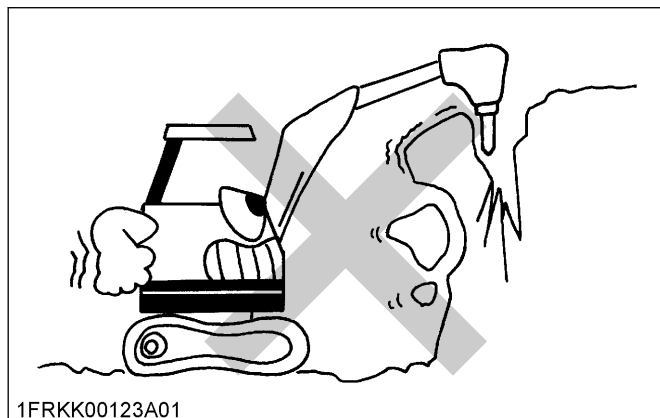
禁止 9

水平方向、上方向への打撃はしないでください。



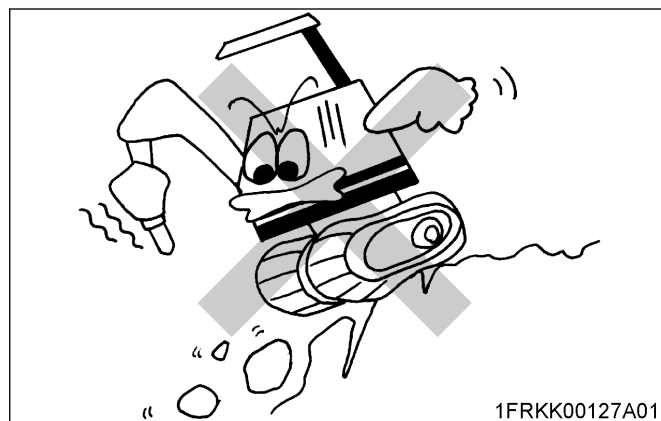
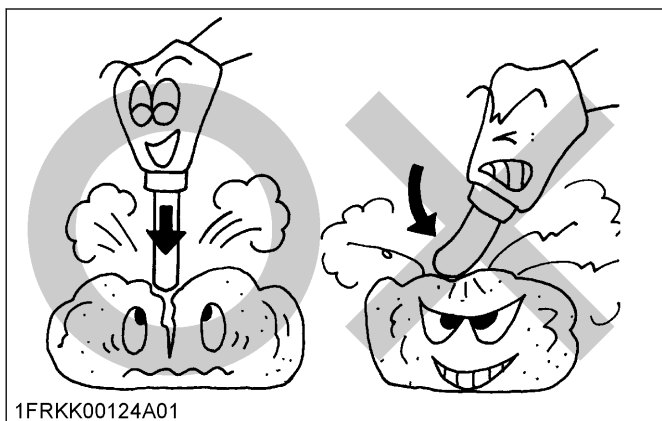
禁止 10

高所の破碎はしないでください。落石、転倒の原因になります。



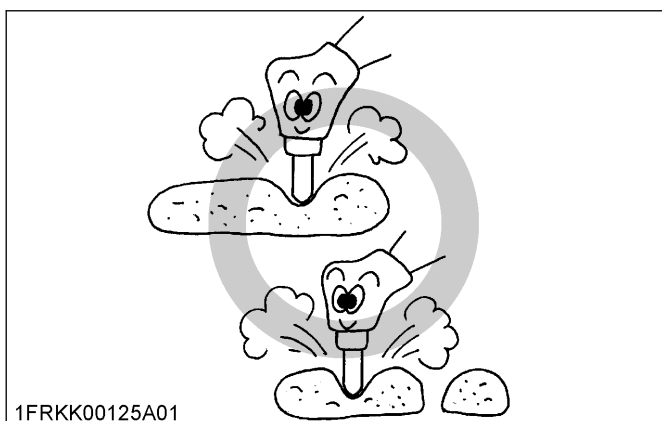
注意 1

チゼルは打撃面に垂直に押しつけて打撃してください。また、打撃中は常に推力がかかるように注意し、空打ち状態にならないよう操作してください。



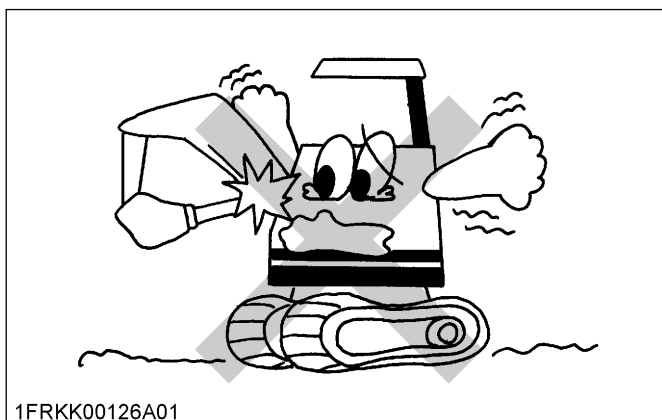
注意 2

同一打撃面を連続打撃して、1 分間以内に破砕、貫入できないときは、打撃面を変えて、端部からはつるよう破砕してください。



注意 3

油圧ブレーカを抱き込むと、チゼルがブームやブームシリンダに当たることがありますので、注意してください。



注意 4

足元の地盤が堅固であることを確認してから作業を行ってください。

推奨オイルとグリース

推奨オイルとグリース一覧表

クボタ純正油およびグリースは次表のとおりです。

区分	品番	品名	備考
油圧作動油	07907-10010	純正作動油 46 (20 L)	ISO VG46
	07907-10020	純正作動油 46 (200 L)	
エンジンオイル	07907-10080	純正ディーゼルエンジンオイル DH-2 D10W-30 (20 L)	
ギヤオイル	07907-10150	純正ミッションオイル (20 L)	SAE #90
極圧グリース	07907-10200	マイティジェットグリース (400 g)	稠度 JIS 分類 2 号
	07907-10350	リチュームグリース CT (380 g)	
バイオ油圧作動油	07907-10340	バイオグリーングラス VG46	*1

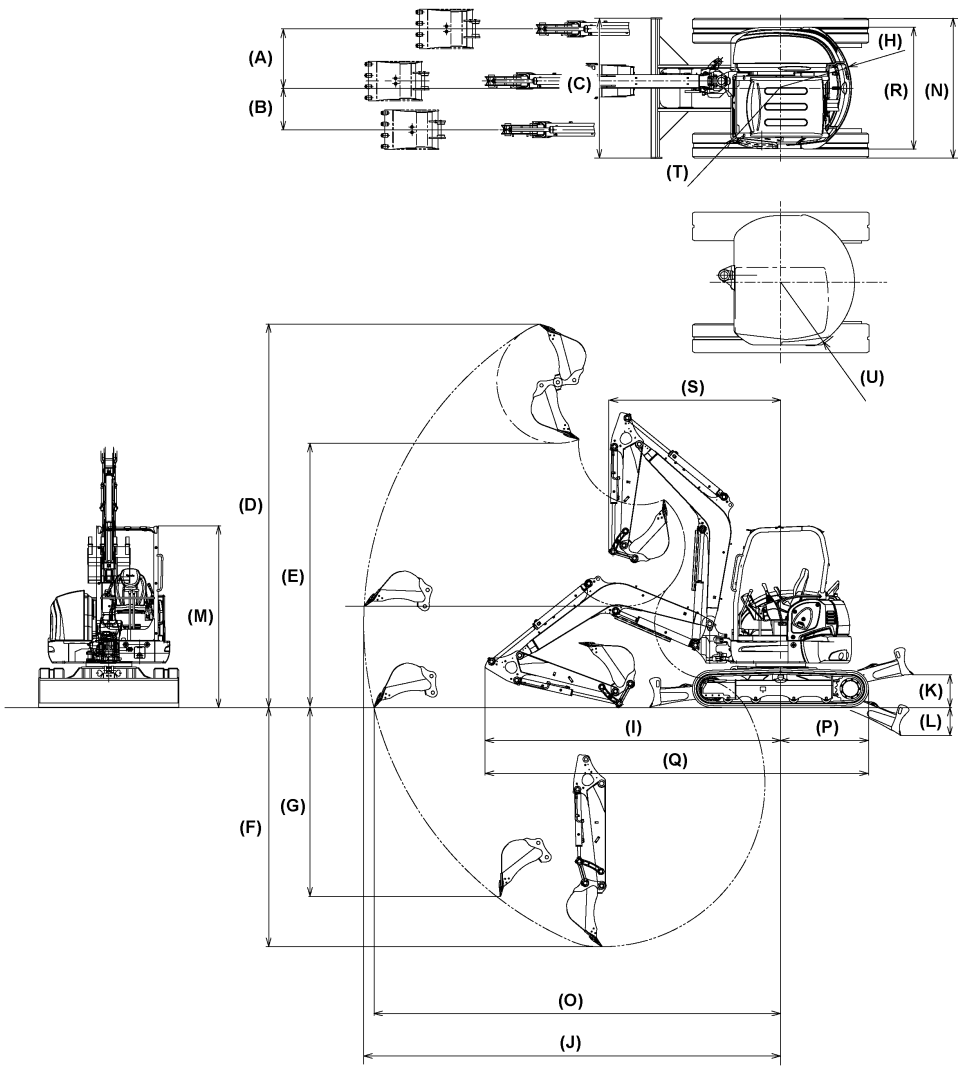
*1 バイオ作動油は万一事故でオイルが土壌、河川、沼地、海などに流出した場合、微生物などにより成分のほとんどが分解され、環境汚染を防ぐことができるエコマーク商品として認定されています。

補足：

- ・ 冬季に油圧機器の作動がスムーズでない場合は油圧作動油を ISO VG32 に入れ替えてください。
- ・ 上記以外でも JCMAS HK 認定油、GK 認定グリースも使用いただけます。こちらについては日本潤滑油協会 (JALOS) ホームページ<www.jalos.or.jp (2018.11 現在)>をご確認ください。
- ・ オイル交換はすべてのオイルを抜き取り新しいオイルと交換してください。また補給時は同じメーカー、種類のオイルを使用してください。
- ・ エンジンオイルのメーカーを変更する場合は、オイル全量を交換するとともにオイルフィルタも交換してください。
- ・ 使用燃料は次のものを使用してください。
 - － -5℃以上は JIS2 号軽油
 - － -5℃未満は JIS3 号軽油または JIS 特 3 号軽油
 上記以外の燃料を使用した場合は、エンジンの故障の原因となります。

付表

寸法図



1DGWC00011A01

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)
U-40-6E	830	580	1960	5360	3700	3340	2640	990	4130	5830	455	395
U-55-6E	815	625	2000	5665	4005	3630	2830	1045	4310	6100	440	405

	(M)	(N)	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	(S) スイング時	(T)	(U)
U-40-6E	2530	1950	5680	1230	5360	1825	2400	R1920	990	1020
U-55-6E	[2550] 《2540》	2000	5960	1190	5500		2460	R2020	980	

単位：mm
[] 内は ROPS キャブ仕様、《 》 内は 4 ポスト ROPS キャノピ仕様
(U) はキャブドア開放の場合

主要諸元

型式名称			U-40-6E	U-55-6E	
機械質量			kg	4380 《4420》 [4560]	《5200》 [5340]
機体質量			kg	3500 《3540》 [3680]	《4195》 [4335]
バケット	容量（新 JIS 山積）		m ³	0.14	0.15
	幅		mm	600 （サイドカッタなし：550）	650 （サイドカッタなし：600）
エンジン	区分			D1803-CR-T-YDM	V2607-CR-YDM
	型式	キャノピ、キャブ仕様		D1803-CR-TE4-BH3	V2607-CR-E4-BH4
		キャブ（エアコン付）仕様		D1803-CR-TE4-BH4	V2607-CR-E4-BH5
	総排気量		L	1.826	2.615
	出力*1		kW (PS)	30.1 (40.9)	35.5 (48.3)
性能	回転速度		rpm	9.3	
	走行速度（低速／高速）		km/h	2.9/4.9	
	接地圧		kPa (kgf/cm ²)	28.9 (0.30) 《29.2 (0.30)》 [30.1 (0.31)]	《30.5 (0.31)》 [31.3 (0.32)]
	登坂能力		% (°)	58 (30)	
ブレード（幅 × 高さ）		標準	mm	1960 × 410	2000 × 410
		交換用カッティングエッジ	mm	1960 × 427	2000 × 427
スイング角度（左／右）			°	70/55	
燃料タンク容量			L	60	64

*1 エンジン出力は、JIS B8003 準拠グロス値です。

[] 内は ROPS キャブ仕様、《 》内は 4 ポスト ROPS キャノピ仕様

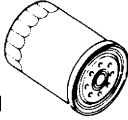
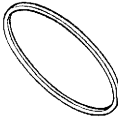
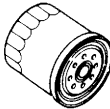
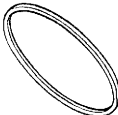
アタッチメント一覧表

項目	品名		品番	仕様		用途
クローラ	ゴムクローラ (標準)	U-40-6E	RD461-2231 △	幅 350 mm、エンドレス		一般土質、 舗装路面
		U-55-6E	RP851-2231 △	幅 400 mm、エンドレス		
	鉄クローラ	U-40-6E	RD461-2220 △	幅 350 mm	135 mm ピッチ 39 リンク	一般土質
		U-55-6E	RD411-2220 △	幅 400 mm		
アーム	U-40-6E		RD461-6660 △	長さ 1430 mm		一般掘削用
	U-55-6E		RD561-6660 △	長さ 1570 mm		一般掘削用
バケット	U-40-6E	標準	RD461-6680 △	幅 600 mm-550 mm 新 JIS 山積 0.14 m ³		一般掘削用
		広幅	RD561-6680 △	幅 650 mm-600 mm 新 JIS 山積 0.15 m ³		積込み用
		狭幅	RD461-6810 △	幅 500 mm-450 mm 新 JIS 山積 0.10 m ³		狭幅掘削用
	U-55-6E	標準	RD561-6680 △	幅 650 mm-600 mm 新 JIS 山積 0.15 m ³		一般掘削用
		狭幅	RD461-6680 △	幅 600 mm-550 mm 新 JIS 山積 0.14 m ³		狭幅掘削用
		狭幅	RD461-6810 △	幅 500 mm-450 mm 新 JIS 山積 0.10 m ³		狭幅掘削用

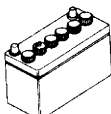
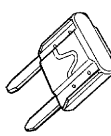
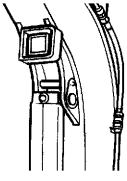
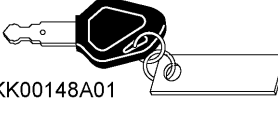
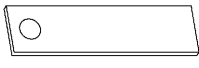
消耗部品一覧表

部品注文の際は、必ず機種名、製品識別番号も併せて連絡ください。

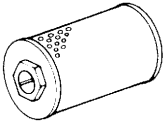
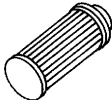
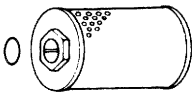
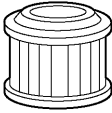
1. エンジン関係消耗部品一覧表

	品名		品番	備考
 1FRKK00128A01	フィルタ (オイル、カートリッジ)	U-40-6E	16414-3243 △	エンジン
		U-55-6E	1C020-3243 △	
 1FRKK00129A01	ファンベルト	U-40-6E	RD158-4292 △	
		U-55-6E	1G772-9701 △	
 1FRKK00130A01	エアクリーナエレメント (アウトー)	U-40-6E	RD158-4227 △	エアクリーナ
		U-55-6E	R1401-4227 △	
	エアクリーナエレメント (インナー)	U-40-6E	RD158-4228 △	
		U-55-6E	R2401-4228 △	
 1FRKK00131A01	燃料フィルタカートリッジ	U-40-6E	1J800-4317 △	燃料フィルタ
		U-55-6E	V0621-5192 △	
 1FRKK00132A01	フィルタアッシ	U-40-6E	RD461-5128 △	燃料タンク給油口
		U-55-6E	14261-4135 △	
 1FRKK00129A01	エアコンコンプレッサベルト	U-40-6E (56)	RD158-5381 △	エアコン仕様
		U-55-6E (49.5)	RD451-5379 △	
 1DGWC00028B01	オイルセパレータエレメント		1J770-0581 △	オイルセパレータ

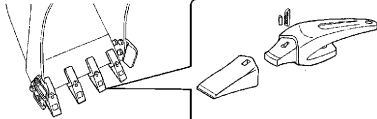
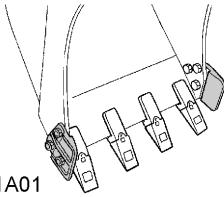
2. 電装関係消耗部品一覧表

	品名		品番	備考
1FRKK00133A01 	バッテリー	U-40-6E	—	95D26L
		U-55-6E	—	115D31L
1FRKK00134A01 	スローブローヒューズ		RC411-5398 △	50 A
			T1150-3050 △	60 A
			R1411-5398 △	80 A
			RD809-5391 △	100 A
1FRKK00135A01 	ヒューズ		ミニ 5 A	T1060-3043 △
			ミニ 10 A	T1060-3044 △
			ミニ 15 A	T1060-3045 △
			ミニ 20 A	T1060-3046 △
			ミニ 30 A	T1060-3047 △
1DGWC00211A01 	電球（作業灯）		3G710-7590 △	電球のみ
			3G710-7591 △	作業灯
1FRKK00148A01 	キー（B、ユーザ）		RC461-9321 △	
1FRKK00143A01 	プレート（カタシキ、トウナンボウシ）		RC441-9327 △	

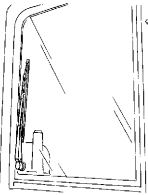
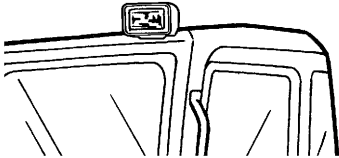
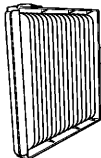
3. 油圧関係消耗部品一覧表

	品名		品番	備考
 1FRKK00136A01	フィルタ (リターン)	U-40-6E	RD461-6212 △	作動油
		U-55-6E	RD451-6212 △	
 1FRKK00137A01	サクショーストレーナ	U-40-6E	RD411-6221 △	作動油
		U-55-6E	RD451-6221 △	
 1FRKK00147A01	フィルタエレメントキット(パイロット)		R1411-6493 △	作動油
 1DGWC00119A01	フィルタ (ブレザ) (U-55-6E のみ)		RD411-6215 △	作動油

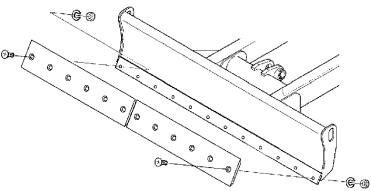
4. バケット関係消耗部品一覧表

	品名		品番	備考
 1FRKK00111B01	ツメ		RD101-6686 △	
	ラバープラグ		RD101-6687 △	
	ロッキングピン		RD101-6688 △	
 1FRKK00111A01	サイドカッタ	左	RC201-6693 △	
		右	RC201-6694 △	
	ボルト		01176-51635	
	ナット		02076-50160	
 1FRKK00138A01	O リング		RD411-6689 △	バケットピンシール
 1FRKK00139A01	直	グリースニップル	06611-15010	
 1FRKK00140A01	45°		06616-25010	
 1FRKK00141A01	90°		06616-35010	

5. キャブ関係消耗部品一覧表

	品名		品番	備考
 1FRKK00142A01	ワイパブレード		RC101-5342 △	キャブ仕様
 1FRKK00144A01	電球（作業灯）		3G710-7590 △	電球のみ
			3G710-7591 △	作業灯
 1DGWC00202A01	フィルタ（外気用）	フィルタ	6A671-7509 △	エアコン仕様

6. ブレード関係消耗部品一覧表

	品名	品番	備考
 1DGWC00276A01	カッティングブレード（979）	RD358-7453 △	交換式カッティング エッジ付き仕様 U-40-6E
	カッティングブレード（999）	RP851-7453 △	交換式カッティング エッジ付き仕様 U-55-6E
	ボルト	RD358-7454 △	交換式カッティング エッジ付き仕様 U-40-6E、U-55-6E 共通
	バネザガネ	04512-50140	
	ナット	02076-50140	

特定自主検査判定基準（メーカー指定項目のみ）

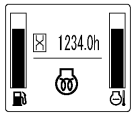
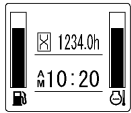
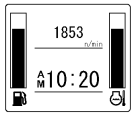
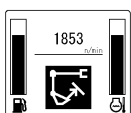
特定自主検査判定基準一覧表

新車出荷時の基準値を表示します。

区分	検査箇所		基準値		検査方法
エンジン	本体	アイドリング回転数	U-40-6E	1125 min ⁻¹ ～1175 min ⁻¹ (1125 rpm～1175 rpm)	- 冷却水 50 ℃以上 - 作動油 50±5 ℃
			U-55-6E	1050 min ⁻¹ ～1200 min ⁻¹ (1050 rpm～1200 rpm)	
		無負荷最高回転数	U-40-6E	2200 min ⁻¹ (2200 rpm) ≥	- 冷却水 50 ℃以上 - 作動油 50±5 ℃
			U-55-6E	2300 min ⁻¹ (2300 rpm) ≥	
	冷却装置	ベルトたわみ量	7 mm～9 mm		ベルト中央部 6 kgf～7 kgf で押さえる
走行装置	履帯たわみ	鉄クローラ	80 mm～85 mm		クローラを浮かせ中央トラックローラ外周端とシュー上面とのスキマ
		ゴムクローラ	10 mm～15 mm		クローラを浮かせ中央トラックローラ外周端とシュー踏面とのスキマ
油圧装置	油圧ポンプ	吐出量 P1/PP	U-40-6E	118.8/15.6 L/min	- 無負荷 - 作動油 50±5 ℃
		吐出量 P1/P2/P3/PP	U-55-6E	56.1/56.1/37.0/15.6 L/min	
		吐出圧 P1/PP	U-40-6E	24.5/3.92 MPa	- 作動油 50±5 ℃ - 実機圧
		吐出圧 P1/P2/P3/PP	U-55-6E	27.4/27.4/19.2/3.92 MPa	- 作動油 50±5 ℃ - 実機圧
	シリンダ伸縮量	アーム	10 mm≥		伸び量
		ブーム	20 mm≥		縮み量
		バケット	10 mm≥		縮み量
		- 水平な場所でバケットシリンダをいっぱいかき込み、アームシリンダをいっぱい縮め、バケット底が地上より約 1 m くらいで止める。測定開始時にロッドに印を付ける。10 分後変化の量を計測する。 - 作動油 50±5 ℃、バケット山積み - 標準バケット、山積み、測定前に各シリンダのエア抜きを行う。			

画面一覧

通常画面一覧

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
1	グロー画面  1FRKK00201A01	グロー中であることを示しています。	グローマークの表示が消えるのを待ってエンジンを始動してください。	グローマークの表示が消えるのを待ってエンジンを始動してください。
2	デフォルト画面（通常） アワメータ  1FRKK00202A01	通常状態の表示 (アワメータ)		
3	デフォルト画面（通常） タコメータ  1FRKK00203A01	通常状態の表示 (タコメータ表示)		
4	デフォルト画面 (アーム制限) アワメータ  1FRKK00204A01	アーム制限状態の表示 (アワメータ)		
5	デフォルト画面 (アーム制限) タコメータ  1FRKK00205A01	アーム制限状態の表示 (タコメータ表示)		

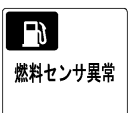
ガイダンス画面一覧

機械の状況に応じてメッセージが表示されます。状況に応じて対応、または購入先への修理の依頼をしてください。
❗ (インフォメーションマーク) が表示されている場合はインフォメーションスイッチを押すとより詳細の情報が表示されます。
 販売店にはその情報もあわせてお伝えください。

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
1	時計セット要求  1FRKK00206A01	バッテリーが外れて、時間セットが必要になった場合。	スイッチ 5 (はい) を押して時刻をセットします。	スイッチ 5 (はい) を押して時刻をセットします。
2	選択時に仕様無し アーム制限無し  1FRKK00207A01	アーム制限仕様機でないのに、アーム制限ボタンを押した場合。	-	-
3	レバーロックを上げてください  1FRKK00160A01	作業手順の表示	レバーロックを上げてください。レバーロックを上げるとこの表示が消えます。	レバーロックを上げてください。レバーロックを上げるとこの表示が消えます。
4	レバーロックを下げてください  1FRKK00208A01	作業手順の表示	レバーロックを下げてください。レバーロックを下げるとこの表示が消えます。	レバーロックを下げてください。レバーロックを下げるとこの表示が消えます。
5	エンジンを始動してください  1FRKK00209A01	作業手順の表示	エンジンを始動してください。エンジンを始動するとこの表示が消えます。	エンジンを始動してください。エンジンを始動するとこの表示が消えます。
6	キー抜き忘れ  1FRKK00210A01	キースイッチを[STOP]にして、キーを抜かずにしばらく放置すると、この表示が出ます。	キーを抜いてください。	キーを抜いてください。

(次へ続く)

画面一覧

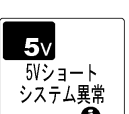
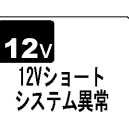
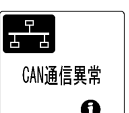
No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起こったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
7	認証完了 キーを抜く  キーを抜く 1FRKK00248A01	盗難防止の設定で、キーの認証が完了したときに表示されます。	キーを抜いてください。 キーを抜くとその表示が消えます。	キーを抜いてください。 キーを抜くとその表示が消えます。
8	登録するキーを順次挿入  登録するキーを順次挿入 1FRKK00212A01	盗難防止の設定で、キーを登録できる状態のときに表示されます。	登録したいキーを順次挿入してください。 登録作業を終了したいときはスイッチ 1 を押してください。	登録したいキーを順次挿入してください。 登録作業を終了したいときはスイッチ 1 を押してください。
9	登録完了 黒キーを抜く  黒キーを抜く 1FRKK00211A01	黒キーの登録作業が完了したときに表示されます。	黒キーを抜いてください。	黒キーを抜いてください。
10	すでに登録済み  すでに登録済みです 1FRKK00213A01	すでに登録されたキーをもう一度登録しようとしたときに表示されます。	キーを抜いて、新たな登録したいキーを挿入してください。	キーを抜いて、新たな登録したいキーを挿入してください。
11	これ以上登録不可  これ以上登録できません 1FRKK00214A01	登録個数の上限を超えたときに表示されます。	これ以上は登録できません。	これ以上は登録できません。
12	燃料 空  燃料を補給してください 1FRKK00185A01	燃料が不足してきました。	—	燃料を補給してください。
13	燃料センサ異常  燃料センサ異常 1FRKK00157A01	燃料センサ系統に故障が発生しています。	メータには燃料表示がされなくなります。 表示切替スイッチを押すと通常表示に切り替わります。 機械のほかの機能は動作します。	速やかに購入先に修理依頼してください。

(次へ続く)

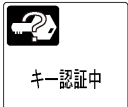
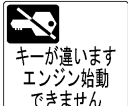
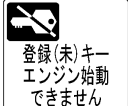
No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
14	充電系異常  充電系異常 1FRKK00154A01	充電系統の故障 充電していません。	バッテリーが上がるまでは機械が 作動します。	速やかに購入先に修理依頼して ください。
15	エンジン油圧異常  エンジン油圧異常 エンジンを停止 してください 1FRKK00155A01	エンジン潤滑系の油圧が低下し ていますので、エンジンを停止し てください。	エンジンが焼きつくおそれがあ るので、速やかにエンジンを停止 してください。	速やかに購入先に修理依頼して ください。
16	過電圧  過電圧 システム異常 1FRKK00156A01	24 V 系のバッテリーや機械からブ ースターケーブル接続してエン ジン始動をした場合、またはオル タネータが故障している場合に 表示されます。	速やかに 24 V 系でのエンジン始 動は中止してください。 再始動して、何も表示が出ず、機 械が正常に動いていればそのま ま使用しても問題ありません。	表示が消えない場合、速やかに購 入先へ修理を依頼してください。
17	オーバーヒート事前警告 水温が上昇しています  水温が上昇 しています 1FRKK00158A01	水温が上昇しており、少し高めで す。	少し負荷を下げて作業してくだ さい。 ラジエータなどに目詰まりがあ る場合は速やかに清掃してくだ さい。	—
18	オーバーヒートアイドリ ングで冷却中  オーバーヒート アイドリングで 冷却中 1FRKK00159A01	オーバーヒートしますので、強制 的にエンジンをアイドリングに しました。	アイドリングのまま警告表示が 消えるまで放置してください。 エンジンを止めると冷却液温度 が急上昇し沸騰してしまうため、 吹きこぼれます。必ずエンジ ンを止めずに冷却してください。	吹きこぼれた冷却液を補給し、ラ ジエータなどの目詰まりを清掃 して再度使用してください。 油圧系統の油漏れなどがないの かも合わせてチェックしてくだ さい。 油漏れがある場合は、速やかに購 入先へ修理を依頼してください。
19	水温センサ異常  水温センサ異常 1FRKK00196A01	水温センサ系統に故障が発生し ています。	メータに水温表示がされなくな ります。 表示切替スイッチを押すと通常 表示に切り替わります。 機械のほかの機能は動作しま すが、オーバーヒートなどの検出 ができなくなります。	速やかに購入先へ修理を依頼し てください。
20	レバーロックシステム異 常  レバーロック システム異常 1FRKK00198A01	レバーロック系統に故障が発生 しています。	エンジンはかかりますが、機械が 動きません。	速やかに購入先へ修理を依頼し てください。

(次へ続く)

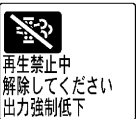
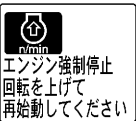
画面一覧

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
21	走行 2 速システム (切替)  1FRKK00163A01	2 速切替系統に故障が発生しています。	2 速に切り替わらず一速のままになります。 機械のほかの機能はそのまま動作します。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
22	AI システム異常  1FRKK00218A01	オートアイドル系統に故障が発生しています。 アクセルも動かなくなります。	アクセルは動きませんが、機械のほかの機能はそのまま動作します。 修理が可能な場所まで移動してください。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
23	アーム制限システム異常  1FRKK00164A01	アーム制限系統に故障が発生しています。	アームが動かなくなります。 ・ アーム制限を解除すると、アーム制限をしていない状態で動く場合があります。修理されるまでその状態で使用ください。 ・ アーム制限を解除しても機械が動かない場合は速やかに購入先へ修理を依頼してください。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
24	5 V ショート  1FRKK00168A01	センサ用 5 V 電源がショートしています。	大部分のシステムが動かなくなります。 エンジンはかかり、機械が動くこともありますが、そのまま作業はしないでください。(脱出作業程度にとどめてください)	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
25	12 V ショート  1DGWC00214A01	センサや、スイッチ系の 12 V がショートしています。	大部分のシステムが動かなくなります。 エンジンはかかり、機械が動くこともありますが、そのまま作業はしないでください。(脱出作業程度にとどめてください)	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
26	CAN システム異常  1FRKK00162A01	通信 (CAN) 系統に異常が発生しています。メータの表示がおかしくなったり、スイッチ操作がうまくできない箇所がでてきます。	エンジンはかかり、機械は動くこともありますが、そのまま作業はしないでください。(脱出作業程度にとどめてください)	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
27	定期点検 (予告)  1FRKK00215A01	定期点検の 10 h 前になると表示されます。 インフォメーションスイッチを押すと対象部品一覧を見ることができます。	そのままエンジンを始動してください。	購入先へ依頼して、対象部品を交換してください。 交換後 10 回キー ON-OFF するとメッセージは消えます。

(次へ続く)

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
28	定期点検（警告）  1FRKK00216A01	定期交換時間を過ぎています。 インフォメーションスイッチを 押すと対象部品一覧を表示する ことができます。	そのままエンジンは始動しま す が、速やかに購入先へ交換を依頼 をしてください。	購入先へ依頼して、対象部品を交 換してください。 交換後 10 回キー ON-OFF する とメッセージは消えます。
29	キー認証中  1FRKK00192A01	キーの暗号コードを認証作業中 です。	エンジンがかかりません。 ・ そのまましばらくお待ちく ださい。 ・ キー付属以外の金属製のリン グやキーホルダをつけて いる場合は金属物を取り外 してください。 ・ 複数のキーを束ねている場 合は、1 本にしてください。 ・ いつまで経っても消えない 場合はキー破損の可能性が ありますので、もうひとつの スペアキーで試してくださ い。	キーから金属物を取り外して、 1 本のキーにしてください。 それでも、この表示が消えない場 合は、速やかに購入先へ修理を依 頼してください。
30	キー間違い  1FRKK00161A01	別の機械のキーでエンジンを始 動しようとしています。	エンジンがかかりません。	正しいキーでエンジンを始動し てください。
31	登録（赤）キーエンジン始 動出来ません  1FRKK00167A01	赤色キー（登録キー）でエンジ ンを始動しようとしています。	エンジンがかかりません。	正しいキーでエンジンを始動し てください。
32	排気温度上昇 周囲に注意してください 作業は継続可能です  1DGWC00024A02	DPF 再生中のため排気温度が上 昇しています。周囲に注意すれ ば作業は継続可能です。	-	-
33	エンジン回転を上げてく ださい  1DGWC00026A03	DPF 再生が必要です。	エンジン回転数が低く、DPF 再生 ができません。	エンジン回転を上げて、DPF 再生 を開始してください。

(次へ続く)

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
34	出力強制低下  出力強制低下 1DGWC00024A01	DPF 再生中のため、排気温度が上昇しています。周囲に注意してください。DPF にススがたまっているため、エンジン出力を制限して、DPF を保護しています。	DPF 保護のため、エンジン出力が制限されています。	—
35	エンジン回転を上げてください 出力強制低下  エンジン回転を上げてください 出力強制低下 1DGWC00026A02	DPF にススがたまっているため、エンジン出力を制限して、DPF を保護しています。速やかに DPF 再生が必要です。	エンジン回転数が低く、DPF 再生できません。DPF 保護のため、エンジン出力が制限され、油圧系統ロック状態で機械から離れると、エンジンは自動的に停止します。	速やかにエンジン回転を上げて、DPF 再生を開始してください。表示が消えない場合は、速やかに購入先へ修理を依頼してください。
36	再生禁止中 解除してください  再生禁止中 解除してください 1DGWC00025A01	DPF 再生が必要です。	DPF 再生を禁止しているため再生ができません。	機械を安全な場所に移動し、再生禁止を解除して、DPF 再生を開始してください。表示が消えない場合は、速やかに購入先へ修理を依頼してください。
37	再生禁止中 解除してください 出力強制低下  再生禁止中 解除してください 出力強制低下 1DGWC00025A02	DPF にススがたまっているため、エンジン出力を制限して、DPF を保護しています。速やかに DPF 再生が必要です。	DPF 再生を禁止しているため、再生ができません。DPF 保護のため、エンジン出力が制限され、油圧系統ロック状態で機械を離れると、エンジンは自動的に停止します。	速やかに機械を安全な場所に移動し、再生禁止設定を解除して、DPF 再生を開始してください。表示が消えない場合は、速やかに購入先へ修理を依頼してください。
38	エンジン強制停止 回転を上げて再始動してください  エンジン強制停止 回転を上げて再始動してください 1DGWC00026A01	DPF を保護するためにエンジンは自動的に止まりました。	—	キーをオフ位置にしてください。再度エンジンを始動し、速やかに機械を安全な場所に移動後、エンジン回転を上げて、DPF 再生を開始してください。
39	DPF が目詰まりしています 修理が必要です  DPF 目詰まり 修理が必要です 1DGWC00027A01	DPF が目詰まりしています。DPF 再生できません。	DPF を修理する必要があります。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。

(次へ続く)

No.	画面表示	警告内容 故障内容 (何が起ったのか)	機械症状 (暫定対処方法)	処置
40	DPF を交換してください  1DGWC00027A02	DPF が過度に目詰まりしていません。DPF 再生できません。	DPF を交換する必要があります。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
41	作動油温警告 事前警告  1FRKK00295A01	作動油温度が上昇しており、少し高めです。	少し負荷を下げた作業してください。	—
42	作動油温警告 自動アイドルリング  1FRKK00296A01	作動油温度が高くなっていますので、強制的にエンジンをアイドルリングにしました。	アイドルリングのまま警告表示が消えるまで放置してください。エンジンを止めると作動油温度が急上昇します。必ずエンジンを止めずに冷却してください。	オイルクーラなどの目詰まりを清掃して再度使用してください。油圧系統の油漏れなどがないかも併せてチェックしてください。油漏れがある場合は、速やかに購入先へ修理を依頼してください。
43	暖機運転  1FRKK00294A01	作動油温度が低くなっていますので、エンジン回転数が中速回転までしか上がりません。	中速回転以下で暖機運転をしてください。作動油温度が適切な温度に上がると、アクセル操作に合わせて、エンジン回転数が最高回転数まで上がるようになります。	—
44	燃料系統水警告  1DGWC00294A01	燃料系統に水がたまっています。	燃料に水が混入するおそれがあるので、速やかにエンジンを停止してください。	燃料系統の点検、水抜きを行ってください。表示が消えない場合は、速やかに購入先へ修理を依頼してください。

DPF 再生についての警告ランプと画面表示

DPF 再生はトラブルではありません。エンジンが自動的に行う通常の保守動作です。

DPF は、排気ガス中に含まれる粒子状物質（PM）を捕捉し、これらの物質を自動的に燃焼（再生）する役割を果たしています。

再生時はブザーが鳴り、警告ランプが点滅し、ディスプレイにメッセージが表示されます。次の表は警告ランプとディスプレイ表示の意味と、オペレータの必要な処置を示したものです。

警告ランプ	画面表示	機械症状（暫定対処方法）	処置
点滅（黄色）	 排気温度上昇 周囲に注意 作業継続可 1DGWC00024A02	DPF 再生中です。 そのまま作業継続可能です。	警告ランプの点滅がなくなるまで作業を継続してください。 作業区域周辺に、人、動物、植物、および可燃物がないことを確認してください。
点滅（黄色）	 エンジン回転を 上げてください 1DGWC00026A03	“エンジン回転を上げてください”のメッセージがディスプレイに表示されたら、DPF 再生が必要です。メッセージが消えるまでエンジン回転を上げてください。 クレーンモードの場合はエンジン回転が規制されているので、クレーンモードを解除してください。 エンジン回転を上げれば、自動的に再生が開始されます。	“エンジン回転を上げてください”のメッセージが消えるまでエンジン回転数を上げてください。自動的に再生が開始されます。 警告ランプの点滅がなくなるまで作業を継続してください。 作業区域周辺に、人、動物、植物、および可燃物がないことを確認してください。
点滅（黄色）	 出力強制低下 1DGWC00024A01	DPF 再生中ですが、DPF を保護するため、エンジン出力が制限されています。	エンジン回転を上げたまま、再生処理を完了させてください。 作業区域周辺に、人、動物、植物、および可燃物がないことを確認してください。
点滅（赤色）	 エンジン回転を 上げてください 出力強制低下 1DGWC00026A02	“エンジン回転を上げてください。出力強制低下”のメッセージがディスプレイに表示されたら、DPF が詰まっているため速やかに DPF 再生を行ってください。DPF を保護するため、エンジン出力が制限され、作業機操作ロックレバーを引き上げると、エンジンは 60 秒後に停止します。 作業機操作ロックレバーを押し下げると、エンジン出力が制限されている間も、エンジンは停止しません。	“エンジン回転を上げてください”のメッセージが消えるまでエンジン回転数を上げてください。自動的に再生が開始されます。 作業区域周辺に、人、動物、植物、および可燃物がないことを確認してください。
点滅（赤色）	 エンジン強制停止 回転を上げて 再始動してください 1DGWC00026A01	DPF を保護するために、エンジンは自動停止しました。	スタータスイッチを[OFF]位置にしてください。エンジンを始動し、再生が開始されるまでエンジン回転を上げてください。 自動的に再生が開始されない場合は、購入先へ修理を依頼してください。
点滅（赤色）	 DPF 目詰まり 修理が必要です 1DGWC00027A01	DPF を修理する必要があります。 DPF を保護するため、エンジン出力が制限されます。作業機操作ロックレバーを引き上げると、エンジンは 60 秒後に停止します。 作業機操作ロックレバーを押し下げると、エンジン出力が制限されている間も、エンジンは停止しません。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。
点滅（赤色）	 DPF を交換 してください 1DGWC00027A02	DPF を交換してください。DPF を保護するため、エンジン出力が制限されます。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。

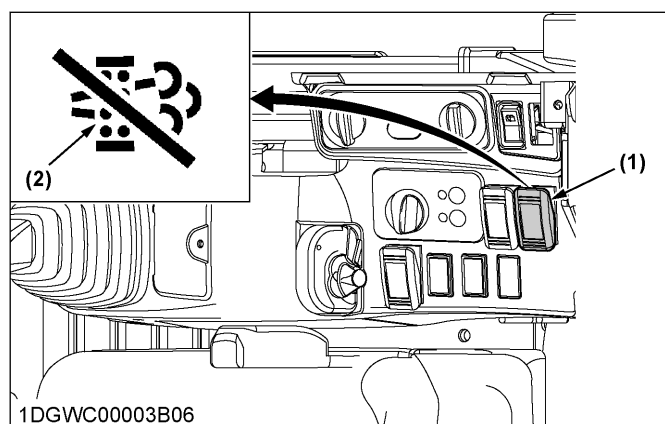
補足：

- エンジンを停止するか、再生中に再生禁止スイッチを押すと、再生が停止します。エンジンを再始動すると、再生が開始されます。
- 再生時間は約 20 分～30 分です。再生間隔は約 20 時間～30 時間です。しかし、実際の再生時間と間隔は、周囲の温度、排気ガスの温度やエンジン回転などの使用環境に左右されます。

DPF 再生禁止設定

再生禁止スイッチを押してください。

DPF 再生が禁止され、再生禁止スイッチのランプが点灯します。



(1) 再生禁止スイッチ

(2) 再生禁止スイッチランプ

次記は、再生禁止スイッチ、警告ランプ、ディスプレイ表示の意味と、オペレータの必要な処置を示したものです。

再生禁止スイッチ	警告ランプ	画面表示	機械症状（暫定対処方法）	処置
 点灯 (黄色)	 消灯	—	- DPF 再生は禁止されています。 - DPF 再生が必要な状態ではありません。 - 再生禁止スイッチのランプが点滅したら再生が必要です。	通常作業が可能です。
 点滅 (黄色)	 点滅 (黄色)	 再生禁止中 解除してください 1DGWC00025A01	- DPF 再生は禁止されています。 - オペレータは DPF 再生の準備を必要があります。	- 機械を安全な場所に移動させ、再生禁止を解除してください。 - 再生が開始されるまでエンジン回転数を上げてください。 - 作業範囲内に人や動物、可燃物がないことを確認してください。
 点滅 (黄色)	 点滅 (赤色)	 再生禁止中 解除してください 出力強制低下 1DGWC00025A02 エンジン強制停止 回転を上げて 再始動してください 1DGWC00026A01	- DPF 再生は禁止されています。 - オペレータは DPF 自動再生の準備を必要があります。 “出力強制低下”のメッセージがディスプレイに表示されたら、DPF が詰まっています。 - DPF を保護するため、エンジン出力が制限され、作業機操作ロックレバーを引き上げると、エンジンは 60 秒後に停止します。 - 作業機操作ロックレバーを押し下げると、エンジン出力が制限されている間も、エンジンは停止しません。	- 機械を安全な場所に移動させ、再生禁止を解除してください。 - 再生が開始されるまでエンジン回転数を上げてください。 - 作業範囲内に人や動物、可燃物がないことを確認してください。
 点滅 (黄色)	 点滅 (赤色)	 DPF 目詰まり 修理が必要です 1DGWC00027A01	- DPF を修理してください。 - DPF を保護するため、エンジン出力が制限され、作業機操作ロックレバーを引き上げると、エンジンは 60 秒後に停止します。 - 作業機操作ロックレバーを押し下げると、エンジン出力が制限されている間も、エンジンは停止しません。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。

(次へ続く)

再生禁止スイッチ	警告ランプ	画面表示	機械症状（暫定対処方法）	処置
 点滅 (黄色)	 点滅 (赤色)	 1DGWC00027A02	• DPF を交換してください。 • DPF を保護するため、エンジン出力が制限されます。	速やかに購入先へ修理を依頼してください。

コモンレールシステムと DPF

コモンレールシステム

コモンレールシステムは、サブライポンプで高圧にした燃料をレール（畜圧室）内に蓄え、ECU 制御のもとにタイミングよくインジェクタから各気筒に適切な噴射量を噴射するシステムです。

高い燃料噴射圧力により、燃料を微粒にしますので、燃料の粒が小さくなり中心部の燃え残りがなくなることで粒子状物質の発生を抑えます。

燃料の高圧噴射化に伴い噴射率（単位あたりの噴射量）も増加しますが、噴射から燃焼開始までの遅れ（着火遅れ）は、一定時間以下には短縮できません。そのため着火までに噴射される燃料が多すぎることになります。つまり初期の噴射率が高すぎるため、着火と同時に爆発的な燃焼が起き、NOx（窒素酸化物）および騒音を増加させてしまいます。

そこで、パイロット噴射を行うことより、初期の噴射率を必要最小限に抑え、爆発の初期燃焼を緩和することで、NOx と騒音を低減しています。

補足：

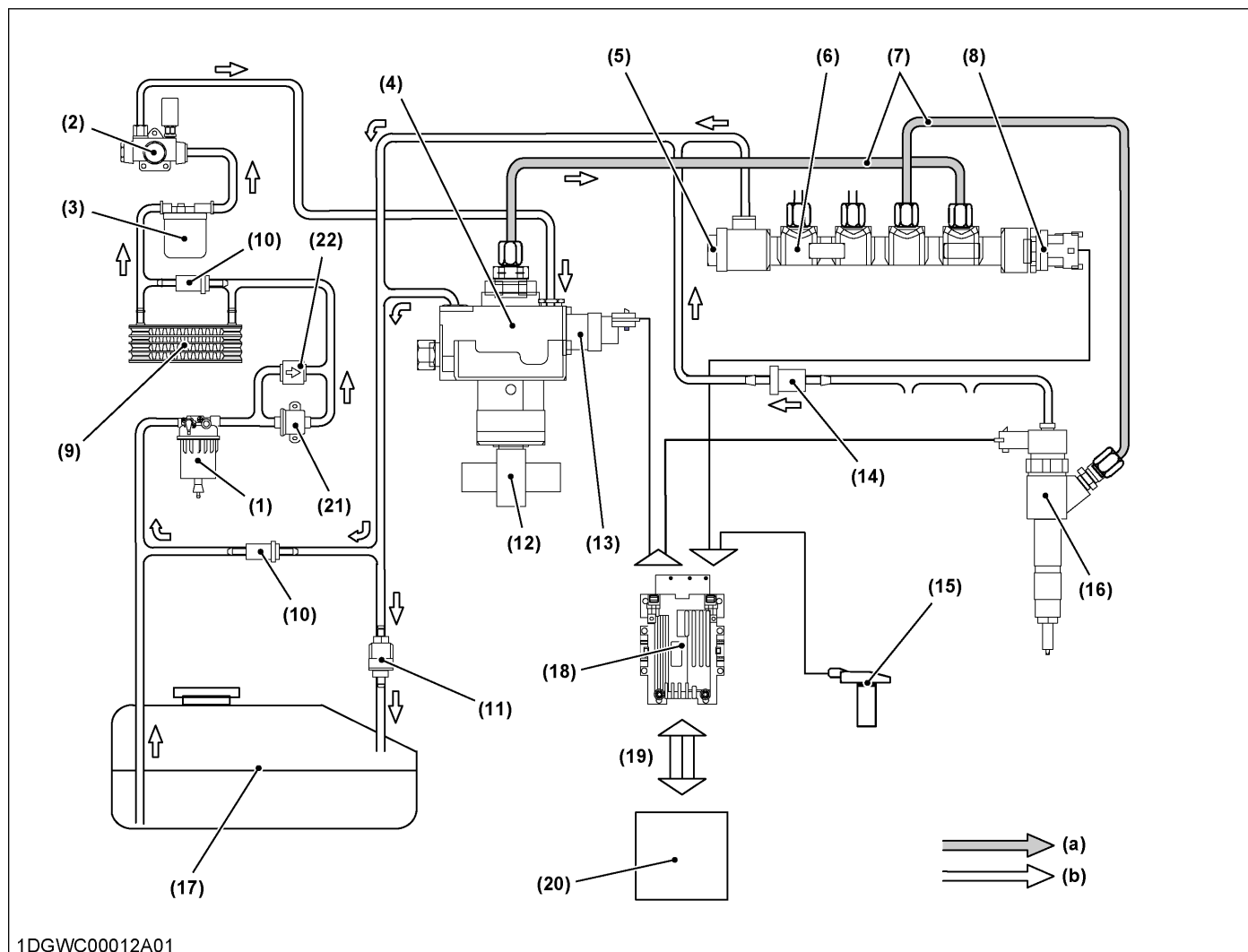
パイロット噴射

- ディーゼルエンジンにおいて、圧縮行程終わり付近に少量の燃料を噴射することをいいます。この燃料が燃焼することにより燃焼室内の温度を上昇させ、主噴射で供給された燃料の着火遅れを小さくします。これにより騒音を低減しています。

構成部品

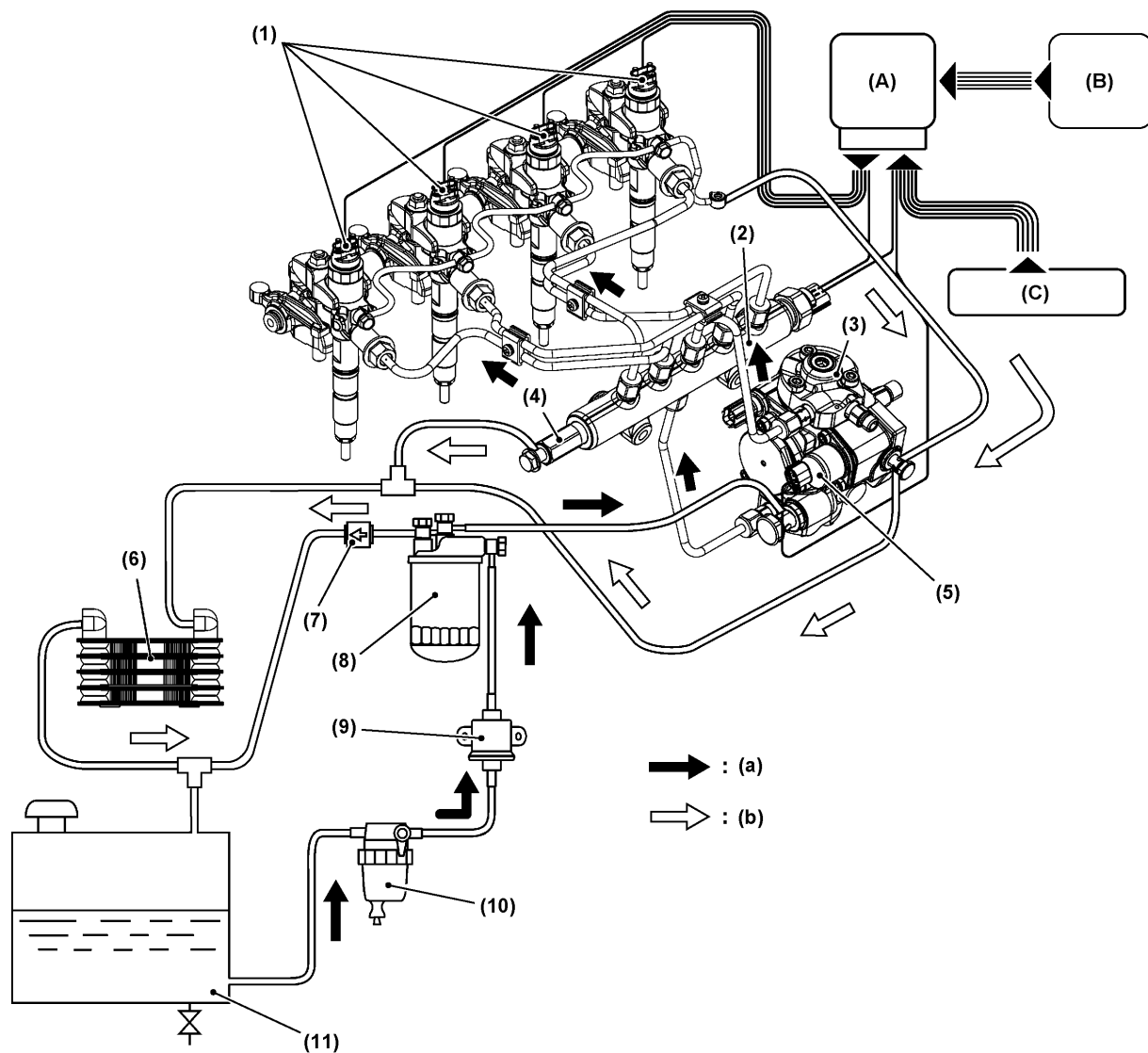
- 高圧燃料を電磁弁によって各気筒に燃料を噴射するインジェクタ
- 高圧燃料を蓄えるレール
- 高圧燃料を生成するサブライポンプ
- これらを制御するエンジン ECU

[U-40-6E]



- | | | | |
|--------------|------------------|---------------|----------|
| (1) セパレータ | (9) 燃料クーラ | (16) インジェクタ | (a) 高圧回路 |
| (2) フィードポンプ | (10) 燃料還流バルブ | (17) 燃料タンク | (b) 低圧回路 |
| (3) 燃料フィルタ | (11) チェックバルブ | (18) エンジン ECU | |
| (4) サプライポンプ | (12) 燃料カム軸 | (19) CAN 通信 | |
| (5) プレシャリミッタ | (13) SCV (吸入調量弁) | (20) 本機 ECU | |
| (6) レール | (14) チェックバルブ | (21) アシストポンプ | |
| (7) 高圧パイプ | (15) 各センサ | (22) チェックバルブ | |
| (8) レール圧センサ | | | |

[U-55-6E]



1DGWC00013A01

- | | | | |
|-----------------|-------------|--------------|-------------|
| (1) インジェクタ | (7) チェックバルブ | (A) エンジン ECU | (a) 噴射燃料の流れ |
| (2) レール | (8) 燃料フィルタ | (B) 本機 ECU | (b) 戻り燃料の流れ |
| (3) サプライポンプ | (9) 燃料ポンプ | (C) センサ | |
| (4) プレッシャリミッタ | (10) セパレータ | | |
| (5) SCV (吸入調量弁) | (11) 燃料タンク | | |
| (6) 燃料クーラ | | | |

DPF（ディーゼルパーティキュレートフィルタ）

DPF とはディーゼルパーティキュレートフィルタの略称で、前段酸化触媒、セラミックフィルタ、後段酸化触媒を組み合わせた構造により、ディーゼルエンジンから排出されるスス（粒子状物質）をセラミックフィルタに捕集し、酸化触媒的作用により連続再生（燃焼除去）する装置です。

指定エンジンオイルの使用

DPF の性能を長く維持するために、メーカー指定の純正エンジンオイル（JASO : DH-2 10W30）を必ず使用ください。指定のエンジンオイルを使用しないとオイル中の成分が DPF 内部のセラミックフィルタに早期に堆積してしまい、DPF の機能を長時間維持できなくなるおそれがあります。

指定燃料の使用

- DPF マフラ搭載エンジンのミニバックホーには、日本国内のガソリンスタンドで超低硫黄軽油（サルファーフリー軽油）を給油してください。
- 粗悪燃料、灯油、重油などを使用した場合は、DPF およびエンジン故障の原因になります。
- 燃料は揮発油等の品質の確保に関する法律で品質が定められています。
- 燃料に凍結防止剤や水抜き剤など、あらゆる添加剤を入れないでください。

DPF の洗浄、メンテナンス

- 排気に含まれるオイル成分は燃焼後灰となってフィルタに残り、徐々に堆積します。DPF の目詰まりを防ぐため定期的に（3000 時間）洗浄が必要です。
- 3000 時間未満であっても、稼働状況によっては洗浄やメンテナンスが必要です。
- 定期交換が正しく行われない場合はエンジントラブルの原因となります。
- 洗浄とメンテナンスはクボタ建設機械販売会社または認定工場での作業が必要です。担当窓口にご相談ください。

DPF の再生



警告

- 再生中は排気ガスが高温になります。排気ガスに当たらないようにエンジン周囲には人や可燃物を近づけないようにしてください。
- DPF マフラは慎重に扱ってください。乱暴に扱い落下させたりすると DPF の故障の原因となります。

- 弊社ミニバックホーは DPF で捕集した PM（粒子状物質）が DPF 内部に過剰に堆積しないように、自動的に PM を燃焼除去します。
- 自動再生中も通常作業が可能です。（一部制限あり）

次の運転条件で作業されますと DPF に PM がたまりやすくなりますのでご注意ください。

- 必要以上の暖機運転、アイドリング状態や低回転での運転が多い場合
- クレーン作業時などの低負荷運転
- エンジンの始動と停止が頻繁に行われた場合
- 低温環境での運転

再生禁止スイッチの取扱い

- 作業範囲内に人、動物、および可燃物がある場合、またはトンネル工事など坑内で作業する場合、DPF の自動再生を行うと危険です。再生禁止スイッチを押すことで DPF を自動再生せずに作業することが可能です。（このとき自動再生禁止ランプが点灯します）
- 再生禁止を設定したまま作業を続けると自動再生ができず、DPF の性能が著しく低下します。やむを得ない場合を除いて再生禁止設定は必ず解除して作業を行ってください。

クボタトラッキングシステムデバイス仕様

パラメーター	説明
DC 供給範囲	～16.5 V
バックアップ	On board Ni-Mh battery 4.8 V, 1050 mAh
ネットワーク接続	- データ通信用マルチ RAT セルラーモデム - LTE FDD/TDD Cat 4 (150/50 Mbps DL/UL) 3G へのフォールバック (該当する場合)

ソフトウェア情報

この製品には、オープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
各ライセンス（OSS ライセンス）の条項を読んで同意する必要があります。
この製品を購入した場合は、このような OSS ライセンスが適用される範囲で OSS をリバースエンジニアリングすることができますが、このソフトウェアを使用するためにリバースエンジニアリングを行う必要がある場合に限りです。
この製品を購入すると、OSS ライセンスで該当するソースコードを入手、コピー、変更、および配布できます。
OSS のライセンスとソースコードは、次の URL から入手できます。
<https://www.kubota.com/products/opensource/index.html>

免責事項

この製品には、無保証で提供される OSS が含まれます。
クボタおよび OSS を利用する権利を有する第三者は、本ソフトウェアおよびその使用、または使用不能によって生じるいかなる損害についても責任を負いません。

索引

記号・数字

2 ポスト TOPS キャノピ	
点検.....	99
2 ポスト TOPS キャノピについての注意.....	7
4 パターンマルチ	
操作パターン変更方法.....	64
4 パターンマルチ仕様.....	63
4 ポスト ROPS キャノピ	
点検.....	99
4 ポスト ROPS キャノピについての注意.....	7

アルファベット

AFS	
下流側の吸入管の交換.....	121
AFS（エアフローセンサ）	
点検.....	119
AM/PM 表示を 24 時間表示に切替え.....	39
AUX1（サービスポート）ペダル.....	59
DCU（通信機器）に関する注意事項.....	30
DPF	
概要.....	165
差圧センサゴム配管（前後）の交換.....	121
洗浄.....	119
点検.....	99,119
DPF 再生	
画面表示.....	158
禁止設定.....	160
警告ランプ.....	158
EGR クーラ	
点検.....	118
EGR クーラホース	
交換.....	121
EGR システム	
点検.....	118
EGR 配管	
ガス漏れ点検.....	119
ROPS キャブ	
点検.....	99
ROPS キャブについての注意.....	7

あ

アクセルダイヤル	
操作.....	47
悪路での走行および作業の注意.....	12
アタッチメント一覧表.....	144
アタッチメントの制限.....	10
油漏れ点検時の注意.....	17
アフメータ.....	37
安全上の基本的事項.....	7
安全ラベル	
手入れ.....	28
安全ラベルの内容.....	21
安全ラベルの貼付位置.....	21

アームかき込み制限	
解除.....	48
操作.....	48
アーム操作.....	58
インジェクタ先端	
交換.....	117
インフォメーション.....	46
ウインドウォッシャ液の点検.....	99
ウインドウォッシャスイッチ.....	51
ウォーターセパレータ	
水および沈殿物の洗浄.....	96
水および沈殿物の点検.....	96
水抜き.....	104
後ボンネットの開閉.....	74
運行管理の確認.....	41
運送上の注意.....	18
運転姿勢の注意.....	13
運転席を離れるとき.....	15
エアクリーナエレメント	
交換.....	117
清掃.....	108
点検.....	108
エアクリーナのインジェクタ	
点検.....	98
エアコン	
操作.....	53
エアコン機器	
簡易点検.....	123
エアコンコンデンサ	
清掃.....	111
エアコンパイプ	
交換.....	121
点検.....	119
エアコンフィルタ	
清掃.....	110
エアコンベルト	
点検.....	100
張りの調整.....	107
張りの点検.....	107
エアコンホース	
交換.....	121
点検.....	119
液晶モニタに表示される定期点検項目.....	42
エコモード.....	48
エンジン	
オーバーヒート時の対処.....	68
始動.....	66
始動後の暖機運転.....	67
始動後の点検.....	67
停止.....	68
エンジンオイル	
交換.....	113
点検.....	94
補給.....	94

エンジンオイルフィルタカートリッジ	
交換	114
エンジンオイル油圧低下警告	45
エンジン回転計	38
エンジン始動	
ブースタケーブルを使用	124
エンジン始動後の点検	10
エンジン始動時およびバッテリー充電時の注意について	124
エンジン始動前の周囲の安全確認	9
エンジン始動前の注意	9
エンジンバルブクリアランス	
点検	114
エンジン周り	
点検	98
オイルクーラ	
掃除	97
点検	97
オイルセパレータエレメント	
交換	118
オイルセパレータのゴムホース	
交換	121
オートアイドルスイッチ	47
オートアイドル制御	
取扱い	72
オーバーヒート表示	36

か

崖下の穴掘り禁止	12
ガイダンス画面一覧	151
角度検出装置	
点検	100
崖や路肩付近での注意	12
火災の発生防止	16
火災の防止	19
風向き調節	53
カップホルダ	76
寒冷時の始動	67
機体の吊上げ	84
機体溶接時の注意	17
機体を持ち上げての点検や整備禁止	17
キャブ仕様	99
キャブ内の空気の流れ	52
吸気ホース	
交換	121
点検	109
吸気ホースバンド	
交換	121
点検	109
吸気ライン空気漏れ	
点検	119
緊急時ブーム降下弁	60
クレーン仕様	60
クレーン仕様以外	60
緊急脱出用ハンマ（ROPS キャブ仕様）	78
掘削作業での注意	12
クボタトラッキングシステム	30

クボタトラッキングシステムデバイス	
仕様	166
クボタトラッキングシステムについて	20
グリースガン収納部	76
黒色キー	
紛失したとき	79
黒色キー（個別キー）	
本機への登録のしかた	79
グロー表示	38
警告ランプ	45
傾斜地での作業の注意	11
傾斜地での駐停車	72
傾斜地での方向転換禁止	11
言語設定	40
工具箱	75
合成皮革	
洗浄	91
高速走行	70
ご相談窓口	29
ゴムクローラ	
張り方	129
ゆるめかた	130
ゴムクローラの上手な使い方	130
コモンレールシステム	
概要	162
コントロールパネル	53

さ

差圧センサ	
点検	119
再生禁止スイッチ	48
サイドカッタ	
交換	133
坂道の登り降り	71
作業機操作レバー	57
作業機操作ロックレバー	56
作業機部分	
給脂	100
作業後の注意	15
作業しづらい場所での安全確保	11
作業終了後の注意	134
作業中の周囲の安全確認	10
作業灯	128
作業灯スイッチ	46
作業に適した服装の着用	8
サクションフィルタ	
交換	116
座席	
調整	74
作動油	
交換	114
点検	95
補給	95
作動油温	
オーバーヒート	37
上昇時の対処方法	37
低温時の対処方法	37

作動油リターンフィルタ	
交換.....	115
サードラインの取扱い.....	60
仕業点検一覧表.....	92
仕業点検の実施.....	8
重荷重をかけての横方向旋回禁止.....	12
重要部品の定期交換.....	135
主要諸元.....	143
消耗部品一覧表.....	145
エンジン関係.....	145
キャブ関係.....	148
電装関係.....	146
バケット関係.....	147
ブレード関係.....	148
油圧関係.....	147
初心者の注意.....	10
シートベルト	
概要.....	74
水温計.....	36
推奨オイルとグリース一覧表.....	141
スイッチとメーター、ランプの名称.....	33
スイングペダル.....	59
スタータスイッチ.....	34
スピントーン.....	71
スローブローヒューズ	
交換.....	128
スーパーチェンジ	
操作パターン変更方法.....	62
スーパーチェンジ仕様.....	62
旋回操作.....	58
旋回ベアリング	
歯面の給脂.....	106
旋回ベアリングボール部	
給脂.....	109
洗車	
方法.....	99
洗車時の注意.....	17,90
走行.....	69
走行時の注意.....	11
走行増速スイッチ.....	47
走行モータ	
オイル交換.....	106,113
走行レバー.....	56
走行レバーを操作する前の安全確認.....	11
操作レバーの名称.....	55
装置の名称.....	31
その他の異常警告.....	46
ソフトウェア情報.....	167

た

体調不良時の運転禁止.....	9
建物内での注意.....	13
ターボチャージャ	
点検.....	118
注意事項	
安全ラベルの手入れ.....	28

バケットまたはバケットリンクにフックを付けて作業する場合.....	87
バケットリンクにフックを溶接した場合の吊り作業.....	88
バケットリンクにフックを溶接した場合のバケット以外の作業機について.....	89
駐車.....	72
駐停車するとき.....	15
長期間休車	
休車後の処置.....	134
長期間休車するときの注意点.....	133
通常画面一覧.....	150
低温への備え.....	134
定期点検項目一覧.....	44
定期点検の実施.....	20
定期点検表.....	102
ディーゼルパーティキュレートフィルタ.....	19
概要.....	165
点検.....	99
鉄クローラ	
クローラシューを張る.....	131
電気配線	
点検.....	119
点検項目が画面に表示しきれない場合の確認方法.....	42
点検実施後.....	43
点検または調整を行うときの注意.....	15
同乗禁止.....	10
盗難防止装置.....	29,79
盗難防止装置のキーの取扱い.....	79
特定自主検査判定基準一覧表.....	149
時計の設定.....	38
登坂時の注意.....	11
トラック	
積降ろし.....	83
積込み.....	82
輸送.....	82
取扱説明書収納部.....	76

な

ならし運転.....	69
年月日の並び替え.....	39
燃料	
点検.....	93
補給.....	35,93
満タンお知らせブザー.....	35
燃料フィルタカートリッジ	
交換.....	112
燃料クーラ	
掃除.....	97
点検.....	97
燃料計.....	35
燃料系統	
エア抜き.....	129
排水.....	122
燃料残量警告.....	45
燃料タンク	
水抜き.....	104

燃料ホース	
交換.....	121
点検.....	109
燃料ホースバンド	
交換.....	121
点検.....	109
は	
配管	
ガス漏れ点検.....	119
排気ガス温度センサ	
点検.....	119
排気ガス漏れ	
点検.....	100
廃棄物の処理.....	90
廃棄物の処理についての注意.....	18
排気マニホールド	
点検.....	119
配線	
点検.....	98
パイロットバルブ	
給脂.....	112
バキューエータバルブ	
掃除.....	98
爆発の防止.....	19
バケット	
取付け.....	132
取外し.....	131
バケット操作.....	58
バケット操作時の注意.....	9
バケット爪	
交換.....	132
バケットの交換.....	131
バックホー	
寸法図.....	142
走行時の方向転換（ピボットターン）.....	70
停止時の方向転換（ピボットターン）.....	71
不調と処置一覧表.....	136
ブレーカ使用時の注意.....	138
油圧ブレーカ装着時の注意.....	138
バックホーの運転上の注意.....	14
バックホーの禁止作業.....	13
バックホー（ROPS キャブ仕様）	
キャブサイドウインドウの開閉.....	78
キャブドアの開閉.....	77
キャブフロントウインドウの開閉.....	77
発進.....	69
バッテリー	
点検.....	98,104,123
取扱い.....	123
取外し.....	105
保守点検.....	123
バッテリー充電異常警告.....	45
バッテリー充電時	
注意.....	123
バッテリー取扱いの注意.....	16

バッテリーを搭載したままで充電する場合の注意 （やむを得ない場合のみ）.....	123
バンド	
交換.....	120
点検.....	110
ヒューズ	
交換.....	125
容量と受け持っている回路.....	126
ヒューズの点検と交換.....	125
表示切替スイッチ.....	34
ヒータスイッチ［ROPS キャブ仕様］.....	52
ヒータとエアコンの取扱い.....	52
ファンベルト	
点検.....	100
張りの調整.....	107
張りの点検.....	107
不凍液	
使い方（ロングライフクーラント以外の場合）.....	120
プラスチック部品	
洗浄.....	91
ブレザフィルタ	
交換.....	113
ブレード操作レバー.....	59
ブースタケーブル	
接続.....	124
取外し.....	124
ブーストセンサ	
点検.....	119
ブーストセンサ圧力ゴム配管	
交換.....	121
ブーム操作.....	58
保安用品の準備.....	8
方向転換.....	70
本機の運転に必要な資格.....	7
ホーンスイッチ.....	46
ま	
右ボンネットの開閉.....	75
ミニバックホー	
最大荷重.....	86
免責事項.....	167
メーターパネル（液晶モニタ）通常時.....	35
目的以外での使用禁止.....	10
や	
油圧回路の残圧の抜き方.....	90
油圧パイロットのラインフィルタ	
洗浄.....	117
油圧パイロットフィルタ	
エレメント交換.....	116
油圧部品の取外し時の注意.....	16
油圧ホース	
交換.....	121
横切り禁止.....	11
予備電源.....	128

ら

ラジエータ	
掃除.....	97
点検.....	97
ラジエータ点検時の注意.....	17
ラジエータホース	
交換.....	120
点検.....	110
ルームランプ.....	51
冷却水	
交換.....	119
点検.....	93
補給.....	93
冷却水の水温上昇時の対処方法.....	36
冷媒の取扱いの注意.....	121
冷媒（ガス）量	
点検.....	121
労働安全衛生規則第 164 条（主たる用途以外の使用の制限）.....	86
労働安全衛生規則に従ったアタッチメントの着脱.....	18
労働安全衛生規則に従った使用条件.....	13
ロングライフクーラント.....	119

わ

ワイパスイッチ.....	51
--------------	----